

春日井市
男女共同参画についての市民意識調査
【結果報告書】(案)

令和●年●月
春日井市

目次

I 調査概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の実施概要.....	1
3 報告書の見方.....	2
II 調査結果まとめ	3
1 男女の平等意識について.....	3
2 家庭生活について.....	5
3 女性の職業生活について.....	7
4 ワーク・ライフ・バランスについて.....	10
5 地域活動について.....	13
6 子どもの教育について.....	15
7 人権の尊重について.....	17
8 市の男女共同参画の取り組みについて.....	19
III 調査結果	
1 市民意識調査	23
(1) 回答者ご自身について.....	23
(2) 男女の平等意識について.....	28
(3) 家庭生活について.....	522
(4) 女性の職業生活について.....	72
(5) ワーク・ライフ・バランスについて.....	79
(6) 地域活動について.....	97
(7) 子どもの教育について.....	107
(8) 人権の尊重について.....	1122
(9) 市の男女共同参画の取り組みについて.....	148
2 中学生・高校生調査	170
(1) 回答者のことについて.....	170
(2) 男女平等について.....	171
(3) 日常生活について.....	175
(4) 教育について.....	188
(5) 将来の生活について.....	191
(6) 男女の人権について.....	196
(7) 春日井市の男女共同参画の取り組みについて.....	218

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、新たな男女共同参画プランを策定するにあたり、市民の男女共同参画社会に対する考えや実情を幅広く把握し、計画策定の基礎資料とするため、実施しました。

2 調査の実施概要

(1) 調査設計

	一般	高校2年生	中学2年生
調査対象	春日井市在住の満20歳以上の方	春日井市内の学校に通学する高校2年生	春日井市内の学校に通学する中学2年生
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	市内の高等学校の2年生のクラスを抽出	市内の中学校の2年生のクラスを抽出
標本数	2,000件	559件	576件
調査方法	郵送配布・郵送回収	学校配布・学校回収	
調査時期	令和2年9月～10月	令和2年9月～10月	

(2) 回収結果

	一般	高校2年生	中学2年生
配布数(A)	2,000件	559件	576件
回収数	963件	559件	576件
有効回答件数(B)	963件	559件	576件
有効回答率(B/A)	48.2%	100%	100%

3 報告書の見方

- 図表中の「n」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでも○をつけるものなど）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- グラフ・表として示したもののうち、無回答が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、選択肢の文章を簡略化してある場合もあります。
- 性別、年齢別等で示しているグラフの「n」を合わせた数は、性別や年齢等の無回答を除いた数であるため、全体の「n」と一致しません。

II 調査結果まとめ

1 男女の平等意識について

- ・男女の地位の平等感は、男性優遇感が未だ強い。

男女の地位の平等感について「学校教育の場」「地域活動の場」「法律や制度」を除いて、“男性優遇※”が5割以上を占めており、なかでも「政治の場」で8割台半ばと最も高くなっています。また、平成28年の調査と比較すると「平等である」と回答した人の割合は、「社会通念、慣習・しきたりなど」と「社会全体」を除いて、平成28年より低くなっています。(図①・図②)

※男性優遇：「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」

- ・中学生・高校生調査の男女の地位の平等感では、ほとんどの項目で「平等になっている」が最も高い。しかし「学校生活」では男性優遇感より女性優遇感が強い傾向にある。

中学生調査では、いずれの項目も「平等になっている」が最も高く、なかでも「家庭生活」で6割台半ばとなっています。

高校生調査では、「家庭生活」と「学校生活」で「平等になっている」、「社会全体」で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、それぞれ最も高くなっています。

また、中学生・高校生ともに「学校生活」で“女性優遇”が約3割と男性優遇と比較して高くなっています。(図③)

男女の地位の平等感について、未だ男性優遇感が強く、前回調査と比較しても平等である」という回答が多く項目で減少していることから、男女平等が進んでいるとは言い難い状況が続いています。

一方で、中学生・高校生調査を見るとほとんどの項目で「平等になっている」と回答した割合が高く、市民調査との意識差がみられます。

子どもたちが、社会に出たときに、性別で区別されることの無いよう、社会全体における男女平等意識の醸成が必要であるとともに、子どもの教育だけでなく、大人への意識啓発を進める必要があります。

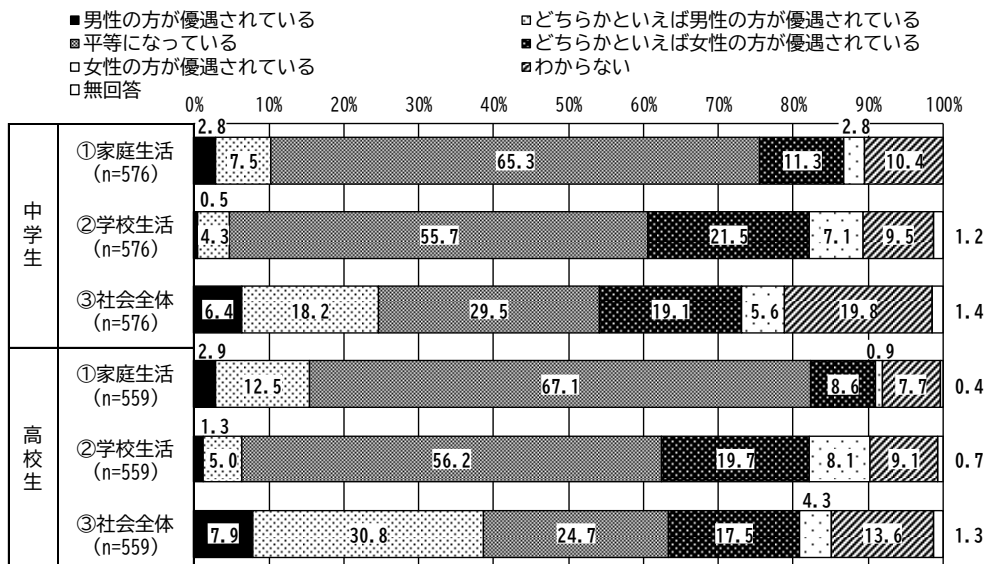
図表① 分野別の男女の地位における“男性優遇”の割合(過去の調査との比較)

		① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育の場	④ 政治の場	⑤ 地域活動の場	⑥ 法律や制度	⑦ 慣習・社会通念、しきたりなど	⑧ 社会全体
全体	令和2年	59.7	67.7	20.9	83.9	41.7	46.3	76.5	74.7
	平成28年	54.6	67.5	14.0	77.0	36.5	44.6	77.7	75.2
	差	5.1	0.2	6.9	6.9	5.2	1.7	-1.2	-0.5
男性	令和2年	40.4	61.3	15.5	78.3	33.6	34.3	69.9	65.3
	平成28年	38.9	64.2	9.8	67.9	27.0	34.3	73.7	68.6
	差	1.5	-2.9	5.7	10.4	6.6	0.0	-3.8	-3.3
女性	令和2年	70.6	70.8	23.6	87.1	46.4	53.4	80.5	80.0
	平成28年	65.1	69.5	16.7	82.9	42.0	51.4	80.5	79.6
	差	5.5	1.3	6.9	4.2	4.4	2.0	0.0	0.4

図表② 分野別の男女の地位における「平等である」の割合(過去の調査との比較)

		① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育の場	④ 政治の場	⑤ 地域活動の場	⑥ 法律や制度	⑦ 慣習・社会通念、しきたりなど	⑧ 社会全体
全体	令和2年	25.3	16.7	52.0	6.7	34.2	30.5	11.5	14.1
	平成28年	29.0	18.0	60.5	12.6	39.2	30.8	11.2	12.1
	差	-3.7	-1.3	-8.5	-5.9	-5.0	-0.3	0.3	2.0
男性	令和2年	39.8	19.8	57.3	11.5	41.3	40.1	16.9	22.1
	平成28年	38.9	19.2	65.0	20.0	48.7	40.4	14.6	16.3
	差	0.9	0.6	-7.7	-8.5	-7.4	-0.3	2.3	5.8
女性	令和2年	16.6	15.3	49.0	3.9	29.8	24.6	8.3	9.5
	平成28年	22.6	17.6	57.8	7.7	33.7	24.4	8.8	9.1
	差	-6.0	-2.3	-8.8	-3.8	-3.9	0.2	-0.5	0.4

図表③ 分野別の男女の地位(中学生・高校生調査)



2 家庭生活について

- ・「男性は仕事、女性は家庭」というような固定的な性別役割分担意識は解消傾向にある。

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、“概ね反対※1”は5割台半ばと反対派が過半数を超えています。また、経年比較でみると、“概ね賛成※2”は、過去の調査のなかでも最も低く、“概ね反対”は、過去の調査のなかで最も高い結果となっています。(図④)

※1 概ね反対：「反対」＋「どちらかという反対」

※2 概ね賛成：「賛成」＋「どちらかという賛成」

- ・中学生・高校生調査では、将来結婚した際の理想の生活として、「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が中学生で6割台半ば、高校生で7割台半ばと高くなっている。

将来結婚した場合の理想の生活は、中学生・高校生ともに「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が最も高く、次いで「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」、「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」となっています。(図⑤)

- ・家庭内のほとんどの役割を女性が担っている現状がある。

家庭での役割分担については、「すべて女性」と回答した人は「食事のしたく」と「洗濯」で4割以上、「食事の後片付け、食器洗い」と「掃除」で約3割となっています。また、「主に女性」と回答した割合をみると、「看護・介護」を除いて3割以上となっています。(図⑥)

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、反対派が過半数を超えており、中学生・高校生調査をみても、将来結婚した際の理想の生活として、「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」と回答した割合が高くなっていることから、「男性は仕事、女性は家庭」というような固定的な性別役割分担意識は解消傾向にあるといえます。

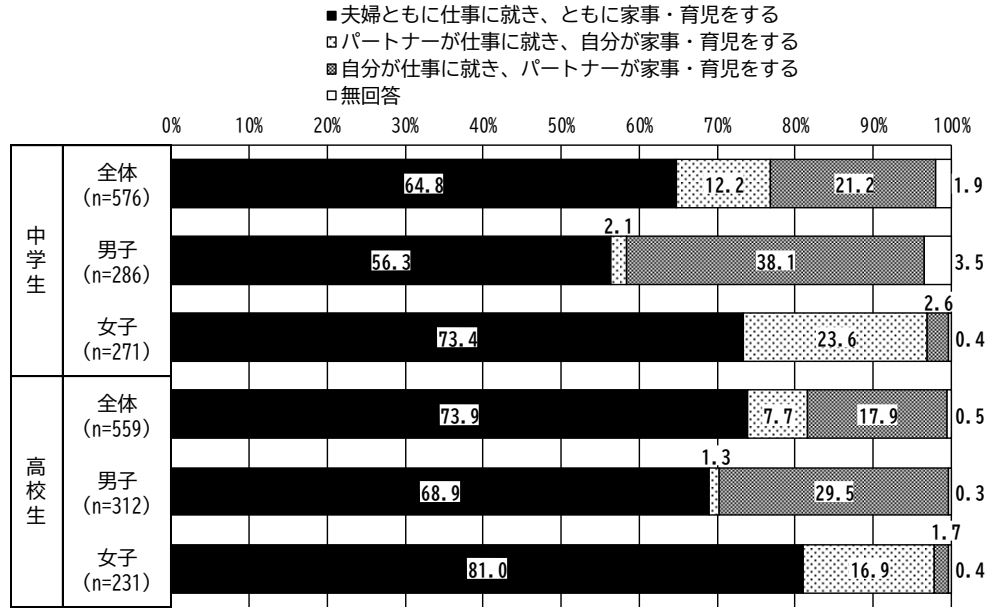
一方で、家庭内の役割分担の状況を見ると、家事・掃除・洗濯・食器洗いなど家事における項目の多くを女性が担っている現状があります。

女性の社会進出が進む中、女性だけに負担が偏らないよう、仕事も家庭も両立できるような環境整備を進めるとともに、男性が家事・育児・介護に積極的に参加できるような環境づくりや意識の醸成が必要です。

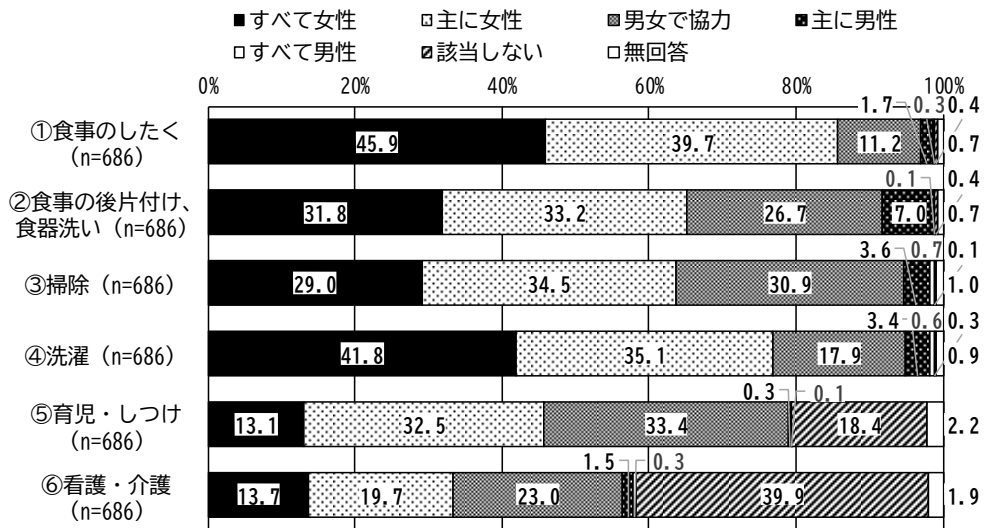
図表④ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

	概ね賛成	賛成	いどちら とら 賛か 成と	概ね反対	いど う ち と ら 反 か 対 と	反 対	な わ い か ら	無 回 答
令和2年	34.0	4.2	29.8	53.6	27.2	26.4	11.2	1.2
平成28年	37.4	4.5	32.9	48.3	26.3	22.0	13.5	-
平成22年	38.8	6.2	32.6	49.0	28.3	20.7	11.2	-
平成18年	37.6	7.3	30.3	51.1	24.9	26.2	9.7	-

図表⑤ 理想の結婚生活（中学生・高校生調査）



図表⑥ 現実の家事分担



3 女性の職業生活について

- ・女性の職業生活で障壁となっているものは、「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」が高くなっている。

女性が職業に就いたり、職業生活を続けたりする上で、障壁となっているものについては、「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」が最も高く、次いで「支援制度の問題（子育て・介護家庭支援、再就職支援など）」、「職場の労働条件の問題（賃金、労働時間、休暇制度など）」の順となっています。

性別で見ると女性は、「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」と回答した割合が男性より高くなっており、男性は「女性自らの職業意識や職業能力の問題（責任ある仕事への不安、仕事への取り組み姿勢など）」が女性より高くなっています。（図⑦）

- ・各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由は、「家庭内の支援が十分でない」。

政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由としては、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の順となっています。

性別で見ると、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が男性より高く、男性で「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が女性より高くなっています。（図⑧）

- ・中学生・高校生調査では、将来、仕事においてリーダーや管理職になりたいかについて、“概ねなりたい”が約5割程度。女子は高校生になると“概ねなりたくない”が増加する。

中学生調査では、将来、リーダーや管理職になりたいかについて、「できればなりたくない」が最も高く、次いで「できればなりたい」となっています。また、“概ねなりたい※1”、“概ねなりたくない※2”がともに約5割となっています。

高校生調査では、「できればなりたい」が最も高く、次いで「できればなりたくない」となっています。また、“概ねなりたい”が5割超、“概ねなりたくない”が4割台半ばとなっています。（図⑨）

※1 概ねなりたい：「なりたい」＋「できればなりたい」

※2 概ねなりたくない：「なりたくない」＋「できればなりたくない」

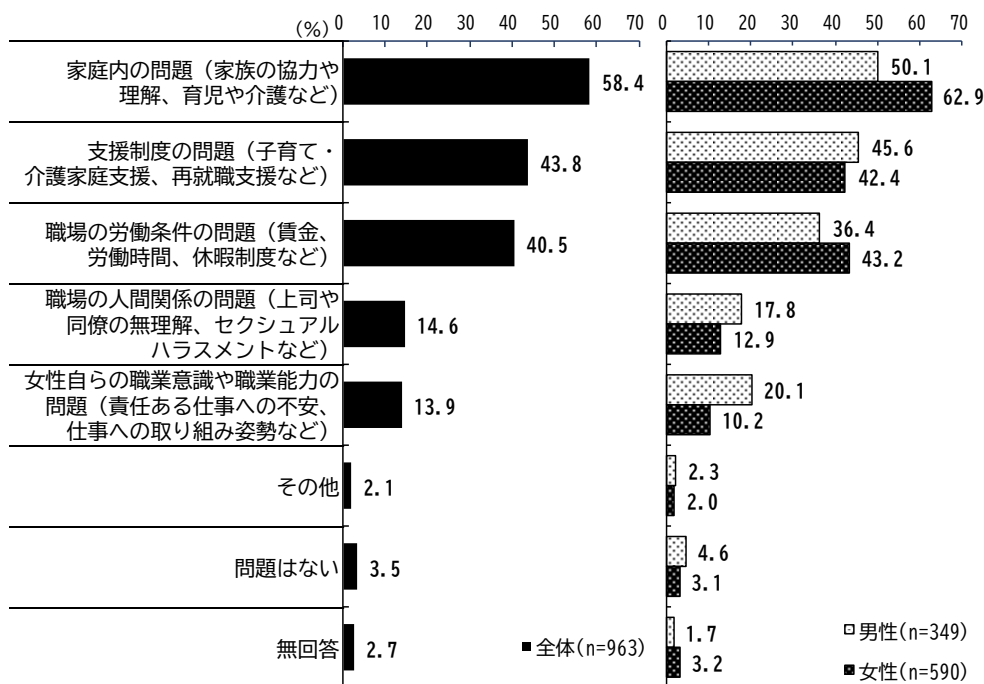
女性の職業生活で、障壁となっているものや、各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由として、「家庭内の支援の不足」「支援制度の不足」が挙げられています。

また、女性リーダーの登用が進んでいない理由として、女性は、「男性や上司・部下が女性リーダーを希望していない」と考える割合が男性より高い一方で、男性は「女性自身がリーダーになることを望んでいない」と考える割合が女性より高くなっており、男女間での認識の差がみられます。

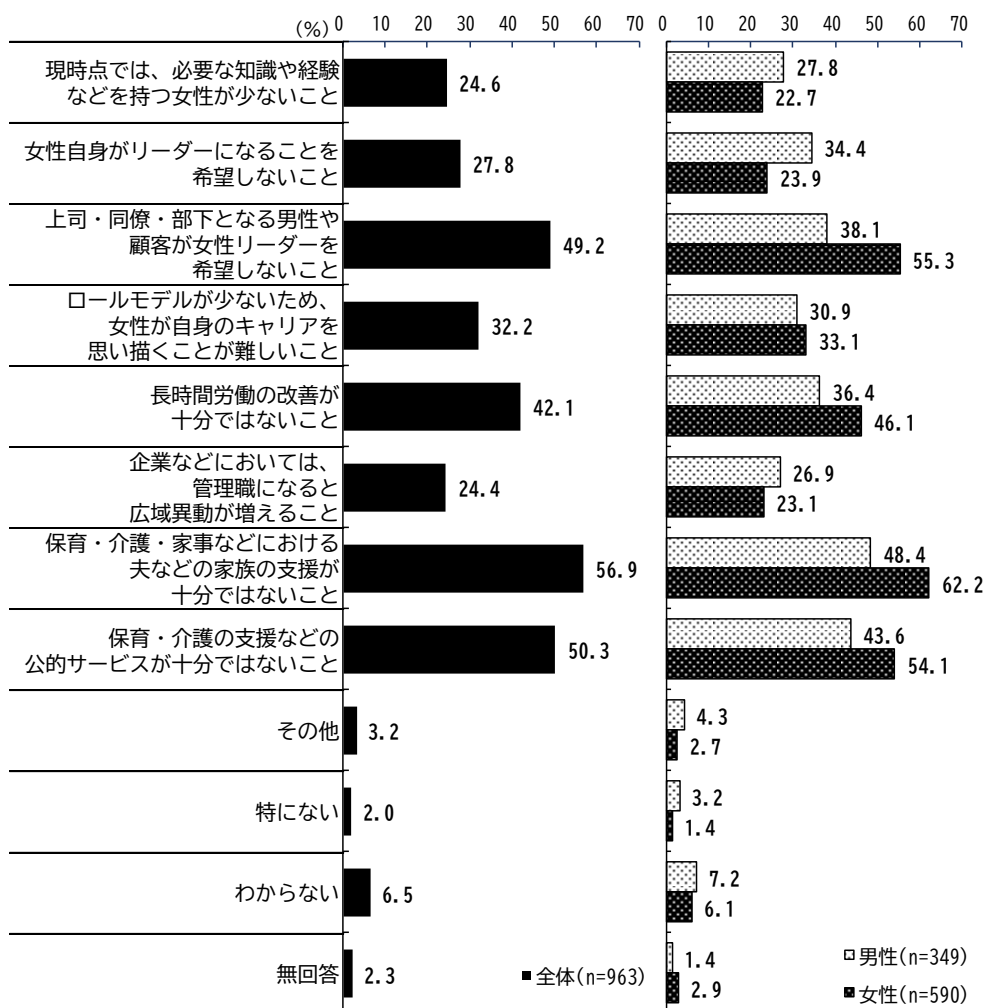
女性の社会進出を進めるためには、家庭と仕事の両立支援が重要となっています。

そのためには、保育・介護支援などの公的サービスの充実のほか、男性の家庭への参画に対する意識の醸成、固定的な性別役割分担意識の解消を進め、男女がともに個性と能力を発揮して、職業生活を送ることができるよう支援していく必要があります。

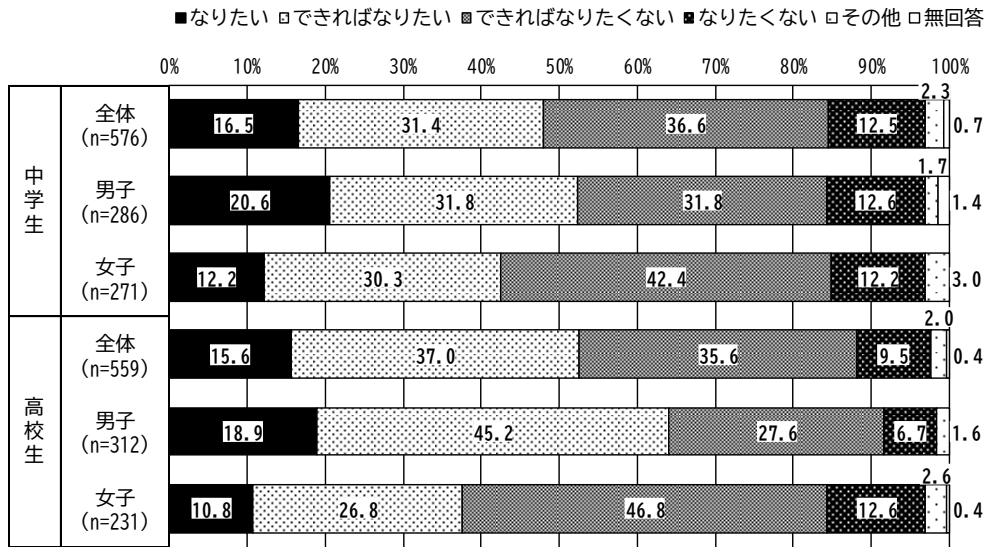
図表⑦ 女性の就労上の障壁



図表⑧ 女性リーダーの登用が進んでいない理由



図表⑨ リーダーや管理職になること（中学生・高校生調査）



4 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・男女が働き続けるために必要なことは、「子どもを預けられる環境の整備」や「男性が家事・育児・介護などに参加することへの周囲の理解・意識改革」が高くなっている。

男女が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこととしては、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高く、次いで「男性が家事・育児・介護などに参加することへの周囲の理解・意識改革」、「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」となっています。(図⑩)

- ・生活の優先度は、希望は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高いが、現実には「『仕事』を優先している」が最も高くなっている。特に、男性は理想と現実の乖離が大きい。

生活の優先度として、希望は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高く、次いで「『家庭生活』を優先したい」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」の順となっています。

一方、現実としては、「『仕事』を優先している」が最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」、「『家庭生活』を優先している」の順となっています。

また、性別で比較すると、男性で「『仕事』を優先している」が女性より高くなっている一方で、女性は「『家庭生活』を優先している」が男性より高くなっています。(図⑪・図⑫・図⑬)

- ・中学生・高校生調査では、将来暮らしの中で優先したいことは、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が高くなっている。

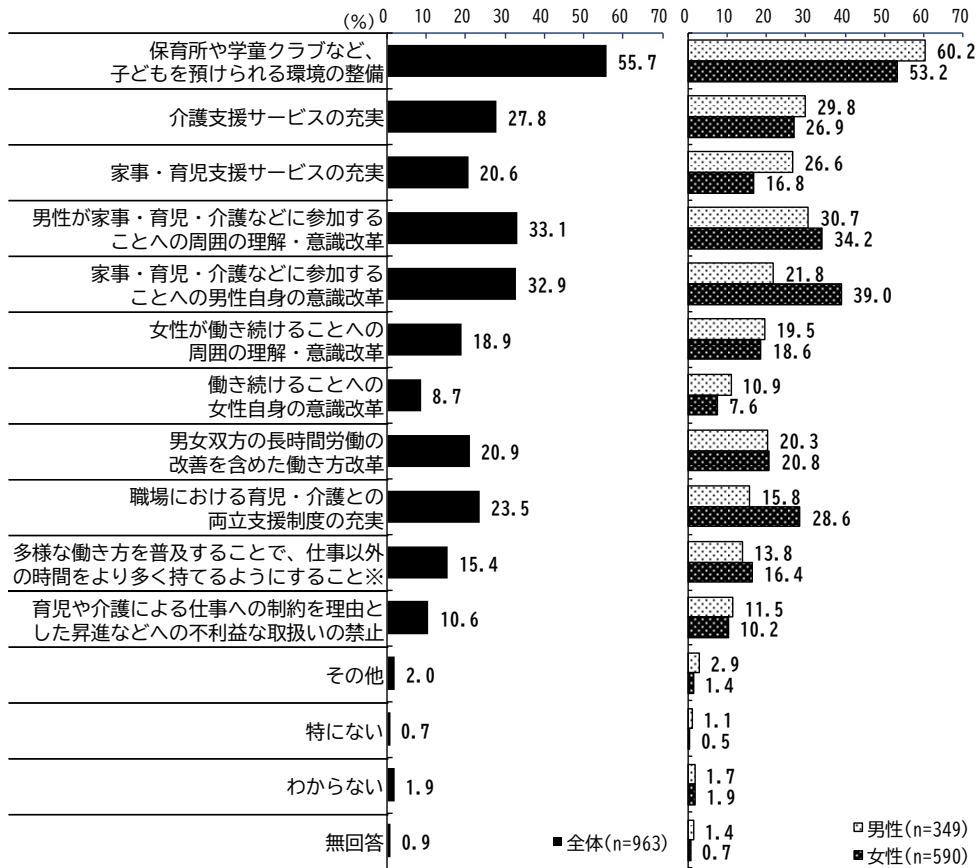
将来暮らしの中で優先したいことは、中学生・高校生ともに「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」となっています。(図⑭)

男女が働き続けるために必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」などの子育て支援の充実に加えて、「男性が家事・育児・介護などに参加することへの周囲の理解・意識改革」などの男性への家庭参画が求められています。

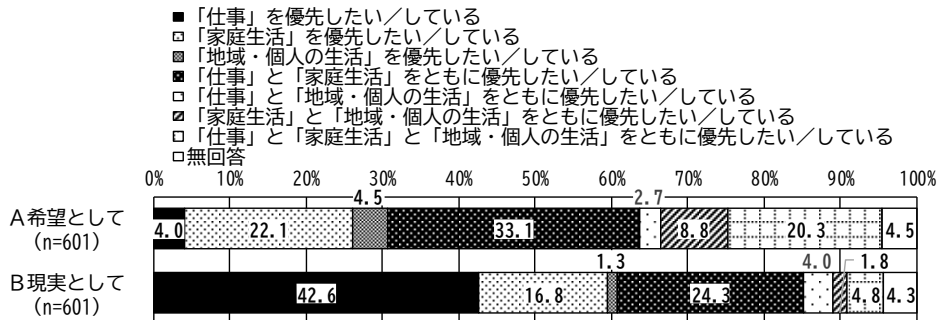
また、生活で優先したいこととしては、希望は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高いが、現実には「『仕事』を優先している」が最も高くなっています。特に、男性は家庭と仕事を両立したいと考える一方で、現実には「『仕事』を優先している」割合が女性と比較して高く、希望と現実の乖離が大きくなっています。

このように、男性は生活を優先したくても現実として難しいと考える人が多いとが考えられ、男性が家庭参画しやすい職場環境づくりや周囲の理解促進が必要です。

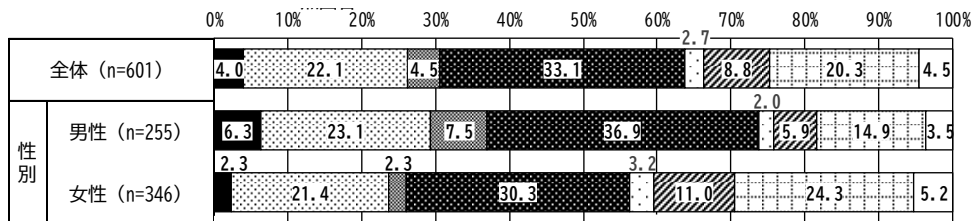
図表⑩ 男女が働き続けるために必要なこと



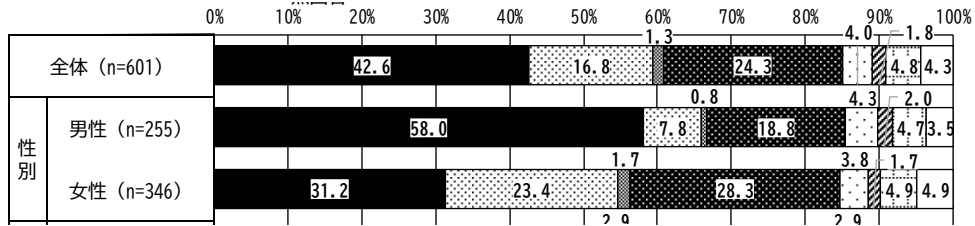
図表⑪ ワーク・ライフ・バランス【全体】



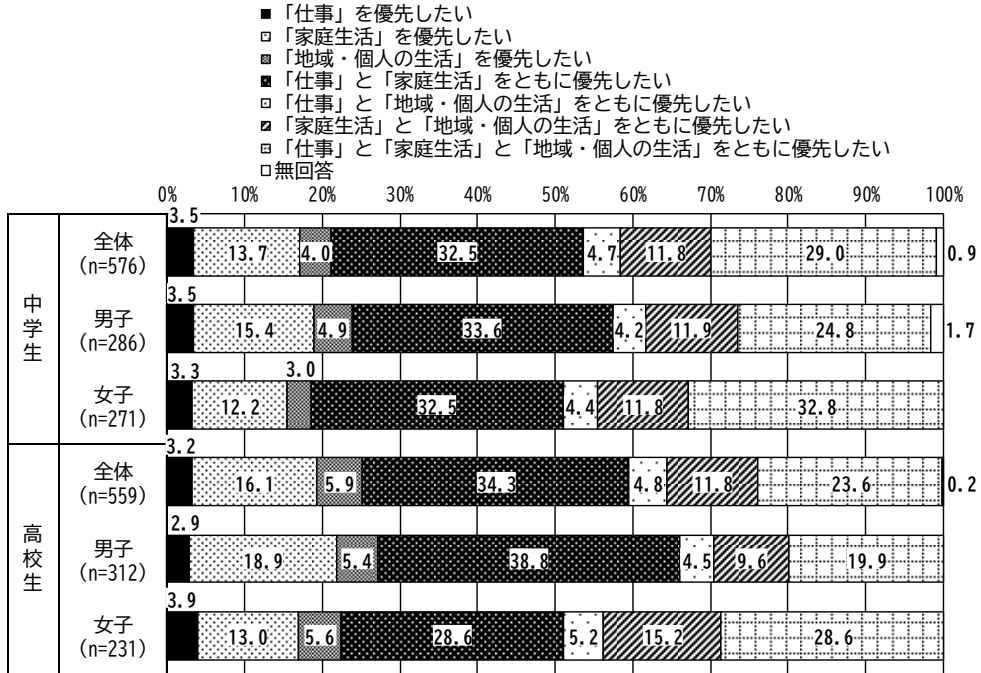
図表⑫ ワーク・ライフ・バランス【希望として】



図表⑬ ワーク・ライフ・バランス【現実として】



図表⑭ ワーク・ライフ・バランスの希望 (性別)



5 地域活動について

- ・地域活動の参加状況は、「いずれの活動にも参加しなかった」が多数。参加しなかった理由は、「仕事が忙しいから」が高くなっている。

過去5年間の地域活動については、「いずれの活動にも参加しなかった」が最も高く、次いで「区・町内会・自治会の活動」、「趣味・教養文化講座への参加」となっています。

参加しなかった人の理由としては、「仕事が忙しいから」が最も高く、次いで「どんな地域活動があるかわからないから」、「地域活動に興味がないから」となっています。(図⑮・図⑯)

- ・災害時の避難所運営に必要なこととしては、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高くなっている。

災害時の避難所運営については、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」となっています。(図⑰)

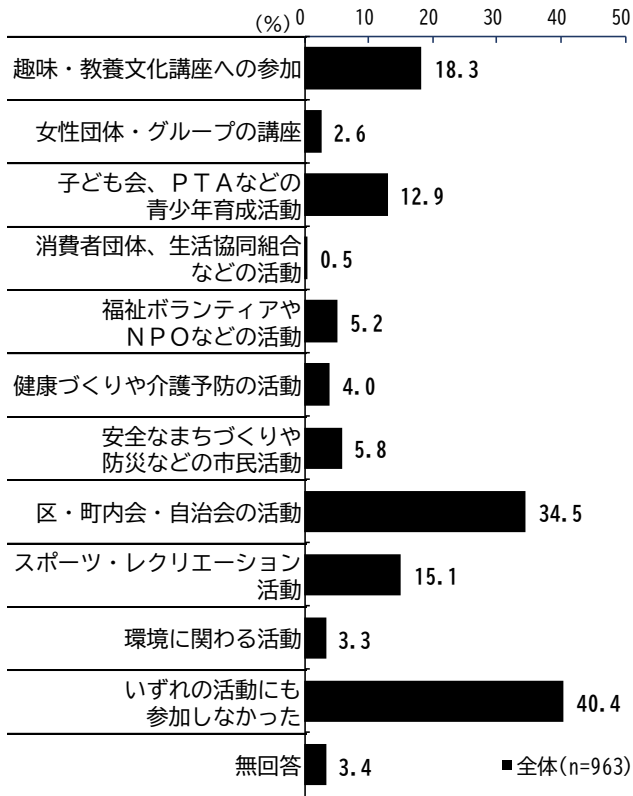
地域活動については、「いずれの活動にも参加しなかった」が約4割と非常に高くなっており、参加しなかった理由として、「仕事が忙しいから」や「どんな地域活動があるかわからないから」があげられています。

男女共同参画社会の実現のためには、行政だけでなく地域団体やボランティアとの連携が非常に大切です。そのためには、市民が地域活動に参加できるよう、仕事と家庭と地域活動を両立できるような環境づくりに加えて、積極的に情報提供をしていく必要があります。

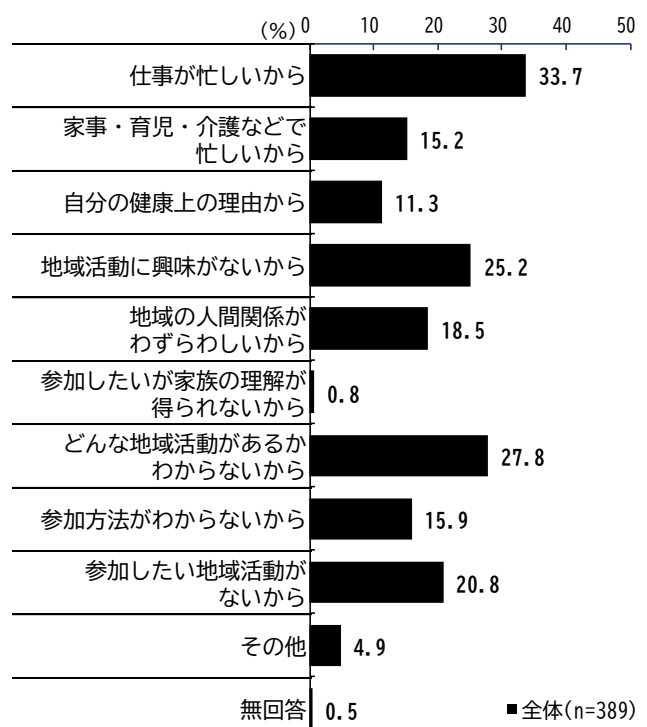
また、災害時の避難所運営に必要なこととしては、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」や「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が高くなっています。

災害時は多くの女性が困難な状況に置かれます。非常時にも女性の視点がきちんと確保されるよう、災害時における方針決定過程への女性の参画を進めていく必要があります。

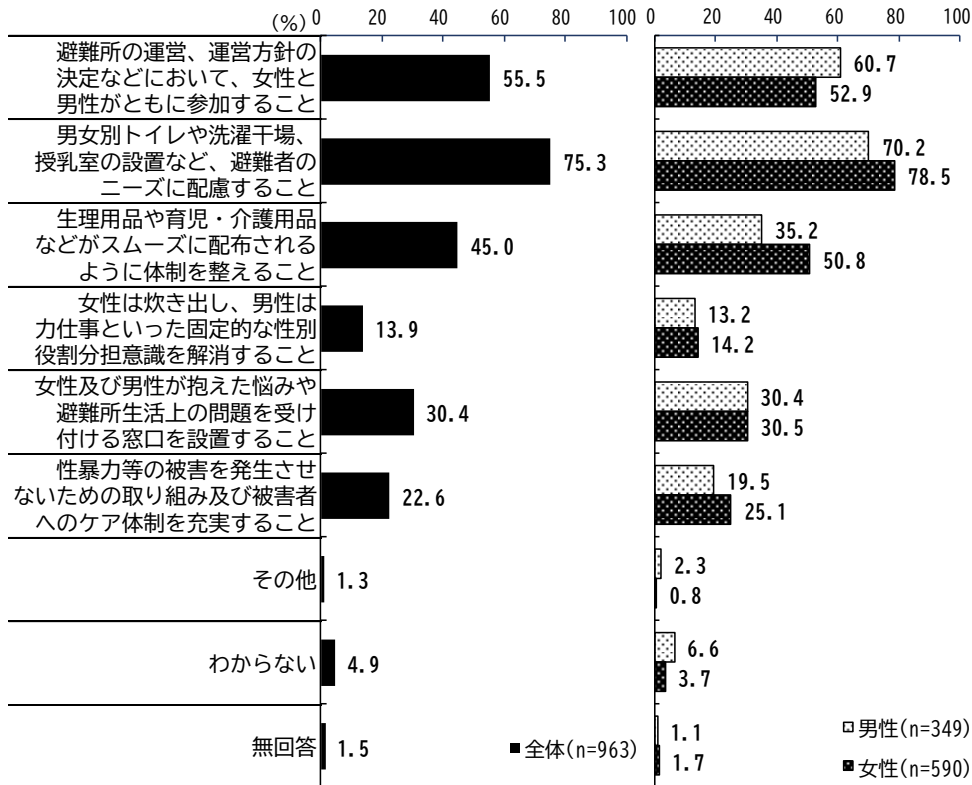
図表⑮ 地域活動の参加経験



図表⑯ 地域活動に参加しなかった理由



図表⑰ 避難所運営において必要なこと



6 子どもの教育について

- ・子どもにはどこまで進学することを期待するかについて、前回調査と比較すると、「女の子の場合」で「大学まで」が年々上昇している。

子どもにはどこまで進学することを期待するかについては、「男の子の場合」で「大学まで」が6割台半ばと、「女の子の場合」より約1割高くなっています。

また、過去の調査と比較すると、「女の子の場合」で「大学まで」が年々高くなっています。
(図⑧)

- ・中学生・高校生調査では、どこまで進学したいかについて、ともに「大学まで」が最も高くなっている。

中学生・高校生調査におけるどこまで進学したいかについては、中学生・高校生ともに、「大学まで」が最も高く、次いで「高等学校まで」、「専門学校・各種学校まで」となっています。

(図⑨)

- ・教育現場における男女共同参画の推進については、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が最も高くなっている。

教育現場における男女共同参画の推進については、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が最も高く、次いで「日頃の学習の中で、人権や男女平等意識を育てていく」、「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」の順となっています。(図⑩)

男女共同参画社会実現のためには、子どものころからの教育が非常に重要です。

子どもにはどこまで進学することを期待するかについて、男女ともに「大学まで」が最も高くなっていますが、男の子の方がその割合が高くなっています。

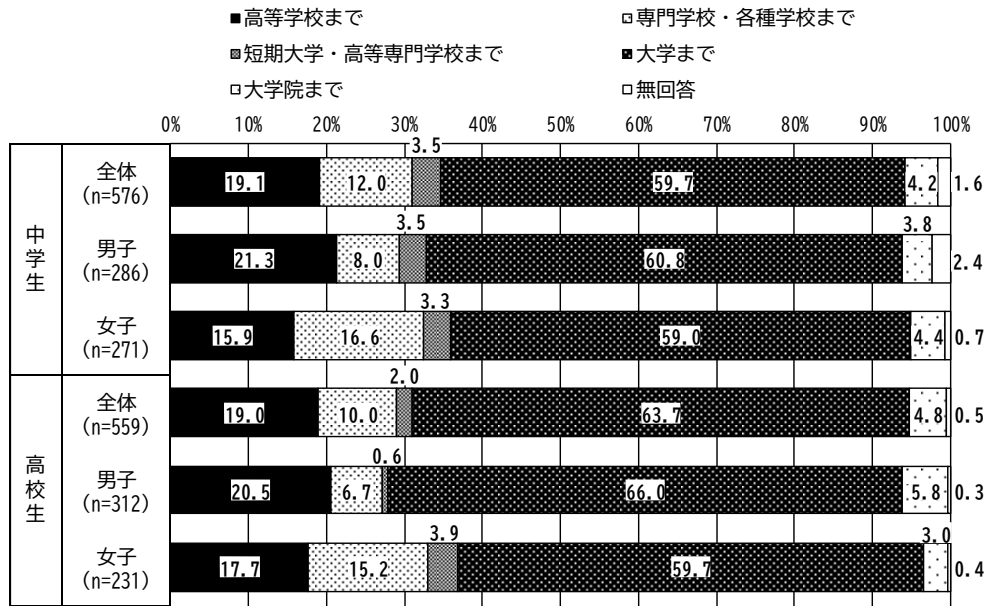
中学生・高校生調査では、中学生・高校生ともに、「大学まで」が最も高く、市民調査と比較しても、男女の差は少なくなっています。

また、教育現場における男女共同参画の推進については、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が最も高くなっており、「男の子だから…」 「女の子だから…」 という考え方ではなく、個人の資質や能力にあった教育の推進が求められています。

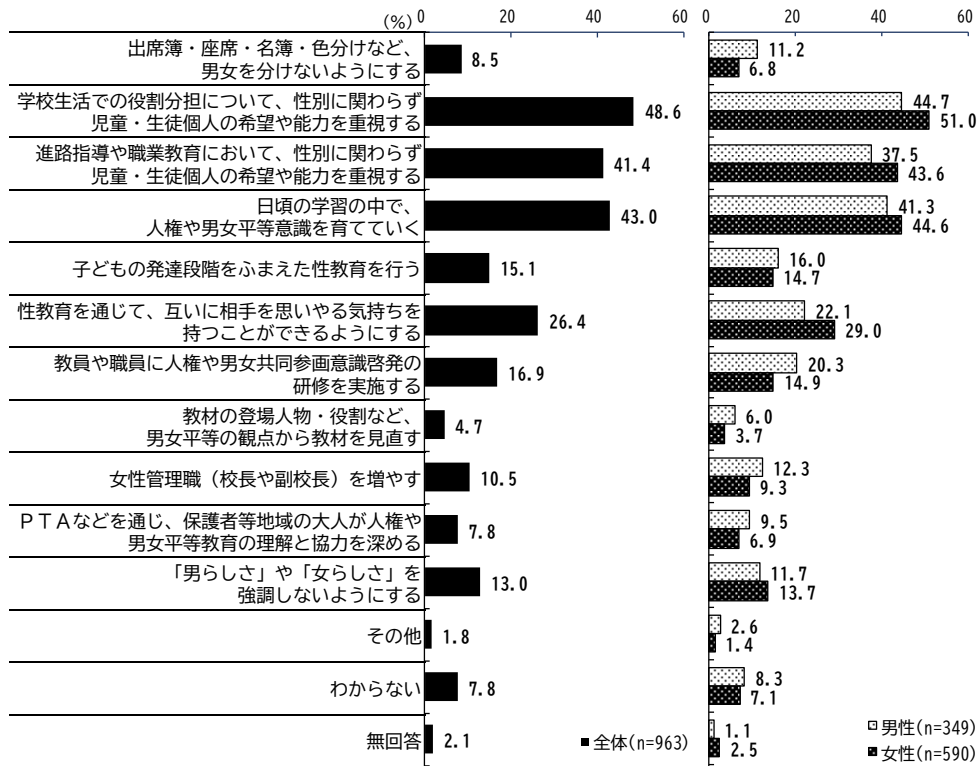
図表⑧ 子どもに期待する進学先

		(%)							
		中学校まで	高等学校まで	各専門学校まで	ま高短 で等期 専大 門学 校	大学まで	大学院まで	その他	無回答
女 場 の 子 の 場 合	令和2年	0.2	12.4	5.5	9.9	56.5	2.5	8.6	4.5
	平成28年	-	9.1	7.8	10.3	55.1	2.6	11.3	-
	平成22年	3.9	23.2	8.1	16.9	39.1	1.0	4.1	-
男 場 の 子 の 場 合	令和2年	0.2	9.3	3.3	1.7	66.8	6.3	8.4	3.9
	平成28年	-	5.8	4.6	1.7	68.3	5.3	10.9	-
	平成22年	4.5	20.8	6.7	2.8	53.8	4.1	4.4	-

図表⑱ 希望する進路（中学生・高校生調査）



図表⑳ 教育現場における男女共同参画の推進



7 人権の尊重について

- ・恋人や配偶者からの DV 被害経験者は、回答者全体のうち約 1 割。また 40 代の割合が最も高い。

恋人や配偶者からの、身体的・精神的・性的・経済的な暴力の被害経験は、「まったくない」が最も高く、「一、二度あった」、「何度もあった」の順となっています。

年代別では、20 歳代から 50 歳代にかけて、“暴力を受けたことがある※”が 1 割以上となっており、なかでも 40 歳代で約 2 割と、最も高くなっています。(図②)

※暴力を受けたことがある：「何度もあった」＋「一、二度あった」

- ・DV を受けた際の相談先は、「友人・知人」が最も高い。また男性は被害にあっても「相談しようと思わなかった」と回答した人の割合が女性と比較して高くなっている。

被害を受けた際の相談先は、「友人・知人」が最も高く、次いで「家族・親戚」、「相談しようと思わなかった」、「相談しなかった（できなかった）」の順となっています。

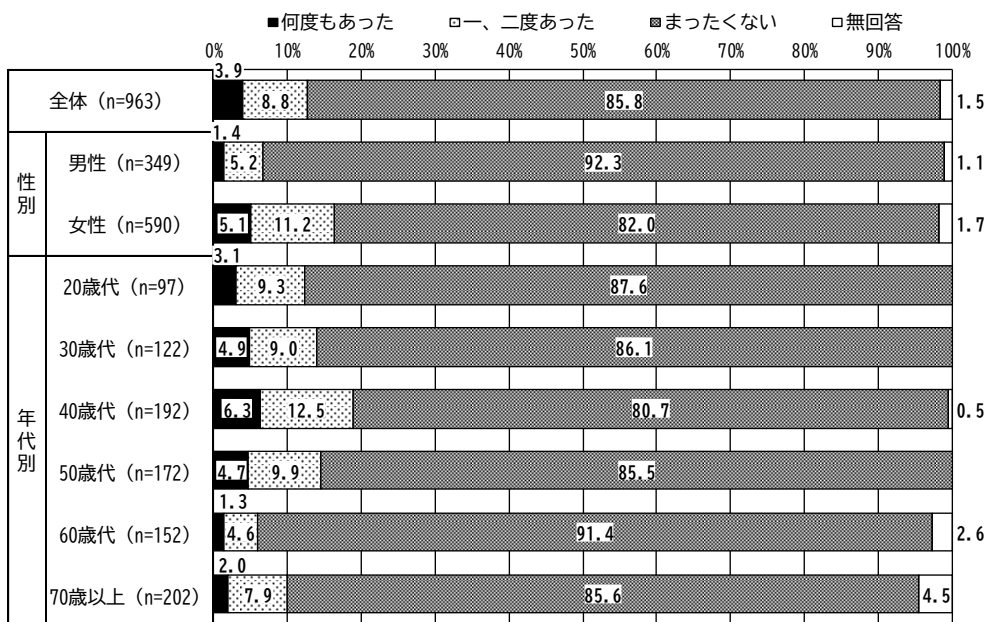
性別では、男性で「相談しようと思わなかった」が、女性より高くなっています。一方で、女性で「家族・親戚」、「友人・知人」が、それぞれ男性より高くなっています。(図②)

恋人や配偶者からの DV 被害経験者は、回答者のうち約 8 人に 1 人が何らかの DV を受けたことがあると回答しています。

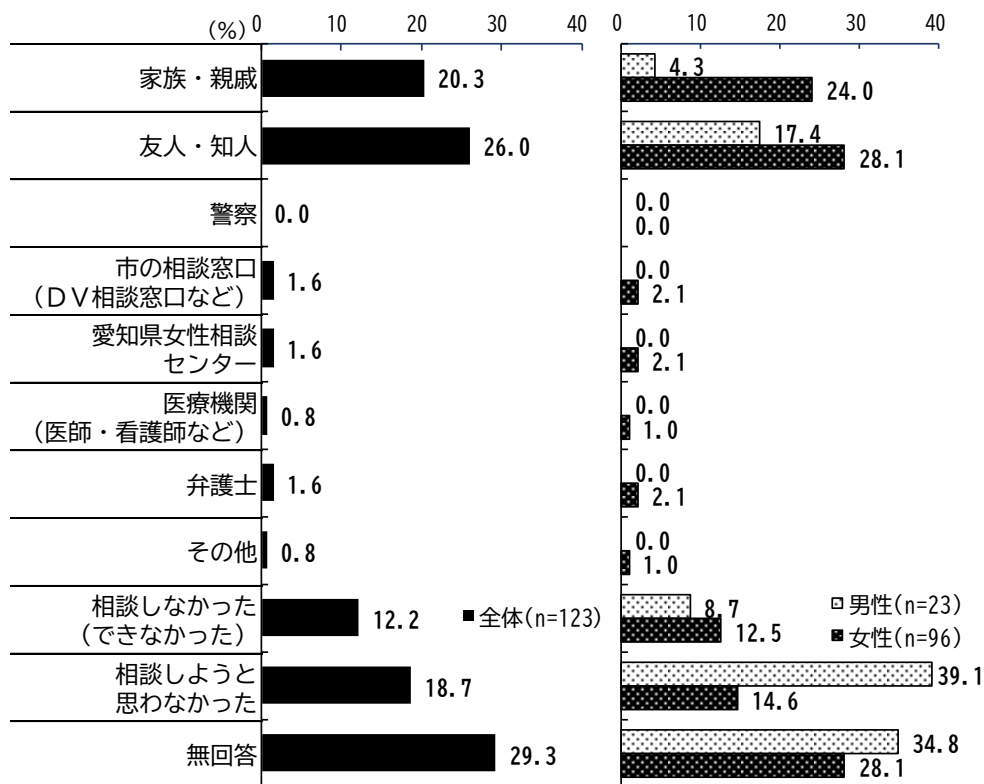
また、DV の被害の相談先として、「友人・知人」や「家族・親戚」と並んで、「相談しようと思わなかった」が高くなっています。その中でも、特に男性は女性と比較して、「相談しようと思わなかった」と回答した人の割合が高くなっています。

現在新型コロナウイルス感染症に伴う生活不安・ストレスなどから、DV の増加・深刻化が懸念されています。DV は身体的暴力だけではなく、精神的・経済的・性的等多岐にわたります。被害が深刻になる前に、被害者に対する支援を進めていく必要があります。

図表② DV被害の経験



図表③ 相談先



8 市の男女共同参画の取り組みについて

- ・市が実施する男女共同参画に関する取組は、「知っているものはない」が最も高くなっている。

春日井市が実施する男女共同参画に関する取組については、「知っているものはない」が最も高く、次いで「市のDV相談窓口」、「女性の悩み相談窓口」、「かすがい市男女共同参画情報紙『はるか』」の順となっています。

過去の調査と比較すると、「春日井市男女共同参画推進条例」「かすがい市男女共同参画情報紙『はるか』」「市のDV相談窓口」「女性のための法律相談窓口」が、過去の調査のなかで最も高くなっています。(図⑳・㉑)

- ・市が力を入れていくべきものについては、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が最も高くなっている。

また、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきかについては、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が最も高く、次いで「学校教育において、男女平等の教育を推進する」、「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」の順となっています。(図㉒)

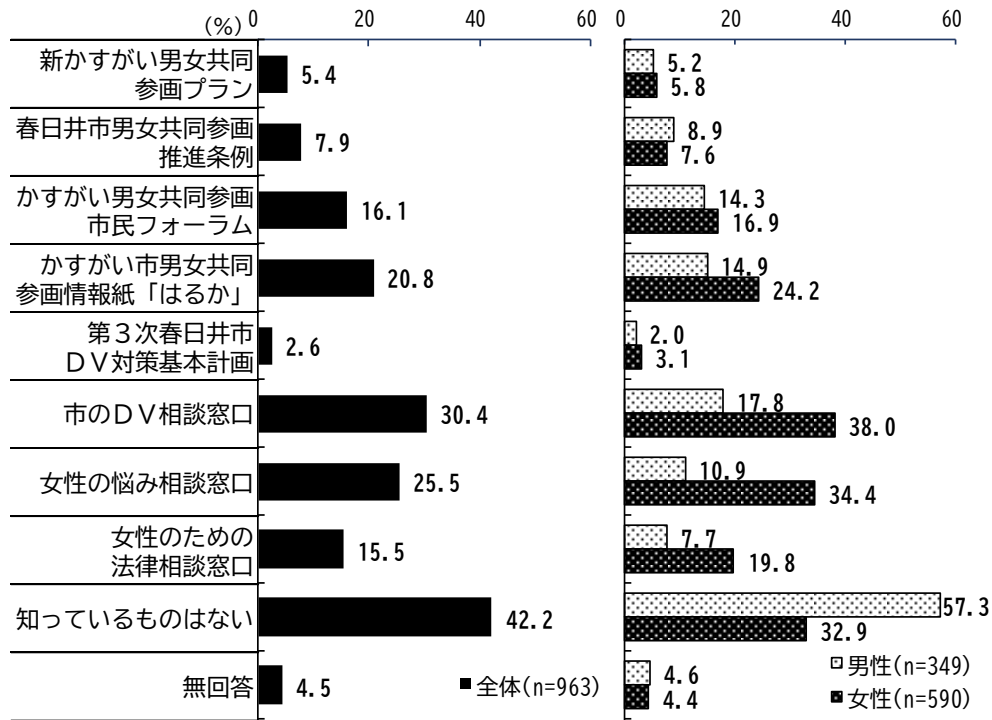
- ・中学生・高校生調査では、市が力を入れていくべきものについて、「男女を差別するような古い習慣をなくす」が最も高い。

市が力を入れていくべきものについて「男女を差別するような古い習慣をなくす」がと最も高く、次いで「父親が子育てしたり、介護したり、家族とゆっくり過ごすため、家に帰る時間を早くしたり、会社を休みやすくしたりする」、「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」の順となっています。(図㉓・㉔)

男女共同参画社会を形成していくために、市が力を入れていくべきこととして「仕事と家庭の両立支援」や「学校教育における男女平等の教育の推進」、中学生・高校生調査では、「男女差別の古い慣習をなくす」や「父親の家庭参画」が挙げられています。

また、市が実施する男女共同参画に関する取組としては、「知っているものはない」が約4割と高く、特に「第3次春日井市DV対策基本計画」や「新かすがい男女共同参画プラン」の認知が非常に低くなっていることから、市民に男女共同参画について関心を持ってもらえるよう男女共同参画に関する広報・啓発に力を入れていく必要があります。

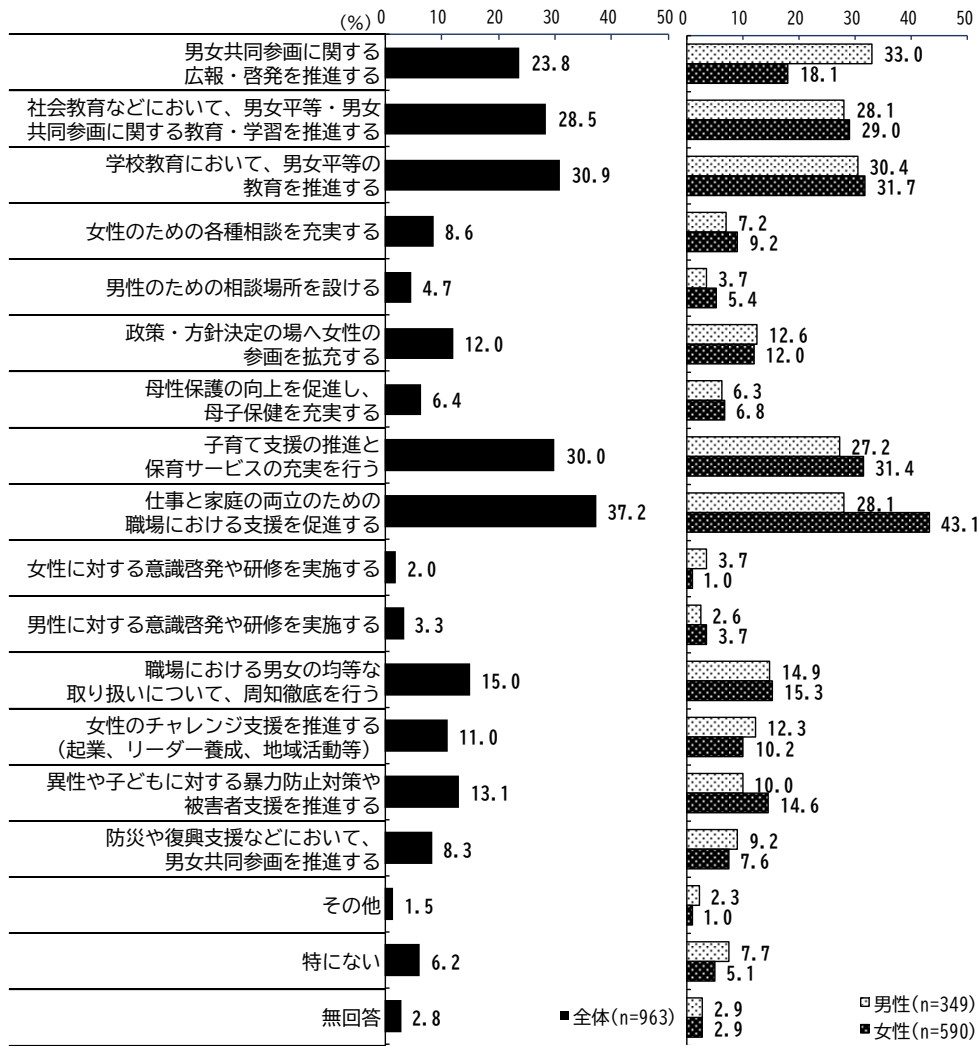
図表⑳ 男女共同参画社会実現のための春日井市の取り組み



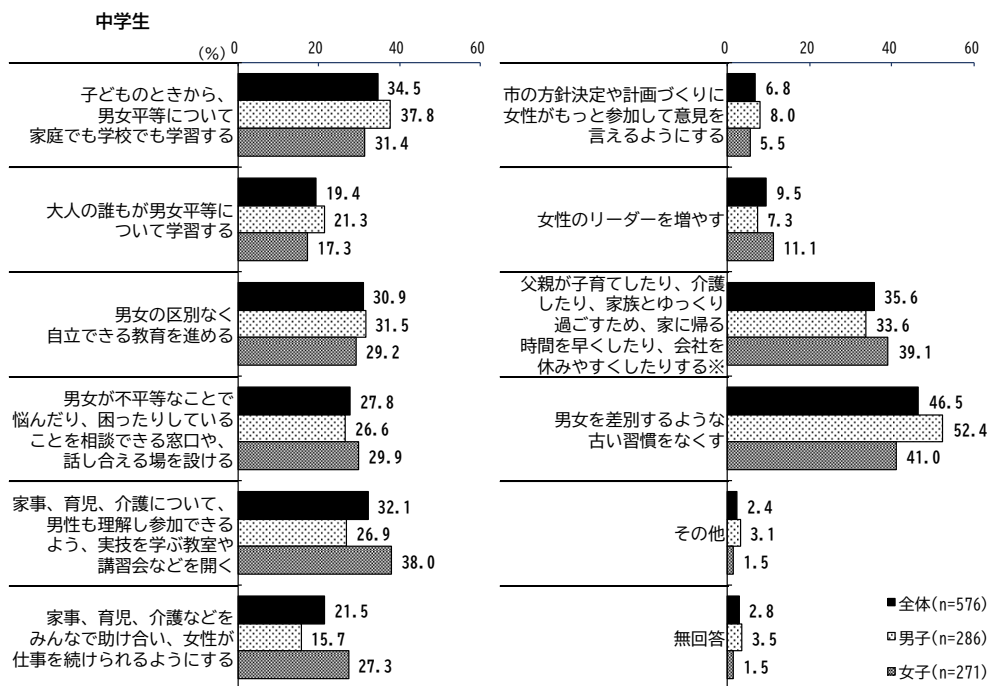
図表㉔ 男女共同参画社会実現のための春日井市の取り組み（過去の調査との比較）

	新かすがい男女共同参画プラン	春日井市男女共同参画推進条例	かすがい男女共同参画市民フォーラム	かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」	第3次春日井市DV対策基本計画	市のDV相談窓口	女性の悩み相談窓口	女性のための法律相談窓口	知っているものはない	無回答
令和2年	5.4	7.9	16.1	20.8	2.6	30.4	25.5	15.5	42.2	4.5
平成28年	6.0	7.4	19.0	19.4	2.0	21.7	23.1	13.6	47.0	-
平成22年	17.2	4.6	18.6	7.6	3.9	25.7	26.6	-	41.8	-

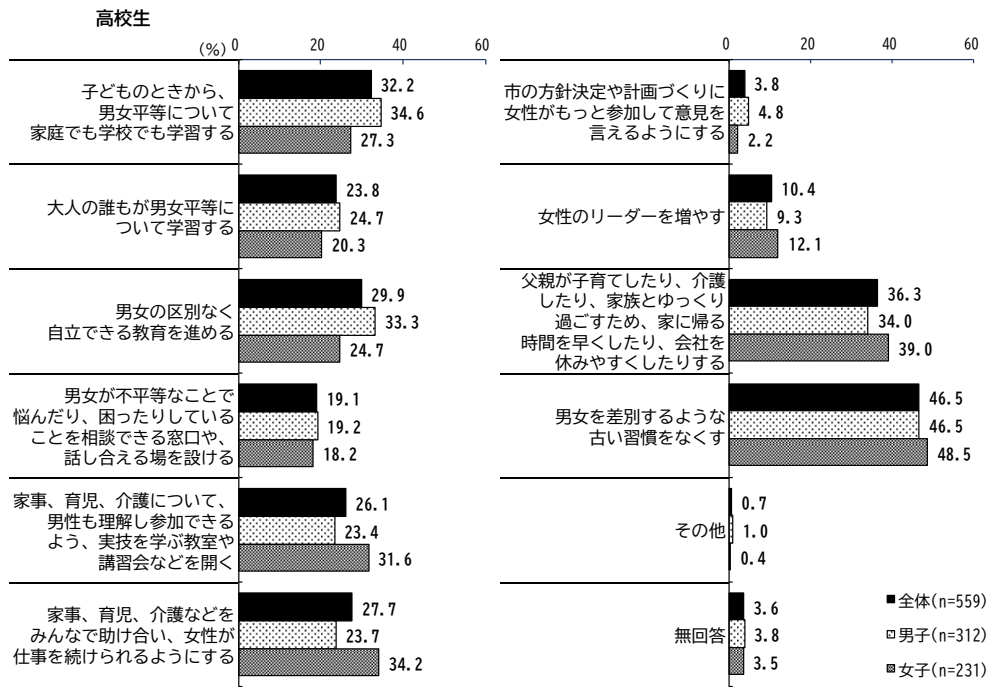
図表⑳ 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと



図表㉑ 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（中学生調査）



図表⑳ 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（高校生調査）



Ⅲ 調査結果

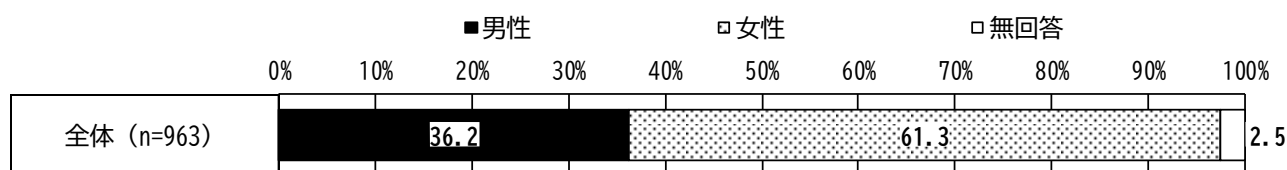
1 一般市民調査

(1) 回答者ご自身について

① 性別(自認の性でお答えください)

- 「男性」が36.2%、「女性」が61.3%となっています。

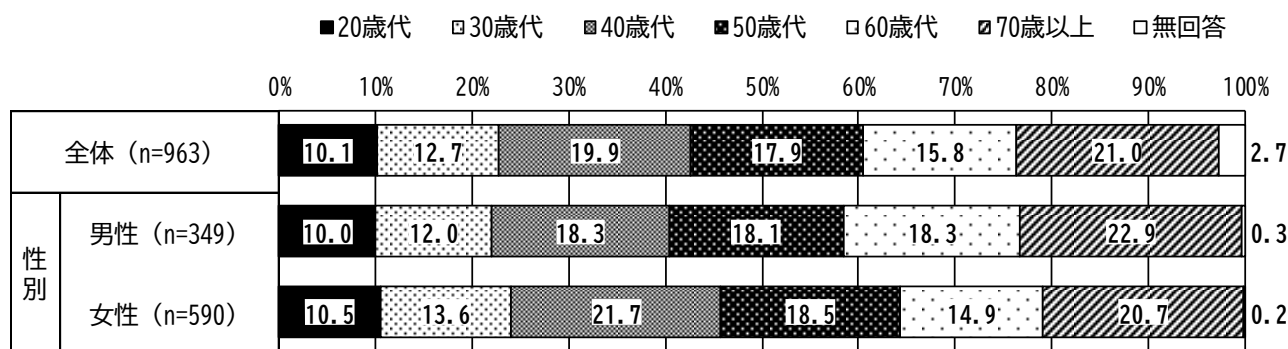
図表 1 自認している性



② 年齢(令和2年9月1日現在)

- 「70歳以上」が21.0%と最も高く、次いで「40歳代」(19.9%)、「50歳代」(17.9%)、「60歳代」(15.8%)となっています。
- 性別では、男性で「70歳以上」が22.9%、女性で「40歳代」が21.7%と、それぞれ最も高くなっています。

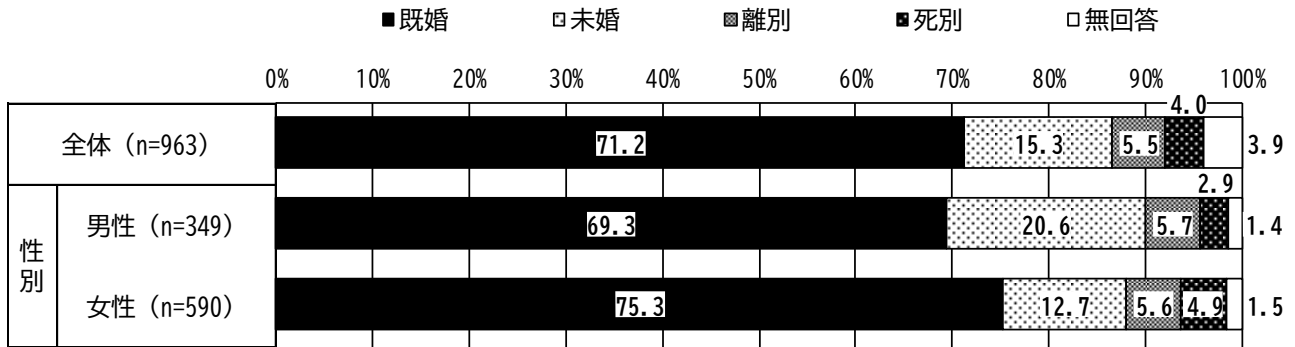
図表 2 年齢(性別)



③ 配偶者の有無（事実婚を含む）

- 「既婚」が71.2%と最も高く、次いで「未婚」（15.3%）となっています。
- 性別では、男性で「未婚」が20.6%と、女性より7.9ポイント高くなっています。一方で、女性で「既婚」が75.3%と、男性より6.0ポイント高くなっています。

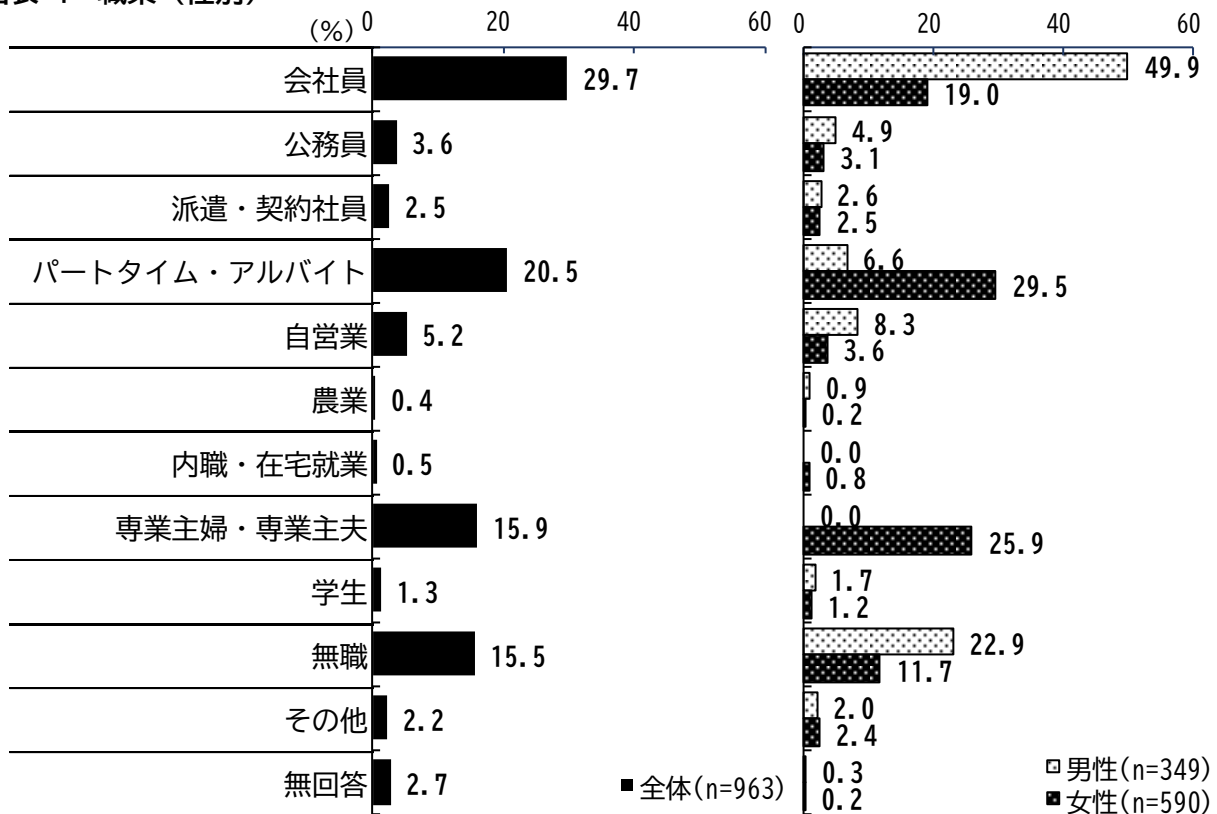
図表 3 配偶者の有無（性別）



④ 職業

- 「会社員」が29.7%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」（20.5%）、「専業主婦・専業主夫」（15.9%）、「無職」（15.5%）となっています。
- 性別では、男性で「会社員」が49.9%と最も高く、次いで「無職」（22.9%）となっています。女性では「パートタイム・アルバイト」が29.5%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」（25.9%）、「会社員」（19.0%）、「無職」（11.7%）となっています。

図表 4 職業（性別）

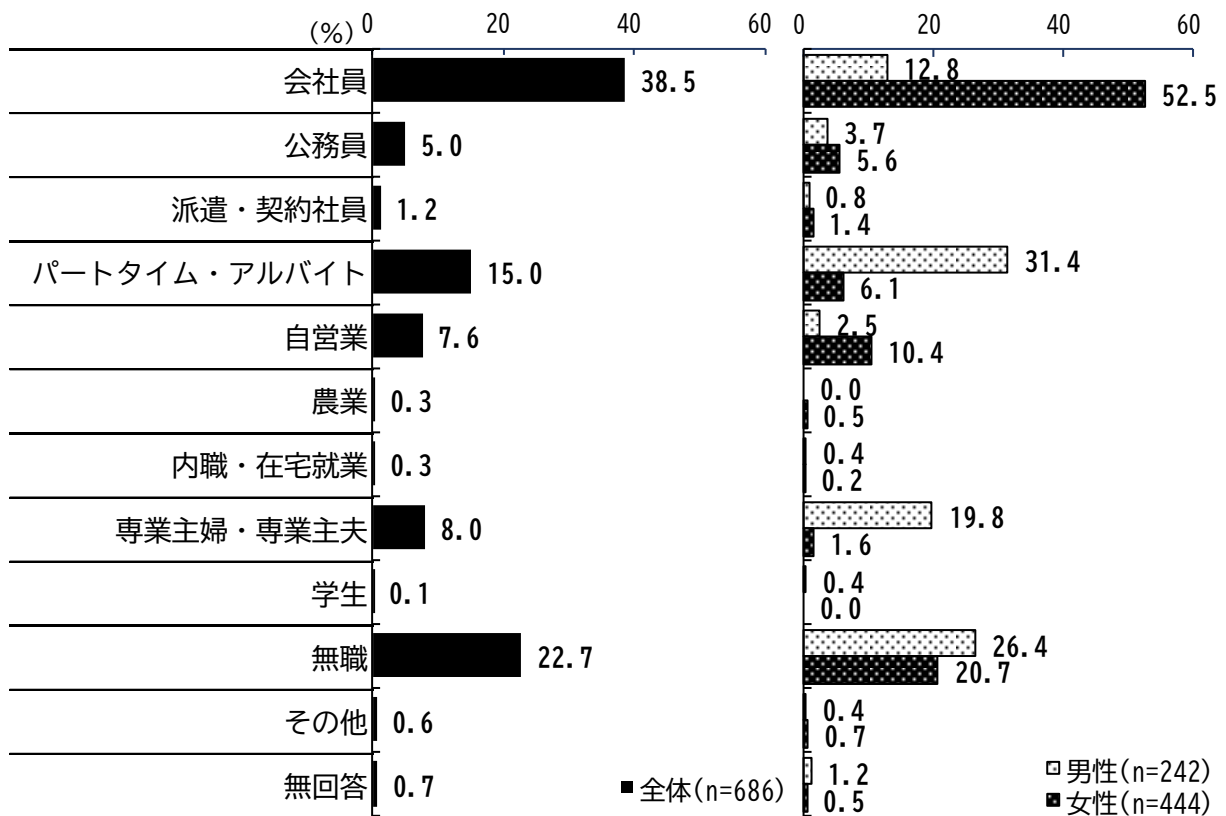


※⑤は結婚されている方（事実婚を含む）

⑤配偶者の職業

- 「会社員」が38.5%と最も高く、次いで「無職」(22.7%)、「パートタイム・アルバイト」(15.0%)となっています。
- 性別では、男性で「パートタイム・アルバイト」が31.4%と最も高く、次いで「無職」(26.4%)、「専業主婦・専業主夫」(19.8%)、「会社員」(12.8%)となっています。女性では「会社員」が52.5%と最も高く、次いで「無職」(20.7%)、「自営業」(10.4%)となっています。

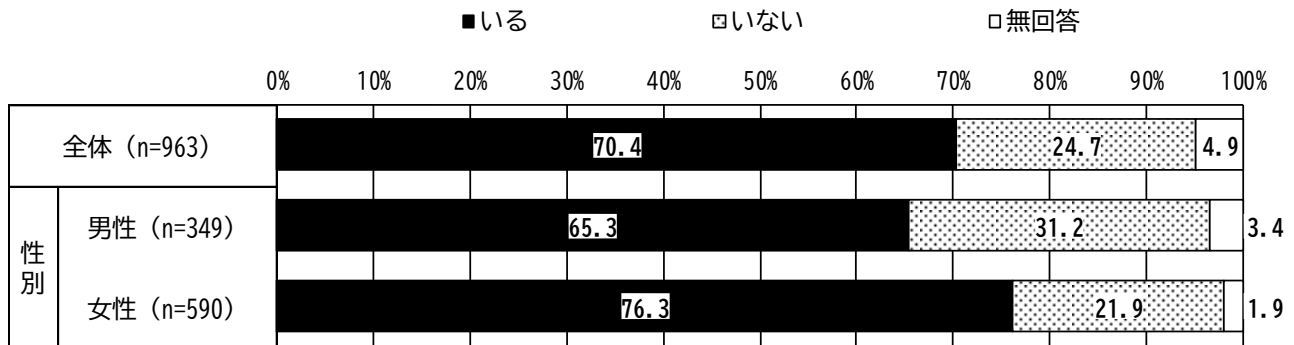
図表 5 配偶者の職業（性別）



⑥子どもの有無（同居していないお子さんを含む）

- 「いる」が70.4%、「いない」が24.7%となっています。
- 性別では、女性で「いる」が76.3%と、男性より11.0ポイント高くなっています。

図表 6 子どもの有無（性別）

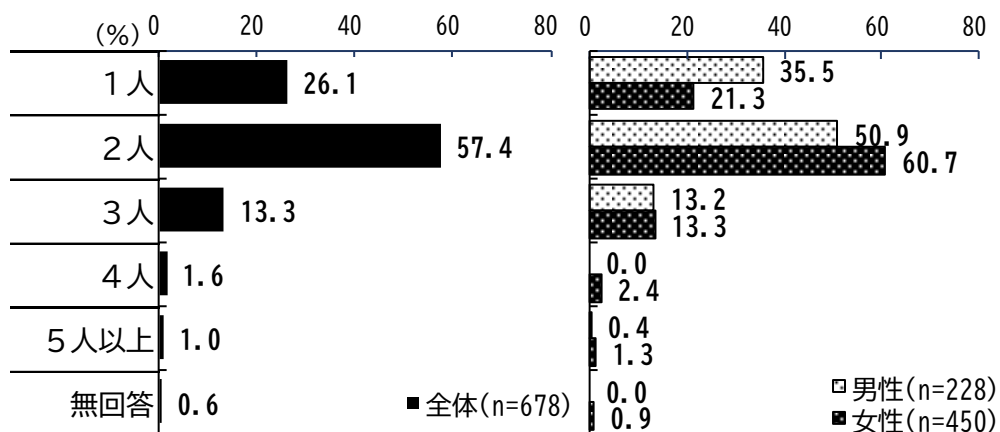


※⑥で「いる」と回答した方

子どもの人数

- 「2人」が57.4%と最も高く、次いで「1人」(26.1%)、「3人」(13.3%)となっています。
- 性別では、男性で「1人」が35.5%と、女性より14.2ポイント高くなっています。一方で、女性で「2人」が60.7%と、男性より9.8ポイント高くなっています。

図表 7 子どもの人数（性別）

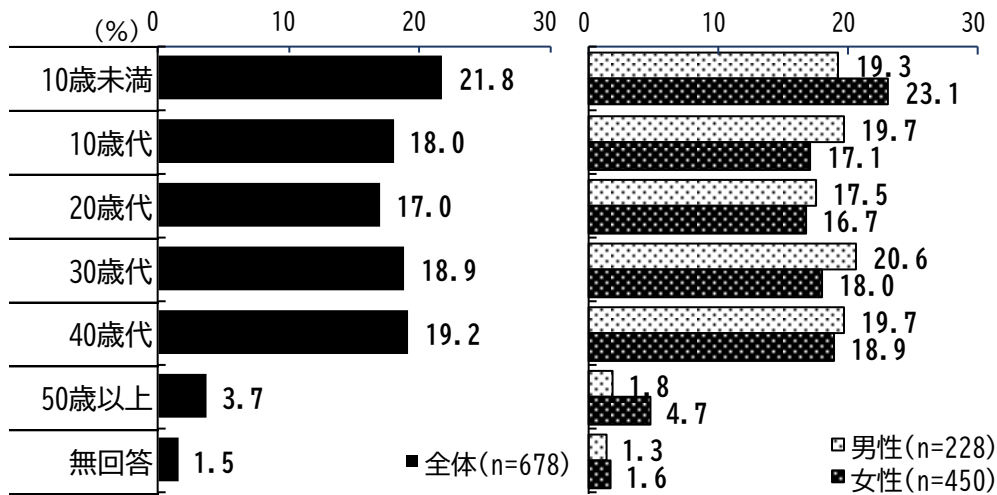


※⑥で「いる」と回答した方

⑥-1 一番下の子どもの年齢

- 「10歳未満」が21.8%と最も高く、次いで「40歳代」(19.2%)、「30歳代」(18.9%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

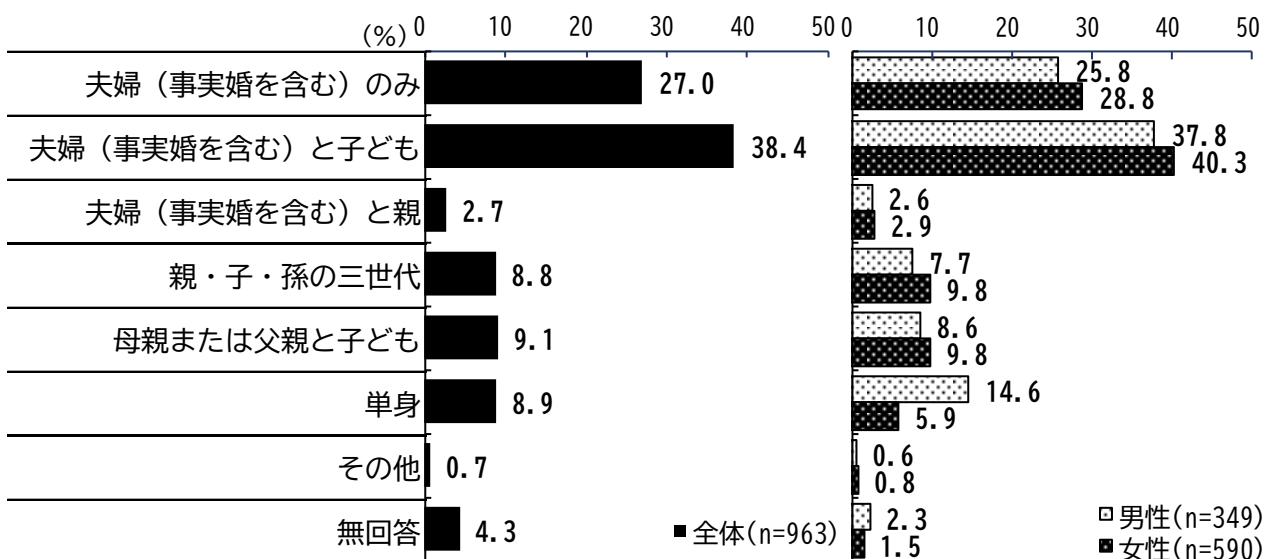
図表 8 一番下の子どもの年齢 (性別)



⑦ 同居家族の構成

- 「夫婦（事実婚を含む）と子ども」が38.4%と最も高く、次いで「夫婦（事実婚を含む）のみ」(27.0%)となっています。
- 性別では、男性で「単身」が14.6%と、女性より8.7ポイント高くなっています。

図表 9 同居家族の構成 (性別)

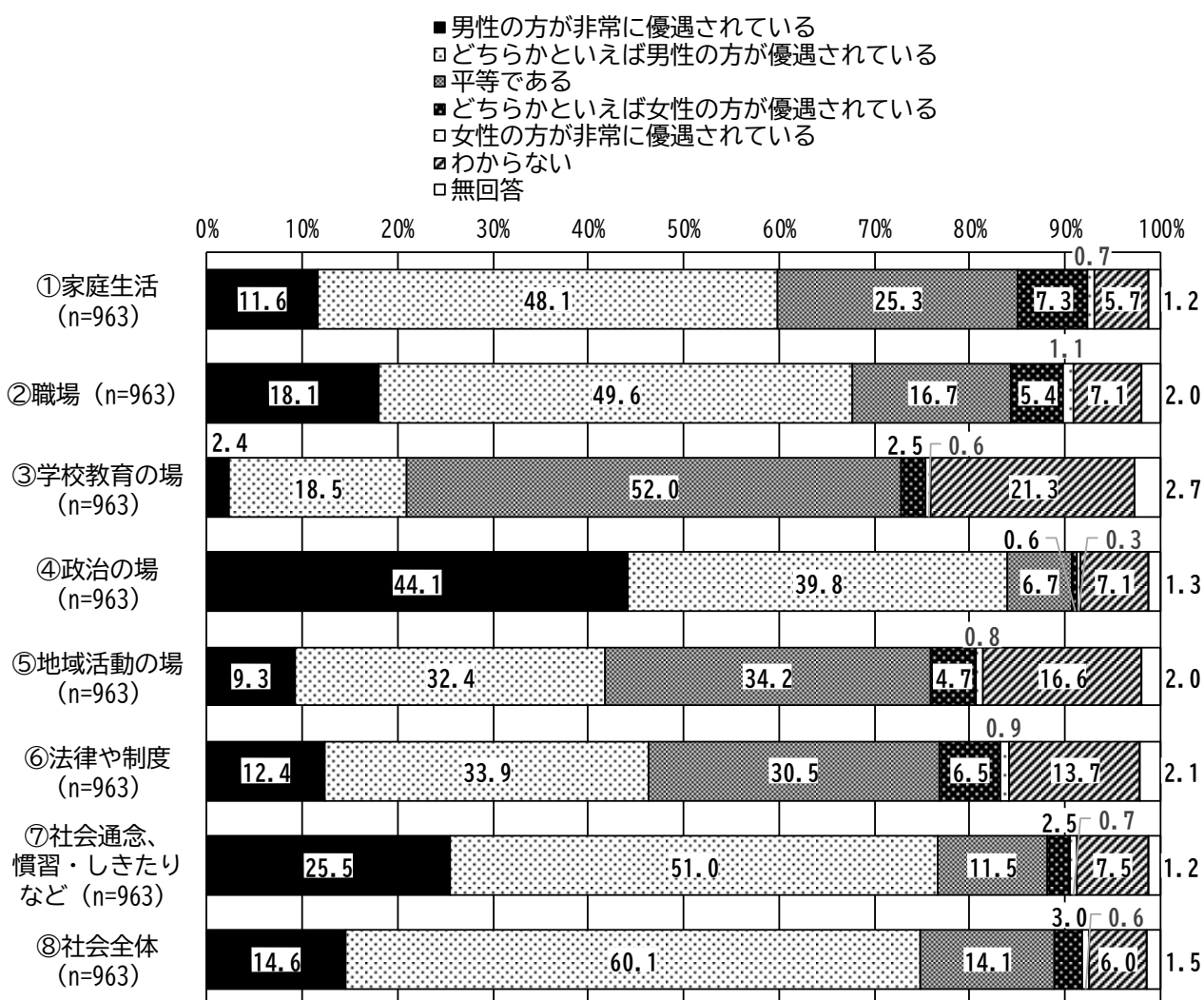


(2) 男女の平等意識について

問1 今の社会において、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(①～⑧についてそれぞれ〇を1つ)

- 「③学校教育の場」「⑤地域活動の場」「⑥法律や制度」を除いて、“男性優遇※”が5割以上を占めており、なかでも「④政治の場」で83.9%と最も高くなっています。一方で、「③学校教育の場」では、「平等」が52.0%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 10 分野ごとの男女の地位

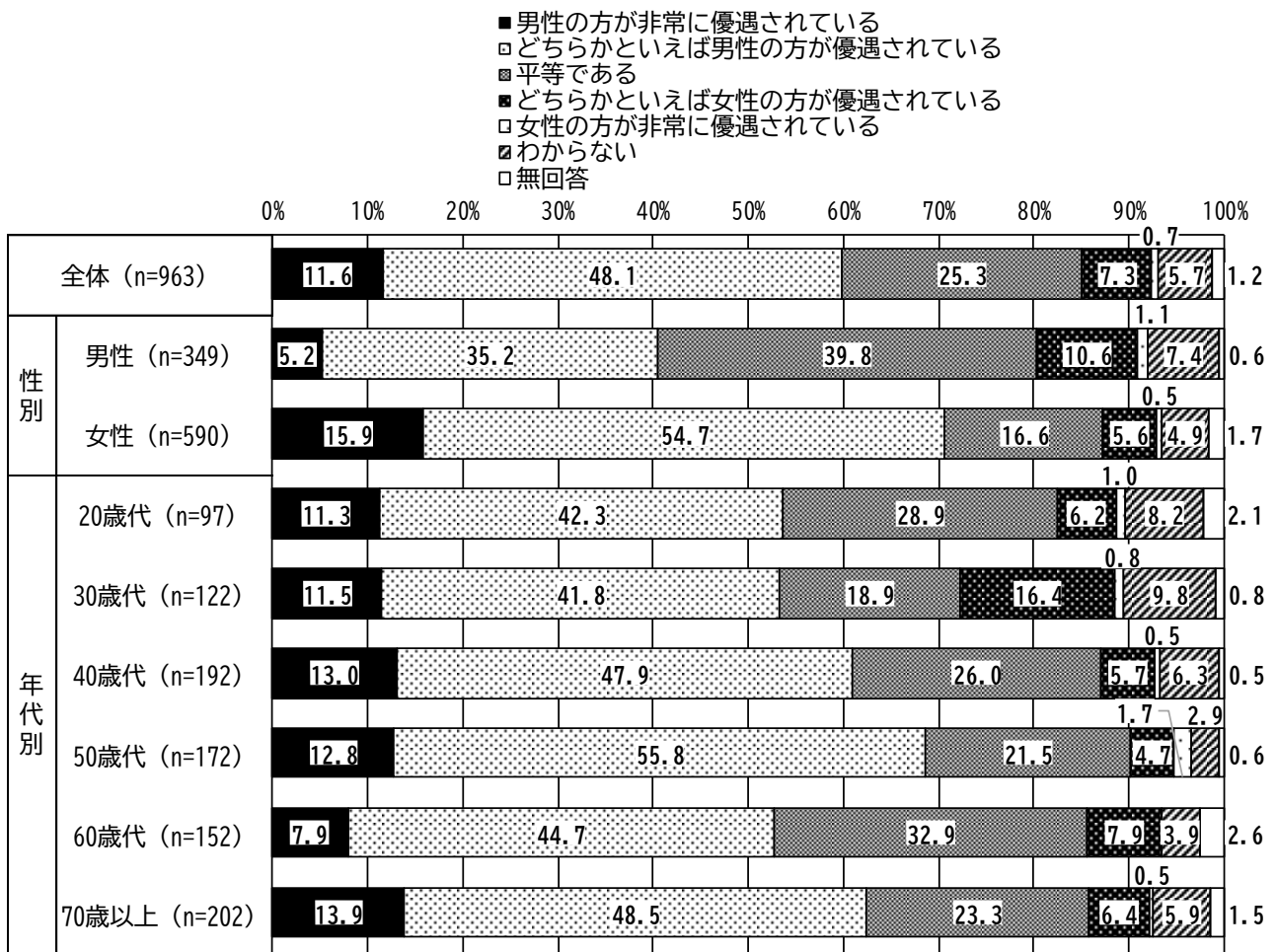


※「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」

①家庭生活

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が48.1%と最も高く、次いで「平等である」(25.3%)、「男性の方が非常に優遇されている」(11.6%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が70.6%と、男性より30.2ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等である」が39.8%と、女性より23.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が4割以上となっており、なかでも50歳代で55.8%と最も高くなっています。一方で、30歳代で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が16.4%と、他の年代と比べて高くなっています。

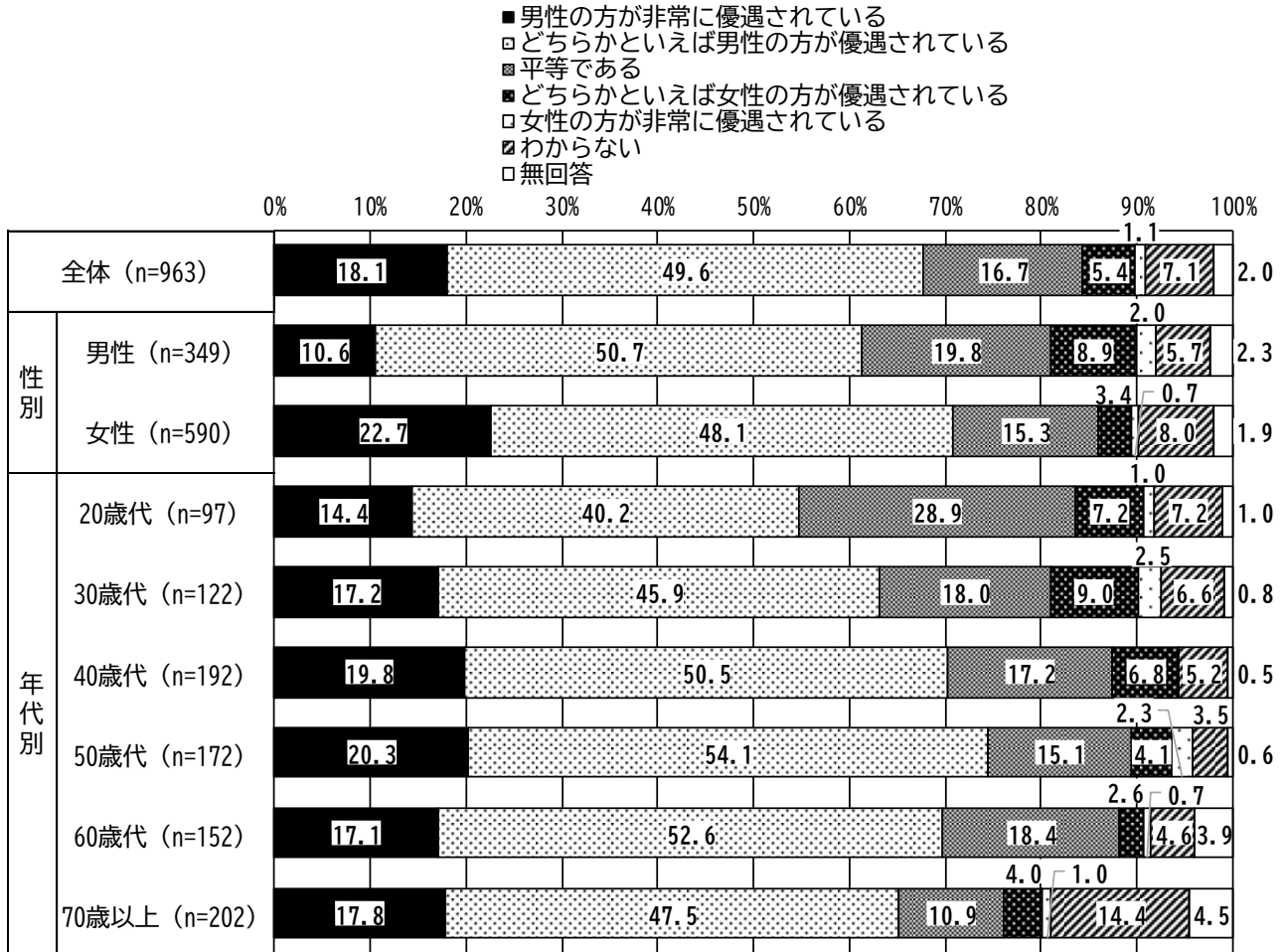
図表 11 ①家庭生活（性別・年代別）



②職場

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.6%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(18.1%)、「平等である」(16.7%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が非常に優遇されている」が22.7%と、男性より12.1ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、年代があがるにつれて“男性優遇”が高くなっており、50歳代で74.4%となっています。

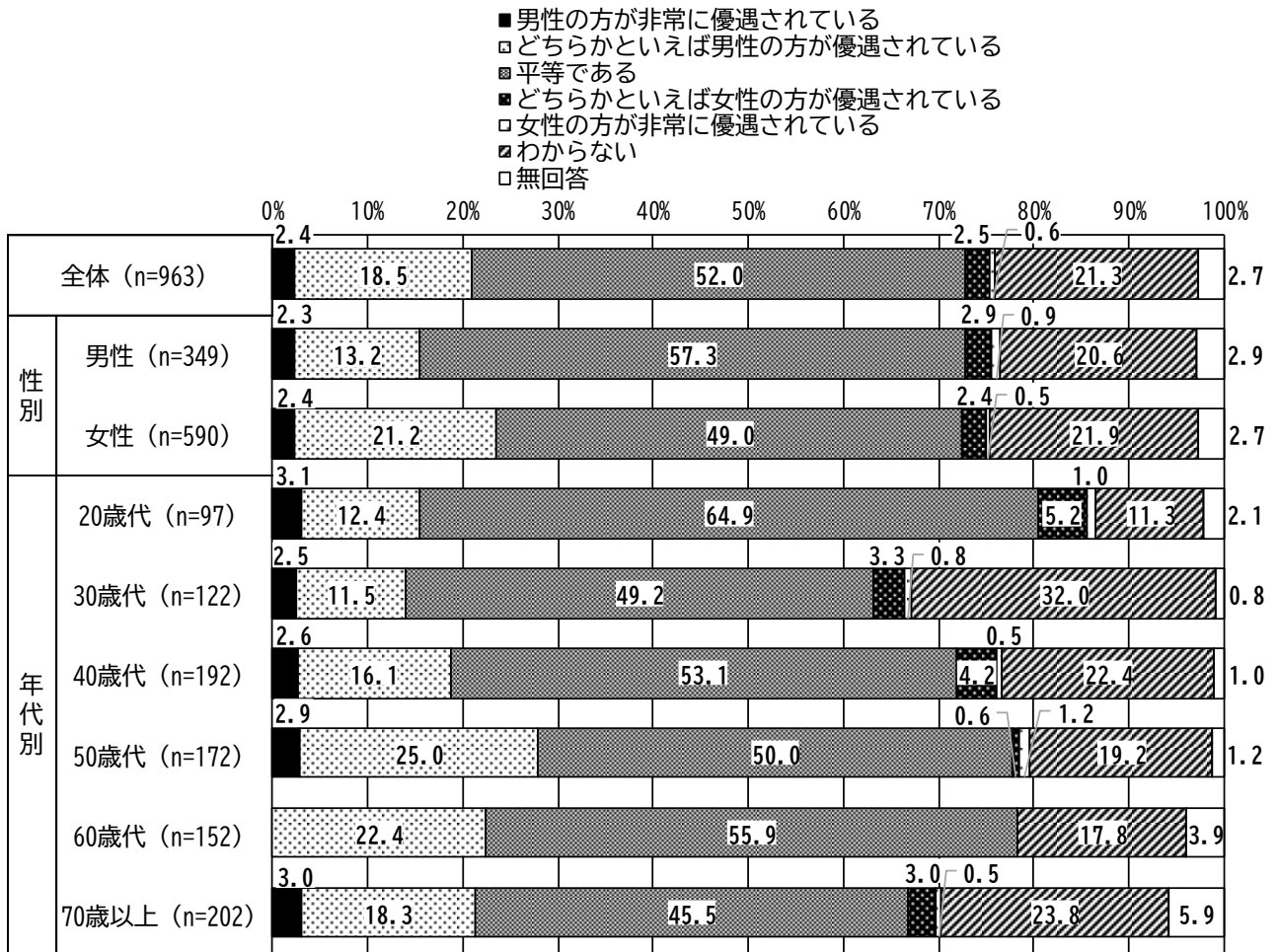
図表 12 ②職場（性別・年代別）



③学校教育の場

- 「平等である」が52.0%と最も高く、次いで「わからない」(21.3%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(18.5%)となっています。
- 性別では、男性で「平等である」が57.3%と、女性より8.3ポイント高くなっています。一方で、女性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が21.2%と、男性より8.0ポイント高くなっています。
- 年齢別では、20歳代で「平等である」が64.9%と、他の年代と比べて高くなっています。

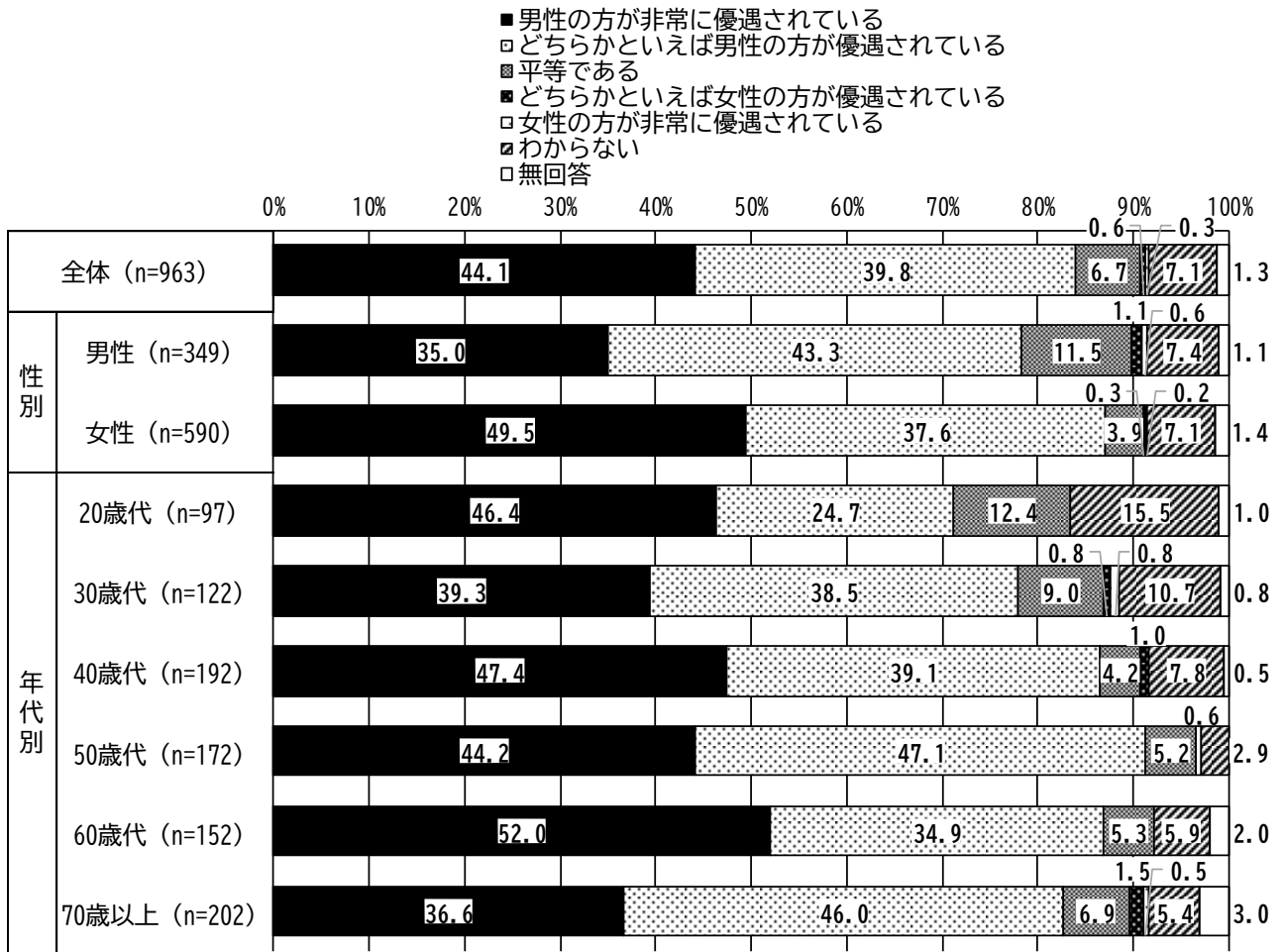
図表 13 ③学校教育の場（性別・年代別）



④政治の場

- 「男性の方が非常に優遇されている」が 44.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.8%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が非常に優遇されている」が 49.5%と、男性より 14.5 ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等である」が 7.6 ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 5.7 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、40 歳代以上で“男性優遇”が 8 割以上をなっており、なかでも 50 歳代で 91.3%と、最も高くなっています。

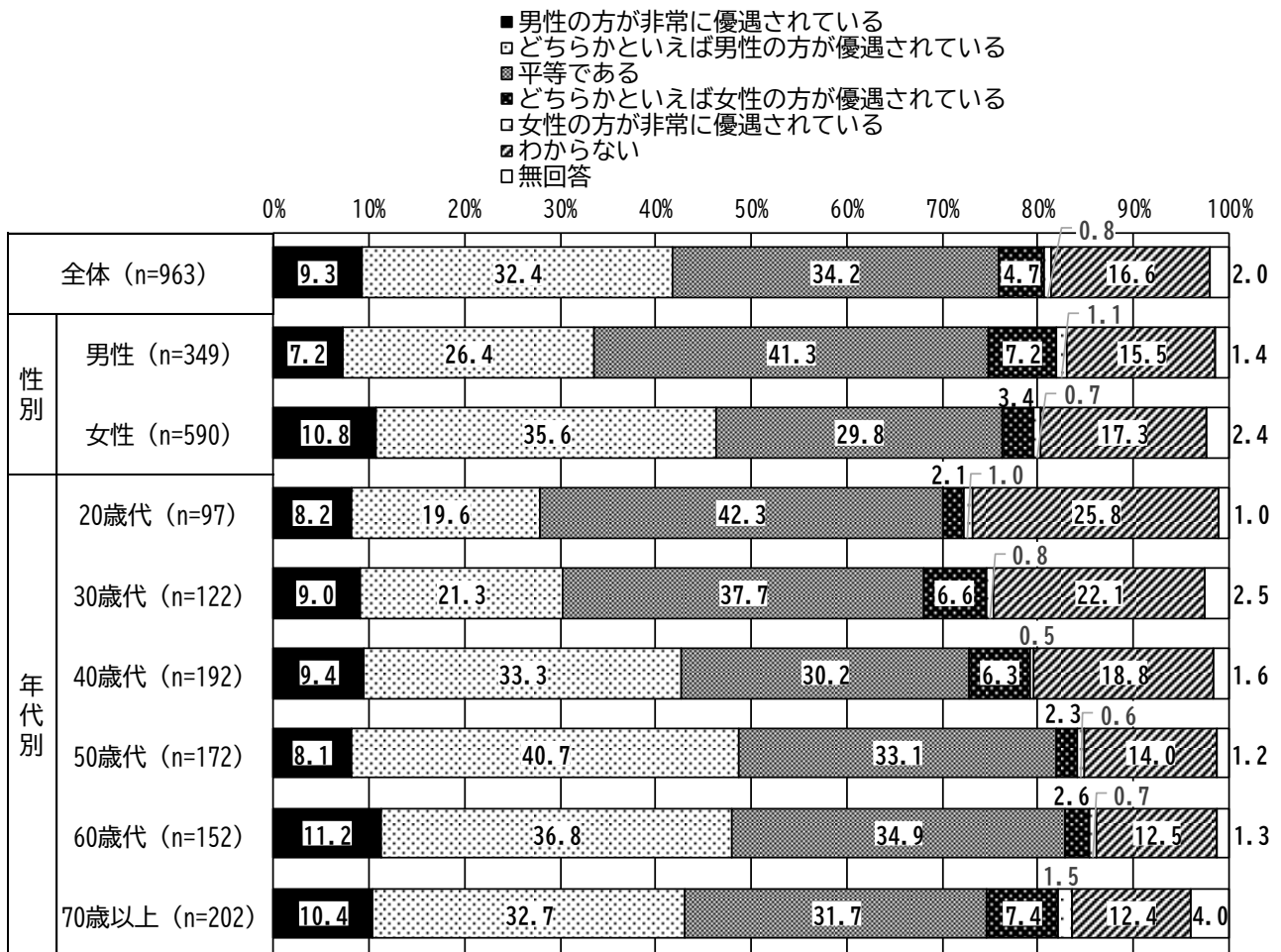
図表 14 ④政治の場（性別・年代別）



⑤地域活動の場

- 「平等である」が34.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(32.4%)、「わからない」(16.6%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が46.4%と、男性より12.8ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等である」が41.3%と、女性より11.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、40歳代以上で“男性優遇”が4割以上となっており、なかでも50歳代で48.8%と、最も高くなっています。

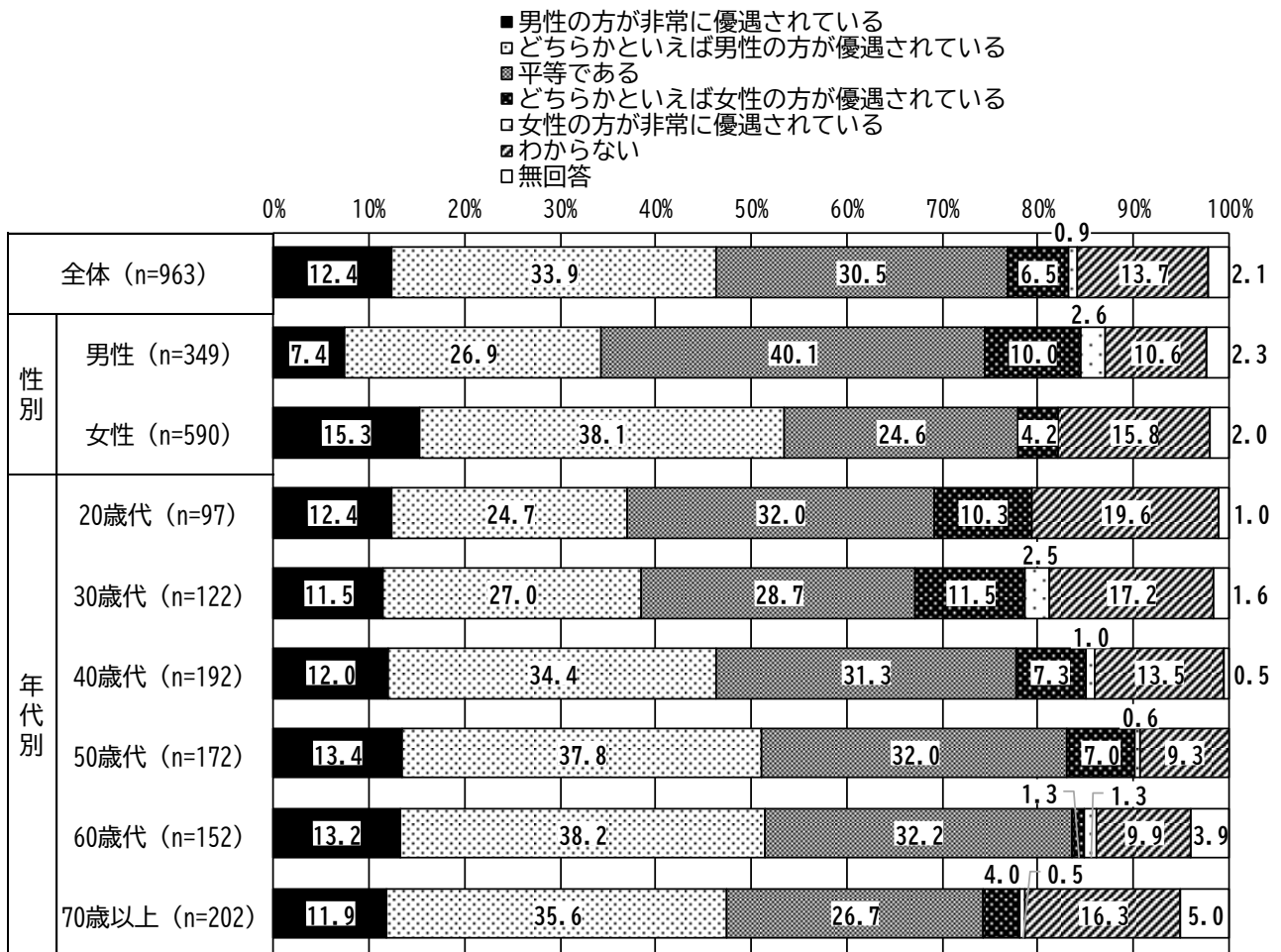
図表 15 ⑤地域活動の場（性別・年代別）



⑥法律や制度

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 33.9%と最も高く、次いで「平等である」(30.5%)、「わからない」(13.7%)、「男性の方が非常に優遇されている」(12.4%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が 53.4%と、男性より 19.1ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等である」が 15.5ポイント、“女性優遇※”が 8.4ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、50歳代と60歳代で“男性優遇”が5割以上となっています。

図表 16 ⑥法律や制度 (性別・年代別)

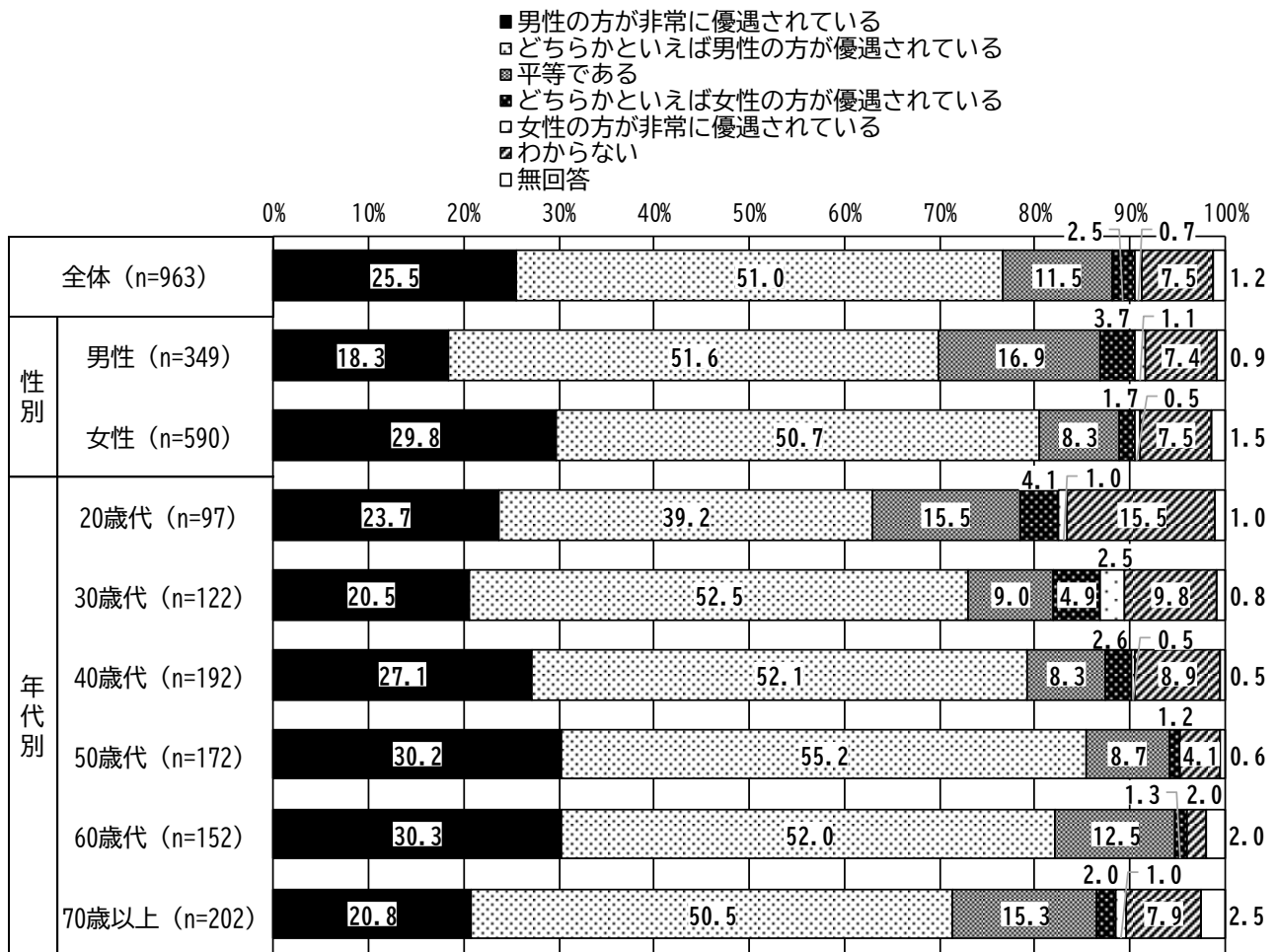


※「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

⑦社会通念、慣習・しきたりなど

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が51.0%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(25.5%)、「平等である」(11.5%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が非常に優遇されている」が29.8%と、男性より11.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等である」が16.9%と、女性より8.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、50歳代と60歳代で“男性優遇”が8割以上となっています。

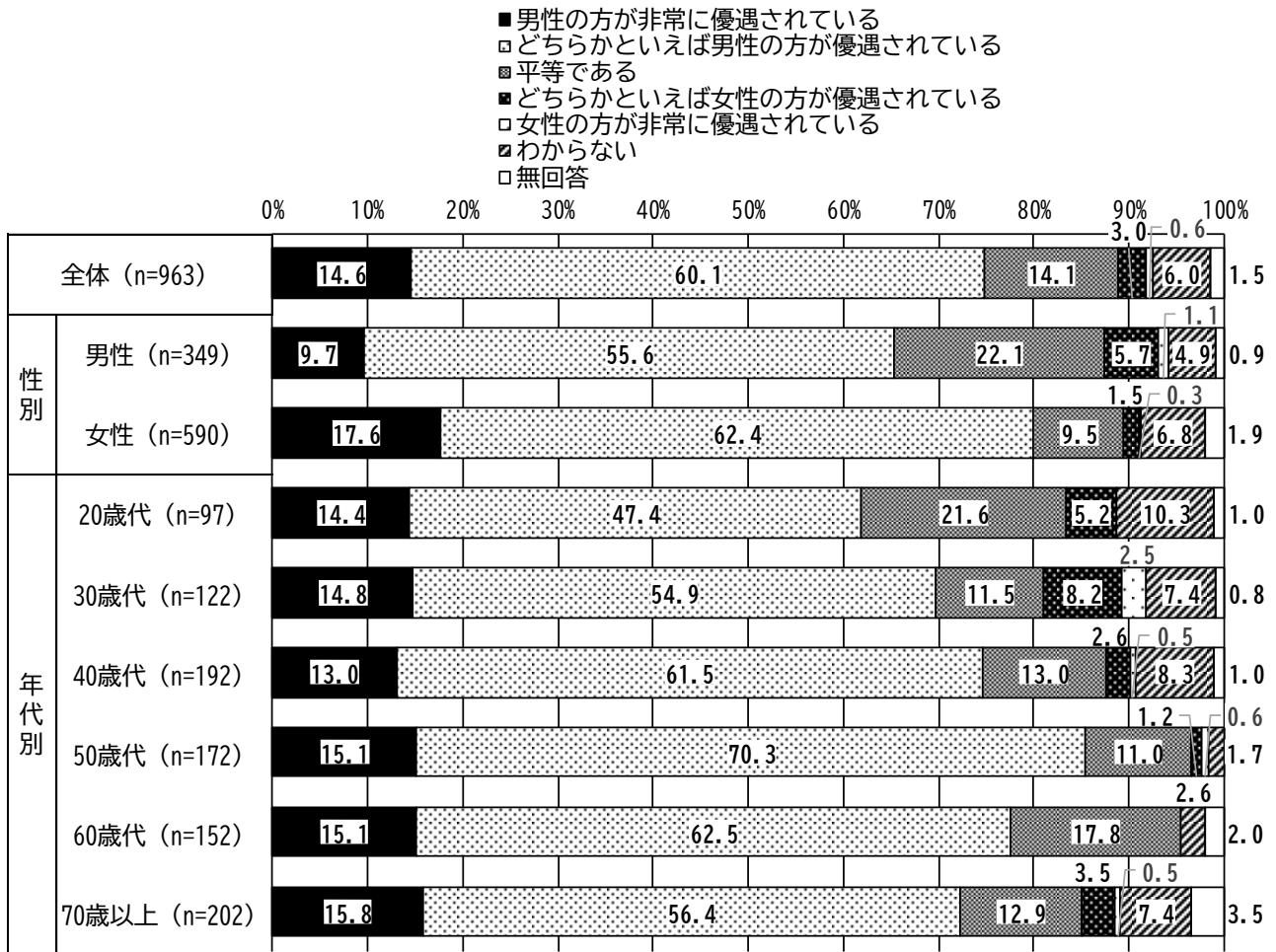
図表 17 ⑦社会通念、慣習・しきたりなど（性別・年代別）



⑧社会全体

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 60.1%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(14.6%)、「平等である」(14.1%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が 80.0%と、男性より 14.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等である」が 22.1%と、女性より 12.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、年代が上がるにつれて“男性優遇”が高くなっており、50歳代では 85.4%となっています。

図表 18 ⑧社会全体（性別・年代別）



過去の調査との比較

- “男性優遇”の割合は、「⑦社会通念、慣習・しきたりなど」と「⑧社会全体」を除いて、平成28年より高くなっており、なかでも「③学校教育の場」と「④政治の場」で、ともに6.9ポイント高くなっています。
- 性別では、男性で「④政治の場」が10.4ポイント、女性で「③学校教育の場」が6.9ポイント、それぞれ平成28年より高くなっています。

図表 19 “男性優遇”の割合(過去の調査との比較) (%)

		① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育の場	④ 政治の場	⑤ 地域活動の場	⑥ 法律や制度	し 慣 習 ⑦ きた ・ 社 会 通 念 、 な ど	⑧ 社会全体
全体	令和2年	59.7	67.7	20.9	83.9	41.7	46.3	76.5	74.7
	平成28年	54.6	67.5	14.0	77.0	36.5	44.6	77.7	75.2
	差	5.1	0.2	6.9	6.9	5.2	1.7	-1.2	-0.5
男性	令和2年	40.4	61.3	15.5	78.3	33.6	34.3	69.9	65.3
	平成28年	38.9	64.2	9.8	67.9	27.0	34.3	73.7	68.6
	差	1.5	-2.9	5.7	10.4	6.6	0.0	-3.8	-3.3
女性	令和2年	70.6	70.8	23.6	87.1	46.4	53.4	80.5	80.0
	平成28年	65.1	69.5	16.7	82.9	42.0	51.4	80.5	79.6
	差	5.5	1.3	6.9	4.2	4.4	2.0	0.0	0.4

- 「平等である」の割合は、「⑦社会通念、慣習・しきたりなど」と「⑧社会全体」を除いて、平成28年より低くなっており、なかでも「③学校教育の場」で8.5ポイント低くなっています。
- 性別では、男性で「④政治の場」が8.5ポイント、女性で「③学校教育の場」が8.8ポイント、それぞれ平成28年より低くなっています。

図表 20 「平等である」の割合(過去の調査との比較) (%)

		① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育の場	④ 政治の場	⑤ 地域活動の場	⑥ 法律や制度	し 慣 習 ⑦ きた ・ 社 会 通 念 、 な ど	⑧ 社会全体
全体	令和2年	25.3	16.7	52.0	6.7	34.2	30.5	11.5	14.1
	平成28年	29.0	18.0	60.5	12.6	39.2	30.8	11.2	12.1
	差	-3.7	-1.3	-8.5	-5.9	-5.0	-0.3	0.3	2.0
男性	令和2年	39.8	19.8	57.3	11.5	41.3	40.1	16.9	22.1
	平成28年	38.9	19.2	65.0	20.0	48.7	40.4	14.6	16.3
	差	0.9	0.6	-7.7	-8.5	-7.4	-0.3	2.3	5.8
女性	令和2年	16.6	15.3	49.0	3.9	29.8	24.6	8.3	9.5
	平成28年	22.6	17.6	57.8	7.7	33.7	24.4	8.8	9.1
	差	-6.0	-2.3	-8.8	-3.8	-3.9	0.2	-0.5	0.4

全国の調査との比較

- 全国の調査と比べると、“男性優遇”の割合は、「①家庭生活」「②職場」で約15ポイント、国より高くなっています。
- 「平等である」の割合は、いずれの項目も国より低くなっており、なかでも「①家庭生活」で20.2ポイント低くなっています。

図表 21 “男性優遇”・「平等である」の割合（全国の調査との比較）

		(%)							
		① 家庭 生活	② 職 場	③ 学 校 教 育 の 場	④ 政 治 の 場	⑤ 地 域 活 動 の 場	⑥ 法 律 や 制 度	し 慣 ⑦ き 習 た り な ど ・ 社 会 通 念	⑧ 社 会 全 体
男 性 優 遇	春日井市	59.7	67.7	20.9	83.9	41.7	46.3	76.5	74.7
	全国	44.9	53.4	18.5	79.0	34.7	46.9	70.1	74.1
	差	14.8	14.3	2.4	4.9	7.0	-0.6	6.4	0.6
平 等	春日井市	25.3	16.7	52.0	6.7	34.2	30.5	11.5	14.1
	全国	45.5	30.7	61.2	14.4	46.5	39.7	22.6	21.2
	差	-20.2	-14.0	-9.2	-7.7	-12.3	-9.2	-11.1	-7.1

中学生・高校生調査との比較

- 中学生の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、「家庭生活」「社会全体」で約50ポイント、中学生より高くなっています。また、「平等である」の割合は、「家庭生活」で40.0ポイント、中学生より低くなっています。
- 高校生の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、「家庭生活」で44.3ポイント、高校生より高くなっています。また、「平等である」の割合は、「家庭生活」で41.8ポイント、高校生より低くなっています。

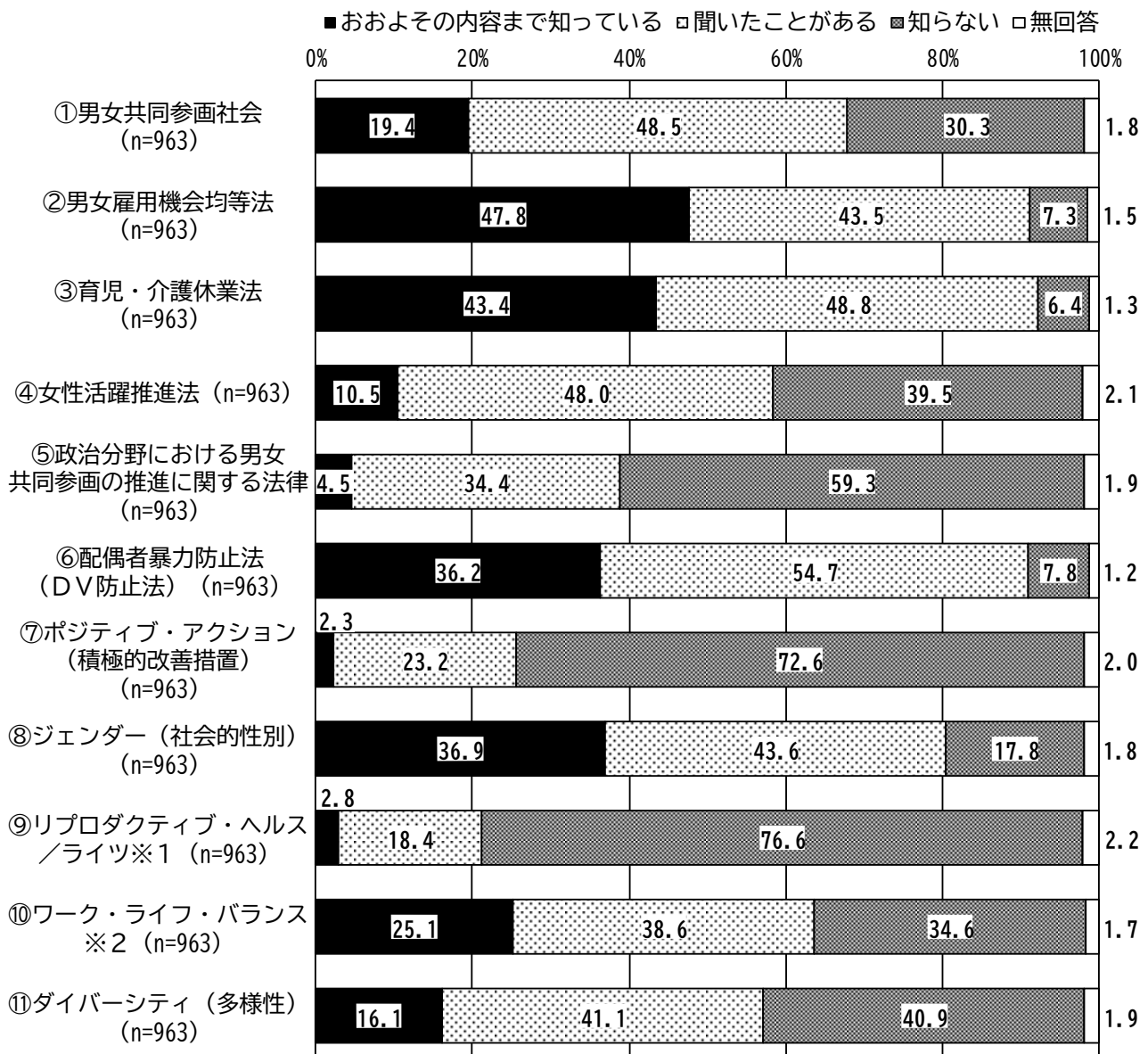
図表 22 “男性優遇”・「平等である」の割合（中学生・高校生調査との比較）

		中学生			高校生		
		家 庭 生 活	／ 学 校 教 育 の 場	社 会 全 体	家 庭 生 活	／ 学 校 教 育 の 場	社 会 全 体
男 性 優 遇	市民	59.7	20.9	74.7	59.7	20.9	74.7
	中・高生	10.3	4.8	24.6	15.4	6.3	38.7
	差	49.4	16.1	50.1	44.3	14.6	36.0
平 等	市民	25.3	52.0	14.1	25.3	52.0	14.1
	中・高生	65.3	55.7	29.5	67.1	56.2	24.7
	差	-40.0	-3.7	-15.4	-41.8	-4.2	-10.6

問2 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
 (①～⑪についてそれぞれ○を1つ)

- 「おおよその内容まで知っている」をみると、「②男女雇用機会均等法」が47.8%と最も高く、次いで「③育児・介護休業法」(43.4%)となっています。
- 一方で、「知らない」をみると、「⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が76.6%と最も高く、次いで「⑦ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」(72.6%)、「⑤政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」(59.3%)となっています。

図表 23 関連用語の認知度



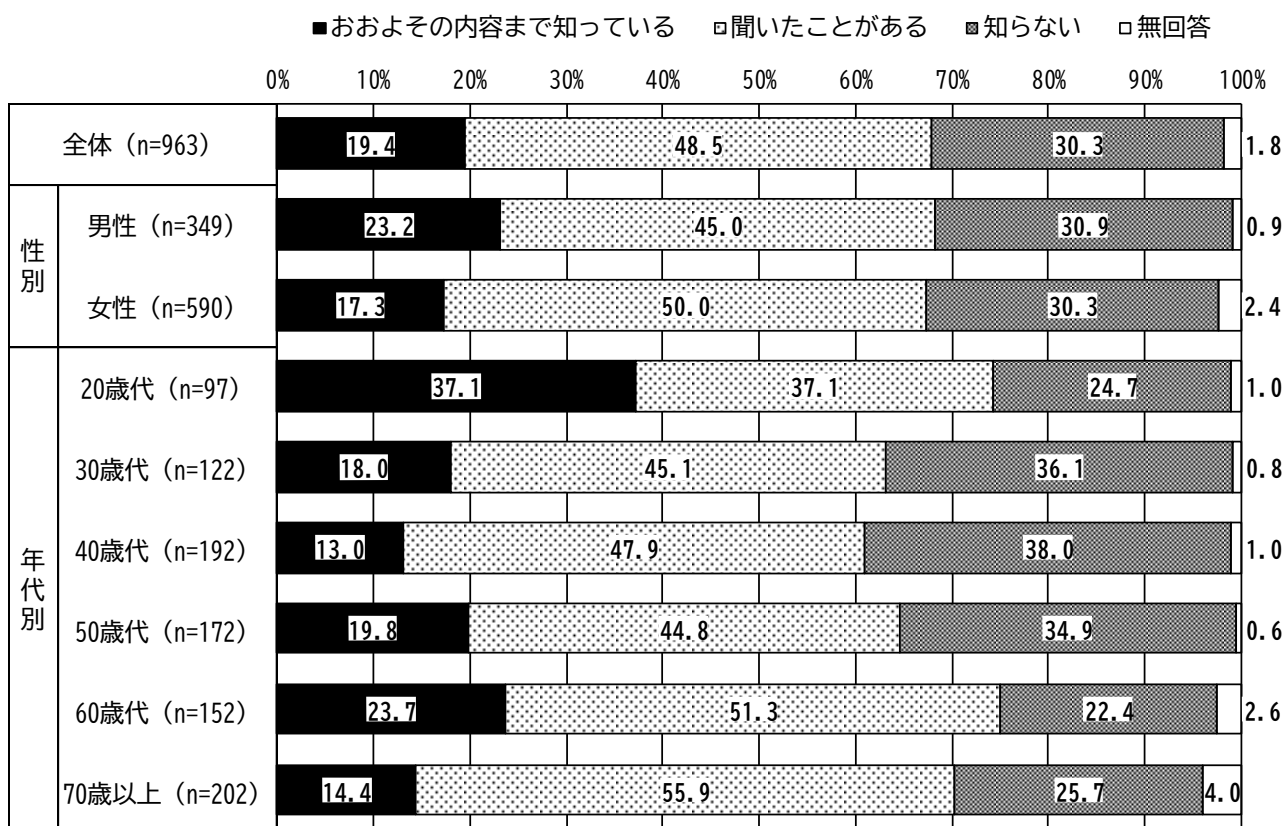
※1 性と生殖に関する女性の健康/権利

※2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活などの調和

①男女共同参画社会

- 「おおよその内容まで知っている」が19.4%、「聞いたことがある」が48.5%、「知らない」が30.3%となっています。
- 性別では、男性で「おおよその内容まで知っている」が23.2%と、女性より5.9ポイント高くなっています。一方で、女性で「聞いたことがある」が50.0%と、男性より5.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代で「おおよその内容まで知っている」が37.1%と、他の年代と比べて高くなっています。

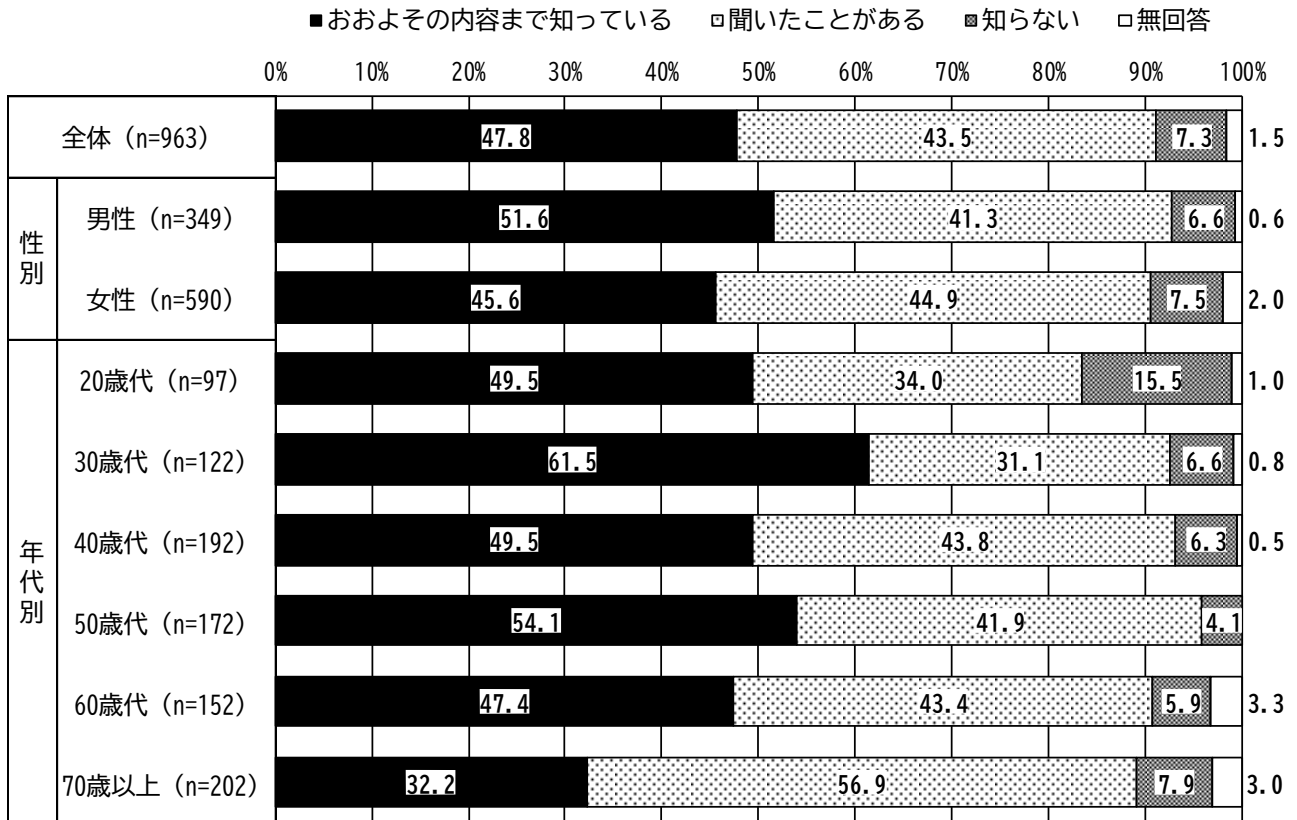
図表 24 ①男女共同参画社会（性別・年代別）



②男女雇用機会均等法

- 「おおよその内容まで知っている」が47.8%、「聞いたことがある」が43.5%、「知らない」が7.3%となっています。
- 性別では、男性で「おおよその内容まで知っている」が51.6%と、女性より6.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、30歳代で「おおよその内容まで知っている」が61.5%と、他の年代と比べて高くなっています。

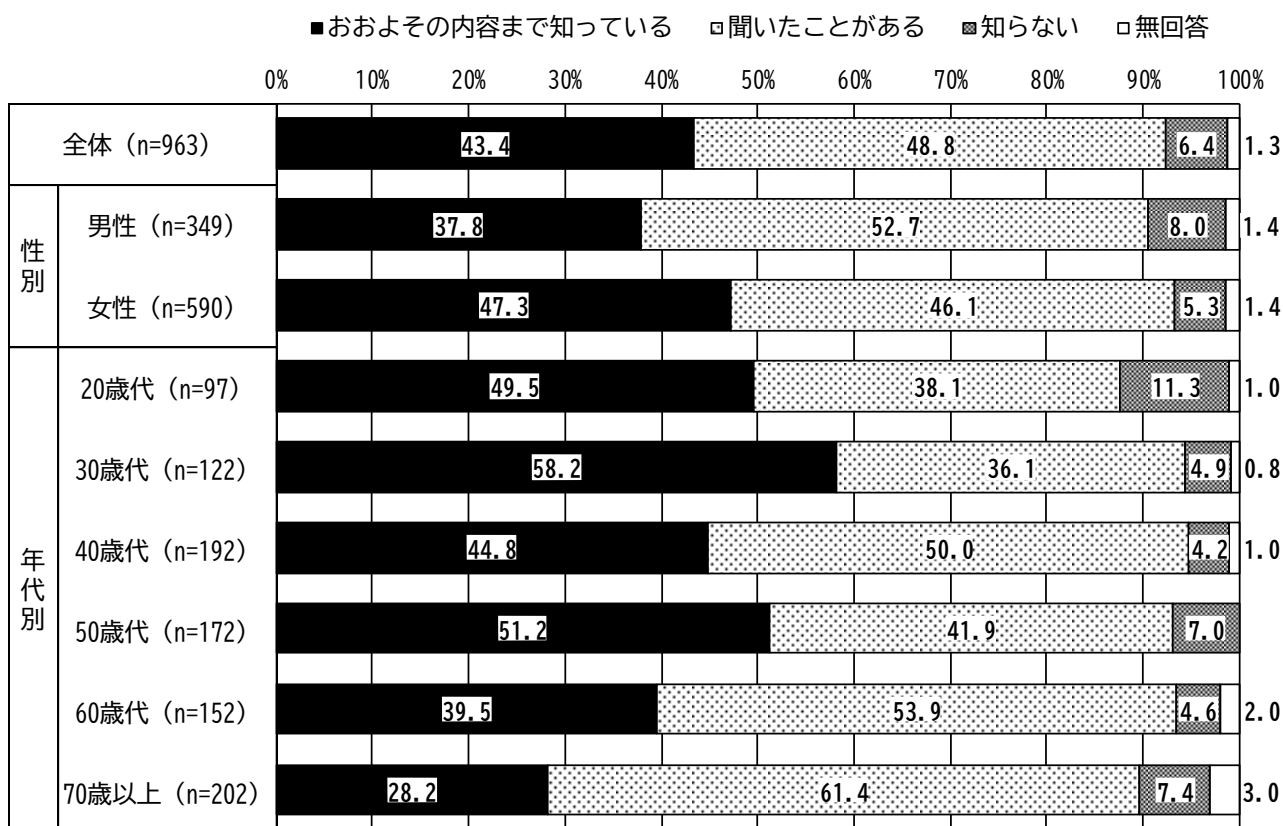
図表 25 ②男女雇用機会均等法（性別・年代別）



③育児・介護休業法

- 「おおよその内容まで知っている」が43.4%、「聞いたことがある」が48.8%、「知らない」が6.4%となっています。
- 性別では、女性で「おおよその内容まで知っている」が47.3%と、男性より9.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「聞いたことがある」が52.7%と、女性より6.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、30歳代と50歳代で「おおよその内容まで知っている」が5割以上となっています。

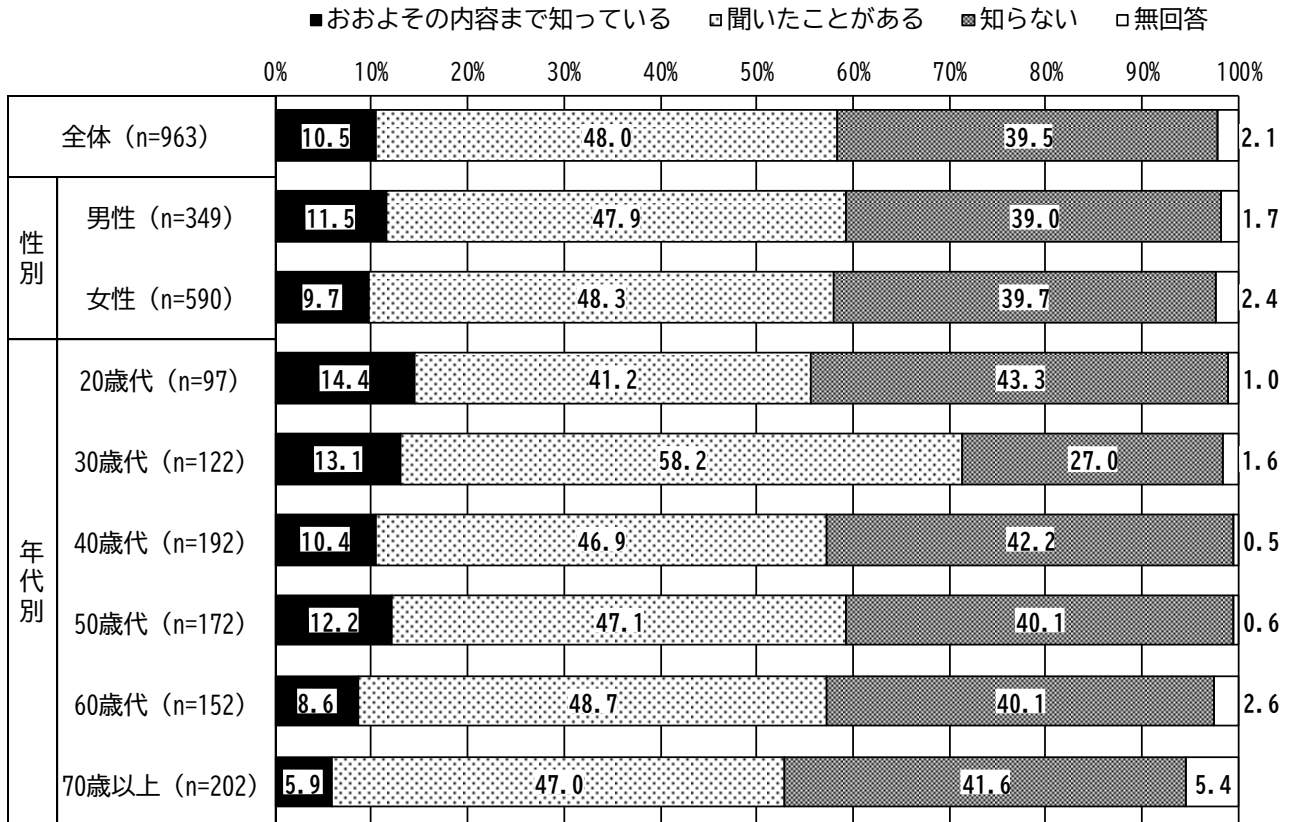
図表 26 ③育児・介護休業法（性別・年代別）



④女性活躍推進法

- 「おおよその内容まで知っている」が10.5%、「聞いたことがある」が48.0%、「知らない」が39.5%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、30歳代を除いて、「知らない」が4割以上となっています。

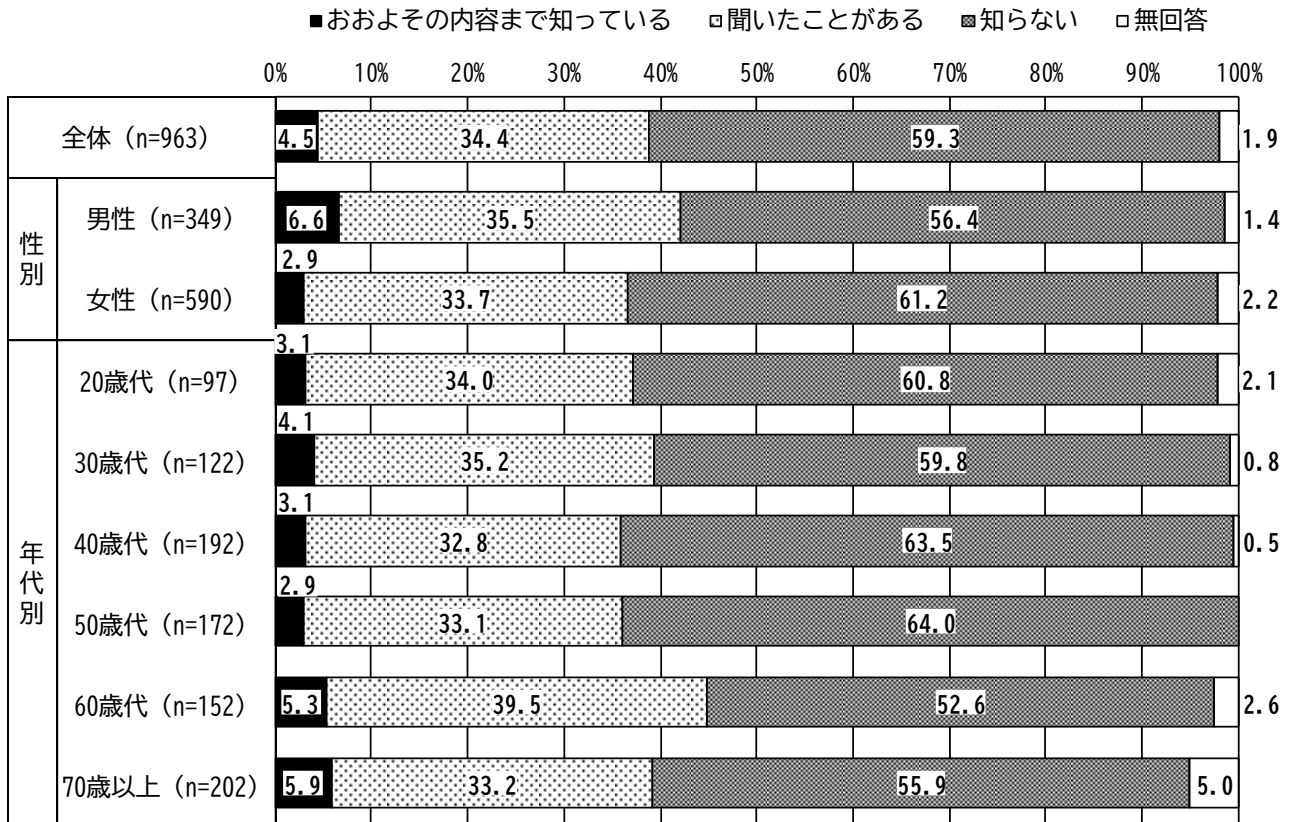
図表 27 ④女性活躍推進法（性別・年代別）



⑤政治分野における男女共同参画に関する法律

- 「おおよその内容まで知っている」が4.5%、「聞いたことがある」が34.4%、「知らない」が59.3%となっています。
- 性別では、女性で「知らない」が61.2%と、男性より4.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「知らない」が5割以上となっており、なかでも50歳代で64.0%と、最も高くなっています。

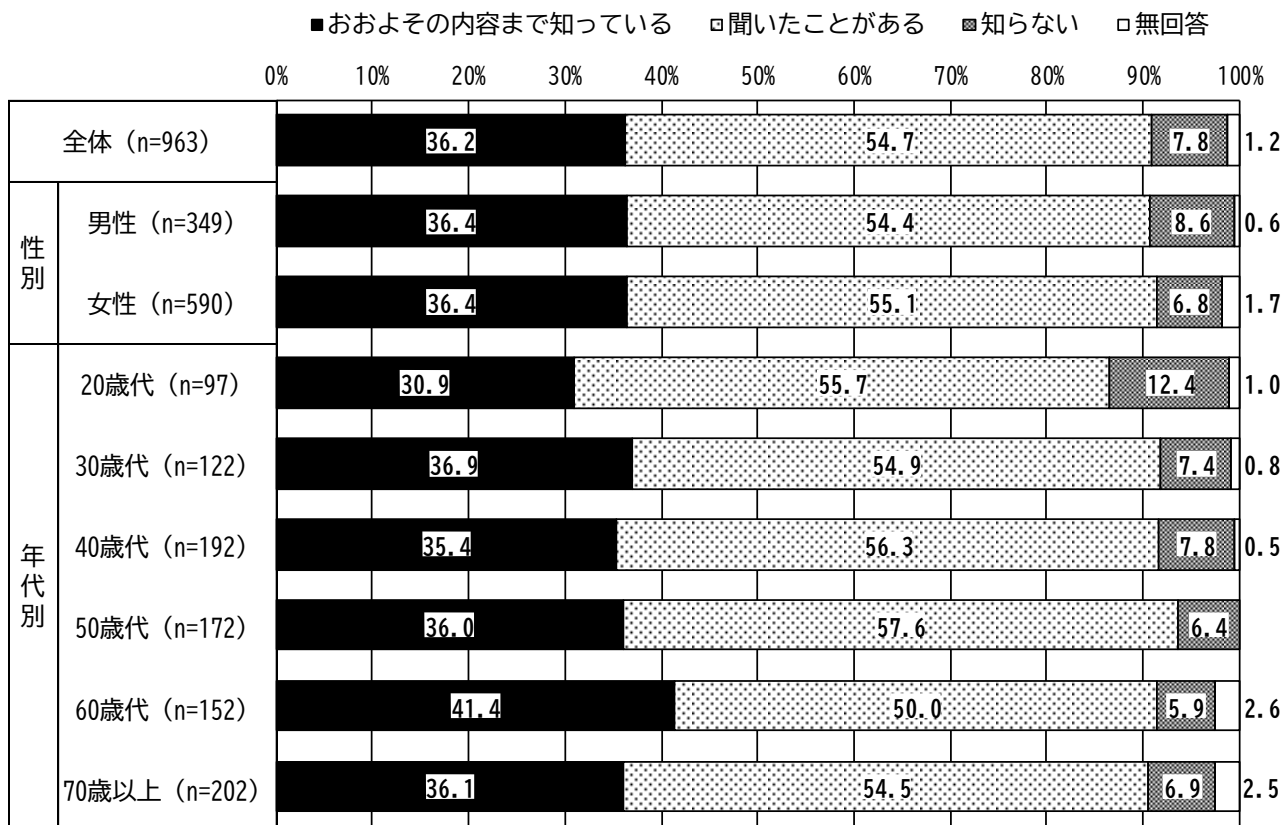
図表 28 ⑤政治分野における男女共同参画に関する法律（性別・年代別）



⑥配偶者暴力防止法（DV防止法）

- 「おおよその内容まで知っている」が36.2%、「聞いたことがある」が54.7%、「知らない」が7.8%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「おおよその内容まで知っている」が3割以上となっており、なかでも60歳代で41.4%と、最も高くなっています。

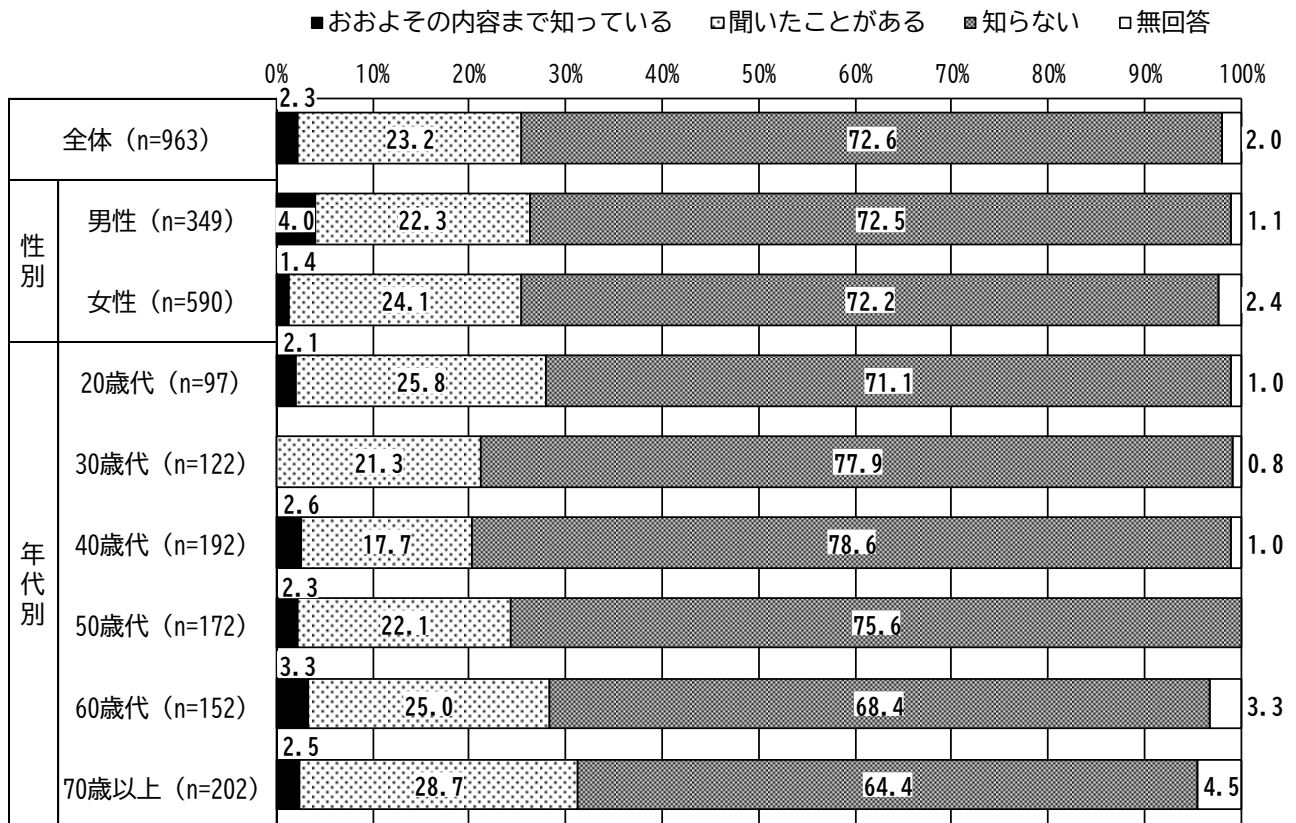
図表 29 ⑥配偶者暴力防止法（DV防止法）（性別・年代別）



⑦ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

- 「おおよその内容まで知っている」が2.3%、「聞いたことがある」が23.2%、「知らない」が72.6%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、「知らない」が7割以上となっており、なかでも40歳代で78.6%と、最も高くなっています。

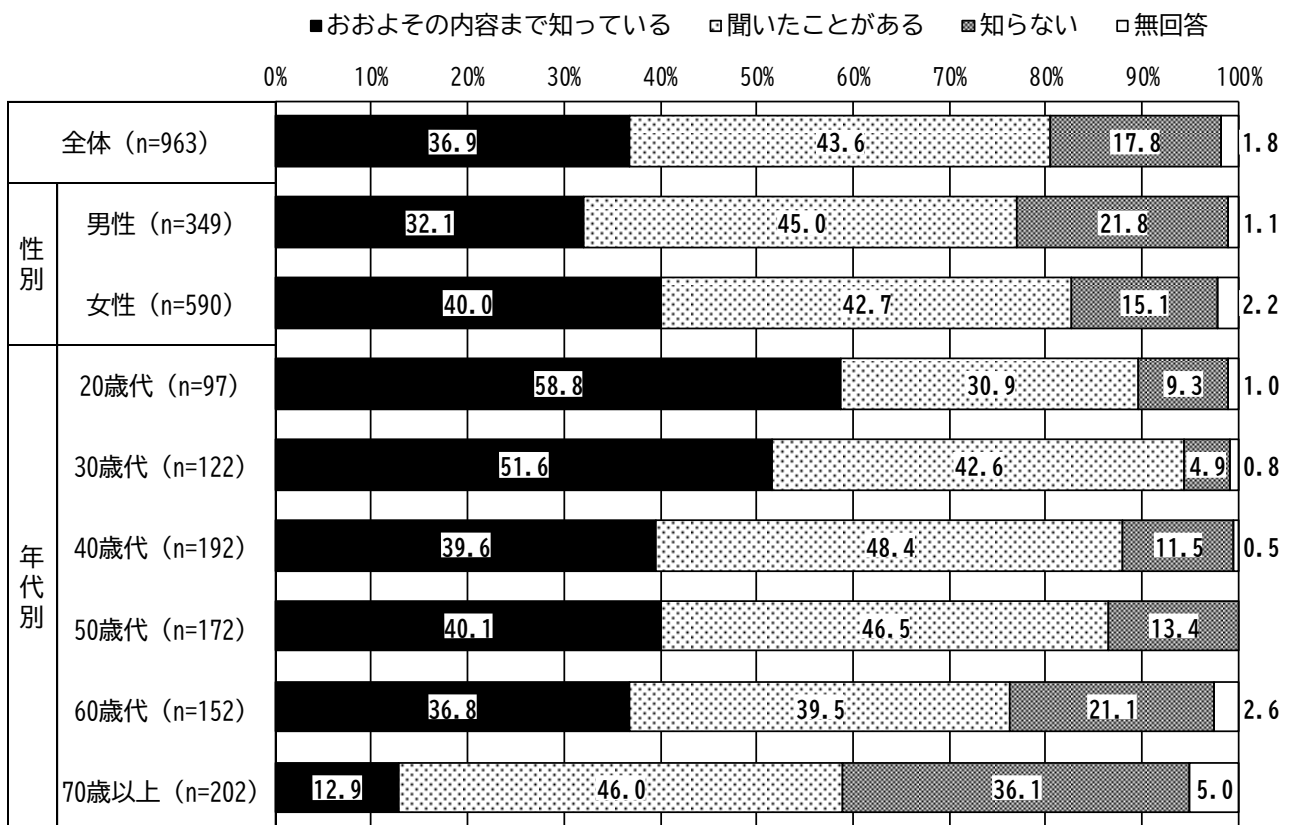
図表 30 ⑦ポジティブ・アクション（積極的改善措置）（性別・年代別）



⑧ジェンダー（社会的性別）

- 「おおよその内容まで知っている」が36.9%、「聞いたことがある」が43.6%、「知らない」が17.8%となっています。
- 性別では、女性で「おおよその内容まで知っている」が40.0%と、男性より7.9ポイント高くなっています。一方で、男性で「知らない」が21.8%と、女性より6.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代と30歳代で「おおよその内容まで知っている」が5割以上となっています。一方で、30歳代以上で、年代が上がるにつれて「知らない」が高くなっており、70歳以上で36.1%となっています。

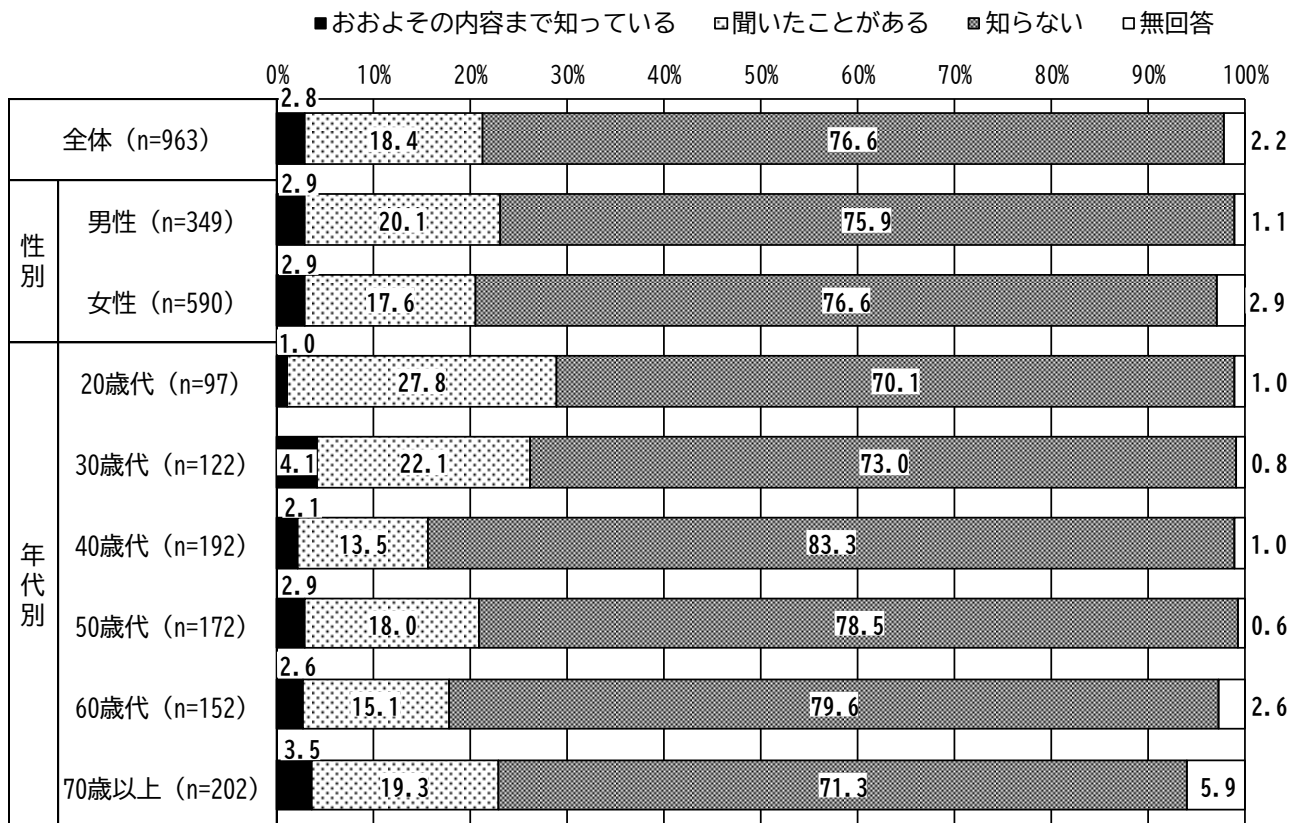
図表 31 ⑧ジェンダー（社会的性別）（性別・年代別）



⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）

- 「おおよその内容まで知っている」が2.8%、「聞いたことがある」が18.4%、「知らない」が76.6%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「知らない」が7割以上となっており、なかでも40歳代で83.3%と、最も高くなっています。

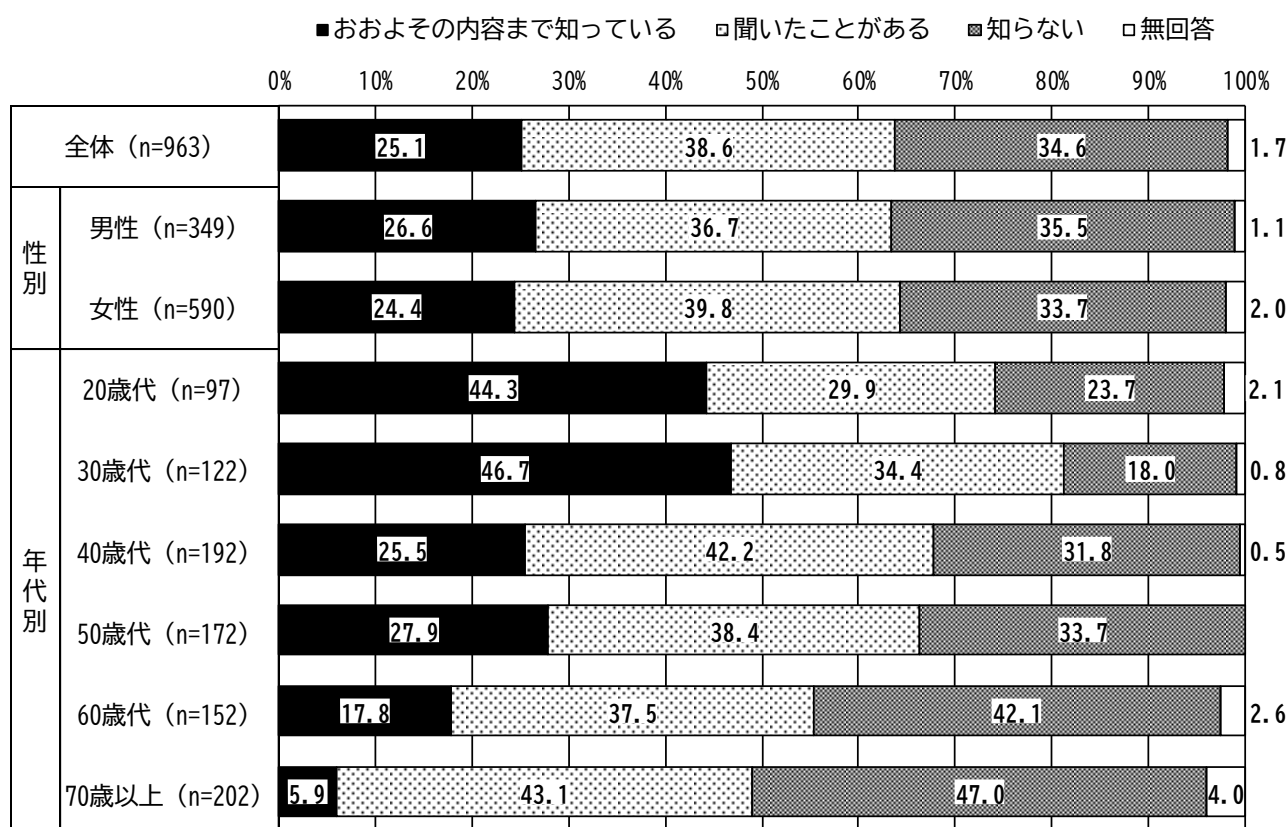
図表 32 ⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）
（性別・年代別）



⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事、家庭生活、地域・個人の生活などの調和）

- 「おおよその内容まで知っている」が25.1%、「聞いたことがある」が38.6%、「知らない」が34.6%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20歳代と30歳代で「おおよその内容まで知っている」が4割以上となっています。一方で、30歳代以上で、年代が上がるにつれて「知らない」が高くなっており、70歳以上で47.0%となっています。

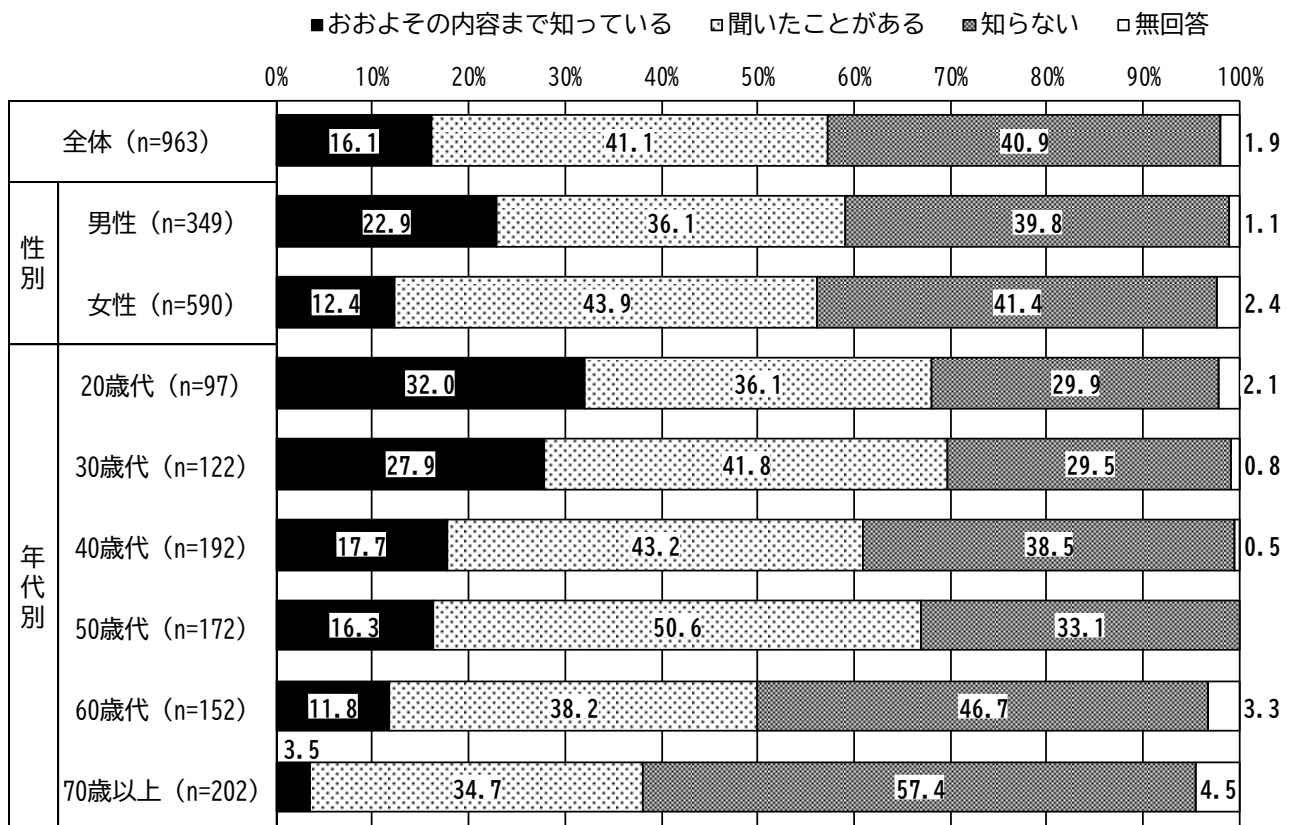
図表 33 ⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事、家庭生活、地域・個人の生活などの調和）
（性別・年代別）



⑪ダイバーシティ（多様性）

- 「おおよその内容まで知っている」が16.1%、「聞いたことがある」が41.1%、「知らない」が40.9%となっています。
- 性別では、男性で「おおよその内容まで知っている」が22.9%と、女性より10.5ポイント高くなっています。一方で、女性で「聞いたことがある」が43.9%と、男性より7.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「おおよその内容まで知っている」が高くなっており、20歳代で32.0%となっています。一方で、70歳代で「知らない」が57.4%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 34 ⑪ダイバーシティ（多様性）（性別・年代別）



全国の調査※との比較

- 全国の調査と比較すると、いずれの用語も国より高くなっており、なかでも「ジェンダー（社会的性別）」と「ワーク・ライフ・バランス」で20ポイント以上高くなっています。

図表 35 関連用語の認知度（全国の調査との比較）

		(%)						
		男女共同参画社会	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	女性活躍推進法	に男女政治分野における推進に関する法律	女子差別撤廃条約	配偶者などからの暴力（DV）
春日井市	おおよその内容まで知っている	19.4	47.8	43.4	10.5	4.5	-	-
	聞いたことがある	48.5	43.5	48.8	48	34.4	-	-
	合計	67.9	91.3	92.2	58.5	38.9	-	-
全国		64.3	79.3	-	38.6	-	34.7	81.5
差（春日井市合計－全国）		3.6	12.0	-	19.9	-	-	-

		（配偶者暴力防止法）	ポジットティブ・アクション（積極的改善措置）	（ジェンダー（社会的性別））	・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	・ワーク・ライフ・バランス	（ダイバーシティ（多様性））
春日井市	おおよその内容まで知っている	36.2	2.3	36.9	2.8	25.1	16.1
	聞いたことがある	54.7	23.2	43.6	18.4	38.6	41.1
	合計	90.9	25.5	80.5	21.2	63.7	57.2
全国		-	18.3	55.8	-	43.1	-
差（春日井市合計－全国）		-	7.2	24.7	-	20.6	-

※語群のなかから見たり聞いたりしたことのあるものを問う設問（複数回答）。

「育児・介護休業法」「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」「配偶者暴力防止法（DV防止法）」「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」「ダイバーシティ（多様性）」は春日井市のみ。

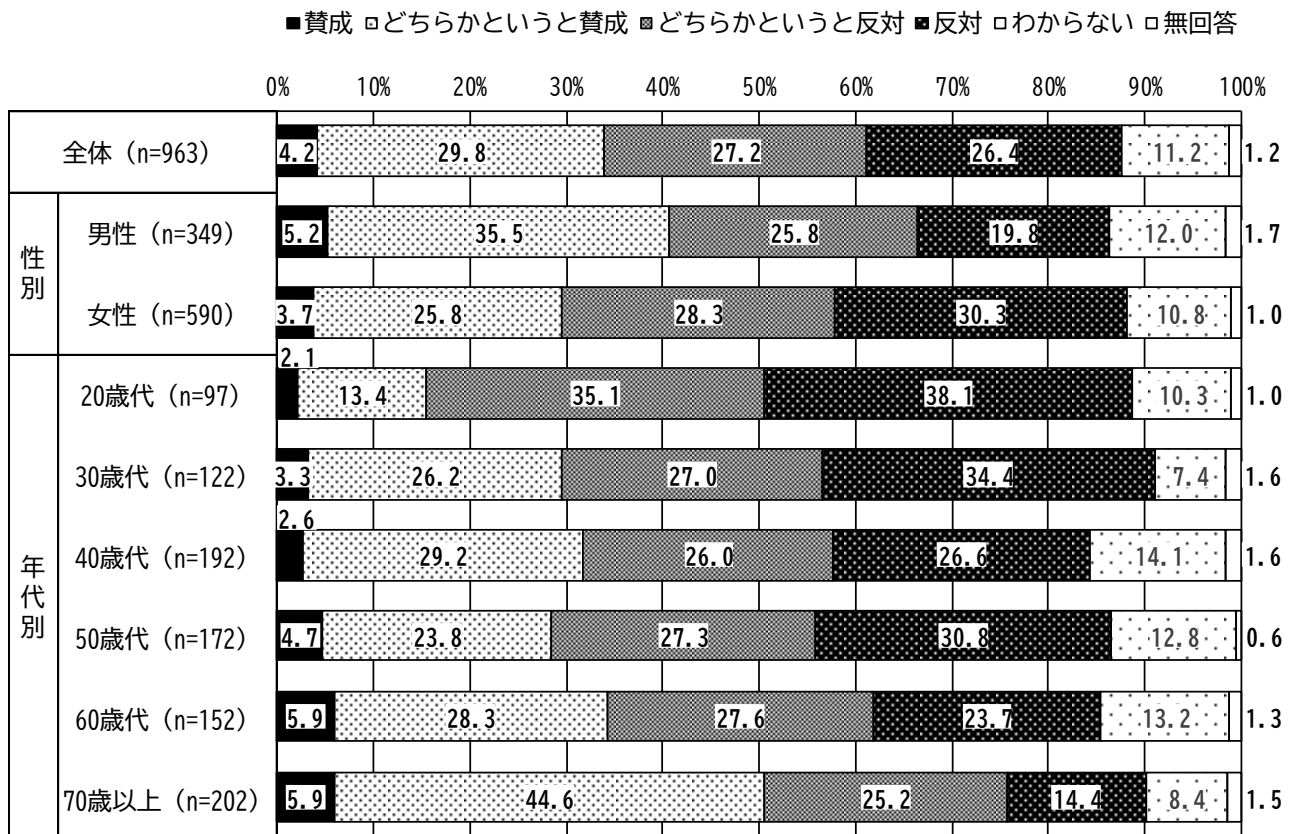
「女子差別撤廃条約」「配偶者などからの暴力（DV）」は全国のみ。

(3) 家庭生活について

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたは
どう思いますか。(○は1つ)

- 「どちらかという賛成」が29.8%と最も高く、次いで「どちらかという反対」(27.2%)、「反対」(26.4%)となっています。また、「概ね賛成^{※1}」は34.0%、「概ね反対^{※2}」は53.6%となっています。
- 性別では、女性で「反対」が30.3%と、男性より10.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「どちらかという賛成」が35.5%と、女性より9.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、「概ね反対」が「概ね賛成」より高くなっています。なかでも、20歳代では「概ね反対」が73.2%と、「概ね賛成」より57.7ポイント高くなっています。

図表 36 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について (性別・年代別)



※1 「賛成」 + 「どちらかという賛成」

※2 「反対」 + 「どちらかという反対」

職業別／性・就労状況別

- 職業別では、「農業」「内職・在宅就業」「専業主婦・専業主夫」「無職」を除いて、“概ね反対”が“概ね賛成”より高くなっています。
- 性・就労状況別では、「仕事に就いていない（男性）」を除いて、“概ね反対”が“概ね賛成”より高くなっています。なかでも、「仕事に就いている（女性）」で“概ね反対”が66.8%と、最も高くなっています。

図表 37 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（職業別）

	件数 (件)	概ね 賛成	賛成	いど う ち と ら 賛 か 成 と	概ね 反対	いど う ち と ら 反 か 対 と	反対	わ か ら な い	無 回 答
会社員	286	28.3	3.8	24.5	59.4	29.0	30.4	11.2	1.0
公務員	35	31.4	-	31.4	60.0	25.7	34.3	8.6	-
派遣・契約社員	24	16.7	-	16.7	79.2	41.7	37.5	4.2	-
パートタイム・アルバイト	197	28.4	2.5	25.9	58.9	30.5	28.4	11.7	1.0
自営業	50	34.0	2.0	32.0	56.0	26.0	30.0	6.0	4.0
農業	4	75.0	25.0	50.0	25.0	-	25.0	-	-
内職・在宅就業	5	20.0	-	20.0	20.0	-	20.0	40.0	20.0
専業主婦・専業主夫	153	47.0	6.5	40.5	42.5	25.5	17.0	9.8	0.7
学生	13	7.7	-	7.7	84.6	30.8	53.8	7.7	-
無職	149	44.3	7.4	36.9	40.3	21.5	18.8	13.4	2.0
その他	21	19.1	4.8	14.3	57.2	28.6	28.6	23.8	-

図表 38 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（性・就労状況別）

	件数 (件)	概ね 賛成	賛成	いど う ち と ら 賛 か 成 と	概ね 反対	いど う ち と ら 反 か 対 と	反対	わ か ら な い	無 回 答
仕事に就いている（男性）	255	37.2	3.9	33.3	49.0	27.8	21.2	11.8	2.0
仕事に就いている（女性）	346	22.5	2.3	20.2	66.8	30.1	36.7	9.8	0.9
仕事に就いていない（男性）	93	50.5	8.6	41.9	36.5	20.4	16.1	11.8	1.1
仕事に就いていない（女性）	243	39.5	5.8	33.7	46.9	25.5	21.4	12.3	1.2

※ 「仕事に就いている」は「会社員」「公務員」「派遣・契約社員」「パートタイム・アルバイト」「自営業」「農業」「内職・在宅就業」
「仕事に就いていない」は「専業主婦・主夫」「学生」「無職」「その他」

子どもの有無別

- 子どもの有無別では、「子どもはいない」で“概ね反対”が59.2%と、“概ね賛成”より32.3ポイント高くなっています。

図表 39 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（子どもの有無別）

	件数 (件)	概ね賛成	賛成	いど うち とら 賛か 成と	概ね 反対	いど うち とら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答
子どもがいる	678	36.2	4.6	31.6	51.9	27.9	24.0	10.6	1.3
子どもはいない	238	26.9	3.8	23.1	59.2	25.6	33.6	13.0	0.8

(%)

過去の調査との比較

- “概ね賛成”は、過去の調査のなかでも最も低く34.0%、“概ね反対”は、過去の調査のなかで最も高く53.6%となっています。

図表 40 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（過去の調査との比較）

	概ね賛成	賛成	いど うち とら 賛か 成と	概ね 反対	いど うち とら 反か 対と	反対	な わ い か ら	無 回 答
令和2年	34.0	4.2	29.8	53.6	27.2	26.4	11.2	1.2
平成28年	37.4	4.5	32.9	48.3	26.3	22.0	13.5	-
平成22年	38.8	6.2	32.6	49.0	28.3	20.7	11.2	-
平成18年	37.6	7.3	30.3	51.1	24.9	26.2	9.7	-

(%)

全国の調査との比較

- 全国の調査と比較すると、“概ね反対”が男性で10.0ポイント、女性で4.8ポイント、全体で6.2ポイント、それぞれ国より低くなっています。

図表 41 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（全国の調査との比較）

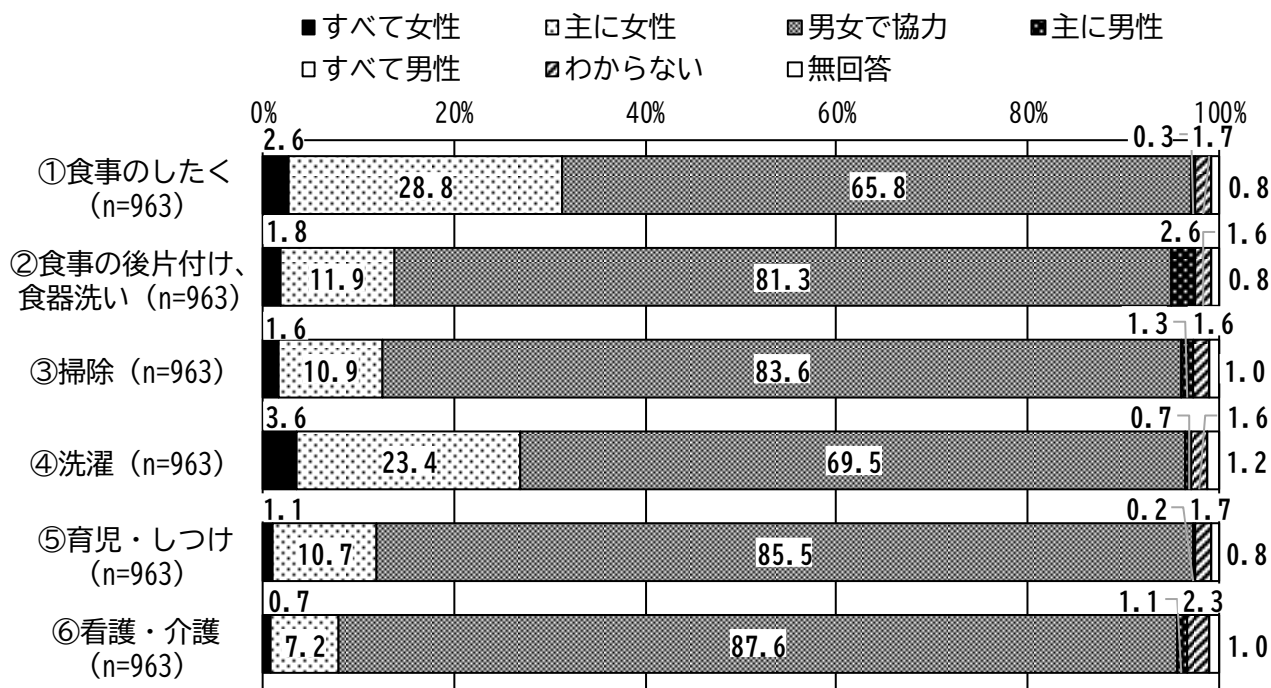
		概ね賛成	賛成	いど うち とら 賛か 成と	概ね 反対	いど うち とら 反か 対と	反対	な わ い か ら	無 回 答
春日井市	男性	40.7	5.2	35.5	45.6	25.8	19.8	12.0	1.7
	女性	29.5	3.7	25.8	58.6	28.3	30.3	10.8	1.0
	合計	34.0	4.2	29.8	53.6	27.2	26.4	11.2	1.2
全国	男性	39.4	8.6	30.8	55.6	34.4	21.2	4.9	-
	女性	31.1	6.5	24.6	63.4	38.5	24.9	5.5	-
	合計	35.0	7.5	27.5	59.8	36.6	23.2	5.2	-

(%)

問4 あなたは、次のような家庭内の仕事を、主に誰が受けもつのが理想だと思いますか。
 (①～⑥についてそれぞれ〇を1つ)

- 「①食事のしたく」と「④洗濯」を除いて、「男女で協力」が8割以上となっています。一方で、「①食事のしたく」と「④洗濯」で「主に女性」が2割となっています。

図表 42 家事分担の理想



共働き状況の定義

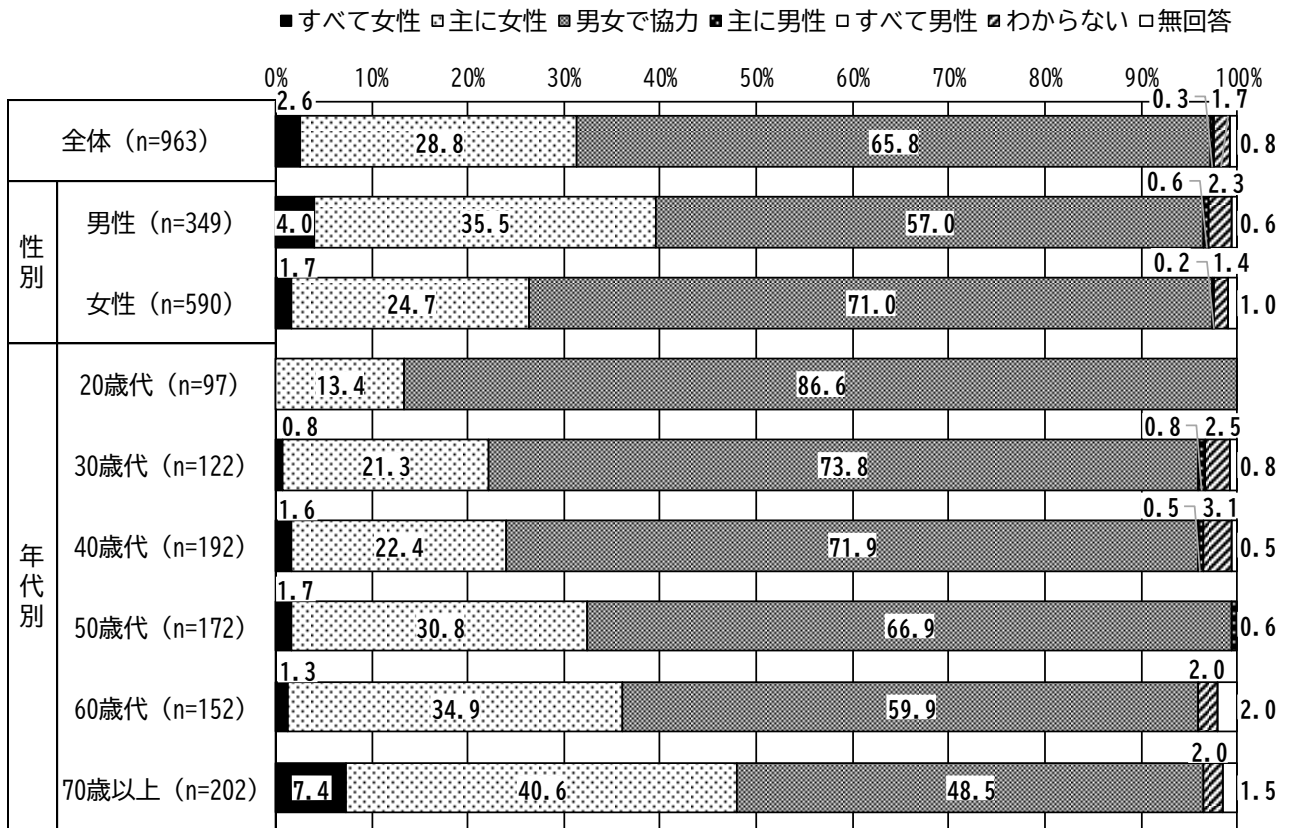
- 回答者と配偶者の職業により、共働き状況を下表のように定義しています。

		会社員	公務員	自営業	農業	派遣・契約社員	パート・アルバイト	内職・在宅就業	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
		常勤的な就業形態				非常勤的な就業形態			専業主婦・主夫・学生その他			
会社員	常勤的な就業形態	共働き世帯				非常勤的な就業形態			非共働き世帯			
公務員												
自営業												
農業												
派遣・契約社員	非常勤的な就業形態	常勤的な就業形態				非常勤的な就業形態			専業主婦・主夫・学生その他			
パート・アルバイト												
内職・在宅就業												
専業主婦・主夫	専業主婦・主夫・学生その他	常勤的な就業形態				非常勤的な就業形態			専業主婦・主夫・学生その他			
学生												
無職												
その他												

【理想】①食事のしたく

- 「男女で協力」が65.8%と最も高く、次いで「主に女性」(28.8%)となっています。
- 性別では、女性で「男女で協力」が71.0%と、男性より14.0ポイント高くなっています。一方で、男性で「主に女性」が35.5%と、女性より10.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が上がるにつれて、「主に女性」が高く、「男女で協力」が低くなっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」と「準共働き家庭」で“主として女性※”が約3割となっています。

図表 43 【理想】①食事のしたく（性別・年代別）



図表 44 【理想】①食事のしたく（共働き状況別）

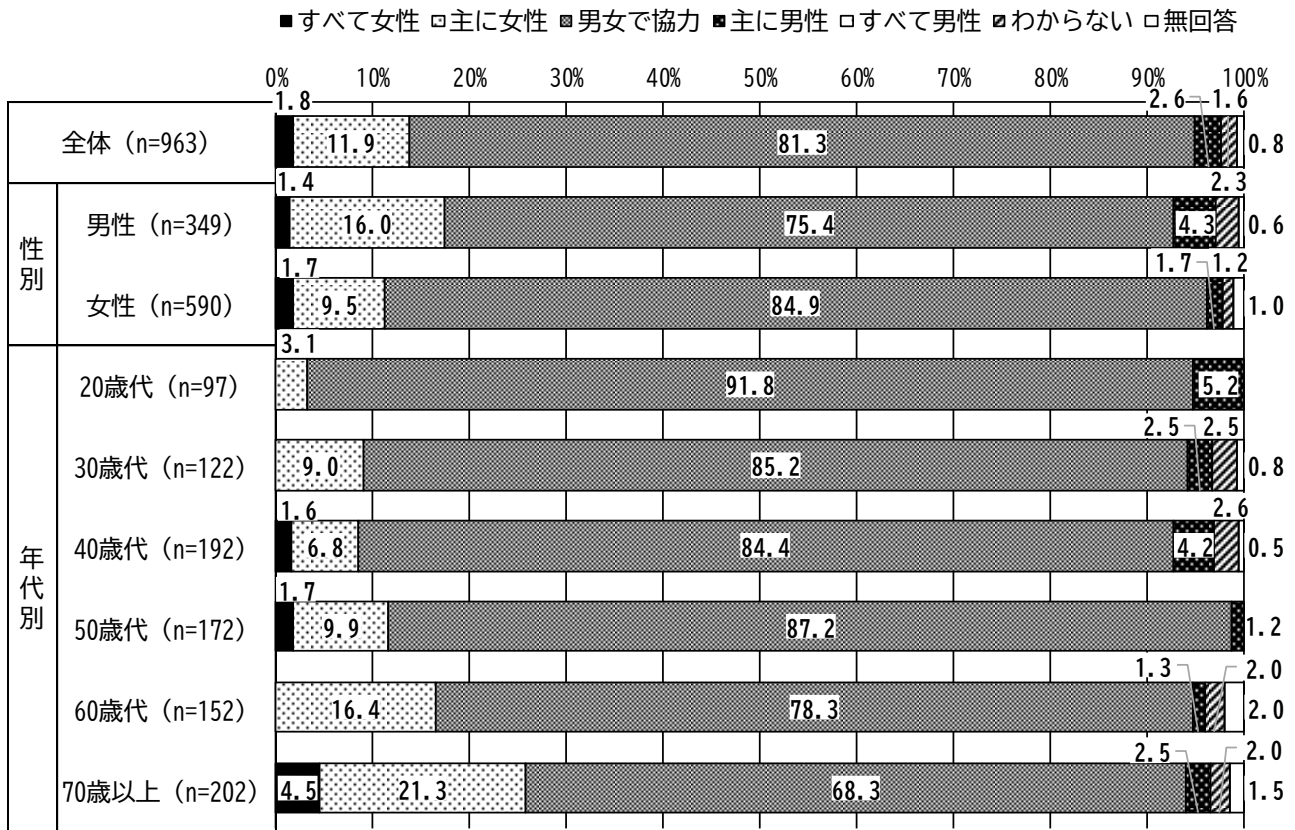
	件数 (件)	女 主 性 と し て	す べ て 女 性	主 に 女 性	男 女 で 協 力	男 主 性 と し て	主 に 男 性	す べ て 男 性	わ か ら な い	無 回 答
全体	963	31.4	2.6	28.8	65.8	0.3	0.3	-	1.7	0.8
共働き家庭	121	28.1	-	28.1	70.2	1.7	1.7	-	-	-
準共働き家庭	217	30.8	1.8	29.0	67.7	-	-	-	0.5	0.9
非共働き家庭	207	42.0	2.9	39.1	56.0	-	-	-	1.4	0.5
その他	134	42.6	7.5	35.1	53.7	-	-	-	3.0	0.7

※「すべて女性」+「主に女性」

【理想】②食事の後片付け、食器洗い

- 「男女で協力」が81.3%と最も高く、次いで「主に女性」(11.9%)となっています。
- 性別では、女性で「男女で協力」が84.9%と、男性より9.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「主に女性」が16.0%と、女性より6.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて「男女で協力」が8割以上となっており、なかでも20歳代で91.8%と、最も高くなっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」と「準共働き家庭」で「男女で協力」が8割以上となっています。

図表 45 【理想】②食事の後片付け、食器洗い（性別・年代別）



図表 46 【理想】②食事の後片付け、食器洗い（共働き状況別）

	件数 (件)	女 主 性 と し て	す べ て 女 性	主 に 女 性	男 女 で 協 力	男 主 性 と し て	主 に 男 性	す べ て 男 性	わ か ら な い	無 回 答
全体	963	13.7	1.8	11.9	81.3	2.6	2.6	-	1.6	0.8
共働き家庭	121	6.6	-	6.6	87.6	5.8	5.8	-	-	-
準共働き家庭	217	12.4	1.8	10.6	84.3	1.8	1.8	-	0.5	0.9
非共働き家庭	207	20.2	1.4	18.8	76.3	1.9	1.9	-	1.0	0.5
その他	134	23.1	3.7	19.4	70.1	3.0	3.0	-	3.0	0.7

【理想】③掃除

- 「男女で協力」が83.6%と最も高く、次いで「主に女性」(10.9%)となっています。
- 性別では、女性で「男女で協力」が86.8%と、男性より8.9ポイント高くなっています。一方で、男性で「主に女性」が14.3%と、女性より5.1ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「男女で協力」が高くなっており、20歳代で92.8%となっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」と「準共働き家庭」で「男女で協力」が8割以上となっています。

図表 47 【理想】③掃除（性別・年代別）



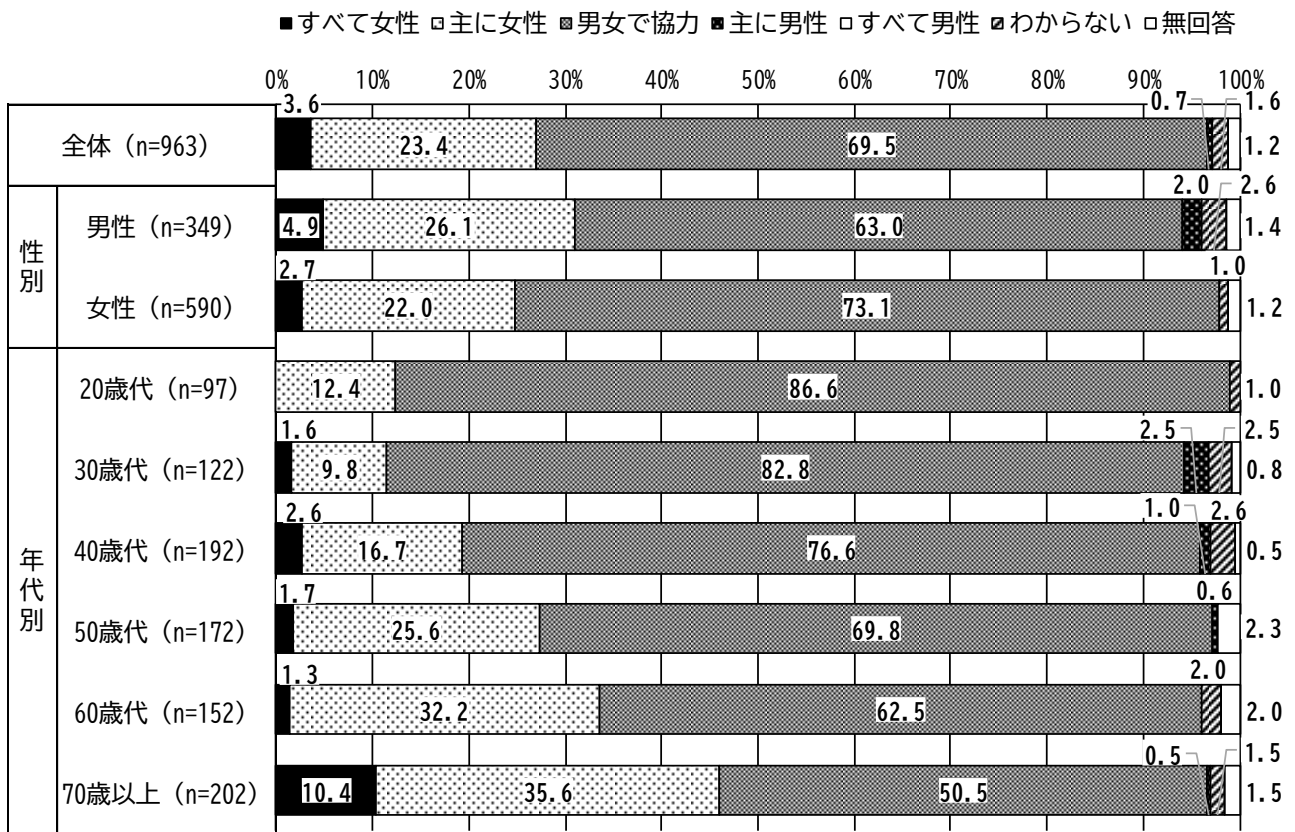
図表 48 【理想】③掃除（共働き状況別）

	件数 (件)	女 主 性 と し て	す べ て 女 性	主 に 女 性	男 女 で 協 力	男 主 性 と し て	主 に 男 性	す べ て 男 性	わ か ら な い	無 回 答
全体	963	12.5	1.6	10.9	83.6	1.3	1.3	-	1.6	1.0
共働き家庭	121	8.3	-	8.3	88.4	3.3	3.3	-	-	-
準共働き家庭	217	9.6	1.8	7.8	88.5	0.5	0.5	-	0.5	0.9
非共働き家庭	207	22.2	1.4	20.8	76.3	-	-	-	1.0	0.5
その他	134	14.9	1.5	13.4	78.4	3.0	3.0	-	2.2	1.5

【理想】④洗濯

- 「男女で協力」が69.5%と最も高く、次いで「主に女性」(23.4%)となっています。
- 性別では、女性で「男女で協力」が73.1%と、男性より10.1ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「男女で協力」が高くなっており、20歳代で86.6%となっています。
- 共働き状況別では、「男女で協力」が「共働き家庭」で約8割、「準共働き家庭」で約7割となっています。

図表 49 【理想】④洗濯（性別・年代別）



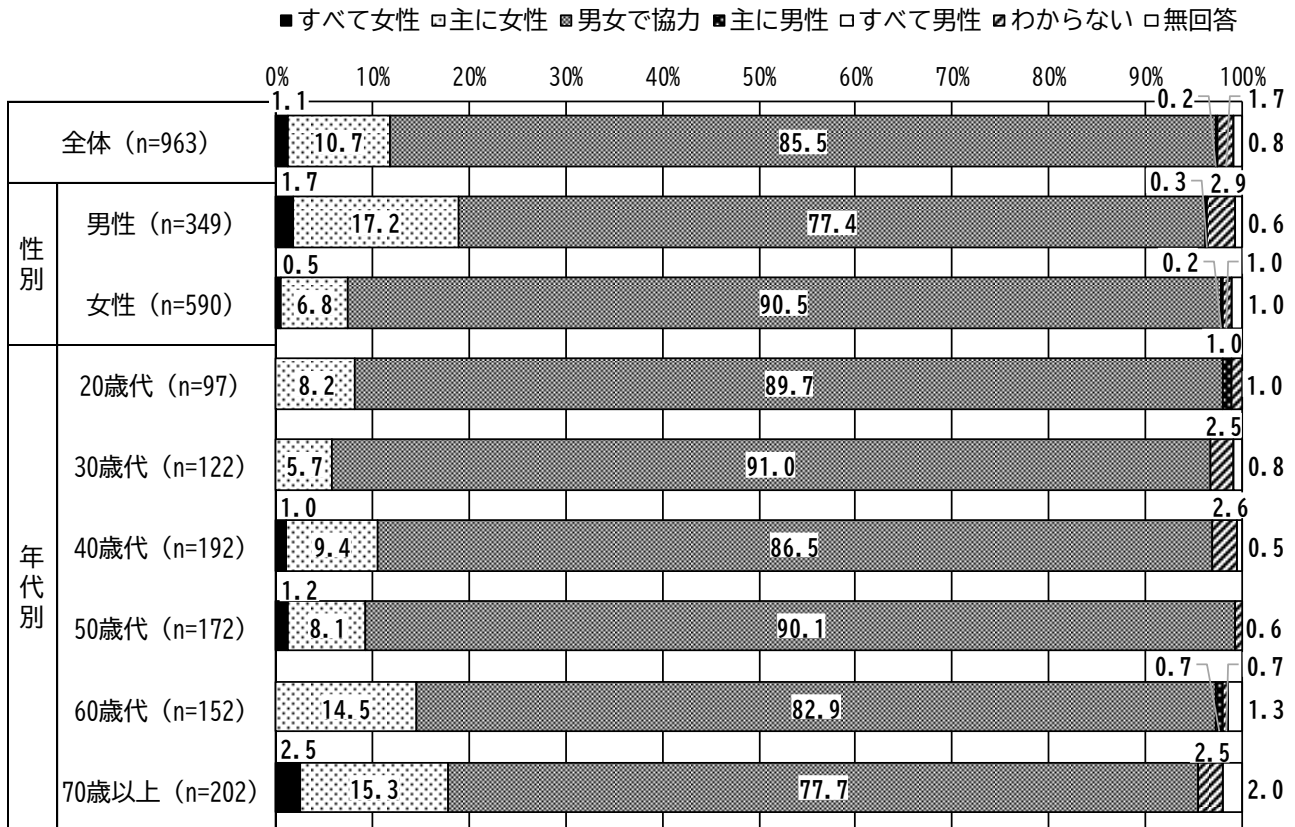
図表 50 【理想】④洗濯（共働き状況別）

	件数 (件)	女 主 性 と し て	す べ て 女 性	主 に 女 性	男 女 で 協 力	男 主 性 と し て	主 に 男 性	す べ て 男 性	わ か ら な い	無 回 答
全体	963	27.0	3.6	23.4	69.5	0.7	0.7	-	1.6	1.2
共働き家庭	121	14.9	-	14.9	81.0	2.5	2.5	-	-	1.7
準共働き家庭	217	26.3	2.8	23.5	71.0	0.5	0.5	-	0.5	1.8
非共働き家庭	207	35.7	5.3	30.4	62.3	0.5	0.5	-	1.0	0.5
その他	134	42.5	8.2	34.3	53.7	0.7	0.7	-	2.2	0.7

【理想】⑤育児・しつけ

- 「男女で協力」が85.5%と最も高く、次いで「主に女性」(10.7%)となっています。
- 性別では、女性で「男女で協力」が90.5%と、男性より13.1ポイント高くなっています。一方で、男性で「主に女性」が17.2%と、女性より10.4ポイント高くなっています。
- 年代別では、30歳代と50歳代で「男女で協力」が約9割となっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で「男女で協力」が94.2%となっています。

図表 51 【理想】⑤育児・しつけ (性別・年代別)



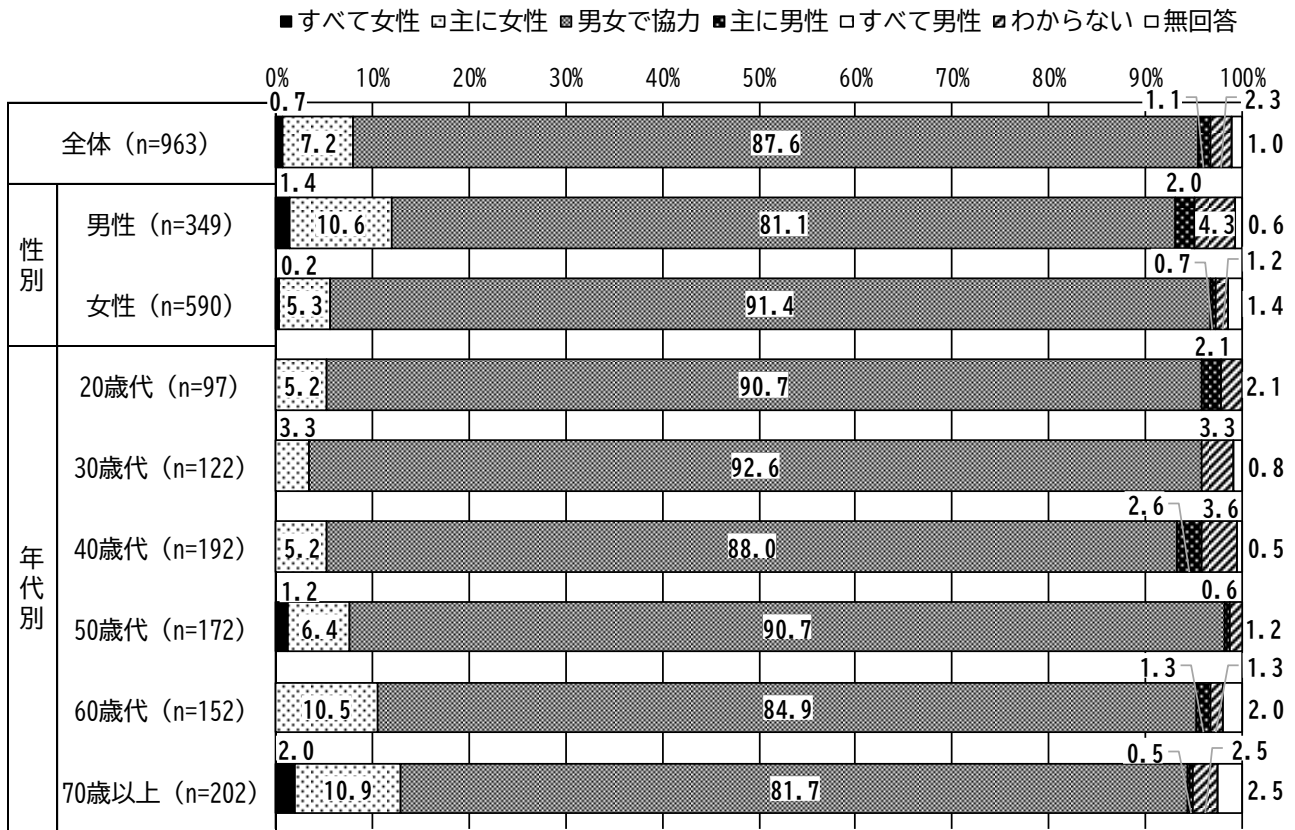
図表 52 【理想】⑤育児・しつけ (共働き状況別)

	件数 (件)	女 主 性 と し て	す べ て 女 性	主 に 女 性	男 女 で 協 力	男 主 性 と し て	主 に 男 性	す べ て 男 性	わ か ら な い	無 回 答
全体	963	11.8	1.1	10.7	85.5	0.2	0.2	-	1.7	0.8
共働き家庭	121	5.0	-	5.0	94.2	-	-	-	0.8	-
準共働き家庭	217	10.6	0.5	10.1	87.6	-	-	-	0.9	0.9
非共働き家庭	207	14.9	1.9	13.0	83.6	-	-	-	1.0	0.5
その他	134	17.2	3.0	14.2	79.9	0.7	0.7	-	1.5	0.7

【理想】⑥看護・介護

- 「男女で協力」が87.6%と最も高く、次いで「主に女性」(7.2%)となっています。
- 性別では、女性で「男女で協力」が91.4%と、男性より10.3ポイント高くなっています。一方で、男性で「主に女性」が10.6%と、女性より5.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「男女で協力」が8割以上となっており、なかでも30歳代で92.6%と、最も高くなっています。
- 共働き状況別では、「男女で協力」が「共働き家庭」で9割以上、その他の家庭も8割以上となっています。

図表 53 【理想】⑥看護・介護（性別・年代別）



図表 54 【理想】⑥看護・介護（共働き状況別）

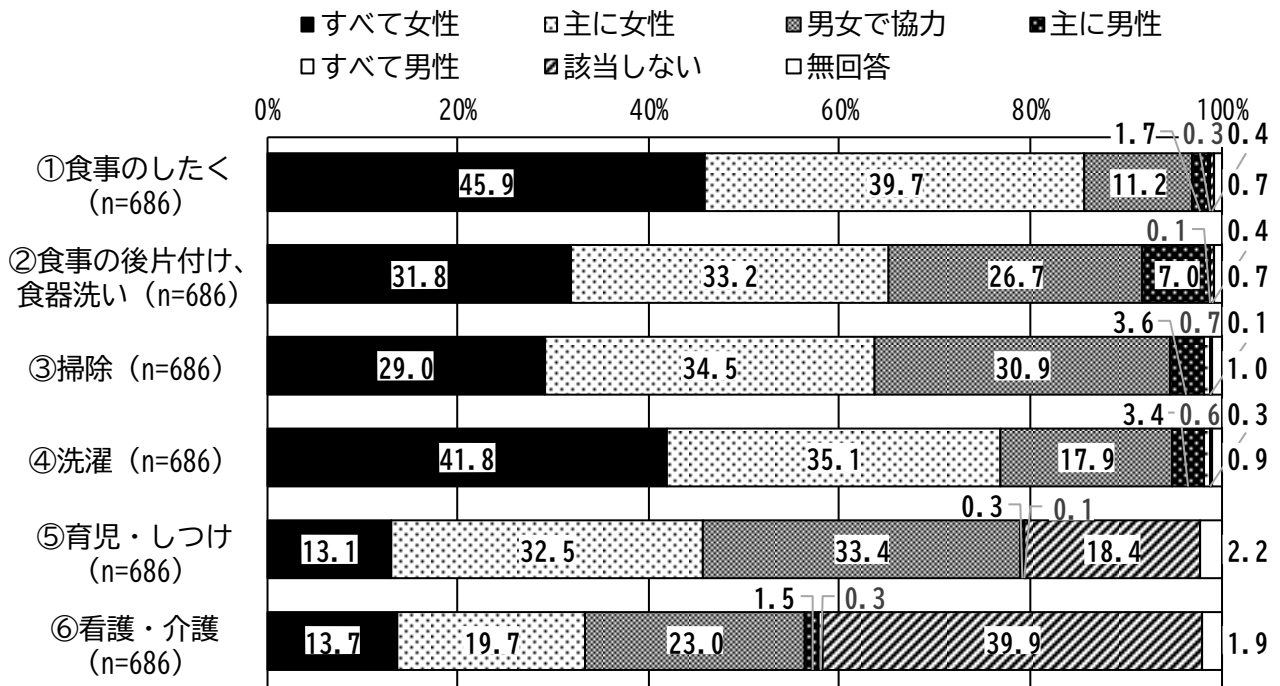
	件数 (件)	女主として (%)	すべて女性 (%)	主に女性 (%)	男女で協力 (%)	男主として (%)	主に男性 (%)	すべて男性 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	963	7.9	0.7	7.2	87.6	1.1	1.1	-	2.3	1.0
共働き家庭	121	5.0	-	5.0	93.4	1.7	1.7	-	-	-
準共働き家庭	217	6.5	0.5	6.0	89.4	1.8	1.8	-	1.4	0.9
非共働き家庭	207	9.2	0.5	8.7	87.9	0.5	0.5	-	1.9	0.5
その他	134	13.4	2.2	11.2	81.3	-	-	-	3.0	2.2

※問5は現在結婚している方（事実婚を含む）

問5 あなたの家庭では、次のような家庭内の仕事を、現実には主に誰が受けもっていますか。（①～⑥についてそれぞれ〇を1つ）

- 「すべて女性」をみると、「①食事のしたく」と「④洗濯」で4割以上、「②食事の後片付け、食器洗い」と「③掃除」で約3割となっています。また、「主に女性」をみると、「⑥看護・介護」を除いて3割以上となっています。

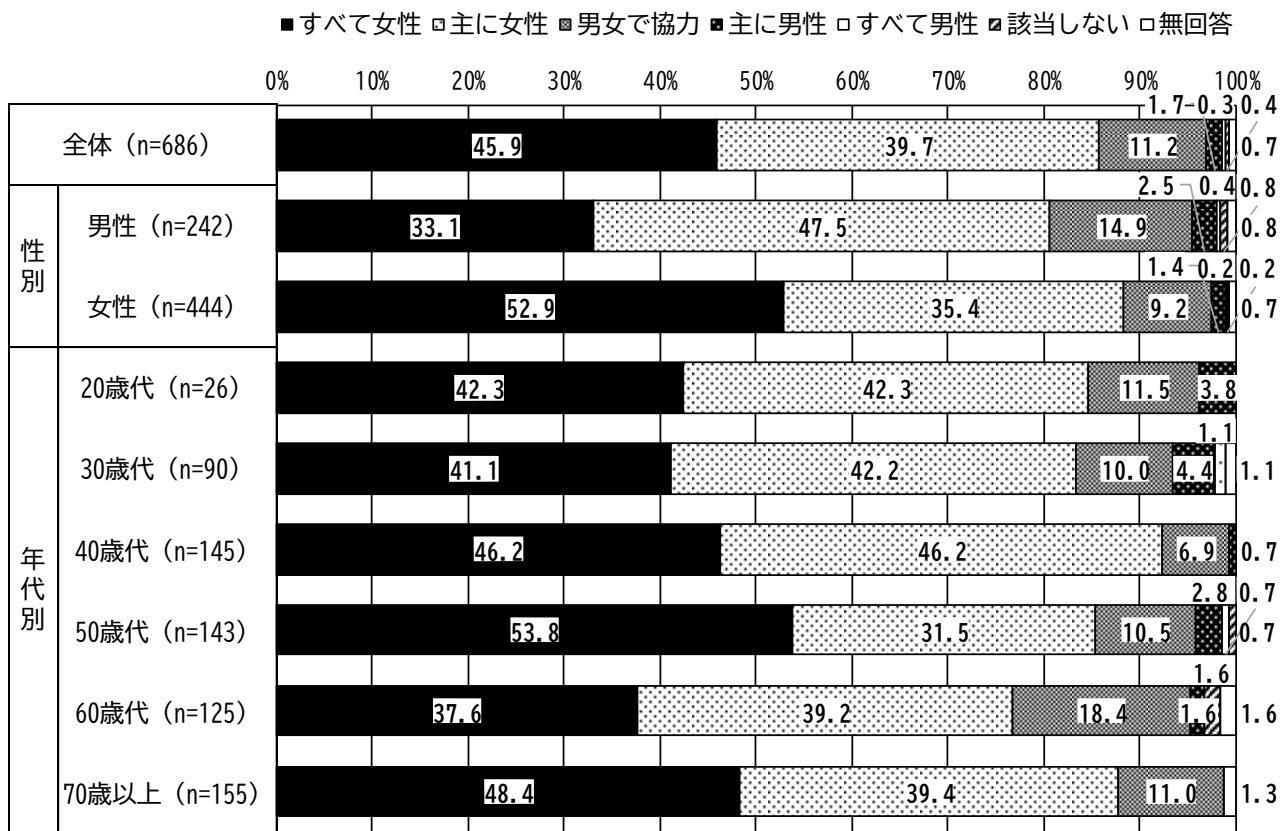
図表 55 現実の家事分担



【現実】①食事のしたく

- 「すべて女性」が45.9%と最も高く、次いで「主に女性」(39.7%)、「男女で協力」(11.2%)となっています。
- 性別では、女性で「すべて女性」が52.9%と、男性より19.8ポイント高くなっています。一方で、男性で「主に女性」が12.1ポイント、「男女で協力」が5.7ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、60歳代を除いて、「すべて女性」が4割以上となっており、なかでも50歳代で53.8%と、最も高くなっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で“主として女性”が78.5%、「男女で協力」が14.9%となっています。

図表 56 【現実】①食事のしたく（性別・年代別）



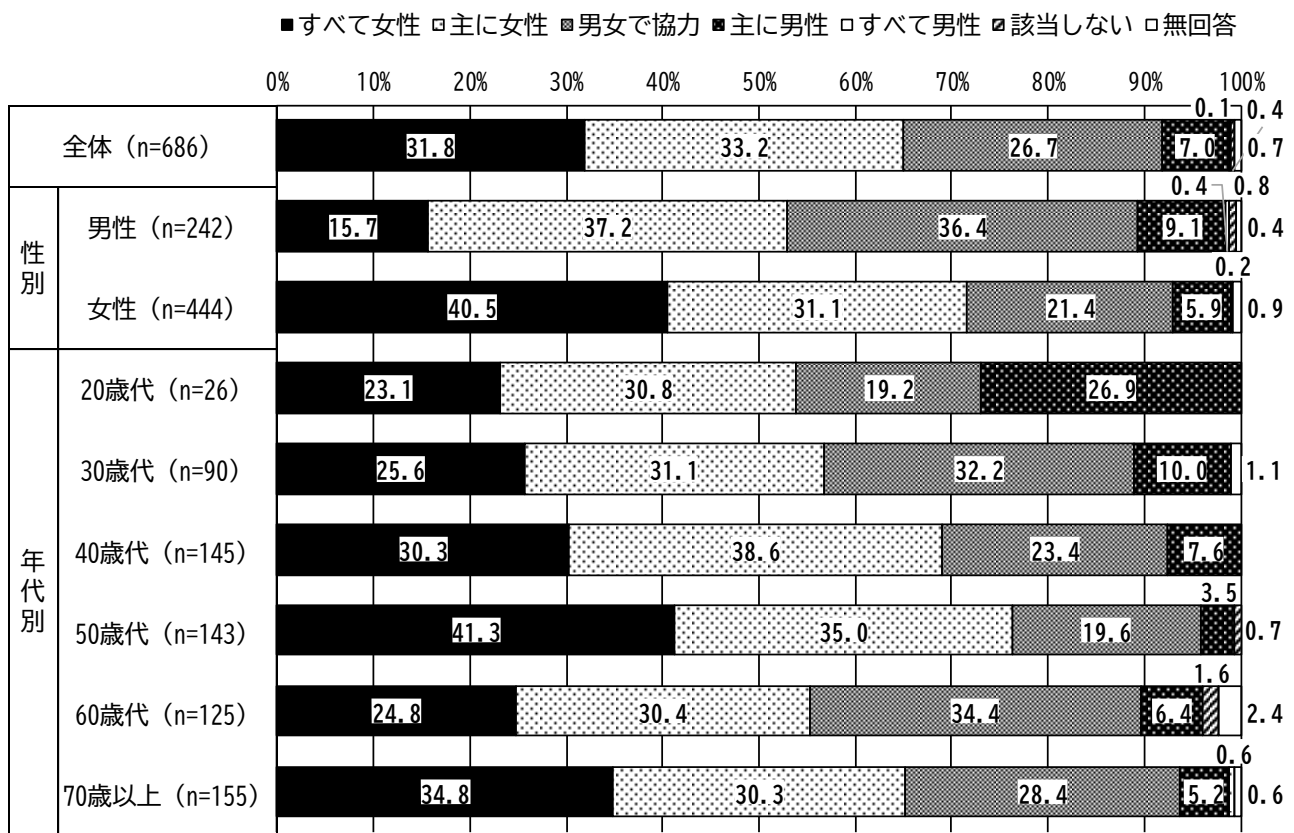
図表 57 【現実】①食事のしたく（共働き状況別）

	件数 (件)	女主として (%)	すべて女性 (%)	主に女性 (%)	男女で協力 (%)	男主として (%)	主に男性 (%)	すべて男性 (%)	該当しない (%)	無回答 (%)
全体	686	85.6	45.9	39.7	11.2	2.0	1.7	0.3	0.4	0.7
共働き家庭	121	78.5	28.9	49.6	14.9	6.7	5.0	1.7	-	-
準共働き家庭	217	88.1	47.5	40.6	7.8	1.8	1.8	-	0.9	1.4
非共働き家庭	207	88.9	54.6	34.3	9.2	1.0	1.0	-	0.5	0.5
その他	134	83.6	45.5	38.1	15.7	-	-	-	-	0.7

【現実】②食事の後片付け、食器洗い

- 「主に女性」が 33.2%と最も高く、次いで「すべて女性」(31.8%)、「男女で協力」(26.7%)となっています。
- 性別では、女性で「すべて女性」が40.5%と、男性より 24.8 ポイント高くなっています。一方で、男性で「男女で協力」が 15.0 ポイント、「主に女性」が 6.1 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、20 歳代から 50 歳代にかけて、年代が上がるにつれて「すべて女性」が高くなっており、50 歳代で 41.3%となっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で“主として女性”が 51.2%、「男女で協力」が 33.9%、“主として男性”が 14.9%となっています。

図表 58 【現実】②食事の後片付け、食器洗い (性別・年代別)



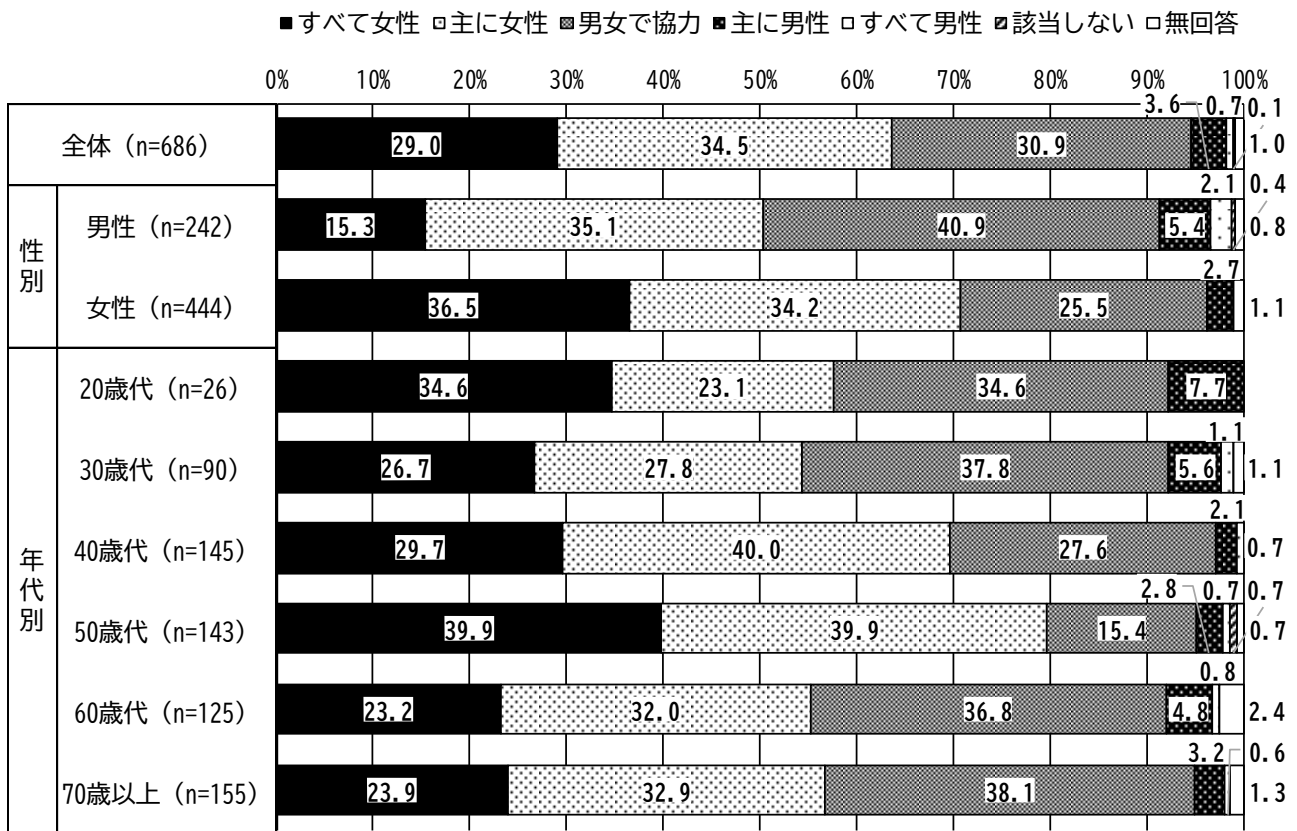
図表 59 【現実】②食事の後片付け、食器洗い (共働き状況別)

	件数 (件)	女主として (%)	すべて女性 (%)	主に女性 (%)	男女で協力 (%)	男主として (%)	主に男性 (%)	すべて男性 (%)	該当しない (%)	無回答 (%)
全体	686	65.0	31.8	33.2	26.7	7.1	7.0	0.1	0.4	0.7
共働き家庭	121	51.2	19.0	32.2	33.9	14.9	14.9	-	-	-
準共働き家庭	217	71.4	31.8	39.6	21.7	5.1	5.1	-	0.9	0.9
非共働き家庭	207	67.6	36.7	30.9	25.6	5.8	5.8	-	0.5	0.5
その他	134	62.0	35.1	26.9	30.6	5.9	5.2	0.7	-	1.5

【現実】③掃除

- 「主に女性」が34.5%と最も高く、次いで「男女で協力」(30.9%)、「すべて女性」(29.0%)となっています。
- 性別では、女性で「すべて女性」が36.5%と、男性より21.2ポイント高くなっています。一方で、男性で「男女で協力」が40.9%と、女性より15.4ポイント高くなっています。
- 年代別では、40歳代と50歳代を除いて、「男女で協力」が3割以上となっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で“主として女性”が50.4%、「男女で協力」が40.5%となっています。

図表 60 【現実】③掃除 (性別・年代別)



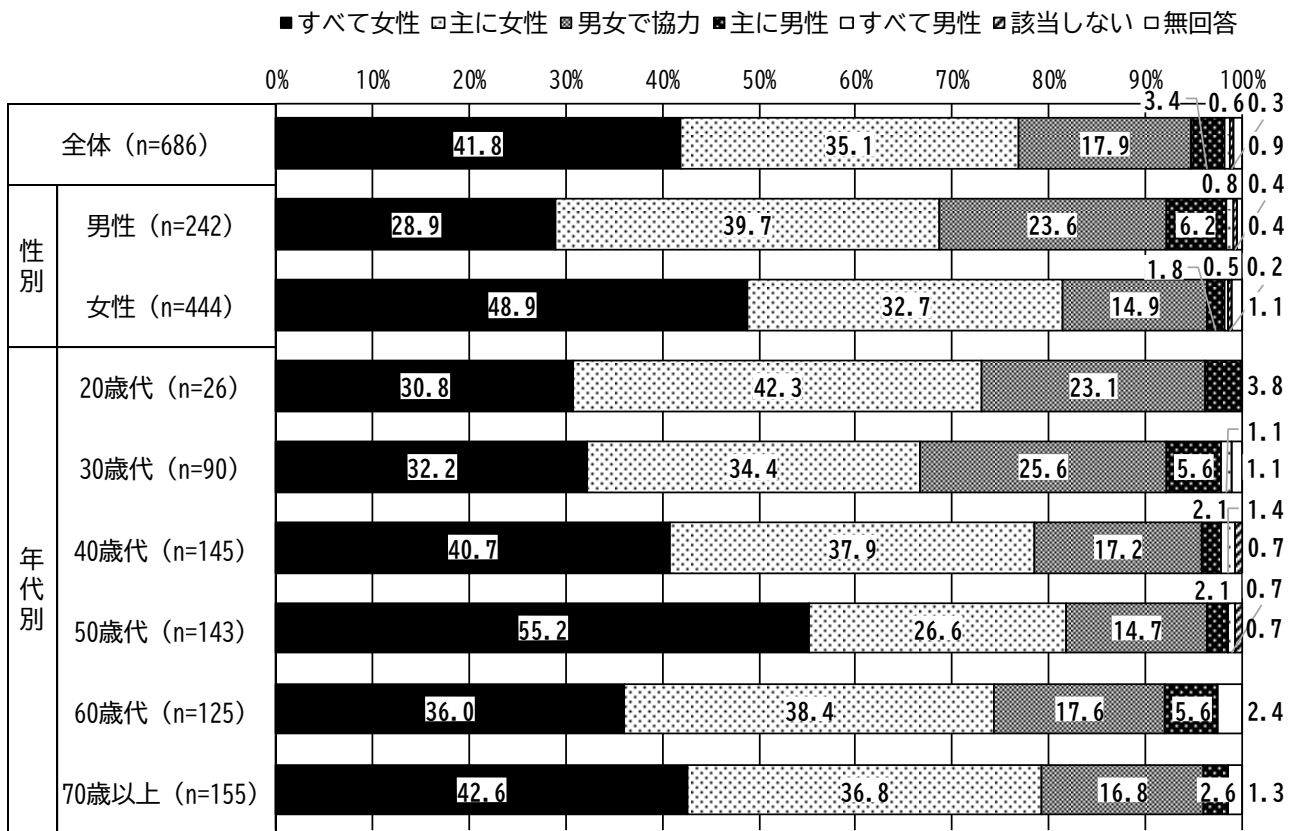
図表 61 【現実】③掃除 (共働き状況別)

	件数 (件)	女主として	すべて女性	主に女性	男女で協力	男主として	主に男性	すべて男性	該当しない	無回答
全体	686	63.5	29.0	34.5	30.9	4.3	3.6	0.7	0.1	1.0
共働き家庭	121	50.4	15.7	34.7	40.5	8.3	6.6	1.7	-	0.8
準共働き家庭	217	71.4	31.3	40.1	24.4	2.8	2.3	0.5	0.5	0.9
非共働き家庭	207	70.0	36.7	33.3	26.1	2.9	2.4	0.5	-	1.0
その他	134	53.0	25.4	27.6	39.6	5.9	5.2	0.7	-	1.5

【現実】④洗濯

- 「すべて女性」が41.8%と最も高く、次いで「主に女性」(35.1%)、「男女で協力」(17.9%)となっています。
- 性別では、女性で「すべて女性」が48.9%と、男性より20.0ポイント高くなっています。一方で、男性で「男女で協力」が8.7ポイント、「主に女性」が7.0ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、年代が上がるにつれて「すべて女性」が高くなっており、50歳代で55.2%となっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で“主として女性”が57.8%、「男女で協力」が33.9%となっています。

図表 62 【現実】④洗濯（性別・年代別）



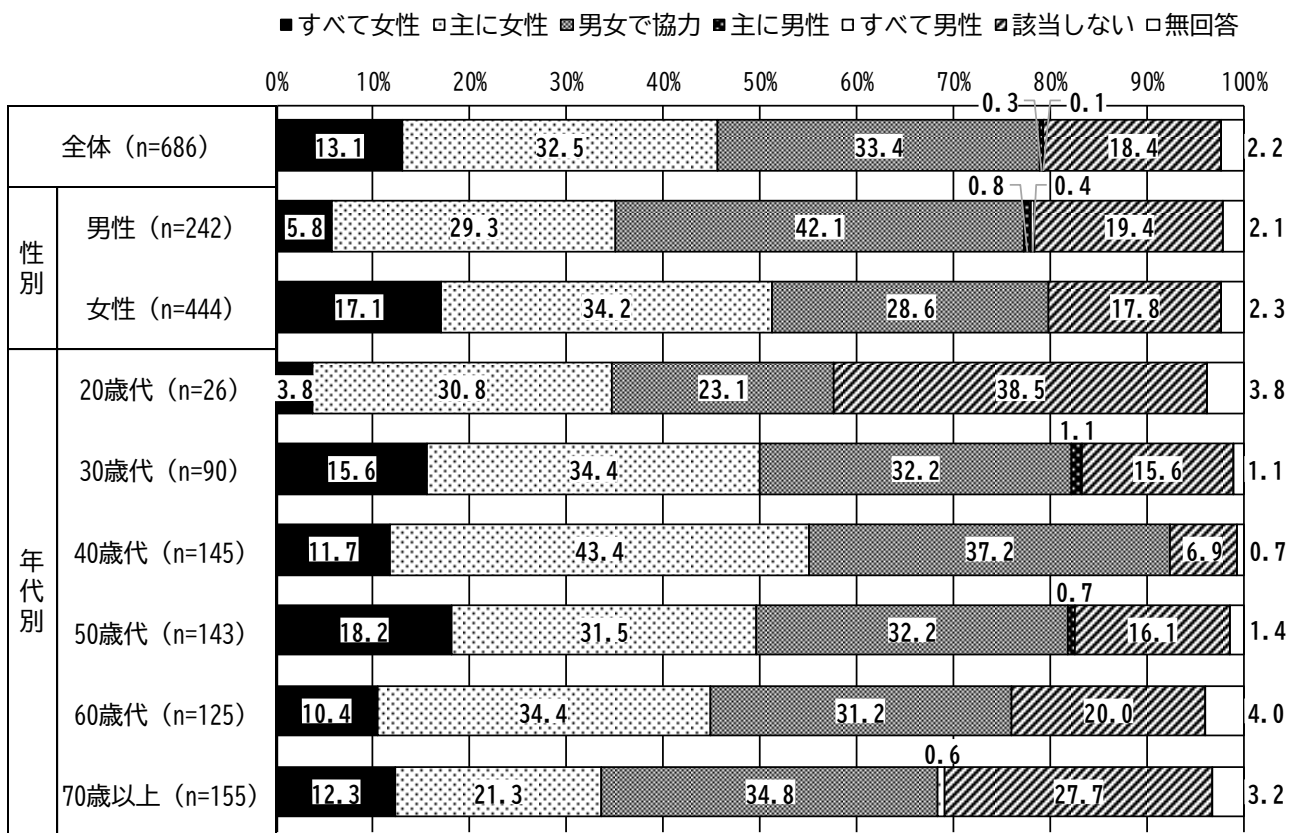
図表 63 【現実】④洗濯（共働き状況別）

	件数 (件)	女主として	すべて女性	主に女性	男女で協力	男主として	主に男性	すべて男性	該当しない	無回答
全体	686	76.9	41.8	35.1	17.9	4.0	3.4	0.6	0.3	0.9
共働き家庭	121	57.8	26.4	31.4	33.9	8.3	5.8	2.5	-	-
準共働き家庭	217	83.8	41.9	41.9	12.9	1.8	1.8	-	0.5	0.9
非共働き家庭	207	80.6	50.2	30.4	13.5	4.4	3.9	0.5	0.5	1.0
その他	134	78.3	42.5	35.8	17.2	3.0	3.0	-	-	1.5

【現実】⑤育児・しつけ

- 「男女で協力」が33.4%と最も高く、次いで「主に女性」(32.5%)、「該当しない」(18.4%)、「すべて女性」(13.1%)となっています。
- 性別では、女性で“主として女性”が51.3%と、男性より16.2ポイント高くなっています。一方で、男性で「男女で協力」が42.1%と、女性より13.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて「主に女性」が3割以上となっており、なかでも40歳代で43.4%と、最も高くなっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で“主として女性”が33.8%、「男女で協力」が45.5%となっています。

図表 64 【現実】⑤育児・しつけ (性別・年代別)



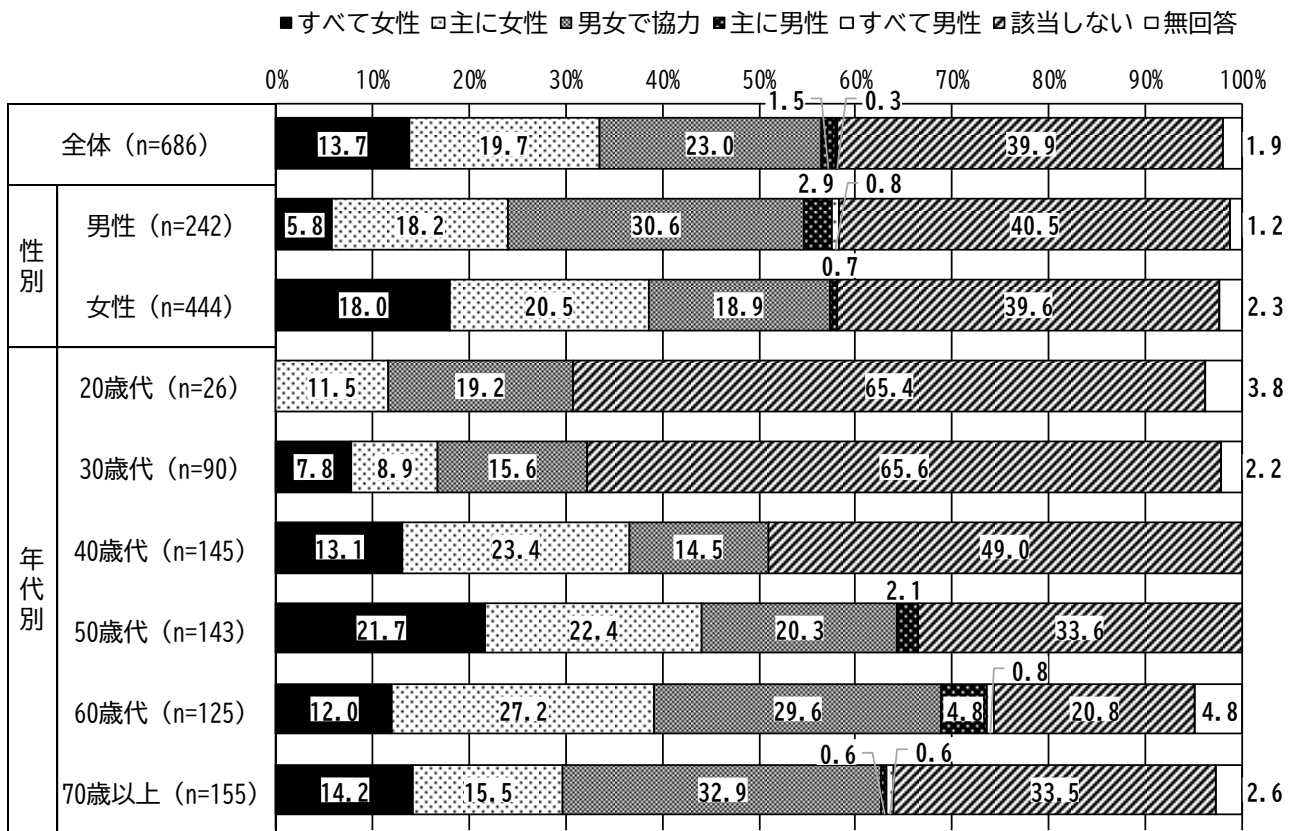
図表 65 【現実】⑤育児・しつけ (共働き状況別)

	件数 (件)	女主として	すべて女性	主に女性	男女で協力	男主として	主に男性	すべて男性	該当しない	無回答
全体	686	45.6	13.1	32.5	33.4	0.4	0.3	0.1	18.4	2.2
共働き家庭	121	33.8	7.4	26.4	45.5	0.8	0.8	-	17.4	2.5
準共働き家庭	217	54.0	13.4	40.6	31.8	0.5	0.5	-	12.4	1.4
非共働き家庭	207	50.7	16.9	33.8	26.6	0.5	-	0.5	21.3	1.0
その他	134	34.3	11.9	22.4	35.8	-	-	-	25.4	4.5

【現実】⑥看護・介護

- 「該当しない」が39.9%と最も高く、次いで「男女で協力」(23.0%)、「主に女性」(19.7%)、「すべて女性」(13.7%)となっています。
- 性別では、女性で「すべて女性」が18.0%と、男性より12.2ポイント高くなっています。一方で、男性で「男女で協力」が30.6%と、女性より11.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、40歳代以上で、年齢が上がるにつれて「男女で協力」が高くなっており、70歳以上で32.9%となっています。
- 共働き状況別では、「共働き家庭」で“主として女性”が26.4%、「男女で協力」が28.9%となっています。

図表 66 【現実】⑥看護・介護（性別・年代別）



図表 67 【現実】⑥看護・介護（共働き状況別）

	件数 (件)	女 主 性 と し て	す べ て 女 性	主 に 女 性	男 女 で 協 力	男 主 性 と し て	主 に 男 性	す べ て 男 性	該 当 し な い	無 回 答
全体	686	33.4	13.7	19.7	23.0	1.8	1.5	0.3	39.9	1.9
共働き家庭	121	26.4	7.4	19.0	28.9	0.8	0.8	-	43.0	0.8
準共働き家庭	217	36.4	14.3	22.1	19.4	1.4	1.4	-	41.5	1.4
非共働き家庭	207	33.3	13.5	19.8	17.4	2.4	1.9	0.5	44.9	1.9
その他	134	35.1	18.7	16.4	30.6	2.2	1.5	0.7	28.4	3.7

家事分担の理想と現実の比較

- 家事分担の理想と現実を比較すると、いずれの項目も理想では「男女で協力」が最も高くなっている一方で、現実では“主として女性”が最も高くなっています。
- 理想をみると、「男女で協力」が「⑥看護・介護」で64.6ポイント、その他の項目も50ポイント以上、現実より高くなっています。
- 現実を見ると、“主として女性”が「①食事のしたく」「②食事の後片付け、食器洗い」「③掃除」「④洗濯」で50ポイント前後、理想より高くなっています。

図表 68 家事分担の理想と現実の比較

(%)

	①食事のしたく			②食事の後片付け、食器洗い			③掃除		
	主として女性	男女で協力	主として男性	主として女性	男女で協力	主として男性	主として女性	男女で協力	主として男性
理想	31.4	65.8	0.3	13.7	81.3	2.6	12.5	83.6	1.3
現実	85.6	11.2	2.0	65.0	26.7	7.1	63.5	30.9	4.3
差	-54.2	54.6	-1.7	-51.3	54.6	-4.5	-51.0	52.7	-3.0

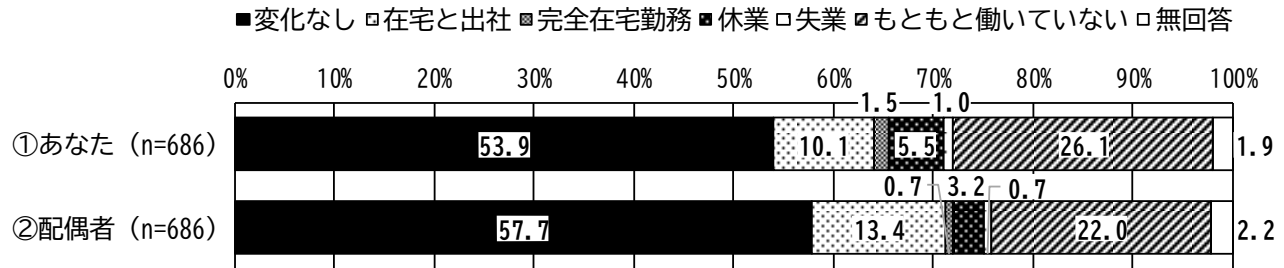
	④洗濯			⑤育児・しつけ			⑥看護・介護		
	主として女性	男女で協力	主として男性	主として女性	男女で協力	主として男性	主として女性	男女で協力	主として男性
理想	27.0	69.5	0.7	11.8	85.5	0.2	7.9	87.6	1.1
現実	76.9	17.9	4.0	45.6	33.4	0.4	33.4	23.0	1.8
差	-49.9	51.6	-3.3	-33.8	52.1	-0.2	-25.5	64.6	-0.7

※問6は現在結婚している方（事実婚を含む）

問6 あなたの家庭では、新型コロナウイルス感染症の影響によって、働き方が変化しましたか。（①、②についてそれぞれ〇を1つ）

- 「①あなた」と「②配偶者」はともに「変化なし」が5割以上と最も高く、次いで「もともと働いていない」、「在宅と出社」となっています。

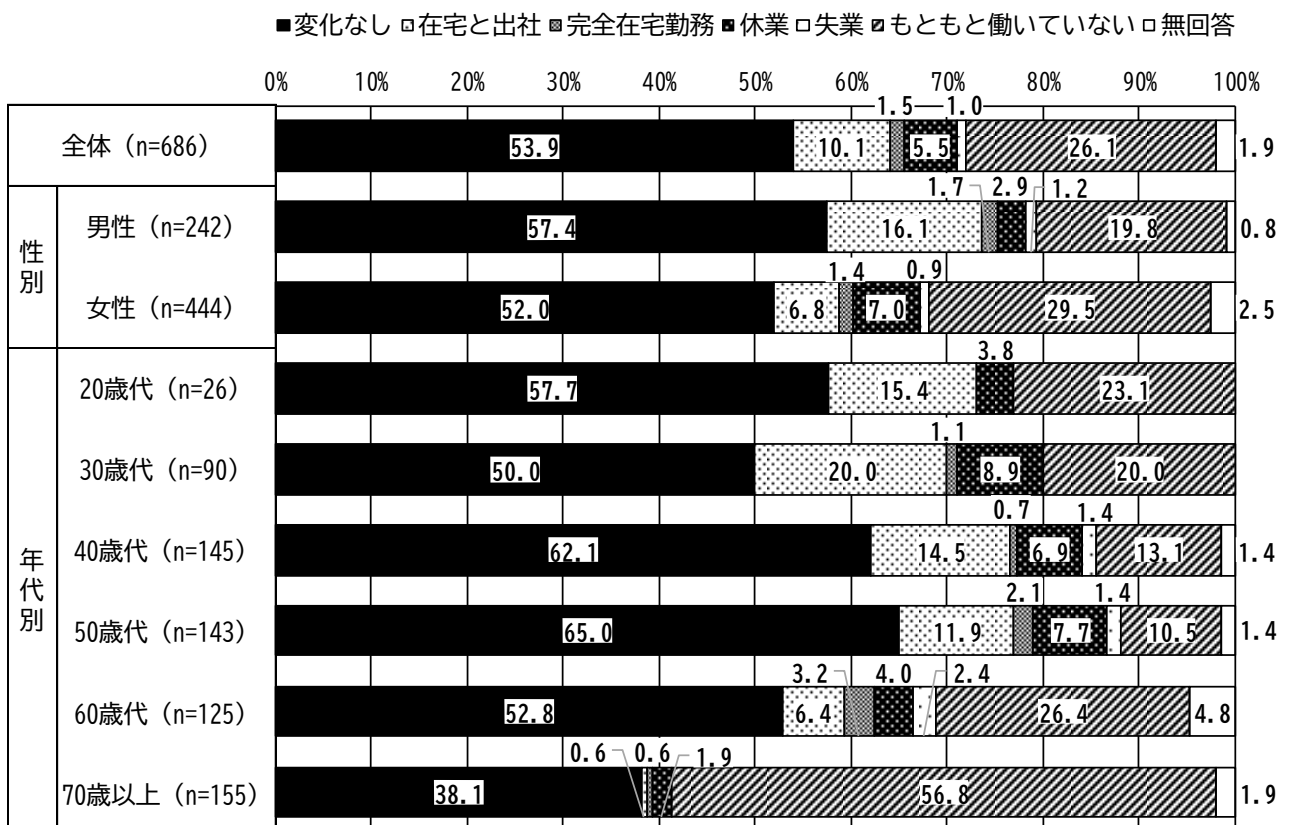
図表 69 新型コロナウイルス感染症の影響による働き方の変化



①あなた

- 「変化なし」が53.9%と最も高く、次いで「もともと働いていない」(26.1%)、「在宅と出社」(10.1%)となっています。
- 性別では、女性で「もともと働いていない」が29.5%と、男性より9.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「在宅と出社」が9.3ポイント、「変化なし」が5.4ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて「変化なし」が5割以上となっており、なかでも50歳代で65.0%と、最も高くなっています。

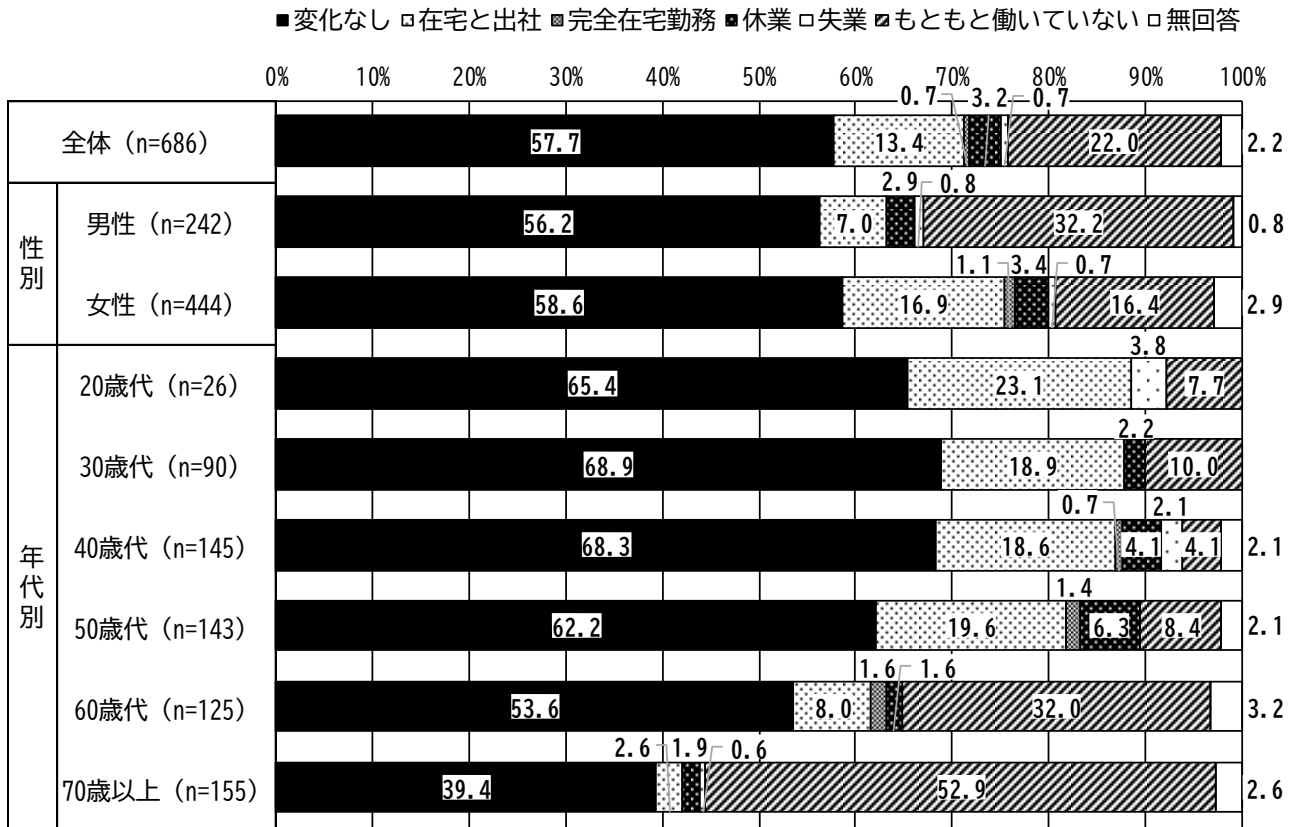
図表 70 ①あなた（性別・年代別）



②配偶者

- 「変化なし」が57.7%と最も高く、次いで「もともと働いていない」(22.0%)、「在宅と出社」(13.4%)となっています。
- 性別では、男性で「もともと働いていない」が32.2%と、女性より15.8ポイント高くなっています。一方で、女性で「在宅と出社」が16.9%と、男性より9.9ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、「変化なし」が6割以上となっています。

図表 71 ②配偶者 (性別・年代別)

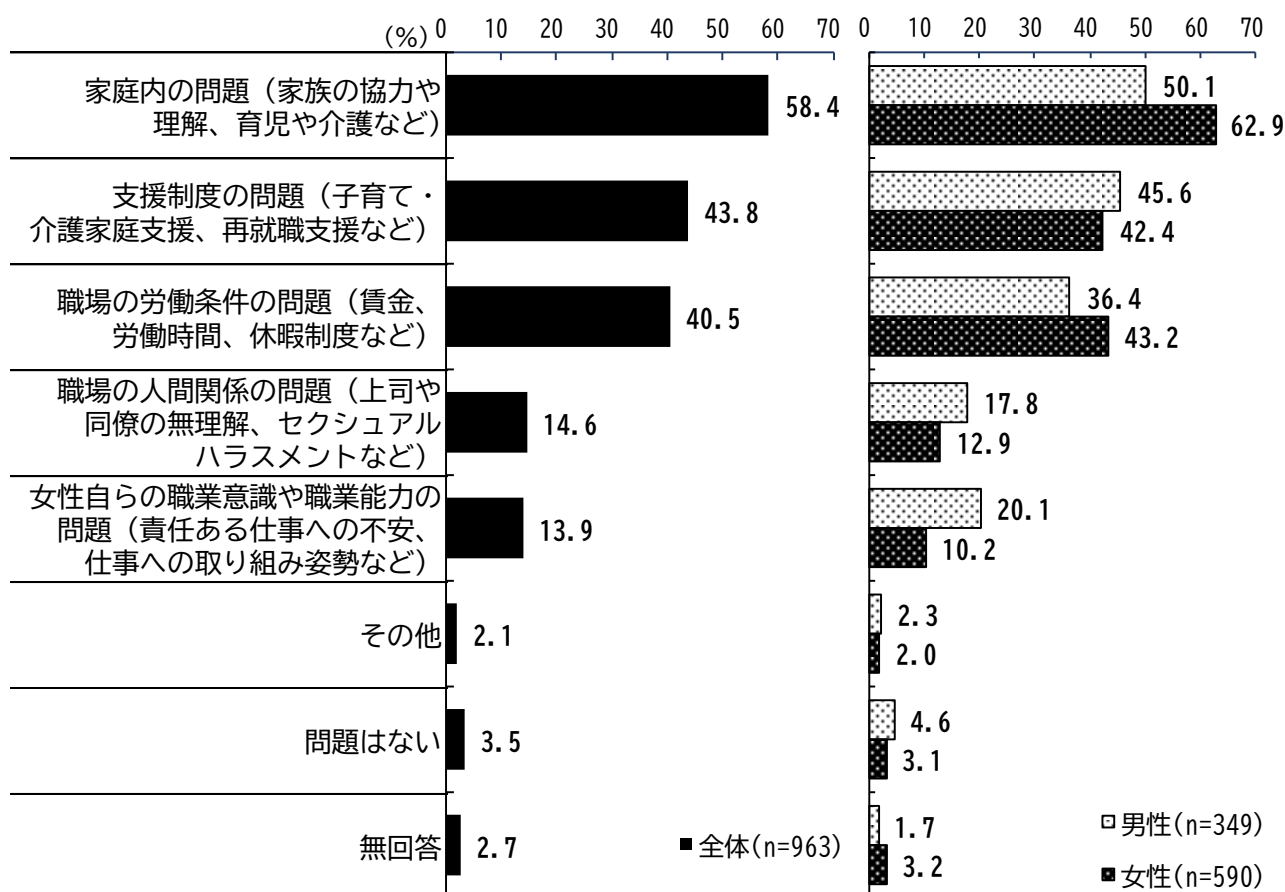


(4) 女性の職業生活について

問7 あなたは、女性が職業に就いたり、職業生活を続けたりする上で、障壁となっているものは何だと思えますか。(〇は2つまで)

- 「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」が58.4%と最も高く、次いで「支援制度の問題（子育て・介護家庭支援、再就職支援など）」(43.8%)、「職場の労働条件の問題（賃金、労働時間、休暇制度など）」(40.5%)となっています。
- 性別では、女性で「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」が12.8ポイント、「職場の労働条件の問題（賃金、労働時間、休暇制度など）」が6.8ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「女性自らの職業意識や職業能力の問題（責任ある仕事への不安、仕事への取り組み姿勢など）」が20.1%と、女性より9.9ポイント高くなっています。

図表 72 女性の就労上の障壁（性別）



年代別／子どもの有無別

- 年代別では、いずれの年代も「家庭内の問題」が最も高く、次いで「支援制度の問題」と「職場の労働条件の問題」が高くなっています。また、20歳代と30歳代で「職場の人間関係の問題」が2割以上と、他の年代と比べて高くなっています。
- 子どもの有無別では、「子どもはいない」で「職場の人間関係の問題」が22.7%と、「子どもがいる」より10.9ポイント高くなっています。一方で、「子どもがいる」で「職場の労働条件の問題」が10.1ポイント、「家庭内の問題」が8.5ポイント、それぞれ「子どもはいない」より高くなっています。

図表 73 女性の就労上の障壁（年代別）

		件数 (件)	家庭 内の 問題	支 援 制 度 の 問 題	の 職 場 の 労 働 条 件	の 職 場 の 人 間 関 係	の 意 識 や 自 ら の 職 業 能 力	そ の 他	問 題 は な い	無 回 答
全	体	963	58.4	43.8	40.5	14.6	13.9	2.1	3.5	2.7
年 代 別	20歳代	97	57.7	51.5	39.2	24.7	9.3	3.1	3.1	-
	30歳代	122	53.3	43.4	45.1	25.4	12.3	2.5	2.5	0.8
	40歳代	192	59.9	45.8	39.1	7.3	17.2	3.6	3.6	2.1
	50歳代	172	62.8	40.1	45.9	12.8	15.7	1.2	4.1	1.2
	60歳代	152	59.9	46.1	34.2	14.5	14.5	2.6	1.3	2.6
	70歳以上	202	55.0	38.6	40.6	12.4	11.9	0.5	5.4	6.9

図表 74 女性の就労上の障壁（子どもの有無別）

	件数 (件)	家庭 内の 問題	支 援 制 度 の 問 題	の 職 場 の 労 働 条 件	の 職 場 の 人 間 関 係	の 意 識 や 自 ら の 職 業 能 力	そ の 他	問 題 は な い	無 回 答
子どもがいる	678	60.2	43.8	43.7	11.8	13.7	1.6	2.7	2.5
子どもはいない	238	51.7	43.7	33.6	22.7	13.9	3.4	5.5	3.4

過去の調査との比較

- 「職場の労働条件の問題」が年々低くなっており、令和2年で40.5%となっています。一方で、「職場の人間関係の問題」「女性自らの職業意識や職業能力の問題」「問題ない」は、過去の調査のなかで最も高くなっています。

図表 75 女性の就労上の障壁（過去の調査との比較）

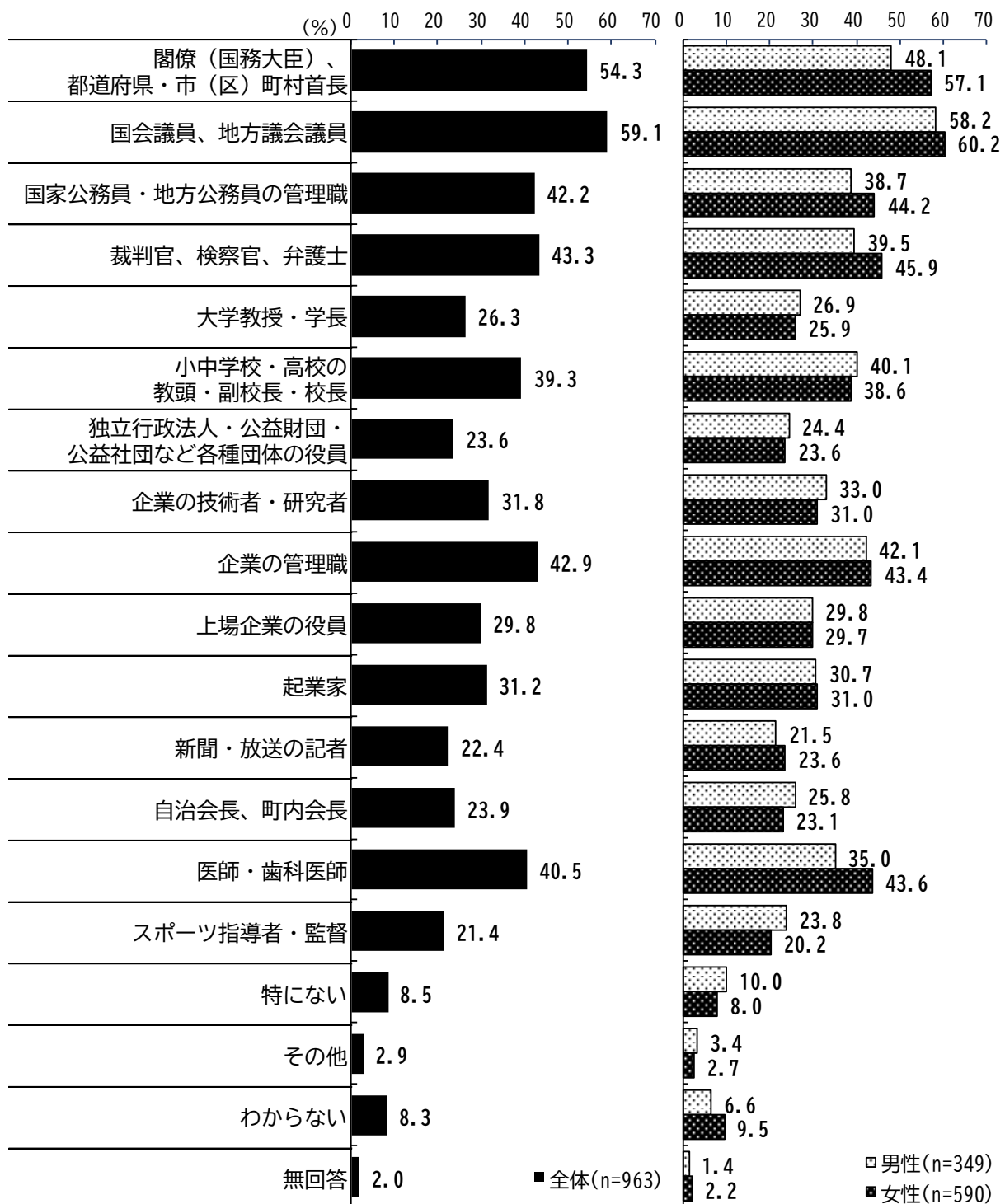
	家庭 内の 問題	支 援 制 度 の 問 題	の 職 場 の 労 働 条 件	の 職 場 の 人 間 関 係	の 意 識 や 自 ら の 職 業 能 力	そ の 他	問 題 は な い	無 回 答
令和2年	58.4	43.8	40.5	14.6	13.9	2.1	3.5	2.7
平成28年	50.8	42.8	40.7	12.8	10.9	-	2.4	-
平成22年	60.6	45.1	45.8	9.5	12.4	-	2.6	-

問8 あなたは、女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 「国会議員、地方議会議員」が59.1%と最も高く、次いで「閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村首長」（54.3%）となっています。
- 性別では、女性で「閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村首長」が9.0ポイント、「医師・歯科医師」が8.6ポイント、「裁判官、検察官、弁護士」が6.4ポイント、「国家公務員・地方公務員の管理職」が5.5ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 76 女性が増える方がよいと思う職業・役職（性別）



- 年代別では、いずれの年代も「国会議員、地方議会議員」が5割以上となっており、なかでも60歳代と70歳以上で約6割となっています。また、70歳以上を除いて「閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村首長」が5割以上となっています。

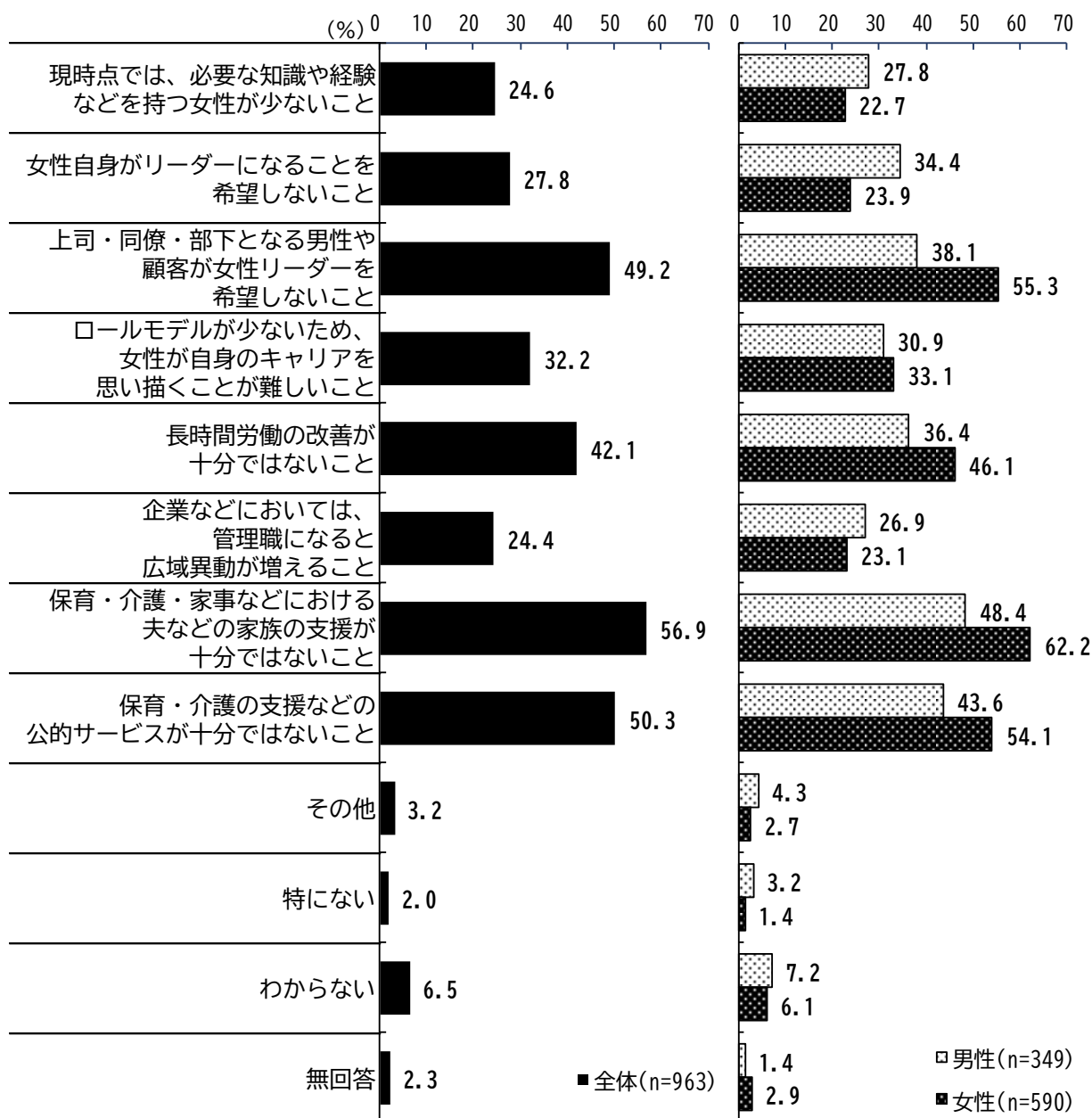
図表 77 女性が増える方がよいと思う職業・役職（年代別）

		(%)																	
		件数 (件)	町 村 首 長	都 道 府 県 ・ 市 (区)	閣 僚 (国 務 大 臣)	国 会 議 員 、 地 方 議 会 議 員	地 方 公 務 員 の 管 理 職	国 家 公 務 員 ・ 地 方 公 務 員 の 管 理 職	護 士 、 裁 判 官 、 検 察 官 、 弁 士	大 学 教 授 ・ 学 長	教 頭 ・ 副 校 長 ・ 高 校 の 長	小 中 学 校 ・ 副 校 長 ・ 校 の 長	各 種 団 体 の 役 員	財 団 ・ 公 益 社 団 な ど	独 立 行 政 法 人 ・ 公 益	研 究 者	企 業 の 技 術 者 ・ 研 究 者	企 業 の 管 理 職	
全 体		963	54.3	59.1	42.2	43.3	26.3	39.3	23.6	31.8	42.9								
年 代 別	20歳代	97	58.8	57.7	42.3	40.2	30.9	44.3	28.9	35.1	50.5								
	30歳代	122	54.1	56.6	45.1	39.3	23.0	35.2	20.5	32.8	44.3								
	40歳代	192	59.4	59.4	45.8	45.8	28.1	39.1	25.0	30.2	46.9								
	50歳代	172	53.5	58.7	37.2	46.5	29.1	41.3	25.0	32.6	41.9								
	60歳代	152	52.0	61.8	38.2	43.4	27.6	34.9	20.4	32.9	40.1								
	70歳以上	202	48.0	60.9	44.1	43.1	21.3	41.1	24.3	29.2	37.1								
		上 場 企 業 の 役 員	起 業 家	新 聞 ・ 放 送 の 記 者	自 治 会 長 、 町 内 会 長	医 師 ・ 歯 科 医 師	監 督 ス ポ ー ツ 指 導 者 ・	特 に な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答								
全 体		29.8	31.2	22.4	23.9	40.5	21.4	8.5	2.9	8.3	2.0								
年 代 別	20歳代	36.1	39.2	18.6	24.7	44.3	27.8	7.2	3.1	6.2	-								
	30歳代	33.6	30.3	22.1	23.0	36.1	18.0	13.9	4.9	6.6	-								
	40歳代	34.4	30.2	21.9	22.9	41.7	22.9	6.3	4.7	6.3	2.1								
	50歳代	27.9	37.8	25.0	22.7	43.6	25.6	8.7	2.9	9.3	2.3								
	60歳代	27.0	25.7	21.7	26.3	39.5	20.4	8.6	3.3	7.9	3.3								
	70歳以上	23.3	26.2	25.2	25.2	37.6	16.8	8.9	-	12.4	2.5								

問9 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

- 「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が56.9%と最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（50.3%）、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」（49.2%）となっています。
- 性別では、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が17.2ポイント、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が13.8ポイント、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が10.5ポイント、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が9.7ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が34.4%と、女性より10.5ポイント高くなっています。

図表 78 女性リーダーの登用が進んでいない理由（性別）



年代別

- 年代別では、20歳代で「女性・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」、それ以外の年代で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が、それぞれ最も高くなっています。また、20歳代で「ロールモデルが少ないため、女性が自身のキャリアを思い描くことが難しいこと」が58.8%、70歳以上で「現時点では、必要な知識や経験を持つ女性が少ないこと」が35.1%と、それぞれ他の年代より10ポイント以上高くなっています。

図表 79 女性リーダーの登用が進んでいない理由（年代別）

		件数 (件)	持つ知識や経験が少ないこと	現時点では、必要な	女性自身を希望しないこと	女性リーダーを希望しないこと	上司・同僚・顧客が希望しないこと	キャリアを思い描くことが難しいこと	ロールモデルが少ないこと	十分ではないこと	長時間労働の改善が	異動が増えること	企業などにおいて、管理職になること
全体		963	24.6	27.8	49.2	32.2	42.1	24.4					
年代別	20歳代	97	20.6	18.6	62.9	58.8	43.3	13.4					
	30歳代	122	21.3	30.3	43.4	43.4	41.0	19.7					
	40歳代	192	22.9	30.2	52.1	33.3	39.1	24.5					
	50歳代	172	20.3	29.7	57.0	34.9	43.0	27.9					
	60歳代	152	22.4	30.9	48.0	23.7	45.4	28.9					
	70歳以上	202	35.1	24.8	36.6	16.3	44.1	26.7					

		ではないこと	保育・介護・家事など	保育・介護・家事など	その他	特にな	わからない	無回答
全体		56.9	50.3	3.2	2.0	6.5	2.3	
年代別	20歳代	58.8	56.7	4.1	3.1	7.2	-	
	30歳代	56.6	47.5	9.8	-	4.9	-	
	40歳代	55.2	43.2	4.7	0.5	5.2	1.6	
	50歳代	62.2	50.6	1.2	1.2	5.2	2.3	
	60歳代	58.6	56.6	2.6	2.6	3.9	4.6	
	70歳以上	53.5	50.0	-	4.5	10.9	4.0	

子どもの有無別

- 子どもの有無別では、「子どもはいない」で「ロールモデルが少ないため、女性が自身のキャリアを思い描くことが難しいこと」が42.9%と、「子どもがいる」より14.7ポイント高くなっています。一方で、「子どもがいる」で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が12.3ポイント、「企業などにおいては管理職になると広域異動が増えること」が8.7ポイント、「女性自身がリーダーとなることを希望しないこと」が5.2ポイント、それぞれ「子どもはいない」より高くなっています。

図表 80 女性リーダーの登用が進んでいない理由（子どもの有無別）

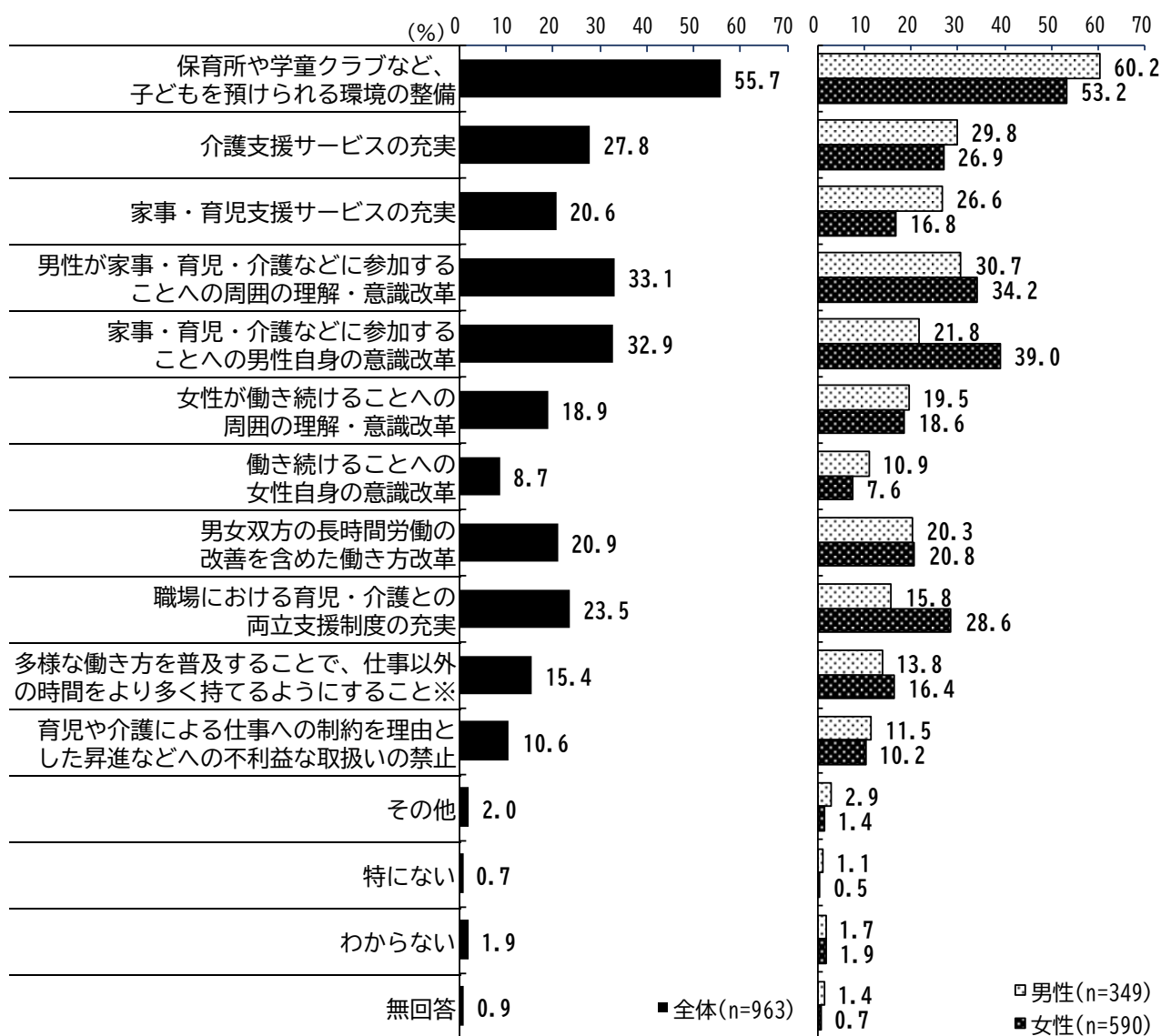
	件数 (件)	持つ知識や経験が少ないこと	現時点では、必要なこと	なる女性自身を希望しないこと	女性自身を希望しないこと	しないこと	なる男性や顧客を希望しないこと	上司・同僚・部下と	ことが難しいこと	キヤリアを思い描くことが少ない	ロールモデルが少ない	十分ではないこと	長時間労働の改善が	異動が増えること	管理職などにおいて広域は、	企業などにおいては、
子どもがいる	678	25.4	29.1	48.8	28.2	43.5	26.8									
子どもはいない	238	21.8	23.9	50.4	42.9	39.5	18.1									
		で家族の支援が十分	保育・介護・家事など	保育・介護の支援	その他	特にな	わ	無								
子どもがいる	60.2	51.6	2.2	1.9	6.3	2.4										
子どもはいない	47.9	45.0	6.3	1.7	6.7	2.5										

(5) ワーク・ライフ・バランスについて

問 10 あなたは、男女が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

- 「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が55.7%と最も高く、次いで「男性が家事・育児・介護などに参加することへの周囲の理解・意識改革」(33.1%)、「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」(32.9%)となっています。
- 性別では、女性で「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」が17.2ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が12.8ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「家事・育児支援サービスの充実」が9.8ポイント、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が7.0ポイント、それぞれ女性より高くなっています。

図表 81 男女が働き続けるために必要なこと(性別)



※「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」

年代別

- 年代別では、いずれの年代も「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高くなっており、なかでも30歳代で63.1%と、最も高くなっています。また、20歳代で「多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること」が28.9%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 82 男女が働き続けるために必要なこと（年代別）

		(%)										
		件数 (件)	ど、保 育所や 学童ク ラブな る環 境の 整備	介 護支 援サ ービ スの 充実	の家事 ・育 児支 援サ ービ ス の充 実	周 囲の 理 解・ 意 識改 革	男 性 が 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 に 参 加 す る こ と へ の 理 解 ・ 意 識 改 革	自 身 の 意 識 改 革	参 加 す る こ と へ の 男 性 に 関 する 意 識 改 革	家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 な ど に 関 する 意 識 改 革	の女 性 が 働 き 続 け る こ と へ の 理 解 ・ 意 識 改 革	自 働 き 続 け る こ と へ の 意 識 改 革
全	体	963	55.7	27.8	20.6	33.1	32.9	18.9	8.7			
年 代 別	20歳代	97	55.7	22.7	25.8	39.2	32.0	13.4	4.1			
	30歳代	122	63.1	15.6	29.5	34.4	32.0	22.1	7.4			
	40歳代	192	49.0	28.6	22.4	40.6	34.9	17.2	9.4			
	50歳代	172	52.9	31.4	15.1	36.0	39.0	20.3	11.0			
	60歳代	152	55.3	32.2	25.0	26.3	29.6	21.1	12.5			
	70歳以上	202	61.4	31.2	11.9	24.3	28.2	18.8	6.9			
		改 善 を 含 め た 長 時 間 方 働 改 革 の	と 職 場 に お け る 支 援 制 度 の 充 実	す る こ と を 多 く 持 て る よ う に 間 を と る	多 様 な 働 き 方 を 普 及 す る こ と を 促 す	の禁 止 な ど の 理 由 に よ る 取 扱 の 進 捗	育 児 や 介 護 に よ る 仕 事 へ の 進 捗	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
全	体	20.9	23.5	15.4	10.6	2.0	0.7	1.9	0.9			
年 代 別	20歳代	26.8	24.7	28.9	11.3	1.0	1.0	1.0	-			
	30歳代	26.2	24.6	17.2	6.6	2.5	-	0.8	-			
	40歳代	17.2	22.4	14.1	9.9	3.6	0.5	1.0	0.5			
	50歳代	21.5	27.9	11.0	11.0	1.2	-	1.2	-			
	60歳代	16.4	25.0	9.9	11.8	2.0	-	2.0	2.0			
	70歳以上	20.3	20.3	17.3	12.4	1.0	2.0	4.0	2.5			

配偶者の有無別／子どもの有無別

- 配偶者の有無別では、「配偶者がいる」で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が58.7%と、「配偶者はいない」より10.6ポイント高くなっています。
- 子どもの有無別では、「子どもはいない」で「多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が21.0%と、「子どもがいる」より7.4ポイント高くなっています。

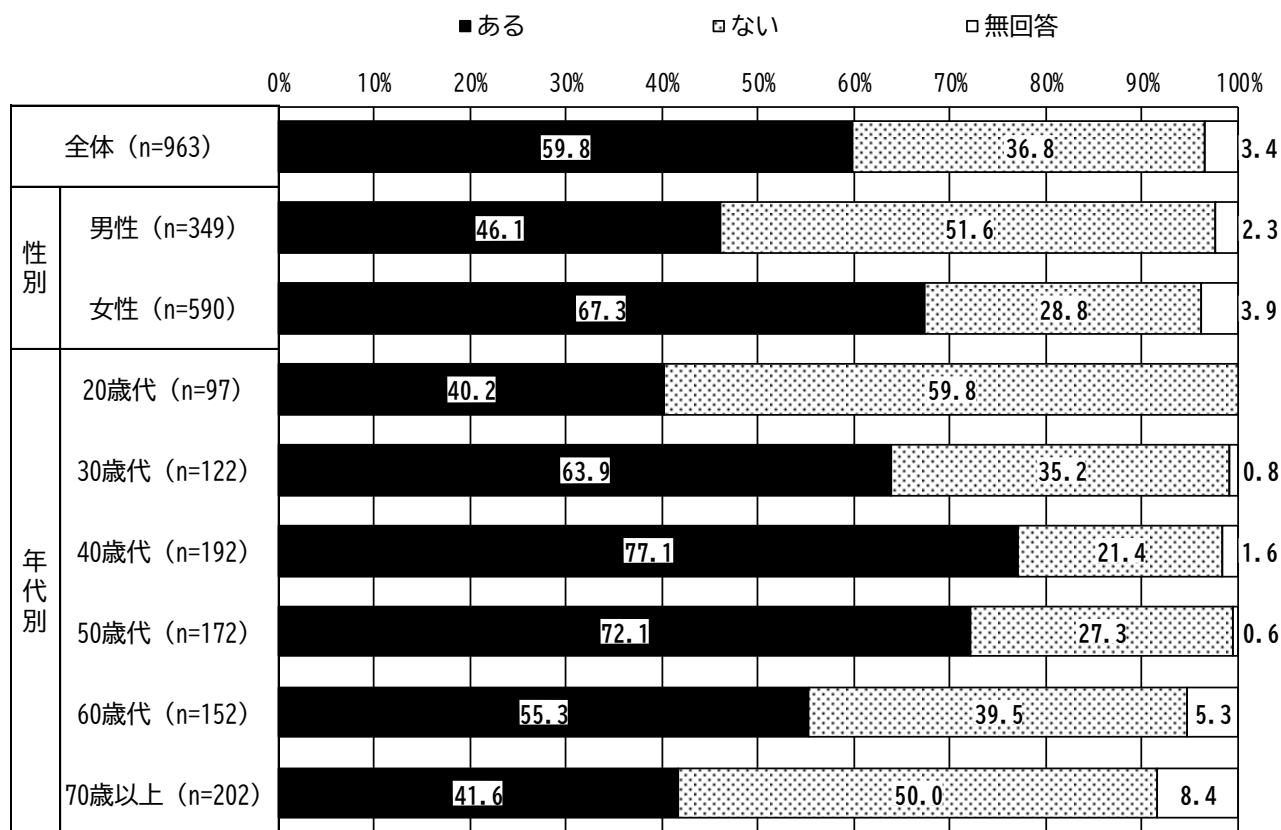
図表 83 男女が働き続けるために必要なこと（配偶者の有無・子どもの有無別）

		(%)								
		件数 (件)	環境、保育所や学童クラブを預けられる整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性が家事・育児・介護などの参加する意識改革	自身参加する意識改革	女性が働き続ける意識改革	働き続けることへの意識改革	
配偶者の有無別	いる	686	58.7	27.4	20.4	32.8	33.1	19.1	8.9	
	いない	239	48.1	29.7	21.3	33.5	31.0	19.2	7.9	
子どもの有無別	いる	678	56.8	27.3	20.6	32.6	33.9	18.1	9.7	
	いない	238	52.9	29.4	19.7	33.2	29.8	21.8	6.7	
		改善を双方含めた長時間労働の	男女双方の長時間労働の	職場における育児・介護の両立支援制度の充実	多様な働き方を普及する	多様な働き方を普及する	多様な働き方を普及する	多様な働き方を普及する	多様な働き方を普及する	多様な働き方を普及する
配偶者の有無別	いる	20.7	23.3	14.9	10.1	1.7	0.6	1.7	0.6	
	いない	21.8	25.1	17.6	12.6	1.7	1.3	1.7	1.7	
子どもの有無別	いる	20.4	24.0	13.6	10.5	1.9	0.6	1.8	0.9	
	いない	21.0	22.7	21.0	12.2	2.1	0.4	1.7	1.3	

問 11 あなたは、これまでに自己都合で離職もしくは転職をしたことがありますか。
(〇は1つ)

- 「ある」が59.8%、「ない」が36.8%となっています。
- 性別では、男性は「ない」が51.6%、女性は「ある」が67.3%となっています。
- 年代別では、20歳代から40歳代にかけて、年代が上がるにつれて「ある」が高くなっており、40歳代で77.1%となっています。また、40歳代以上では、年代が上がるにつれて「ある」が低くなっています。

図表 84 自己都合での離職・転職経験（性別・年代別）

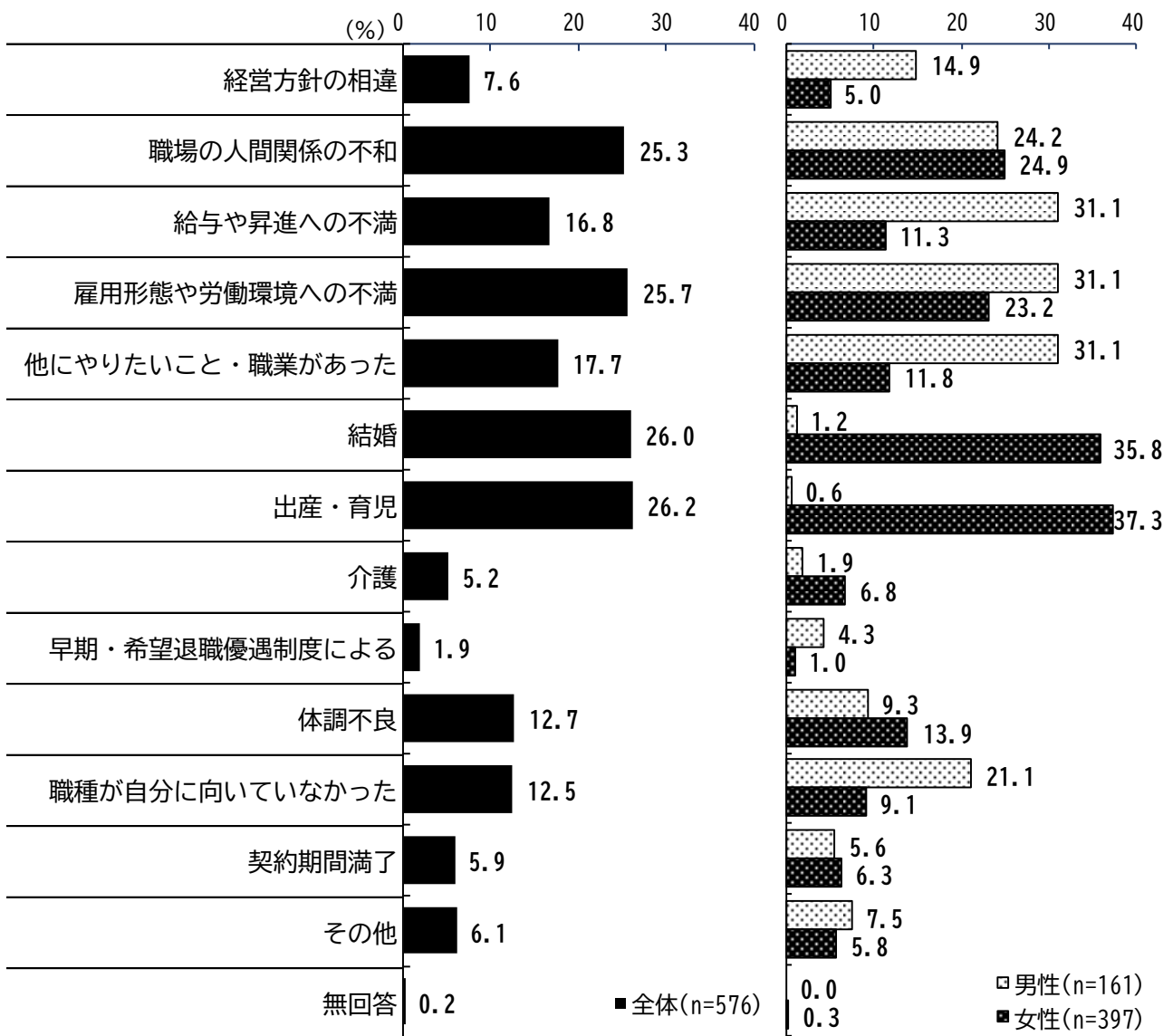


※問 11 で「ある」と回答した方

問 11-1 離職・転職をした理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 「出産・育児」が26.2%と最も高く、次いで「結婚」(26.0%)、「雇用形態や労働環境への不満」(25.7%)、「職場の人間関係の不和」(25.3%)となっています。
- 性別では、男性で「給与や昇進への不満」「雇用形態や労働環境への不満」「他にやりたいこと・職業があった」がいずれも31.1%と、最も高くなっています。一方で、女性で「出産・育児」が37.3%と最も高く、次いで「結婚」(35.8%)となっています。

図表 85 離職・転職をした理由（性別）



- 年代別では、20歳代で「職場の人間関係の不和」と「雇用形態や労働環境への不満」がともに4割以上と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 86 離職・転職をした理由（年代別）

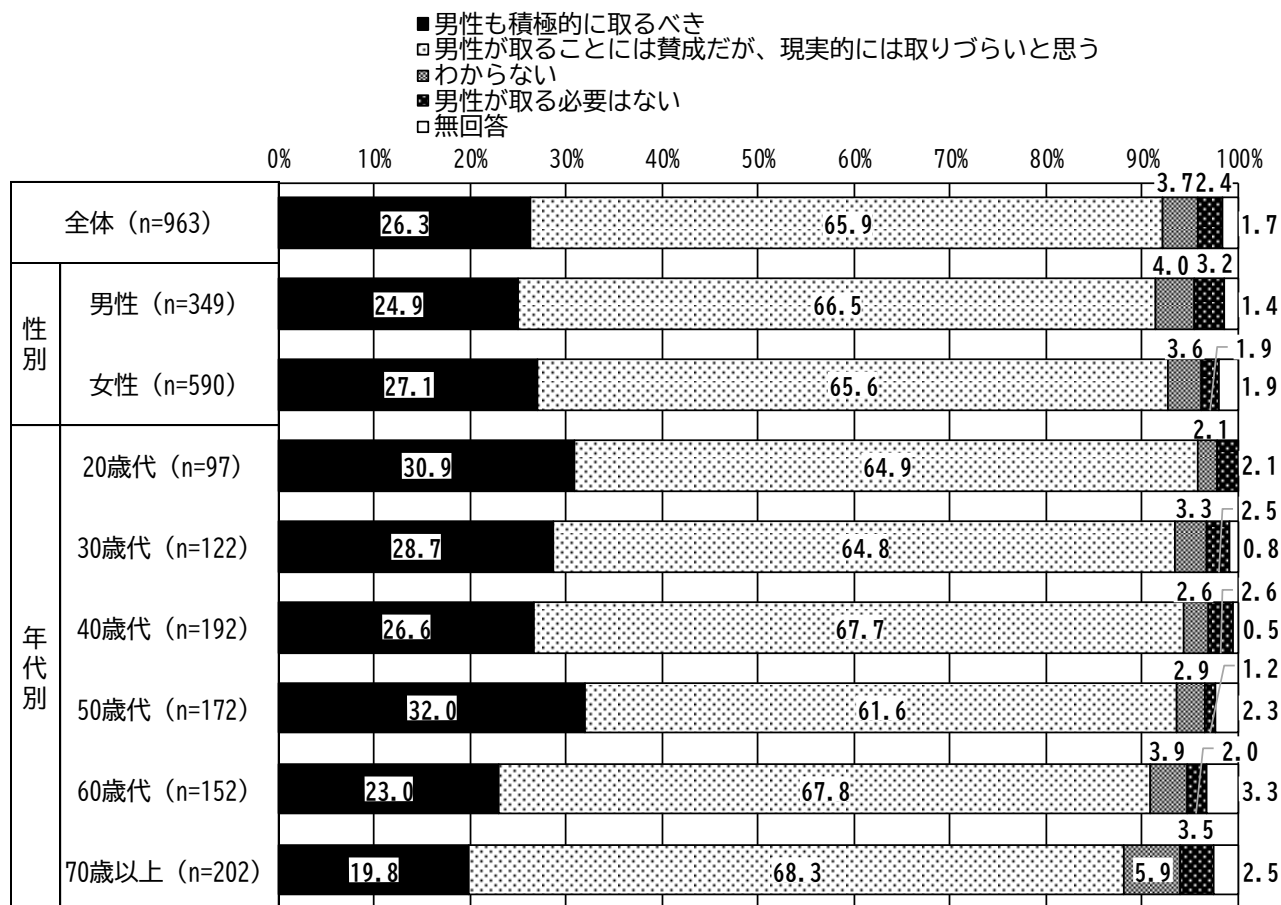
		件数 (件)	経営方針の相違	職場の人間関係の不和	給与や昇進への不満	雇用形態や労働環境への不満	他にやりたいこと・職業があつた	結婚	出産・育児
全体		576	7.6	25.3	16.8	25.7	17.7	26.0	26.2
年代別	20歳代	39	5.1	46.2	17.9	41.0	23.1	12.8	17.9
	30歳代	78	11.5	30.8	20.5	34.6	14.1	30.8	29.5
	40歳代	148	8.8	23.6	15.5	28.4	18.2	22.3	34.5
	50歳代	124	8.9	23.4	20.2	25.0	16.9	31.5	27.4
	60歳代	84	3.6	16.7	14.3	15.5	15.5	15.5	21.4
	70歳以上	84	6.0	20.2	14.3	15.5	19.0	34.5	19.0

		介護	早期・希望退職優遇制度による	体調不良	職種が自分に向いていなかった	契約期間満了	その他	無回答
全体		5.2	1.9	12.7	12.5	5.9	6.1	0.2
年代別	20歳代	7.7	2.6	23.1	12.8	5.1	-	-
	30歳代	-	-	15.4	2.6	5.1	11.5	-
	40歳代	0.7	2.0	14.9	17.6	8.1	4.1	0.7
	50歳代	4.8	-	9.7	8.1	4.0	5.6	-
	60歳代	14.3	6.0	8.3	14.3	7.1	13.1	-
	70歳以上	9.5	2.4	9.5	16.7	6.0	2.4	-

問 12 あなたは、男性が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。
(○は1つ)

- 「男性が取ることに賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が 65.9%と最も高く、次いで「男性も積極的に取るべき」(26.3%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20歳代と50歳代で「男性も積極的に取るべき」が3割以上となっています。

図表 87 男性が育児休業・介護休業を利用することについて（性別・年代別）

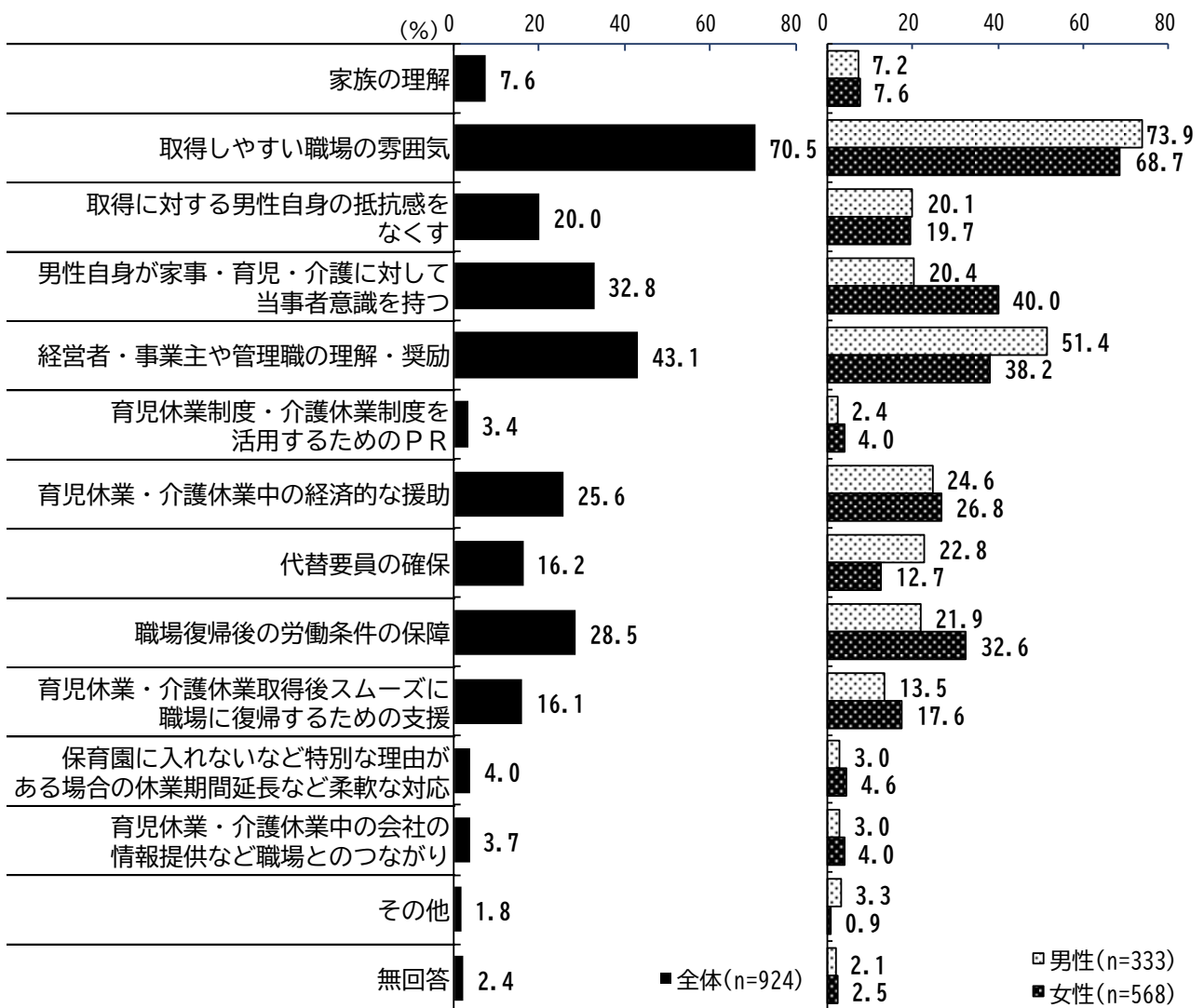


※問 12 で「男性も積極的に取るべき」「男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらと思う」「わからない」のいずれかに回答した方

問 12-1 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 「取得しやすい職場の雰囲気」が 70.5%と最も高く、次いで「経営者・事業主や管理職の理解・奨励」(43.1%)、「男性自身が家事・育児・介護に対して当事者意識を持つ」(32.8%)となっています。
- 性別では、女性で「男性自身が家事・育児・介護に対して当事者意識を持つ」が 19.6 ポイント、「職場復帰後の労働条件の保障」が 10.7 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「経営者・事業主や管理職の理解・奨励」が 13.2 ポイント、「代替要員の確保」が 10.1 ポイント、「取得しやすい職場の雰囲気」が 5.2 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。

図表 88 男性が育児休業・介護休業を取得するために必要なこと(性別)



年代別

- 年代別では、いずれの年代も「取得しやすい職場の雰囲気」が最も高くなっており、なかでも20歳代で76.8%となっています。また、60歳代で「経営者・事業主や管理職の理解・奨励」が54.2%、20歳代で「育児休業・介護休業中の経済的な援助」が37.9%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

図表 89 男性が育児休業・介護休業を取得するために必要なこと（年代別）

		件数 (件)	家族の理解	取得しやすい職場の雰囲気	自身に抵抗を感じる男性	取得に反対する男性	男性自身が家事・育児・介護意識を持って	経営者・事業主や管理職の理解・奨励	育児休業制度・介護休業制度を活用する	育児休業中の経済的な援助	(%)
全体		924	7.6	70.5	20.0	32.8	43.1	3.4	25.6		
年代別	20歳代	95	6.3	76.8	23.2	28.4	36.8	5.3	37.9		
	30歳代	118	4.2	74.6	29.7	35.6	36.4	3.4	25.4		
	40歳代	186	3.8	73.7	17.7	34.4	40.9	1.6	25.8		
	50歳代	166	5.4	75.3	18.7	39.8	44.6	3.0	21.1		
	60歳代	144	12.5	62.5	17.4	34.7	54.2	1.4	22.2		
	70歳以上	190	11.6	64.2	16.8	24.2	43.2	6.3	27.9		

		代替要員の確保	職場の復帰後の労働条件の保障	職場復帰後のケア	育児休業・介護休業中の経済的な援助	延長など柔軟な対応	保育園・託児所など	情報提供など	育児休業中の会社・職場	その他	無回答
全体		16.2	28.5	16.1	4.0	3.7	1.8	2.4			
年代別	20歳代	13.7	31.6	21.1	6.3	3.2	-	-			
	30歳代	15.3	33.9	14.4	3.4	1.7	3.4	1.7			
	40歳代	22.0	30.1	14.0	5.4	7.0	2.2	0.5			
	50歳代	17.5	31.9	14.5	3.6	2.4	0.6	1.2			
	60歳代	19.4	20.1	16.0	2.8	3.5	2.8	2.1			
	70歳以上	10.0	25.8	18.4	3.2	3.2	1.6	6.3			

共働き状況別

- 共働き状況別では、「共働き家庭」で「取得しやすい職場の雰囲気」と「代替要員の確保」が10ポイント以上、「準共働き家庭」で「職場復帰後の労働条件の保障」が5ポイント以上、それぞれ他の家庭より高くなっています。

図表 90 男性が育児休業・介護休業を取得するために必要なこと（共働き状況別）

	件数 (件)	家族の理解	取得しやすい職場の雰囲気	自身に対する抵抗感をなくす	取得に抵抗する男性	男性自身が家事・育児・介護を担う意識を持つ	経営者・事業主や管理者の理解・奨励	育児休業制度・介護休業制度の活用	中育の経済的・介護休業
全体	924	7.6	70.5	20.0	32.8	43.1	3.4	25.6	
共働き家庭	119	6.7	80.7	21.8	32.8	38.7	2.5	16.0	
準共働き家庭	210	4.3	68.6	20.5	38.6	42.9	4.3	27.1	
非共働き家庭	199	8.0	70.4	21.6	35.7	44.2	3.0	29.1	
その他	124	11.3	61.3	12.1	27.4	41.1	4.0	26.6	

	代替要員の確保	職場復帰後の労働条件の保障	取得後スムーズに復職するための支援	育児休業・介護休業の延長など柔軟な対応	保育園に入れないなどの理由	情報提供など職場	その他	無回答
全体	16.2	28.5	16.1	4.0	3.7	1.8	2.4	
共働き家庭	28.6	25.2	12.6	6.7	3.4	2.5	2.5	
準共働き家庭	13.8	33.3	17.1	5.2	3.3	1.0	1.4	
非共働き家庭	16.1	24.1	15.1	2.0	3.5	2.0	1.0	
その他	12.1	28.2	17.7	2.4	4.8	1.6	7.3	

一番下の子どもの年齢別

- 一番下の子どもの年齢別では、いずれの年齢も「取得しやすい職場の雰囲気」が最も高く、なかでも「10歳未満」から「20歳代」にかけて7割以上となっています。また、「50歳以上」で「家族の理解」「育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR」「育児休業・介護休業中の経済的な援助」が、それぞれ他の年齢より高くなっています。

図表 91 男性が育児休業・介護休業を取得するために必要なこと（一番下の子どもの年齢別）

	件数 (件)	家族の 理解	取得し やすい 職場の 雰囲気	自身に 対する 抵抗を 感じる 男性	男性が 家事・ 育児に 意識を 持つて いる	経営者 ・事業 主や 奨励	育児休 業制度 を活用 する	中育の 経済的 ・介護 休業
全体	648	7.1	70.5	19.9	35.8	42.6	2.9	25.9
10歳未満	144	2.8	76.4	25.0	38.2	37.5	2.8	29.2
10歳代	117	4.3	73.5	23.1	37.6	41.9	0.9	27.4
20歳代	111	6.3	74.8	17.1	41.4	44.1	1.8	18.0
30歳代	122	7.4	64.8	15.6	39.3	44.3	3.3	27.9
40歳代	122	10.7	63.9	18.9	23.8	48.4	4.1	23.8
50歳以上	23	26.1	56.5	8.7	30.4	30.4	13.0	39.1

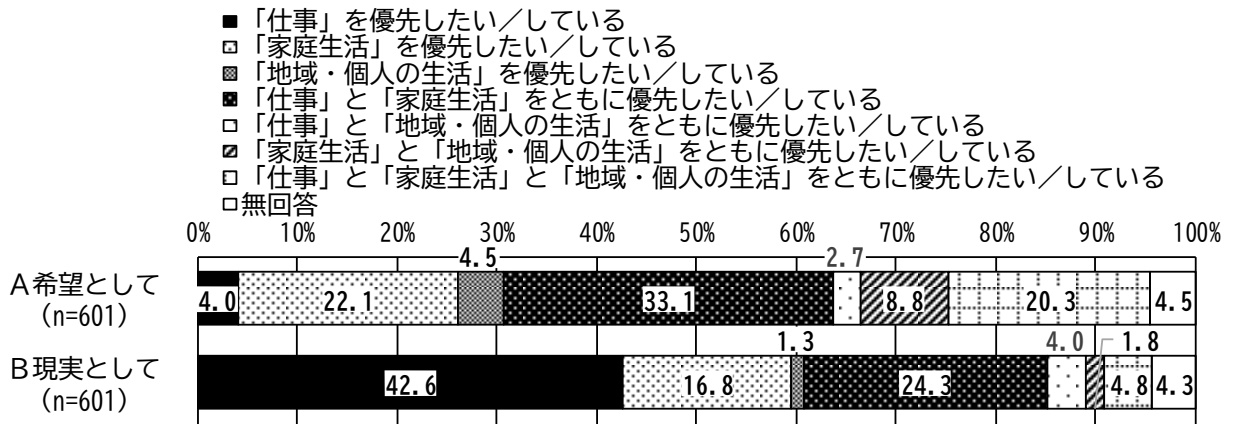
	代替 要員の 確保	職場 復帰 後の 労働 条件	職場 復帰 する ため の 支援	育児 休業 ・介 護休 業 に 対 する 支 援	延長 など 柔軟 な 対 応	保育園 ・児童 館等 の 利用 が 容易 な 場 所 が あ る こ と	情報 提供 など の 取 組 み	その他	無 回 答
全体	15.3	27.5	15.9	3.9	3.5	1.5	2.5		
10歳未満	16.0	30.6	15.3	4.9	2.1	2.1	0.7		
10歳代	18.8	29.1	12.8	2.6	6.8	1.7	1.7		
20歳代	19.8	30.6	14.4	3.6	2.7	1.8	-		
30歳代	15.6	20.5	19.7	6.6	4.1	0.8	0.8		
40歳代	9.0	27.0	18.0	1.6	3.3	1.6	7.4		
50歳以上	-	26.1	13.0	4.3	-	-	13.0		

※問 13、問 14 は仕事に就いている方

問 13 あなたは、暮らしの中での「仕事」、「家庭」、「地域・個人（付き合い、学習・趣味など）」の生活で何を優先しますか。（A、Bについてそれぞれ○を1つ）

- 「A 希望として」で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が 15.5 ポイント、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 8.8 ポイント、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が 7.0 ポイント、それぞれ「B 現実として」より高くなっています。

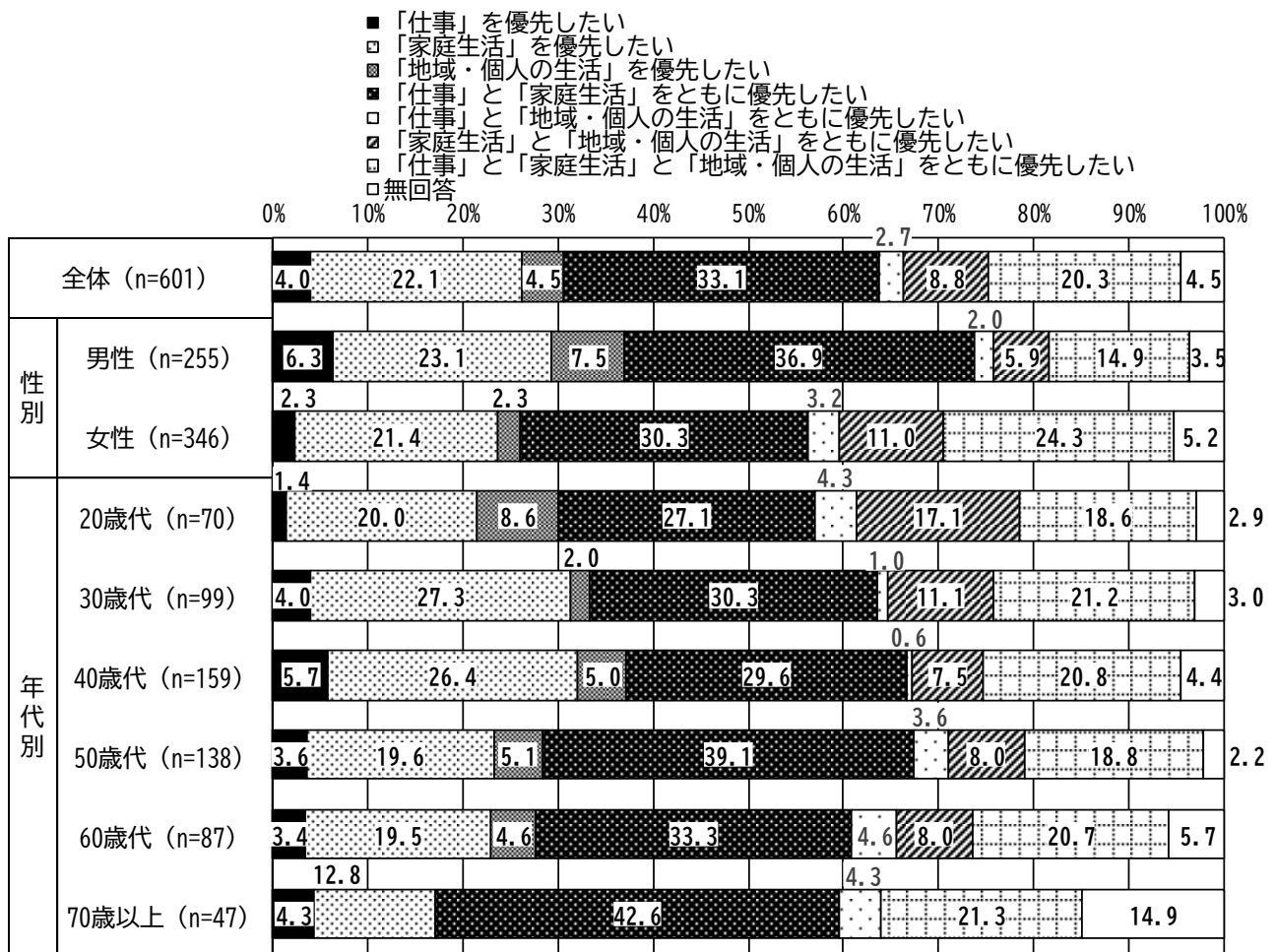
図表 92 ワーク・ライフ・バランス



A 希望として

- 「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が33.1%と最も高く、次いで「『家庭生活』を優先したい」(22.1%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(20.3%)となっています。
- 性別では、女性で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が9.4ポイント、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が5.1ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が6.6ポイント、「『地域・個人の生活』を優先したい」が5.2ポイント、それぞれ女性より高くなっています。

図表 93 A 希望として (性別・年代別)



過去の調査との比較

- 希望は、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が年々高くなっており、令和2年で20.3%となっています。一方で、「『家庭生活』を優先したい」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が、過去の調査の中で最も低くなっています。

図表 94 A 希望として（過去の調査との比較）

									(%)
	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	無回答
令和2年	4.0	22.1	4.5	33.1	2.7	8.8	20.3	4.5	
平成28年	4.8	22.2	3.8	36.1	4.9	8.0	18.4	-	
平成22年	3.9	25.8	4.5	35.8	2.7	8.4	17.6	-	

全国の調査との比較

- 全国の調査と比較すると、全体で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が20.3%と、国より7.2ポイント高くなっています。一方で、「『家庭生活』を優先したい」が6.3ポイント、「『仕事』を優先したい」が5.9ポイント、それぞれ国より低くなっています。
- 性別で見ると、男性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が6.5ポイント、女性では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が9.9ポイント、それぞれ国より高くなっています。

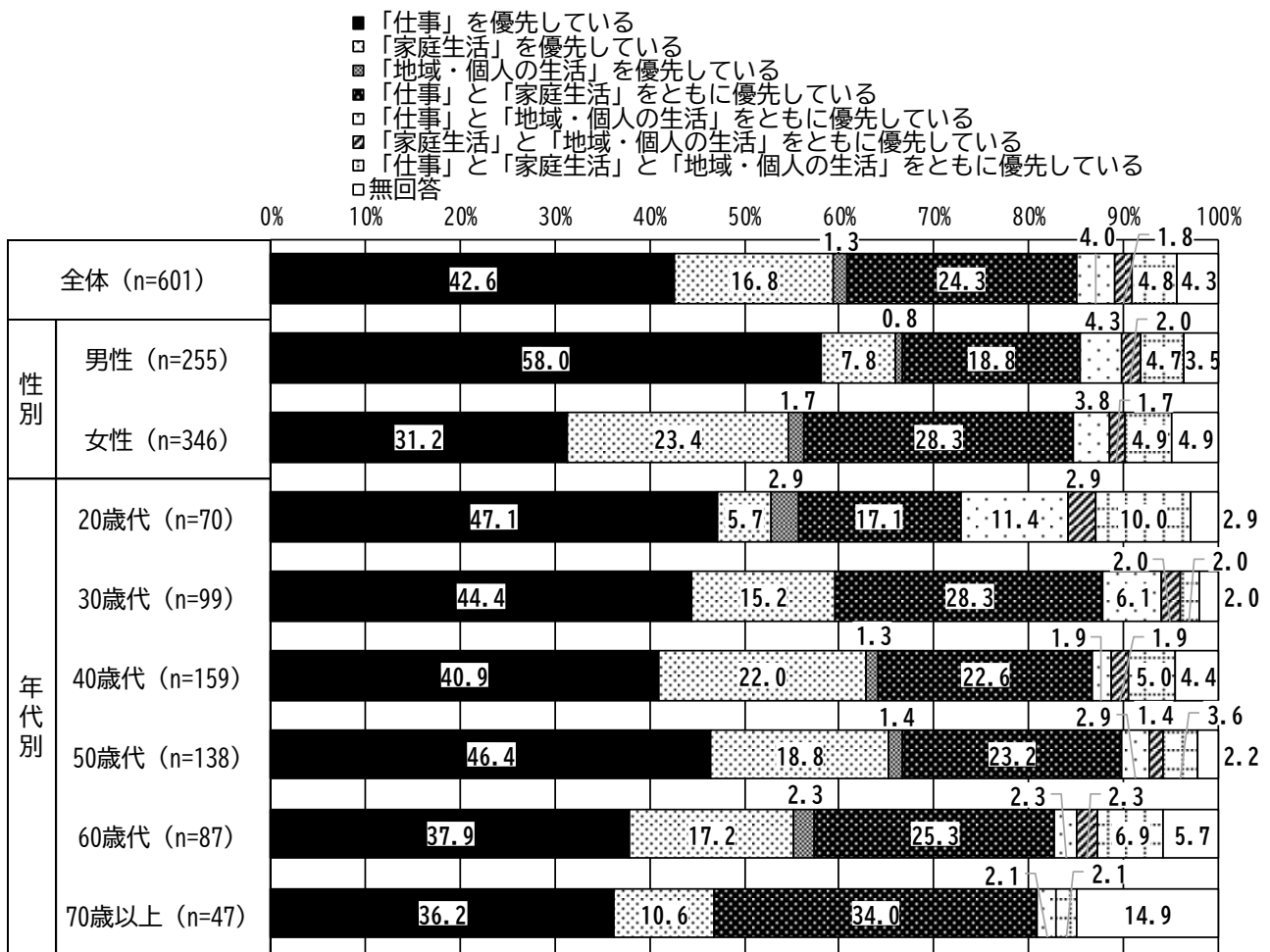
図表 95 A 希望として（全国の調査との比較）

										(%)
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
春日井市	全体	4.0	22.1	4.5	33.1	2.7	8.8	20.3	-	4.5
	男性	6.3	23.1	7.5	36.9	2.0	5.9	14.9	-	3.5
	女性	2.3	21.4	2.3	30.3	3.2	11.0	24.3	-	5.2
全国	全体	9.9	28.4	4.7	28.7	3.3	10.1	13.1	1.9	-
	男性	15.5	20.7	5.8	30.4	4.4	9.3	11.6	2.3	-
	女性	5.0	35.1	3.6	27.2	2.3	10.9	14.4	1.5	-

B 現実として

- 「『仕事』を優先している」が42.6%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」(24.3%)、「『家庭生活』を優先している」(16.8%)となっています。
- 性別では、男性で「『仕事』を優先している」が58.0%と、女性より26.8ポイント高くなっています。一方で、女性で「『家庭生活』を優先している」が15.6ポイント、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が9.5ポイント、それぞれ男性より高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、「『仕事』を優先している」が4割以上となっています。

図表 96 B 現実として (性別・年代別)



過去の調査との比較

- 現実には、「『仕事』を優先している」が過去の調査のなかで最も高く、令和2年で42.6%となっています。一方で、「『家庭生活』を優先している」と「『地域・個人の生活』を優先している」が過去の調査のなかで最も低くなっています。

図表 97 B 現実として（過去の調査との比較）

	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	無回答
令和2年	42.6	16.8	1.3	24.3	4.0	1.8	4.8	4.3	
平成28年	36.1	23.0	2.0	24.9	4.9	1.7	5.7	-	
平成22年	40.5	21.3	3.7	23.3	2.7	3.2	4.2	-	

全国の調査との比較

- 全国の調査と比較すると、全体で「『仕事』を優先している」が42.6%と、国より16.7ポイント高くなっています。一方で、「『家庭生活』を優先している」が13.5ポイント、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が6.3ポイント、それぞれ国より低くなっています。
- 性別で見ると、「『仕事』を優先している」が男性で21.5ポイント、女性で14.6ポイント、それぞれ国より高くなっています。

図表 98 B 現実として（全国の調査との比較）

		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
春日井市	全体	42.6	16.8	1.3	24.3	4.0	1.8	4.8	-	4.3
	男性	58.0	7.8	0.8	18.8	4.3	2.0	4.7	-	3.5
	女性	31.2	23.4	1.7	28.3	3.8	1.7	4.9	-	4.9
全国	全体	25.9	30.3	4.5	21.0	3.1	8.1	5.1	1.9	-
	男性	36.5	19.4	5.5	21.0	4.2	6.4	4.8	2.3	-
	女性	16.6	39.9	3.7	21.0	2.1	9.6	5.3	1.6	-

理想と現実の比較

- 理想と現実を比較すると、現実で「『仕事』を優先している」が42.6%と、理想より38.6ポイント高くなっています。一方で、理想で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が20.3%と、現実より15.5ポイント高くなっています。
- 性別でみると、現実で「『仕事』を優先している」が男性で51.7ポイント、女性で28.9ポイント、それぞれ理想より高くなっています。
- 全国の調査と比べると、女性の「『家庭生活』を優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」を除いて、理想と現実の差が国より大きくなっています。

図表 99 理想と現実の比較

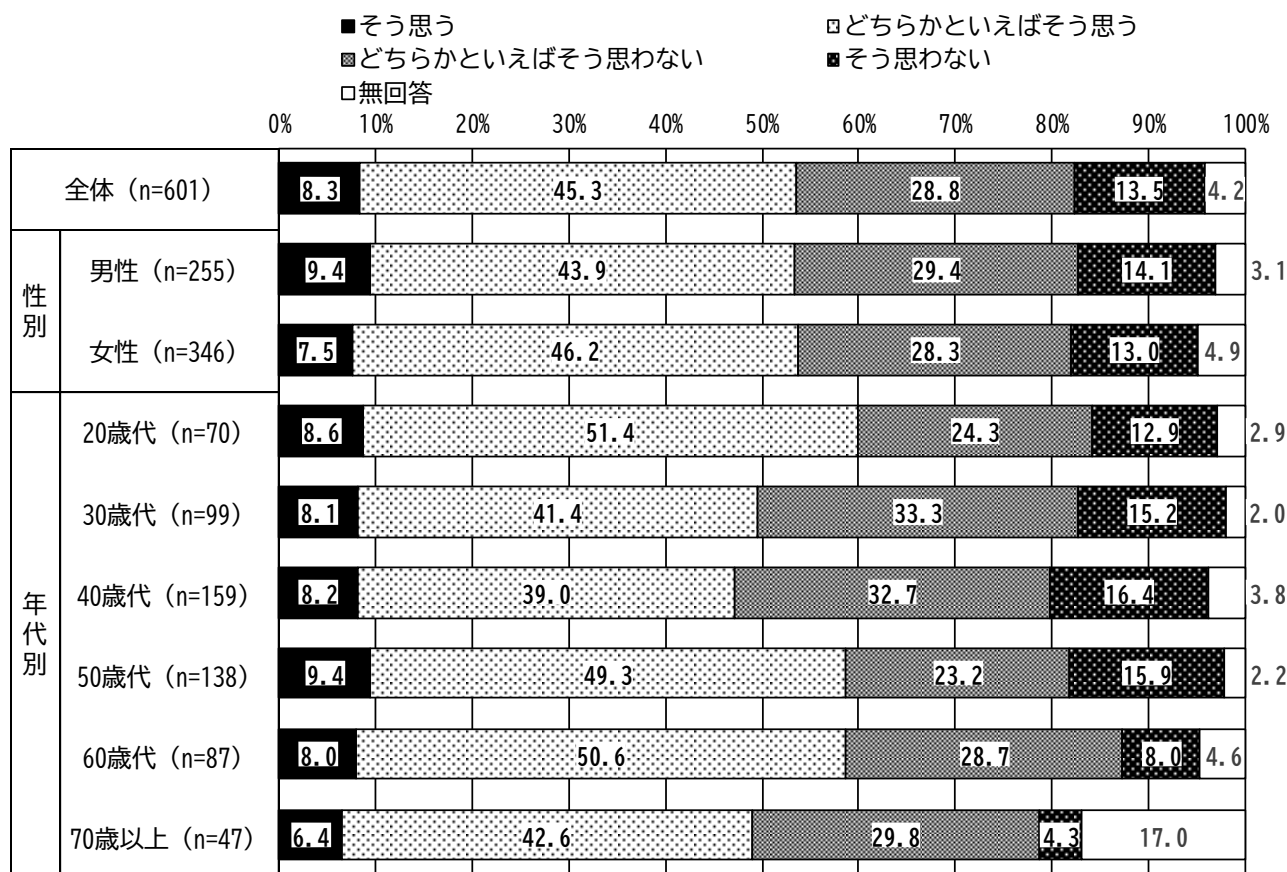
		(%)									
		「仕事」を優先したい／	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい／	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
春日井市	全体	理想	4.0	22.1	4.5	33.1	2.7	8.8	20.3	-	4.5
		現実	42.6	16.8	1.3	24.3	4.0	1.8	4.8	-	4.3
		差	-38.6	5.3	3.2	8.8	-1.3	7.0	15.5	-	0.2
	男性	理想	6.3	23.1	7.5	36.9	2.0	5.9	14.9	-	3.5
		現実	58.0	7.8	0.8	18.8	4.3	2.0	4.7	-	3.5
		差	-51.7	15.3	6.7	18.1	-2.3	3.9	10.2	-	0.0
	女性	理想	2.3	21.4	2.3	30.3	3.2	11.0	24.3	-	5.2
		現実	31.2	23.4	1.7	28.3	3.8	1.7	4.9	-	4.9
		差	-28.9	-2.0	0.6	2.0	-0.6	9.3	19.4	-	0.3
全国	全体	理想	9.9	28.4	4.7	28.7	3.3	10.1	13.1	1.9	-
		現実	25.9	30.3	4.5	21.0	3.1	8.1	5.1	1.9	-
		差	-16.0	-1.9	0.2	7.7	0.2	2.0	8.0	0.0	-
	男性	理想	15.5	20.7	5.8	30.4	4.4	9.3	11.6	2.3	-
		現実	36.5	19.4	5.5	21.0	4.2	6.4	4.8	2.3	-
		差	-21.0	1.3	0.3	9.4	0.2	2.9	6.8	0.0	-
	女性	理想	5.0	35.1	3.6	27.2	2.3	10.9	14.4	1.5	-
		現実	16.6	39.9	3.7	21.0	2.1	9.6	5.3	1.6	-
		差	-11.6	-4.8	-0.1	6.2	0.2	1.3	9.1	-0.1	-

※差は「理想」－「現実」

問 14 “ワーク・ライフ・バランス”とは、仕事や家庭生活、地域・個人の生活が自分の希望に合い調和していることを言います。あなたの生活は、ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思いますか。（○は1つ）

- 「どちらかといえばそう思う」が45.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」（28.8%）、「そう思わない」（13.5%）となっています。また、バランスが“とれていると思う※1”は53.6%、“とれていると思わない※2”は42.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、30歳代と40歳代で“とれていると思わない”が約5割となっています。

図表 100 現在のワーク・ライフ・バランスの状況（性別・年代別）



※1 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」
 ※2 「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」

過去の調査との比較

- バランスが“とれていると思う”が年々高くなっており、令和2年で53.6%となっています。一方で、“とれていると思わない”が年々低くなっており、令和2年で42.3%となっています。

図表 101 現在のワーク・ライフ・バランスの状況（過去の調査との比較）

	とと 思れ つて いる	そ う 思 う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	と と 思 れ わ て な い と 思 う	思 い ど う え ち ば ら な い そ か う と	な い と 思 わ な い	無 回 答
令和2年	53.6	8.3	45.3	42.3	28.8	13.5	4.2
平成28年	49.6	9.7	39.9	48.7	30.0	18.7	-
平成22年	46.3	11.6	34.7	52.8	31.7	21.1	-

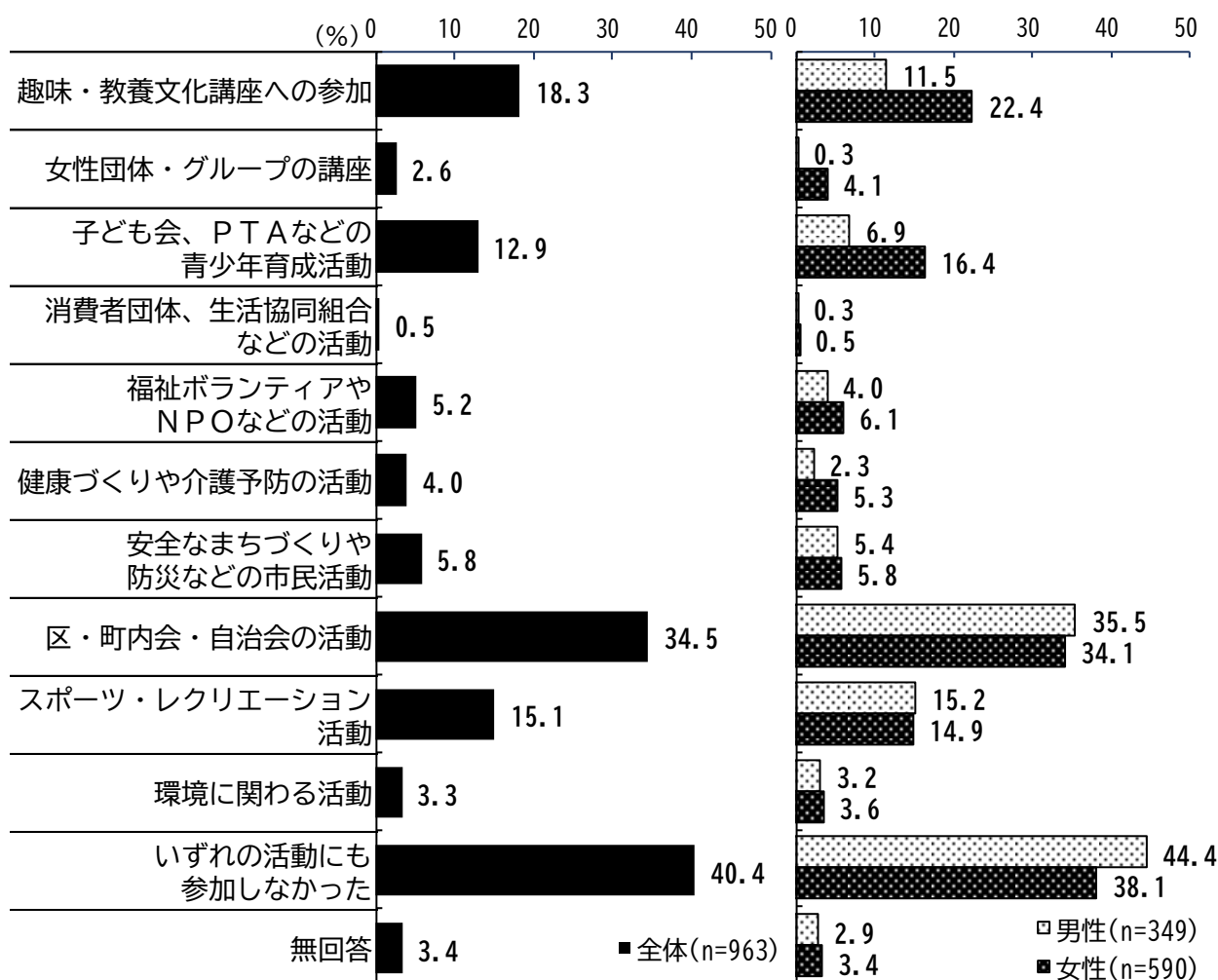
(6) 地域活動について

問 15 最近5年間に、あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 「いずれの活動にも参加しなかった」が40.4%と最も高く、次いで「区・町内会・自治会の活動」(34.5%)、「趣味・教養文化講座への参加」(18.3%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(15.1%)、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」(12.9%)となっています。
- 性別では、女性で「趣味・教養文化講座への参加」が10.9ポイント、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が9.5ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「いずれの活動にも参加しなかった」が44.4%と、女性より6.3ポイント高くなっています。

図表 102 地域活動の参加経験 (性別)



年代別

- 年代別では、20歳代・30歳代・50歳代では「いずれの活動にも参加しなかった」、それ以外の年代では「区・町内会・自治会の活動」がそれぞれ最も高くなっています。また、20歳代で「いずれの活動にも参加しなかった」が63.9%、30歳代で「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が34.4%と、それぞれ他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 103 地域活動の参加経験（年代別）

		件数 (件)	講座・趣味への参加 文化	女性グループの講座	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	生活協同組合などの活動	消費者団体	活動	福祉ボランティアなどの活動	健康づくりや介護予防の活動
全体		963	18.3	2.6	12.9	0.5	5.2	4.0		
年代別	20歳代	97	11.3	-	4.1	1.0	6.2	5.2		
	30歳代	122	13.1	4.1	15.6	0.8	3.3	2.5		
	40歳代	192	16.7	1.0	34.4	-	4.2	2.1		
	50歳代	172	14.0	2.9	10.5	-	5.8	3.5		
	60歳代	152	25.0	2.6	3.9	1.3	7.2	5.9		
	70歳以上	202	25.2	4.5	4.0	-	5.4	5.9		

		市民活動などづくり	区・町内会の活動	スポーツ・レクリエーション活動	環境に関わる活動	参加しなかった活動にも	無回答
全体		5.8	34.5	15.1	3.3	40.4	3.4
年代別	20歳代	5.2	6.2	13.4	6.2	63.9	2.1
	30歳代	3.3	20.5	12.3	2.5	51.6	0.8
	40歳代	7.8	45.8	13.0	2.6	33.9	1.0
	50歳代	5.2	37.2	10.5	3.5	43.0	2.3
	60歳代	5.3	42.1	20.4	3.9	30.9	2.6
	70歳以上	5.9	38.6	19.3	3.0	33.2	8.4

職業別

- 職業別では、「会社員」「派遣・契約社員」「内職・在宅就業」で「いずれの活動にも参加しなかった」が5割以上となっています。また、活動では「区・町内会・自治会の活動」が高くなっています。

図表 104 地域活動の参加経験（職業別）

	件数 (件)	講座・趣味への参加 ・教養文化	グループの講座	青少年育成活動	子ども会、PTAなどの活動	生活者の団体、などの活動組合	活動	福祉ボランティアなどのアイデア	健康づくりの活動
会社員	286	9.4	1.4	8.0	0.3	3.1	1.0		
公務員	35	20.0	-	14.3	-	5.7	-		
派遣・契約社員	24	12.5	8.3	-	-	-	4.2		
パートタイム・アルバイト	197	18.3	1.0	25.9	-	4.1	3.6		
自営業	50	18.0	4.0	18.0	-	10.0	6.0		
農業	4	50.0	-	-	-	25.0	-		
内職・在宅就業	5	20.0	-	40.0	20.0	20.0	-		
専業主婦・専業主夫	153	30.7	6.5	12.4	0.7	7.2	9.8		
学生	13	15.4	-	-	-	15.4	7.7		
無職	149	23.5	3.4	5.4	0.7	6.7	6.0		
その他	21	14.3	-	19.0	-	4.8	-		

	市や安全なまちづくり 防災などの活動	自治会・町内会の活動	エスポーション・活動	環境に関わる活動	参加しなかつた活動にも	無回答
会社員	2.8	24.5	11.2	2.4	54.9	2.4
公務員	8.6	48.6	20.0	8.6	28.6	-
派遣・契約社員	-	29.2	4.2	-	58.3	4.2
パートタイム・アルバイト	8.6	39.6	12.2	2.5	34.0	4.1
自営業	8.0	50.0	22.0	6.0	28.0	2.0
農業	-	100.0	-	-	-	-
内職・在宅就業	20.0	40.0	20.0	20.0	60.0	-
専業主婦・専業主夫	6.5	36.6	20.9	2.6	34.0	2.0
学生	15.4	-	23.1	15.4	46.2	-
無職	5.4	36.9	18.1	4.0	34.9	6.0
その他	-	47.6	14.3	-	23.8	4.8

配偶者の有無別／子どもの有無別

- 配偶者の有無別では、「配偶者がいる」で「区・町内会・自治会の活動」が 41.1%、「配偶者がいない」で「いずれの活動にも参加しなかった」が 57.7%と、それぞれ最も高くなっています。
- 子どもの有無別では、「子どもがいる」で「区・町内会・自治会の活動」が 42.3%、「配偶者がいない」で「いずれの活動にも参加しなかった」が 58.4%と、それぞれ最も高くなっています。

図表 1056 地域活動の参加経験（配偶者の有無・子どもの有無別）

		（％）								
		件数 (件)	講座・ 趣味への 参加文化	女性 グループ の講座	PTA などの 活動	子ども 会、 青少年 育成活 動	消費者 協同組 合、 などの 活動	活動 やNPO などの ティア	福祉 ボランティア などの 活動	健康 づくり の活動
配偶者の 有無別	いる	686	20.6	3.5	16.3	0.4	5.2	4.2		
	いない	239	12.1	0.4	2.9	0.4	5.4	4.2		
子どもの 有無別	いる	678	20.5	3.2	17.4	0.4	5.3	4.6		
	いない	238	13.9	1.3	1.3	0.4	5.5	2.9		

		市や安 民防全 活動災 なまち などの づくり	自治 区・町 内会 の活 動・	エス ポー シヨ ン・ 活レ 動ク リ	環 境に 関わ る活 動	参 加し な か つ た も の活 動	無 回 答
配偶者の 有無別	いる	6.3	41.1	16.0	3.6	34.3	2.8
	いない	4.2	16.7	12.6	2.5	57.7	4.2
子どもの 有無別	いる	6.5	42.3	16.2	3.4	32.9	3.4
	いない	3.4	15.5	12.6	3.8	58.4	2.5

過去の調査との比較

- 「安全なまちづくりや防災などの市民活動」「区・町内会・自治会の活動」「スポーツ・レクリエーション活動」「いずれの活動にも参加しなかった」を除いて、令和2年が過去の調査のなかで最も低くなっています。

図表 106 地域活動の参加経験（過去の調査との比較）

	講座・趣味への参加	女性グループの講座	子ども会、PTAなどの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	福祉ボランティアなどの活動	健康づくりや介護予防の活動	安全なまちづくりなどの市民活動
令和2年	18.3	2.6	12.9	0.5	5.2	4.0	5.8
平成28年	18.4	3.3	16.9	0.8	6.0	4.0	5.2
平成22年	28.7	6.8	27.0	4.7	7.1	6.1	5.4

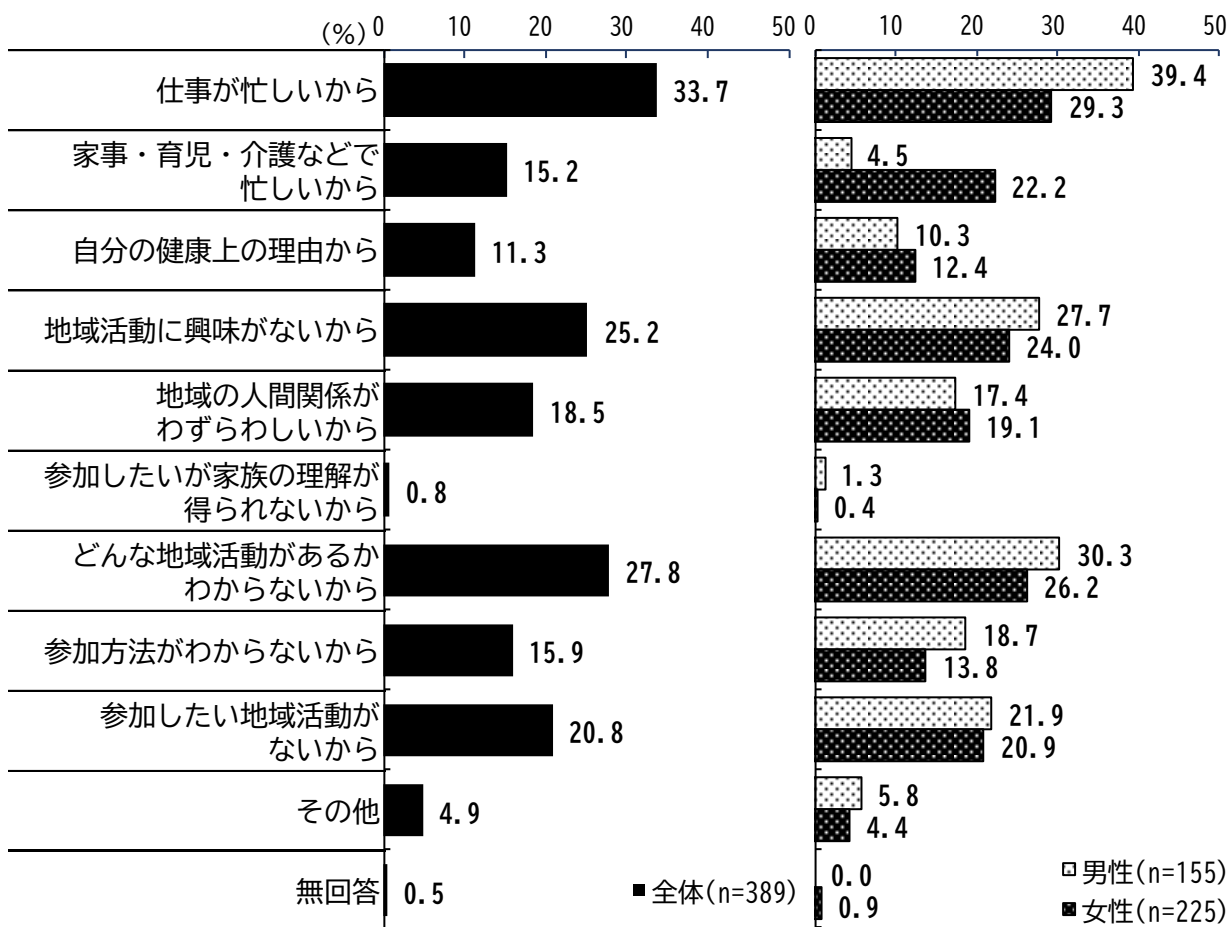
	区・町内会の活動	スポーツ・レクリエーション活動	環境に関わる活動	防災に関する活動	文化・芸術活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
令和2年	34.5	15.1	3.3	-	-	40.4	3.4
平成28年	35.6	11.4	3.8	-	-	40.7	-
平成22年	33.7	17.6	4.8	11.6	9.3	32.3	-

※問 15 で「いずれの活動にも参加しなかった」と回答した方

問 15-1 いずれの活動にも参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 「仕事が忙しいから」が 33.7%と最も高く、次いで「どんな地域活動があるかわからないから」(27.8%)、「地域活動に興味がないから」(25.2%)、「参加したい地域活動がないから」(20.8%)となっています。
- 性別では、女性で「家事・育児・介護などで忙しいから」が 22.2%と、男性より 17.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「仕事が忙しいから」が 39.4%と、女性より 10.1ポイント高くなっています。

図表 107 地域活動に参加しなかった理由（性別）



年代別／職業別

- 年代別では、20歳代で「どんな地域活動があるかわからないから」、30歳代から60歳代にかけて「仕事が忙しいから」、70歳以上で「自分の健康上の理由から」が、それぞれ最も高くなっています。
- 職業別では、「会社員」「パートタイム・アルバイト」「自営業」で「仕事が忙しいから」、「専業主婦・専業主夫」で「家事・育児・介護などで忙しいから」、「無職」で「自分の健康上の理由から」が、それぞれ最も高くなっています。

図表 108 地域活動に参加しなかった理由（年代別）

													(%)		
		件数 (件)	仕事 が忙 しい から	家 事・ 育 児・ 介 護 な ど で 忙 し い から	理 由 自 分 の 健 康 上 の	な い 地 域 活 動 に 興 味 が	わ ず ら の 人 間 関 係 が	理 解 が 得 ら れ な い 家 族 の ら	参 加 し た い が な い か ら	か ど ん な 地 域 活 動 が あ る	わ か ら な い か ら	地 域 活 動 が あ ら な い か ら	参 加 し た い が な い か ら	そ の 他	無 回 答
全	体	389	33.7	15.2	11.3	25.2	18.5	0.8	27.8	15.9	20.8	4.9	0.5		
年 代 別	20歳代	62	25.8	9.7	8.1	37.1	14.5	-	45.2	21.0	29.0	3.2	-		
	30歳代	63	41.3	17.5	4.8	25.4	17.5	1.6	34.9	22.2	11.1	6.3	-		
	40歳代	65	47.7	23.1	7.7	29.2	18.5	-	30.8	15.4	23.1	1.5	-		
	50歳代	74	41.9	13.5	4.1	29.7	23.0	1.4	21.6	10.8	17.6	4.1	1.4		
	60歳代	47	34.0	21.3	14.9	21.3	25.5	-	17.0	17.0	23.4	8.5	-		
	70歳以上	67	9.0	6.0	31.3	10.4	13.4	1.5	17.9	10.4	25.4	7.5	1.5		

図表 109 地域活動に参加しなかった理由（職業別）

													(%)		
		件数 (件)	仕事 が忙 しい から	家 事・ 育 児・ 介 護 な ど で 忙 し い から	理 由 自 分 の 健 康 上 の	な い 地 域 活 動 に 興 味 が	わ ず ら の 人 間 関 係 が	理 解 が 得 ら れ な い 家 族 の ら	参 加 し た い が な い か ら	か ど ん な 地 域 活 動 が あ る	わ か ら な い か ら	地 域 活 動 が あ ら な い か ら	参 加 し た い が な い か ら	そ の 他	無 回 答
会	社	157	47.8	8.9	7.0	28.0	19.1	0.6	31.8	20.4	17.2	6.4	0.6		
公	務	10	40.0	-	-	50.0	10.0	-	30.0	-	30.0	-	-		
派	遣・契	14	42.9	21.4	-	50.0	21.4	-	42.9	21.4	7.1	-	-		
パ	ー	67	35.8	22.4	4.5	28.4	19.4	-	26.9	17.9	26.9	1.5	-		
自	営	14	50.0	7.1	7.1	14.3	14.3	-	21.4	21.4	28.6	-	-		
農	業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
内	職・在	3	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-	
専	業	52	5.8	34.6	19.2	21.2	19.2	1.9	25.0	13.5	15.4	3.8	-		
学	生	6	16.7	-	-	16.7	-	-	83.3	-	33.3	-	-		
無	職	52	7.7	5.8	36.5	11.5	17.3	1.9	13.5	5.8	32.7	9.6	1.9		
そ	の	5	40.0	60.0	-	20.0	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-		

配偶者の有無別／子どもの有無別

- 配偶者の有無別では、「配偶者がいる」で「家事・育児・介護などで忙しいから」が20.9%と、「配偶者はいない」より15.8ポイント高くなっています。一方で、「配偶者はいない」で「仕事が忙しいから」が37.7%と、「配偶者がいる」より6.2ポイント高くなっています。
- 子どもの有無別では、「家事・育児・介護などで忙しいから」「地域の人間関係がわずらわしいから」「参加したいが家族の理解が得られないから」「その他」を除いて、「子どもがいない」が「子どもがいる」より高くなっています。なかでも、「地域活動に興味がないから」が11.1ポイント、「どんな地域活動があるかわからないから」が10.9ポイント、それぞれ「子どもがいる」より10ポイント以上高くなっています。一方で、「子どもがいる」で「家事・育児・介護などで忙しいから」が22.4%と、「子どもはいない」より17.4ポイント高くなっています。

図表 110 地域活動に参加しなかった理由（配偶者の有無・子どもの有無別）

		(%)												
		件数 (件)	仕事 が忙 しい から	家 事・ 育 児・ 介 護 な ど	理 由 自 分 の 健 康 上 の	な 地 域 か ら 活 動 に 興 味 が	わ 地 域 の 人 間 関 係 が	理 解 が 得 ら れ な い か ら	参 加 し た い が 家 族 の 理 解 が 得 ら れ な い か ら	か ど ん な 地 域 の 活 動 が あ る か わ か ら な い か ら	わ 参 加 方 法 が あ ら ず な か ら	地 域 の 活 動 が あ ら ず な か ら	そ の 他	無 回 答
配偶者の 有無別	いる	235	31.5	20.9	10.6	24.7	17.9	1.3	26.4	15.3	20.9	3.8	0.4	
	いない	138	37.7	5.1	13.0	26.8	20.3	-	30.4	17.4	22.5	6.5	0.7	
子どもの 有無別	いる	223	31.4	22.4	12.1	22.0	19.3	1.3	22.9	12.6	18.8	4.5	0.9	
	いない	139	38.8	5.0	12.2	33.1	18.0	-	33.8	20.1	24.5	4.3	-	

過去の調査との比較

- 「地域活動に興味がないから」「地域の人間関係がわずらわしいから」「参加したい地域活動がないから」が年々高くなっています。一方で、「仕事が忙しいから」「どんな地域活動があるかわからないから」が年々低くなっています。

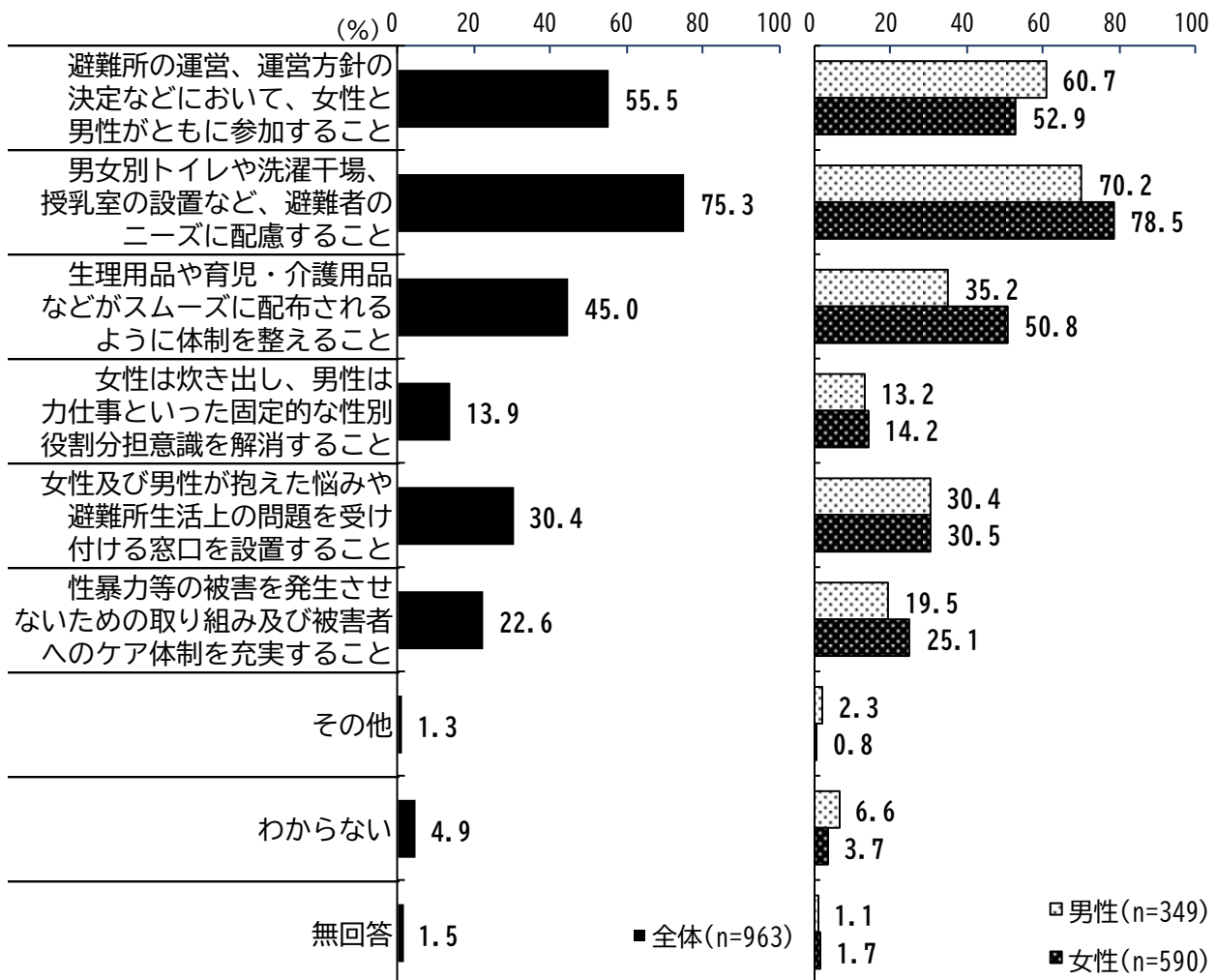
図表 111 地域活動に参加しなかった理由（過去の調査との比較）

		(%)												
		仕事 が忙 しい から	家 事・ 育 児・ 介 護 な ど	理 由 自 分 の 健 康 上 の	な 地 域 か ら 活 動 に 興 味 が	わ 地 域 の 人 間 関 係 が	な の 理 解 が 得 ら れ な い か ら	参 加 し た い が 家 族 の 理 解 が 得 ら れ な い か ら	か ど ん な 地 域 の 活 動 が あ る か わ か ら な い か ら	な 参 加 方 法 が あ ら ず な か ら	活 動 が あ ら ず な か ら	地 域 の 活 動 が あ ら ず な か ら	そ の 他	無 回 答
令和2年		33.7	15.2	11.3	25.2	18.5	0.8	27.8	15.9	20.8	4.9	0.5		
平成28年		39.0	12.4	12.4	24.9	18.1	1.2	32.4	22.5	19.5	4.9	-		
平成22年		50.0	14.3	8.0	19.6	17.9	0.3	33.0	19.9	11.3	5.1	-		

問 16 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が75.3%と最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」(55.5%)、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」(45.0%)となっています。
- 性別では、女性で「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が15.6ポイント、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が8.3ポイント、「性暴力等の被害を発生させないための取り組み及び被害者へのケア体制を充実すること」が5.6ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が60.7%と、女性より7.8ポイント高くなっています。

図表 112 避難所運営において必要なこと(性別)



年代別

- 年代別では、いずれの年代も「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高く、なかでも30歳代と50歳代で約8割となっています。また、年代が下がるにつれて「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が高くなっており、20歳代で59.8%となっています。さらに、50歳代以上で「女性及び男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口を設置すること」、20歳代と30歳代で「性暴力等の被害を発生させないための取り組み及び被害者へのケア体制を充実すること」が、それぞれ3割以上となっています。

図表 113 避難所運営において必要なこと（年代別）

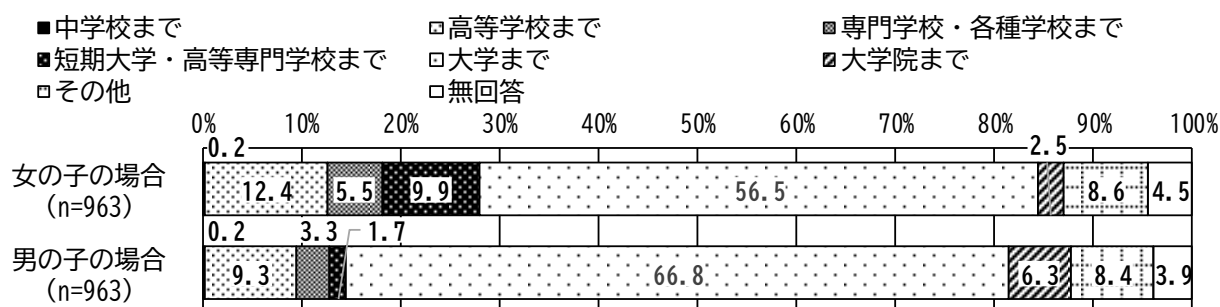
		件数 (件)	ともい にた 参加 する こと と	おの 針の 決ま るこ と	避難 所の 運 営 に 関 する こ と	に な 配 慮 す こ と	干 場 、 授 乳 室 の 設 置 ス	男 女 別 ト イ レ や 洗 濯 ス	を 配 布 さ れ る こ と	用 品 な ど が ス ム ー ズ に	生 理 用 品 や 育 児 ・ 介 護 に	を 解 消 す こ と	的 な 性 別 の 割 分 担 に 関 する 意 識	は 女 性 は 炊 事 や 出 し 、 男 性 は 固 定 性
全	体	963	55.5	75.3	45.0	13.9								
年 代 別	20歳代	97	53.6	78.4	59.8	7.2								
	30歳代	122	47.5	80.3	57.4	9.8								
	40歳代	192	51.0	76.0	51.0	15.6								
	50歳代	172	58.7	80.2	43.0	15.1								
	60歳代	152	63.2	76.3	38.8	10.5								
	70歳以上	202	58.4	65.8	31.2	18.8								
			を 設 置 す こ と	問 題 を 受 け 付 け る こ と	悩 み や 避 難 所 上 の 活 動 の た	女 性 及 び 男 性 が 抱 え た た	体 制 を 充 実 す こ と	み 及 び 被 害 者 の こ と	さ し な め の 取 組 み	性 暴 力 等 の 被 害 を 発 生	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全	体	30.4	22.6	1.3	4.9	1.5								
年 代 別	20歳代	19.6	37.1	1.0	3.1	1.0								
	30歳代	24.6	37.7	1.6	3.3	-								
	40歳代	25.0	29.7	1.6	3.6	0.5								
	50歳代	36.0	21.5	1.2	3.5	0.6								
	60歳代	33.6	12.5	0.7	3.9	2.6								
	70歳以上	37.6	10.4	2.0	9.4	3.5								

(7) 子どもの教育について

問 17 子どもにはどこまで進学することを期待しますか。子どもがいる、いないにかかわらず回答してください。(それぞれ〇を1つ)

- 「男の子の場合」で「大学まで」が66.8%と、「女の子の場合」より10.3ポイント高くなっています。一方で、「女の子の場合」で「短期大学・高等専門学校まで」が9.9%と、「男の子の場合」より8.2ポイント高くなっています。

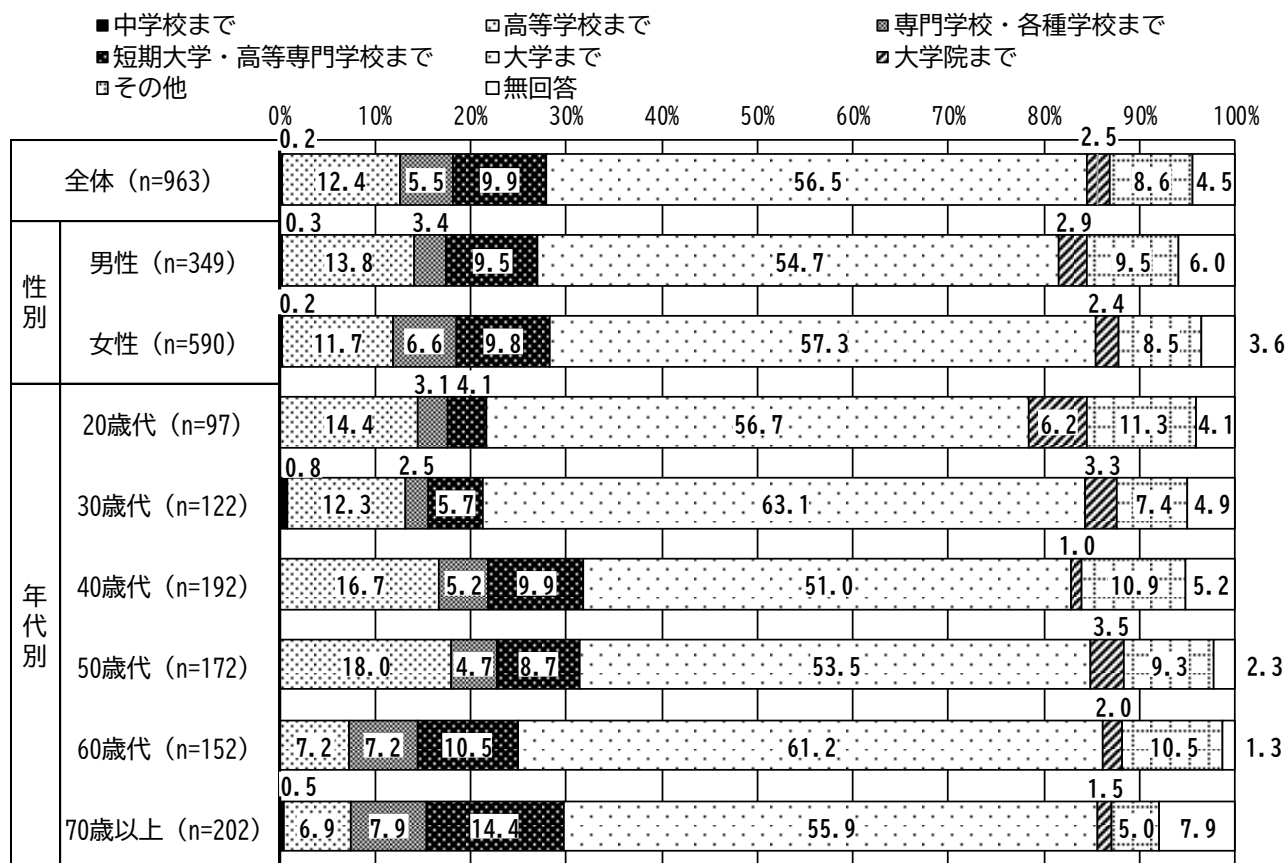
図表 114 子どもに期待する進学先



女の子の場合

- 「大学まで」が56.5%と最も高く、次いで「高等学校まで」(12.4%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、30歳代と60歳代で「大学まで」が6割以上となっています。

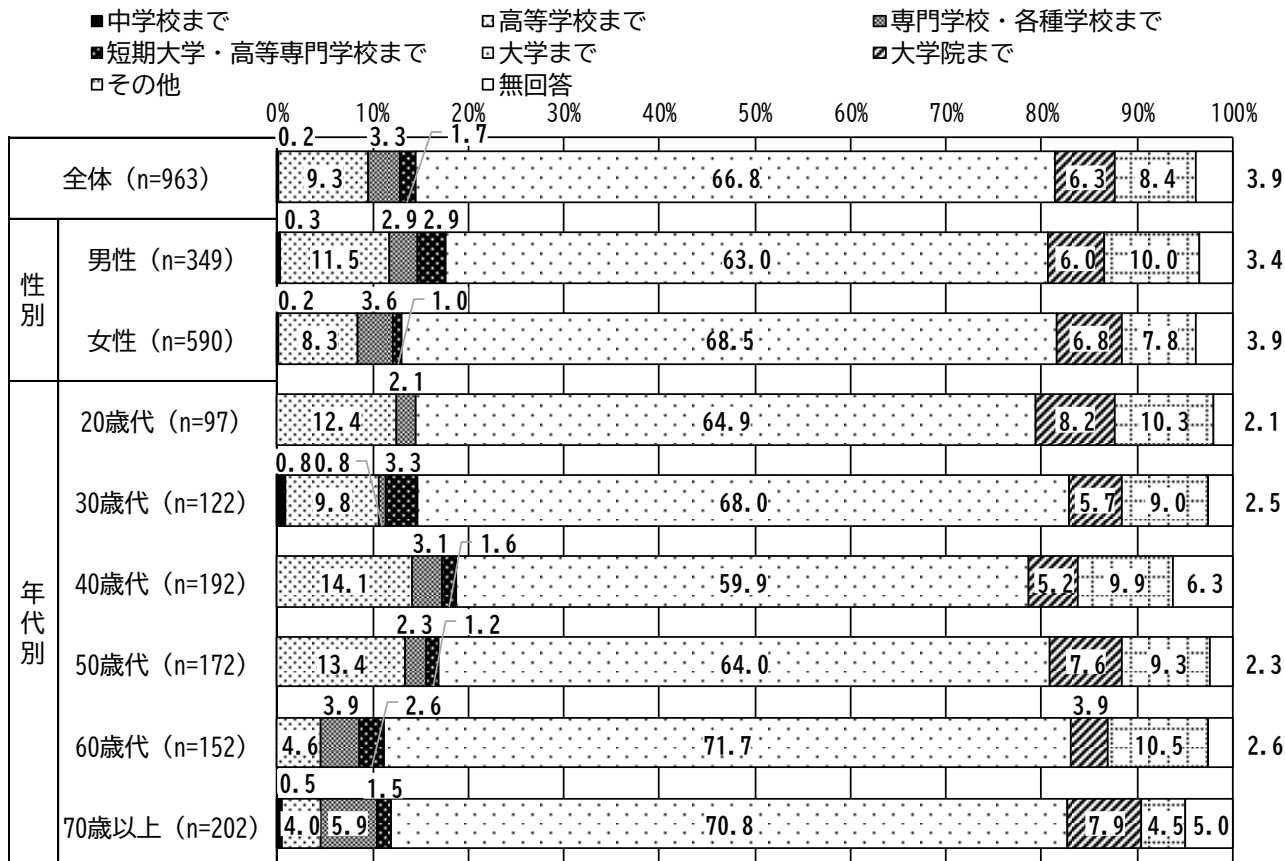
図表 115 女の子の場合 (性別・年代別)



男の子の場合

- 「大学まで」が66.8%と最も高く、次いで「高等学校まで」(9.3%)となっています。
- 性別では、女性で「大学まで」が68.5%と、男性より5.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、60歳代と70歳以上で「大学まで」が約7割となっています。

図表 116 男の子の場合（性別・年代別）



過去の調査との比較

- 「女の子の場合」で「大学まで」が年々高くなっており、令和2年で56.5%となっています。一方で、「短期大学・高等専門学校まで」が年々低くなっており、令和2年で9.9%となっています。

図表 117 子どもに期待する進学先（過去の調査との比較）

		中学校まで	高等学校まで	各専門学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	無回答
女の子の場合	令和2年	0.2	12.4	5.5	9.9	56.5	2.5	8.6	4.5
	平成28年	-	9.1	7.8	10.3	55.1	2.6	11.3	-
	平成22年	3.9	23.2	8.1	16.9	39.1	1.0	4.1	-
男の子の場合	令和2年	0.2	9.3	3.3	1.7	66.8	6.3	8.4	3.9
	平成28年	-	5.8	4.6	1.7	68.3	5.3	10.9	-
	平成22年	4.5	20.8	6.7	2.8	53.8	4.1	4.4	-

中学生・高校生調査との比較

- 女の子に期待する進学先と女子の進学希望をみると、いずれも「大学まで」が5割以上と最も高くなっています。また、中学生女子と高校生女子で「専門学校・各種学校まで」が、市民より約10ポイント高くなっています。一方で、市民で「短期大学・高等専門学校まで」が、中学生女子と高校生女子より約6ポイント高くなっています。
- 男の子に期待する進学先と男子の進学希望をみると、中学生男子と高校生男子で「高等学校まで」が約2割と、市民より約10ポイント高くなっています。一方で、市民で「大学まで」が、中学生男子と高校生男子より約6ポイント高くなっています。

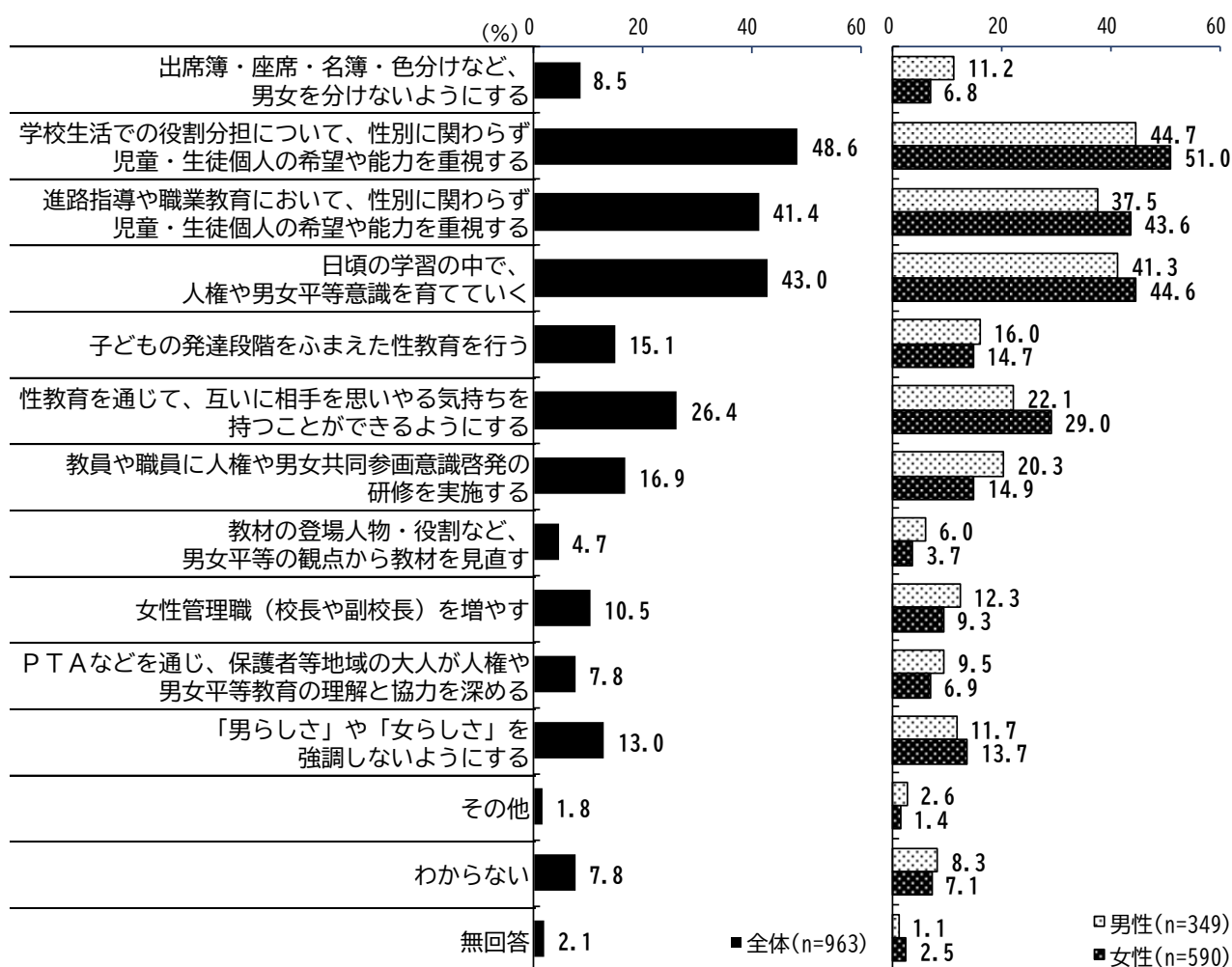
図表 118 子どもに期待する進学先・希望する進学先（中学生・高校生調査との比較）

		(%)							
		中学校まで	高等学校まで	各種専門学校まで	短期大学・専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	無回答
女の子の場合	市民	0.2	12.4	5.5	9.9	56.5	2.5	8.6	4.5
	中学生女子	-	15.9	16.6	3.3	59.0	4.4	-	0.7
	高校生女子	-	17.7	15.2	3.9	59.7	3.0	-	0.4
男の子の場合	市民	0.2	9.3	3.3	1.7	66.8	6.3	8.4	3.9
	中学生男子	-	21.3	8.0	3.5	60.8	3.8	-	2.4
	高校生男子	-	20.5	6.7	0.6	66.0	5.8	-	0.3

問 18 教育現場における男女共同参画の推進について考えていく場合、どうしたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

- 「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が 48.6%と最も高く、次いで「日頃の学習の中で、人権や男女平等意識を育てていく」(43.0%)、「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」(41.4%)となっています。
- 性別では、女性で「性教育を通じて、互いに相手を思いやる気持ちを持つことができるようにする」が6.9ポイント、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が6.3ポイント、「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が6.1ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「教員や職員に人権や男女共同参画意識啓発の研修を実施する」が20.3%と、女性より5.4ポイント高くなっています。

図表 119 教育現場における男女共同参画の推進（性別）



年代別

- 年代別では、20歳代で「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」、50歳代で「日頃の学習の中で、人権や男女平等意識を育てていく」、それ以外の年代で「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が、それぞれ最も高くなっています。また、20歳代で「『男らしさ』や『女らしさ』を強調しないようにする」が26.8%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 120 教育現場における男女共同参画の推進（年代別）

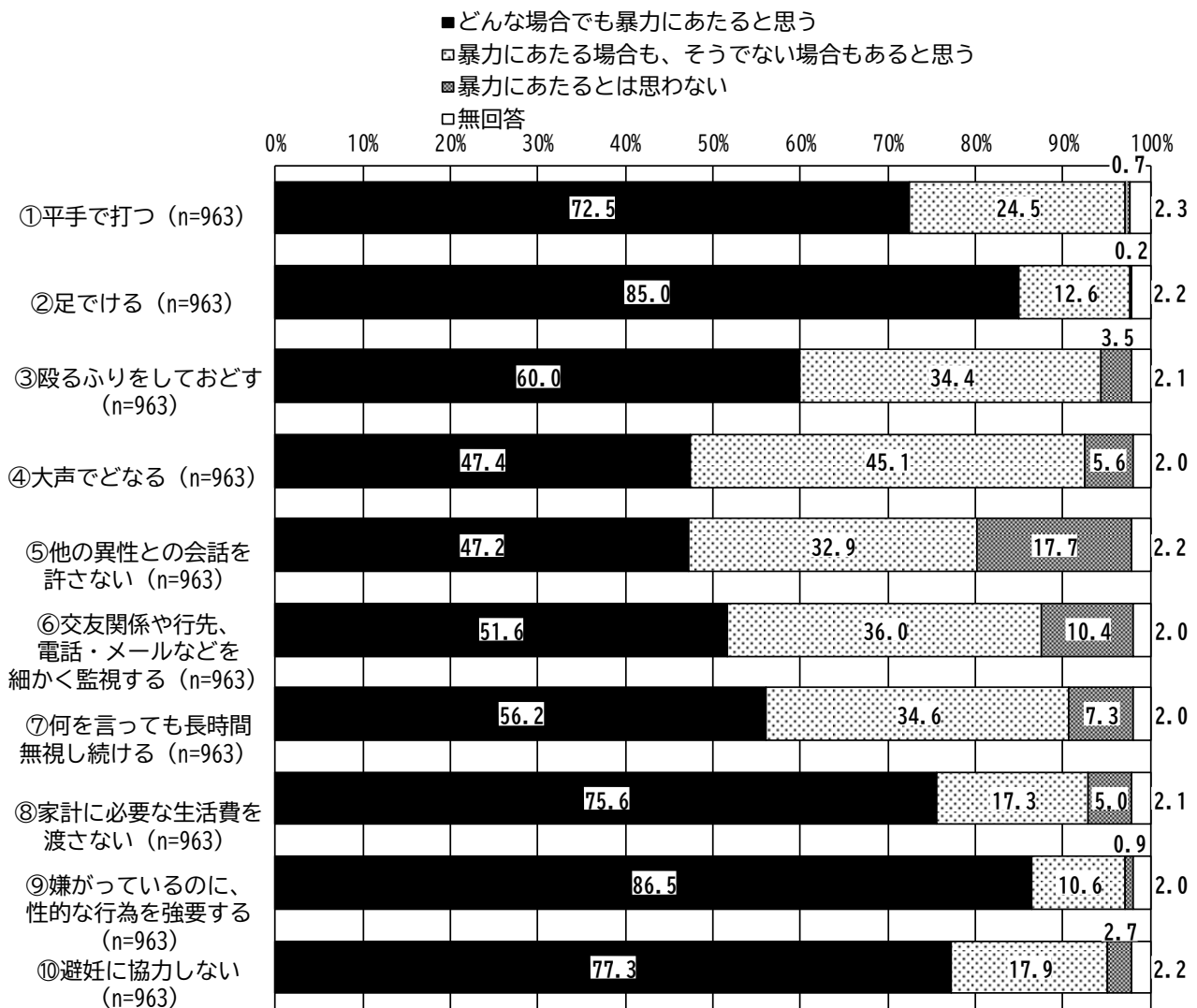
		件数（件）	出席簿・座席・名簿・色分けなど、男女を分けないようにする	希望や能力を重視する	学校生活での役割分担	希望や能力を重視する	児童・生徒個人の希望や能力を重視する	進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する	人権や男女平等意識を育てていく	日頃の学習の中で、	ふまえた性教育を行う	子どもの発達段階を	ようにすることができる	性に教育を通じて、互いに相手を思いやる気持ち	の男女共同参画意識啓発
全体		963	8.5	48.6	41.4	43.0	15.1	26.4	16.9						
年代別	20歳代	97	7.2	43.3	50.5	42.3	22.7	24.7	13.4						
	30歳代	122	9.8	52.5	43.4	41.0	27.0	32.0	17.2						
	40歳代	192	6.8	50.0	43.2	37.5	19.3	32.3	10.9						
	50歳代	172	8.7	50.0	35.5	55.8	10.5	24.4	17.4						
	60歳代	152	6.6	52.0	42.8	48.0	7.9	22.4	21.1						
	70歳以上	202	10.4	44.1	37.1	37.1	10.4	22.8	20.8						
		かな教材の登場人物の観点から、教材を見直す	副女性管理職（校長や	理解や協力（校長や	PTAなどを通じ、	よう「男らしさ」を強調しない	「男らしさ」や「女らしさ」を強調しない	その他	わからない	無回答					
全体		4.7	10.5	7.8	13.0	1.8	7.8	2.1							
年代別	20歳代	6.2	13.4	11.3	26.8	-	5.2	1.0							
	30歳代	1.6	10.7	3.3	13.1	4.1	6.6	-							
	40歳代	4.2	12.0	3.1	16.1	3.6	6.8	0.5							
	50歳代	1.7	11.6	9.9	12.8	0.6	5.2	0.6							
	60歳代	9.2	7.9	11.8	7.9	2.0	5.9	2.6							
	70歳以上	5.0	8.4	8.9	7.4	0.5	13.4	5.9							

(8) 人権の尊重について

問 19 あなたは、夫婦や恋人との間で、次のような行為があったとき、それを暴力だと思えますか。(①～⑩についてそれぞれ○を1つ)

- 「②足でける」と「⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する」で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上となっています。一方で、「⑤他の異性との会話を許さない」と「⑥交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」で「暴力にあたるとは思わない」が1割以上となっています。

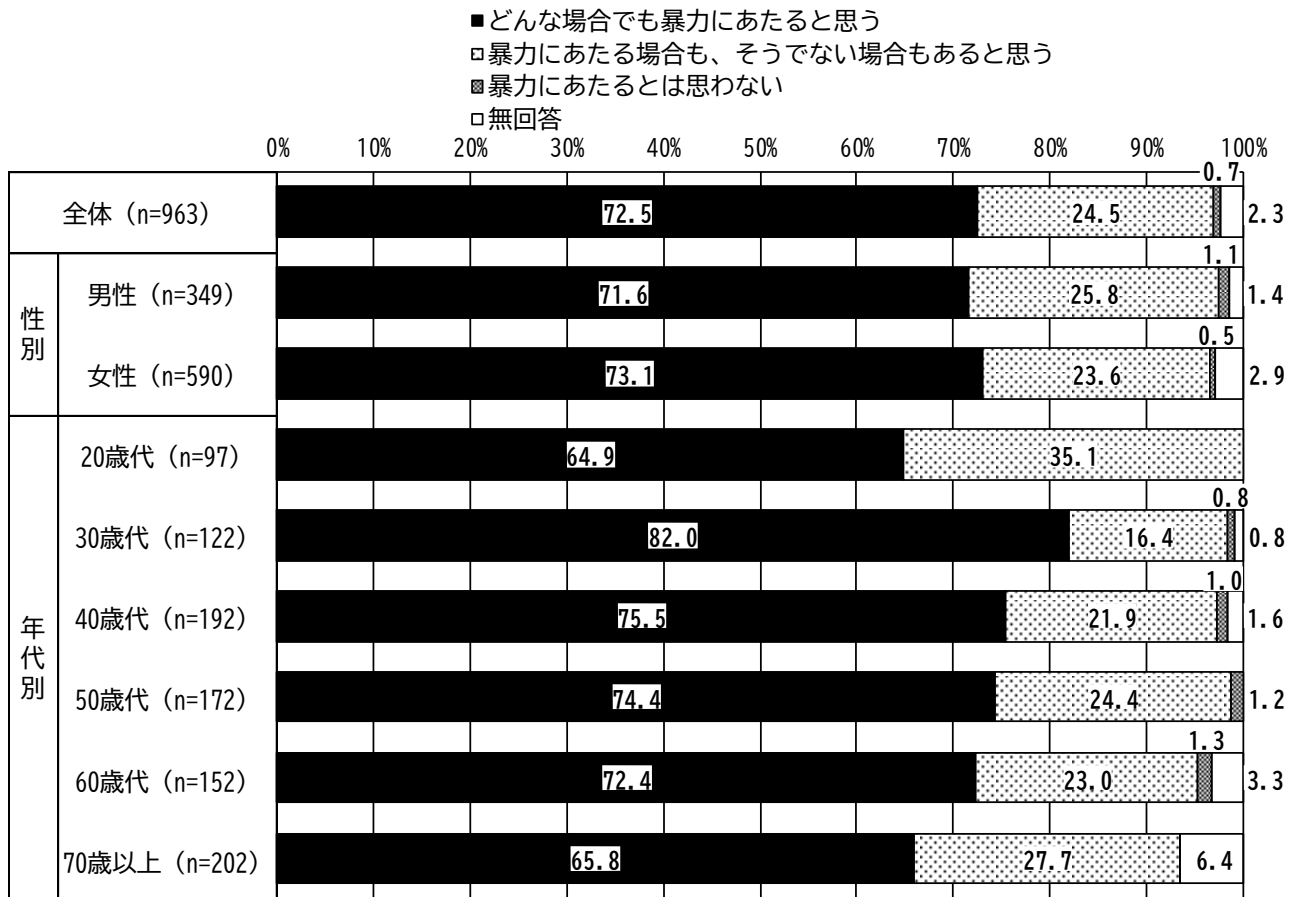
図表 121 暴力の認識



①平手で打つ

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が72.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が24.5%、「暴力にあたるとは思わない」が0.7%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20歳代を除いて、年齢が下がるにつれて「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高くなっており、30歳代で82.0%となっています。

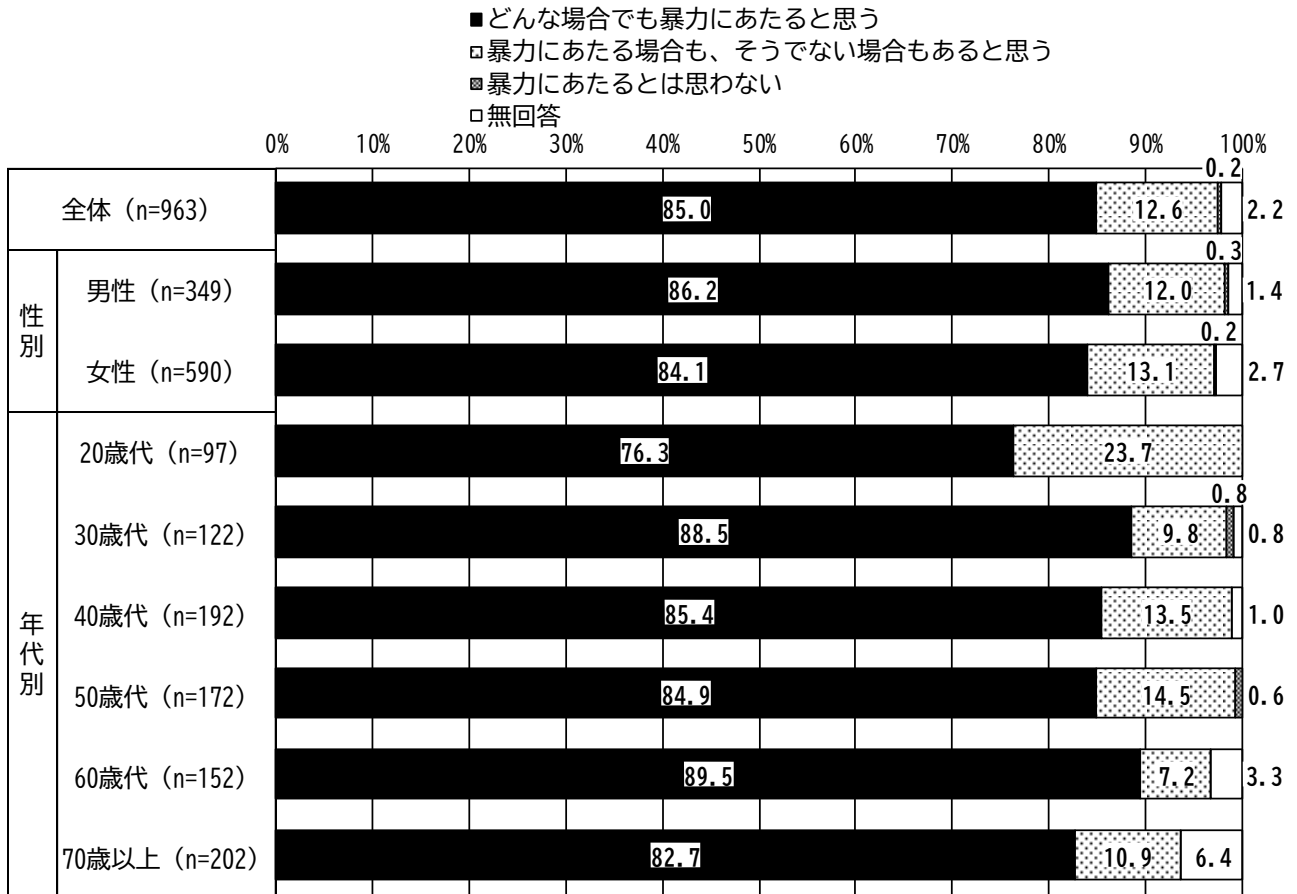
図表 122 ①平手で打つ（性別・年代別）



②足でける

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が85.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が12.6%、「暴力にあたるとは思わない」が0.2%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20歳代を除いて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上となっており、なかでも60歳代で89.5%と、最も高くなっています。

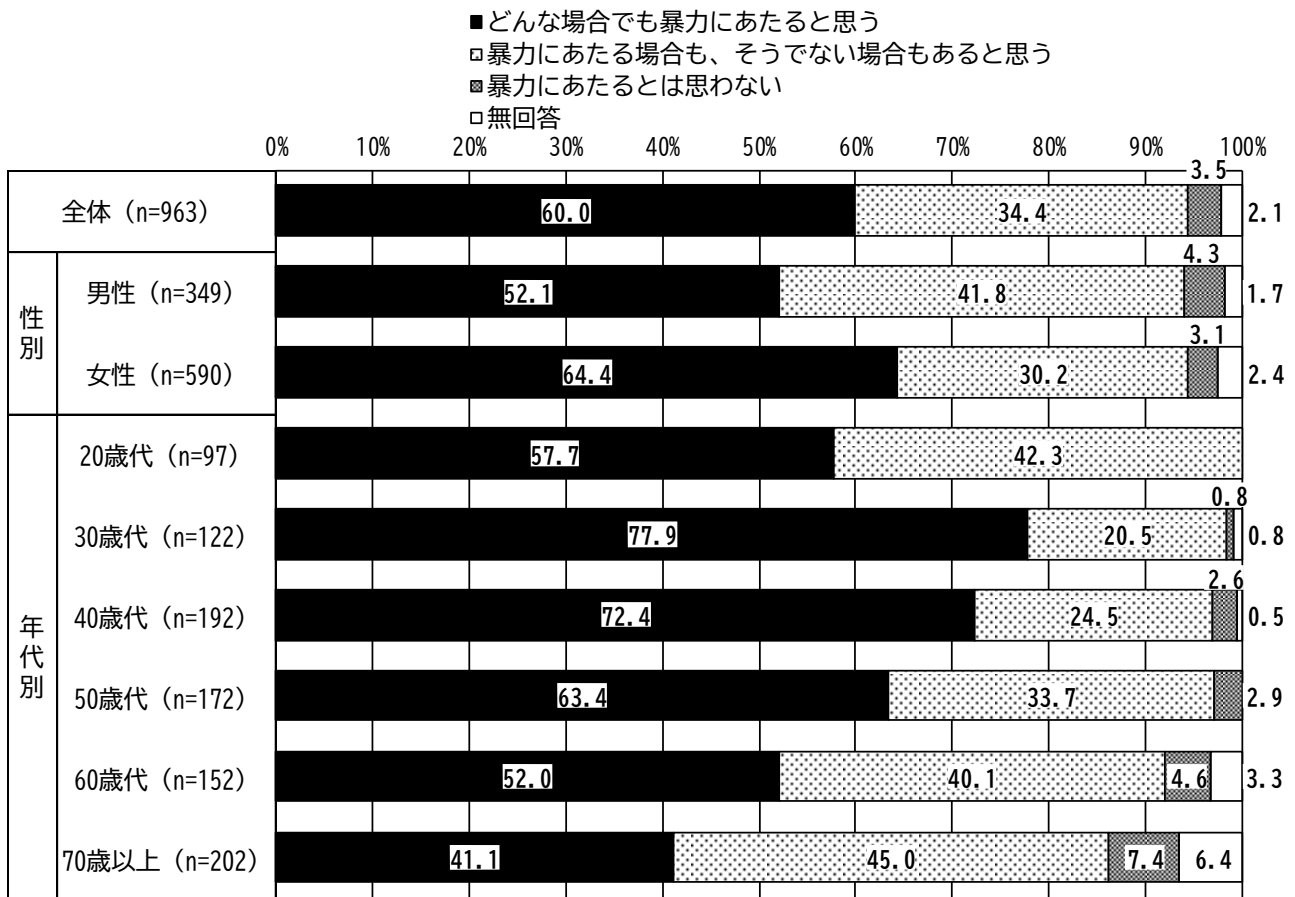
図表 123 ②足でける（性別・年代別）



③殴るふりをしておどす

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が60.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が34.4%、「暴力にあたるとは思わない」が3.5%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が64.4%と、男性より12.3ポイント高くなっています。一方で、男性「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が41.8%と、女性より11.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代を除いて、年代が下がるにつれて「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高くなっており、30歳代で77.9%となっています。

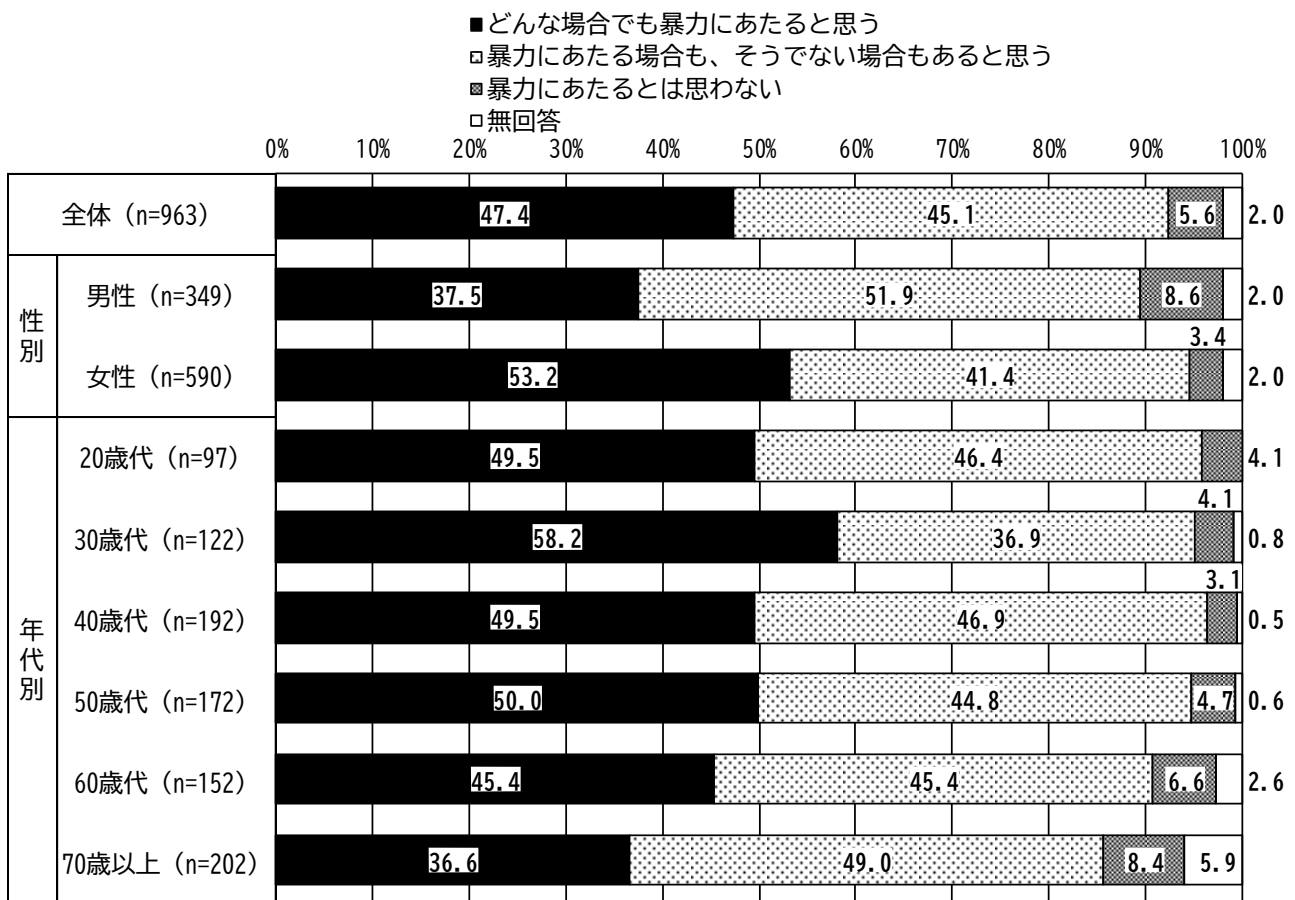
図表 124 ③殴るふりをしておどす（性別・年代別）



④大声でどなる

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が47.4%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が45.1%、「暴力にあたるとは思わない」が5.6%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が53.2%と、男性より15.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が10.5ポイント、「暴力にあたるとは思わない」が5.2ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が4割以上となっており、なかでも30歳代で58.2%と、最も高くなっています。

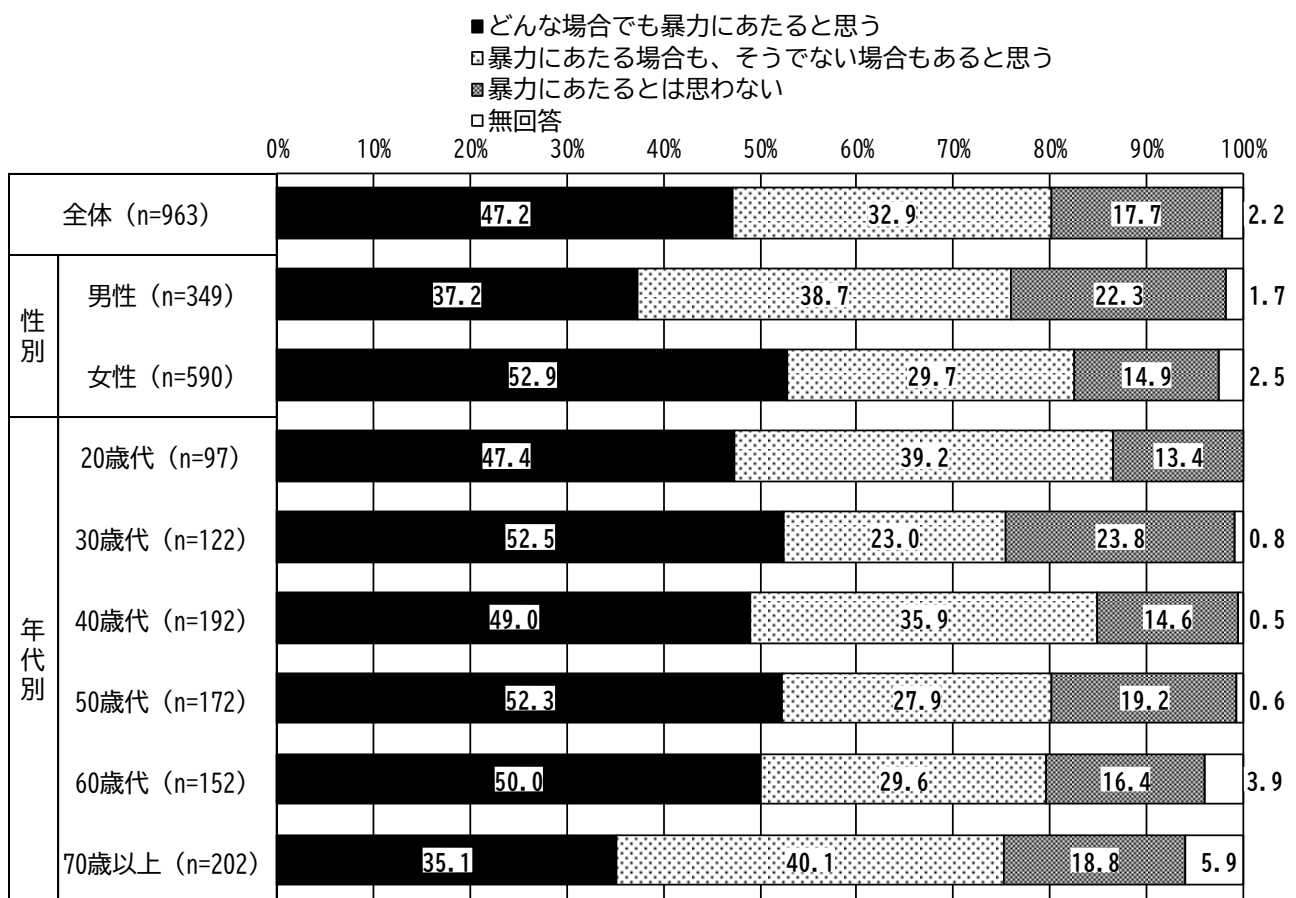
図表 125 ④大声でどなる（性別・年代別）



⑤他の異性との会話を許さない

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が47.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が32.9%、「暴力にあたるとは思わない」が17.7%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が52.9%と、男性より15.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が9.0ポイント、「暴力にあたるとは思わない」が7.4ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が4割以上となっており、なかでも30歳代で52.5%と、最も高くなっています。

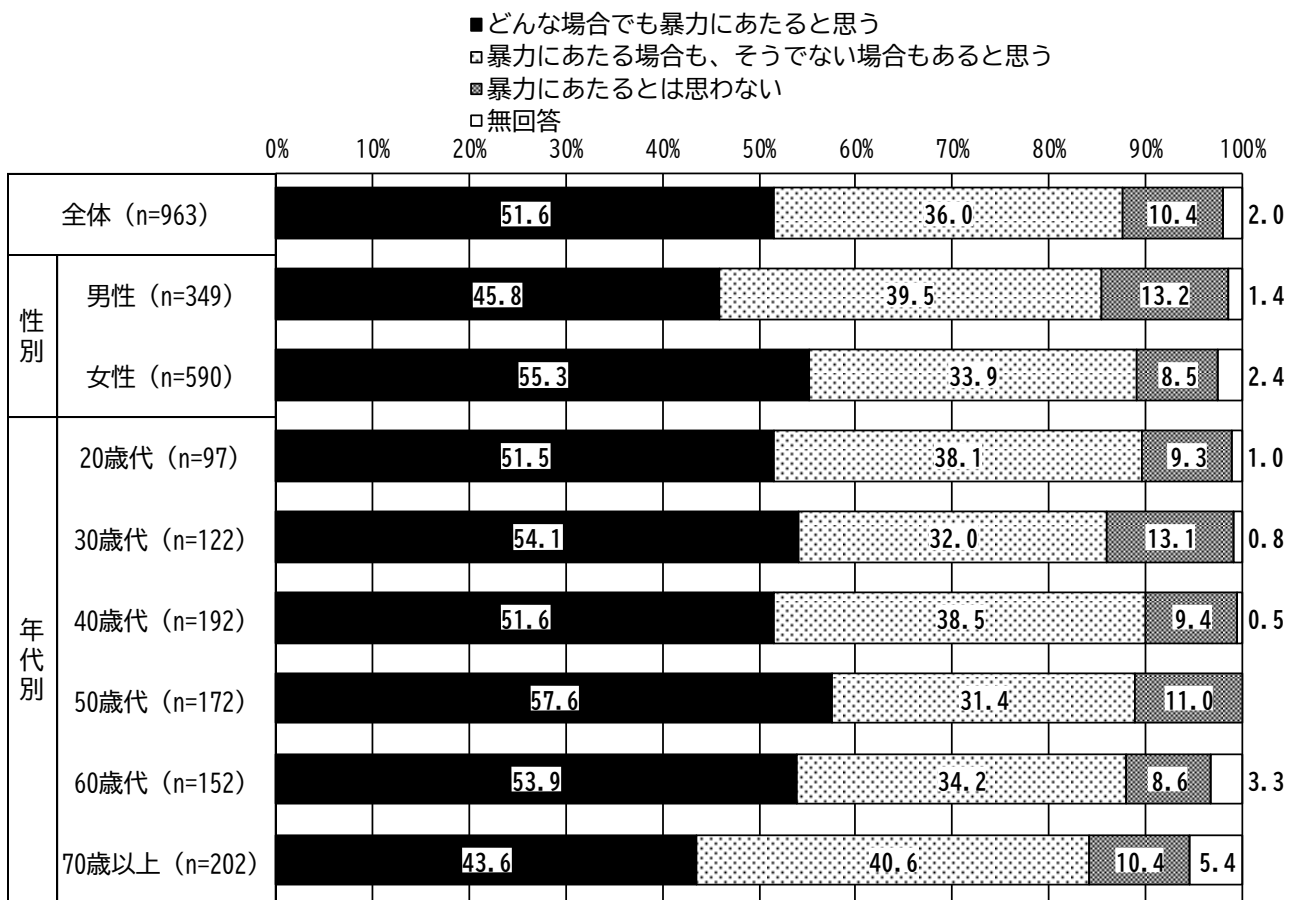
図表 126 ⑤他の異性との会話を許さない（性別・年代別）



⑥交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が51.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が36.0%、「暴力にあたるとは思わない」が10.4%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が55.3%と、男性より9.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が5.6ポイント、「暴力にあたるとは思わない」が4.7ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割以上となっており、なかでも50歳代で57.6%と、最も高くなっています。

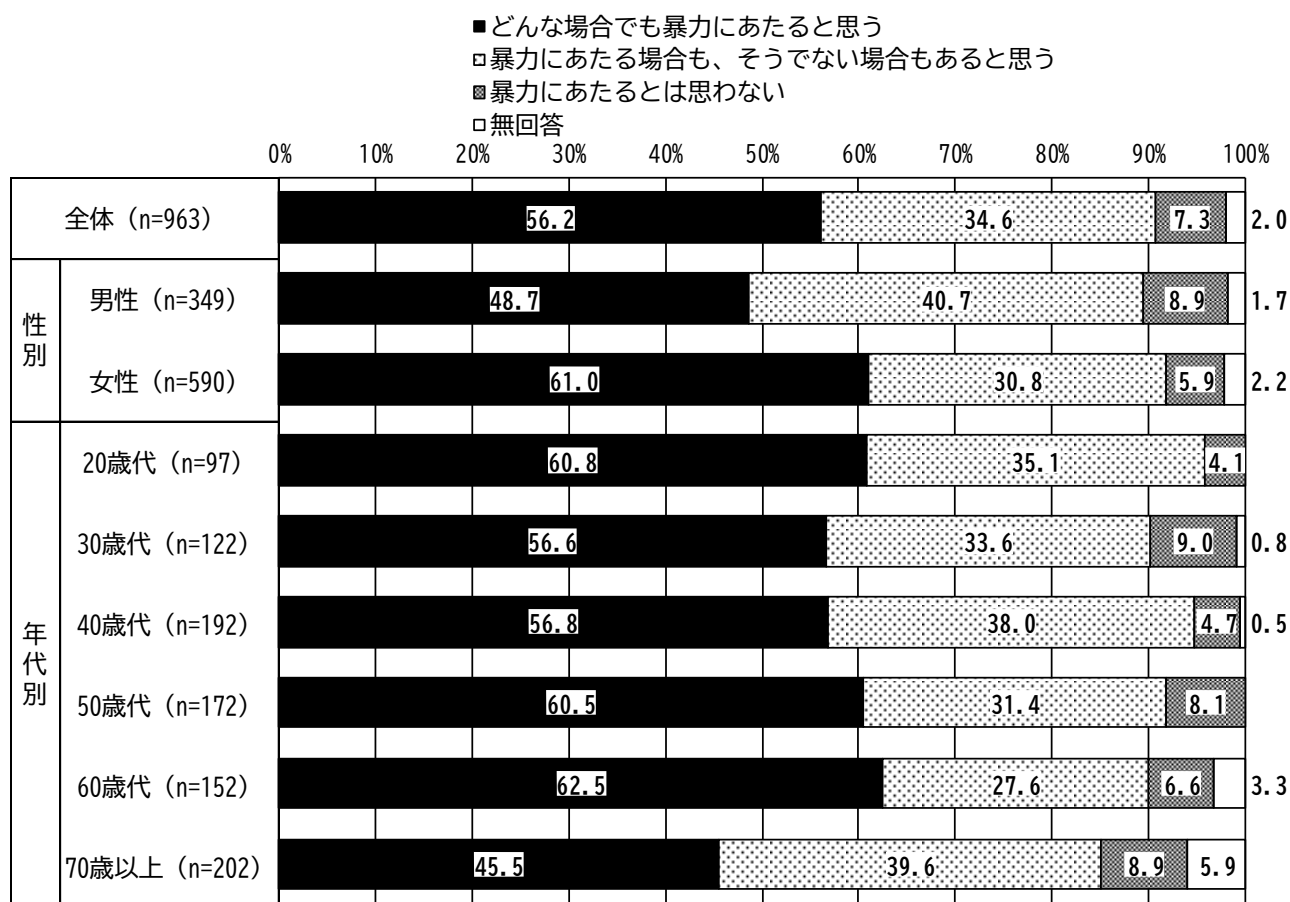
図表 127 ⑥交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する（性別・年代別）



⑦何を言っても長時間無視し続ける

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が56.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が34.6%、「暴力にあたるとは思わない」が7.3%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が61.0%と、男性より12.3ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が40.7%と、女性より9.9ポイント高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割以上となっており、なかでも60歳代で62.5%と、最も高くなっています。

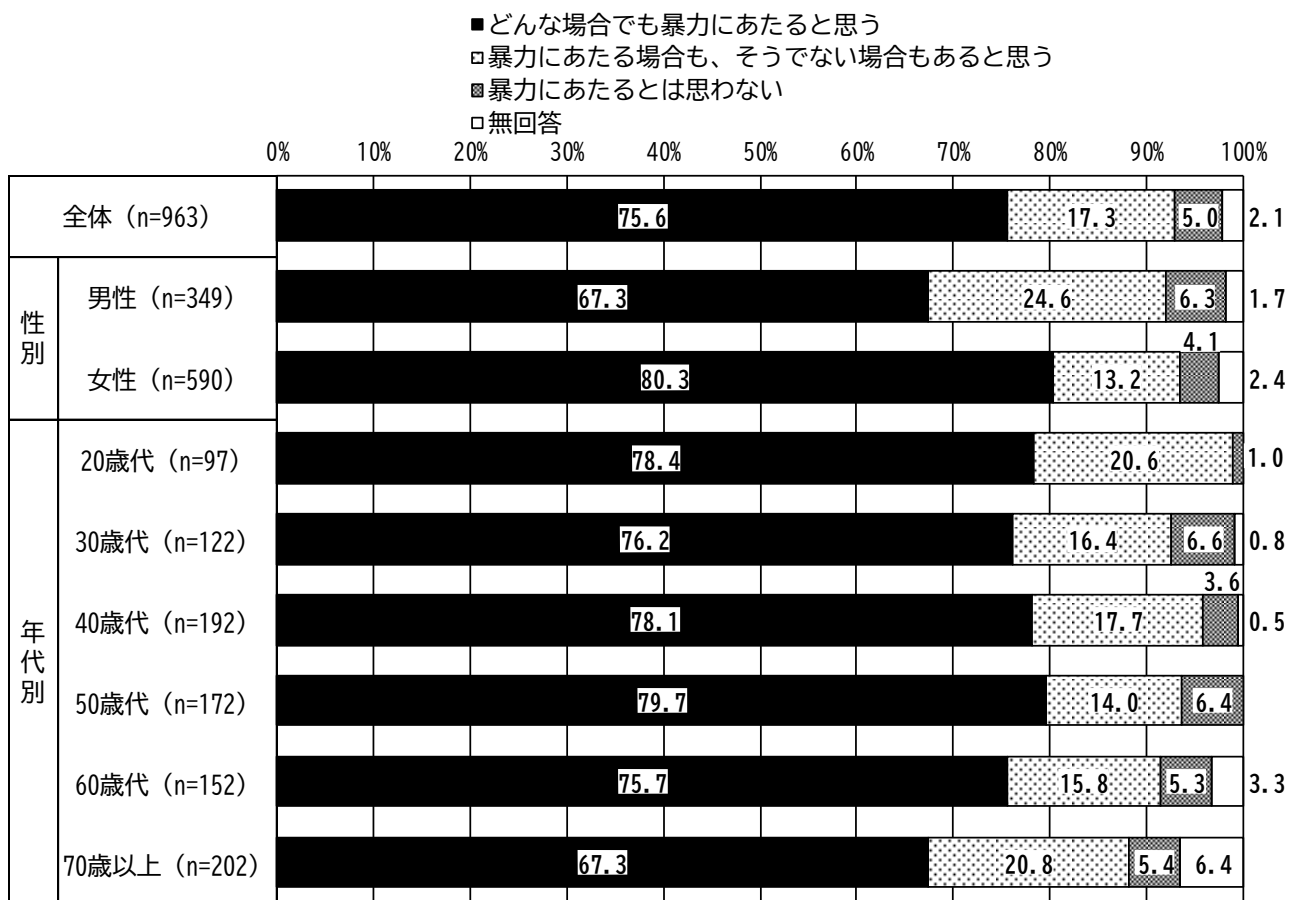
図表 128 ⑦何を言っても長時間無視し続ける（性別・年代別）



⑧家計に必要な生活費を渡さない

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が75.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が17.3%、「暴力にあたるとは思わない」が5.0%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が80.3%と、男性より13.0ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が24.6%と、女性より11.4ポイント高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっており、なかでも50歳代で79.7%と、最も高くなっています。

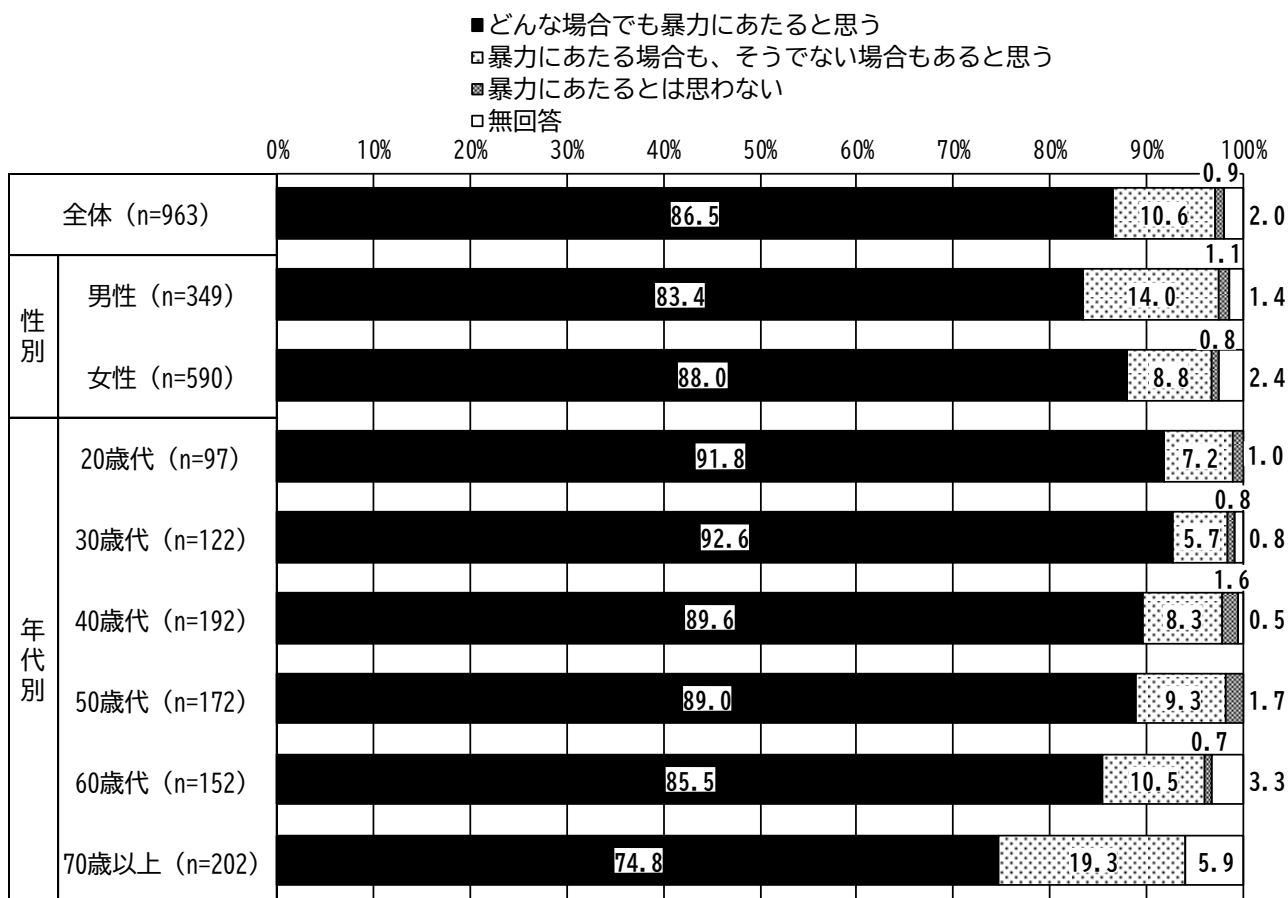
図表 129 ⑧家計に必要な生活費を渡さない（性別・年代別）



⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が86.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が10.6%、「暴力にあたるとは思わない」が0.9%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が14.0%と、女性より5.2ポイント高くなっています。一方で、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が88.0%と、男性より4.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代を除いて、年代が下がるにつれて「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高くなっており、30歳代で92.6%となっています。

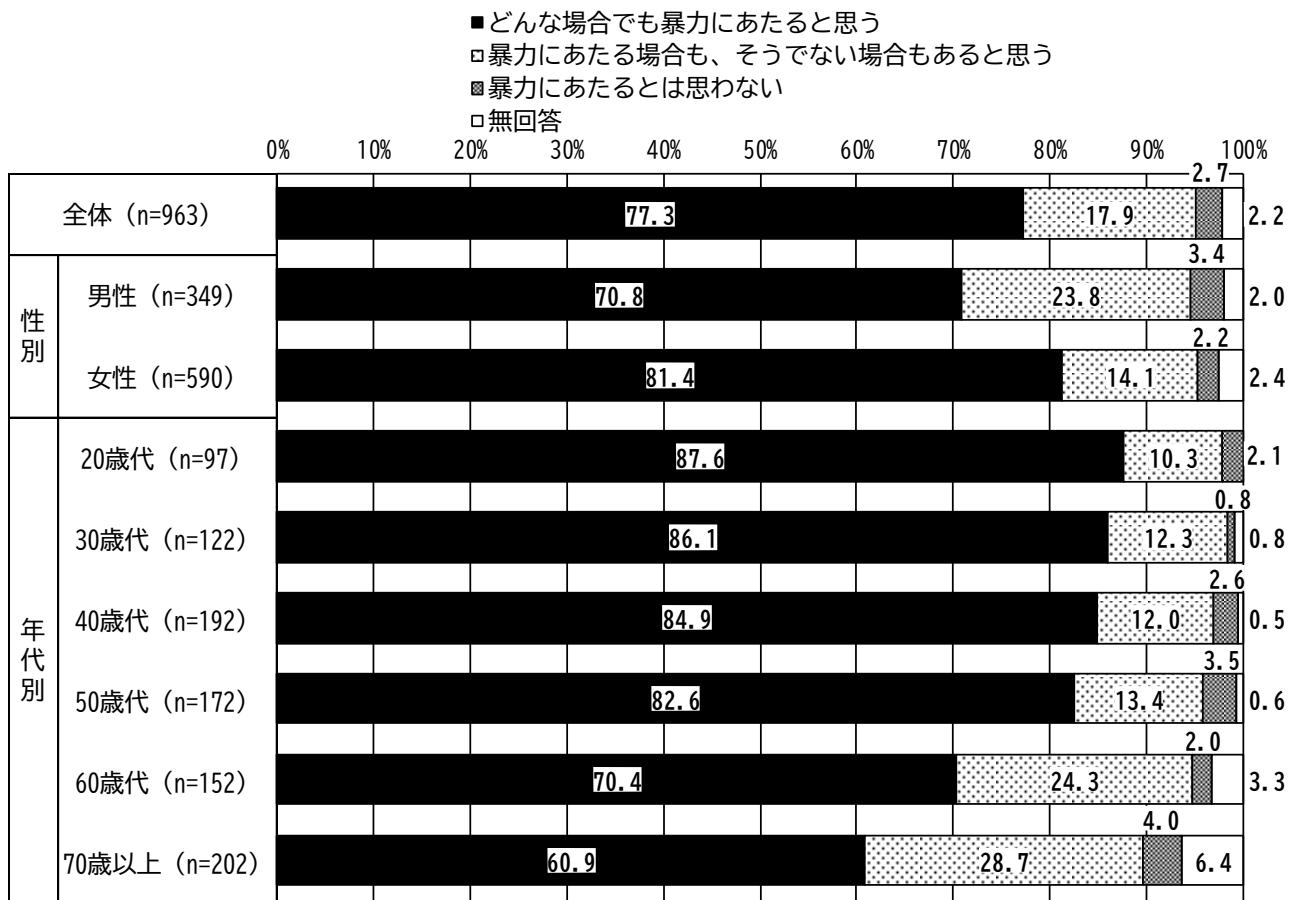
図表 130 ⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する（性別・年代別）



⑩避妊に協力しない

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が77.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が17.9%、「暴力にあたるとは思わない」が2.7%となっています。
- 性別では、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が81.4%と、男性より10.6ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が23.8%と、女性より9.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高くなっており、20歳代で87.6%となっています。

図表 131 ⑩避妊に協力しない（性別・年代別）



中学生・高校生調査との比較

- 中学生の調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、「⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する」を除いて、中学生より高くなっています。なかでも「①平手で打つ」「②足でける」「④大声でどなる」「⑩避妊に協力しない」で15ポイント前後高くなっています。
- 高校生の調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、「⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する」と「⑩避妊に協力しない」で約10ポイント、高校生より低くなっています。

図表 132 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合（中学生・高校生調査との比較）

	① 平手で 打つ	② 足で ける	③ おど ろす ふり をし て	④ 大 声 で ど な る	⑤ 会 話 を 許 さ な い の	⑥ 細 か く 監 視 す る	⑦ 電 話 ・ メ ー ル な ど を	⑧ 長 時 間 無 視 し 続 け る	⑨ 生 活 費 を 渡 さ な い	⑩ 性 的 な 嫌 が つ て い る の に 、 強 要 す る	⑪ 避 妊 に 協 力 し な い
市民	72.5	85.0	60.0	47.4	47.2	51.6	56.2	75.6	86.5	77.3	
中学生	55.9	70.0	47.6	30.9	38.2	47.4	43.1	67.9	87.7	62.7	
高校生	62.3	75.0	60.3	42.8	51.5	55.8	46.3	75.7	96.1	87.8	

- 中学生の調査と比較すると、「暴力にあたると思わない」の割合は、「④大声でどなる」「⑤他の異性との会話を許さない」「⑥交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「⑦何を言っても長時間無視し続ける」で10ポイント前後、中学生より低くなっています。
- 高校生の調査と比較すると、「暴力にあたると思わない」の割合は、「⑦何を言っても長時間無視し続ける」が7.3%と、高校生より7.2ポイント低くなっています。

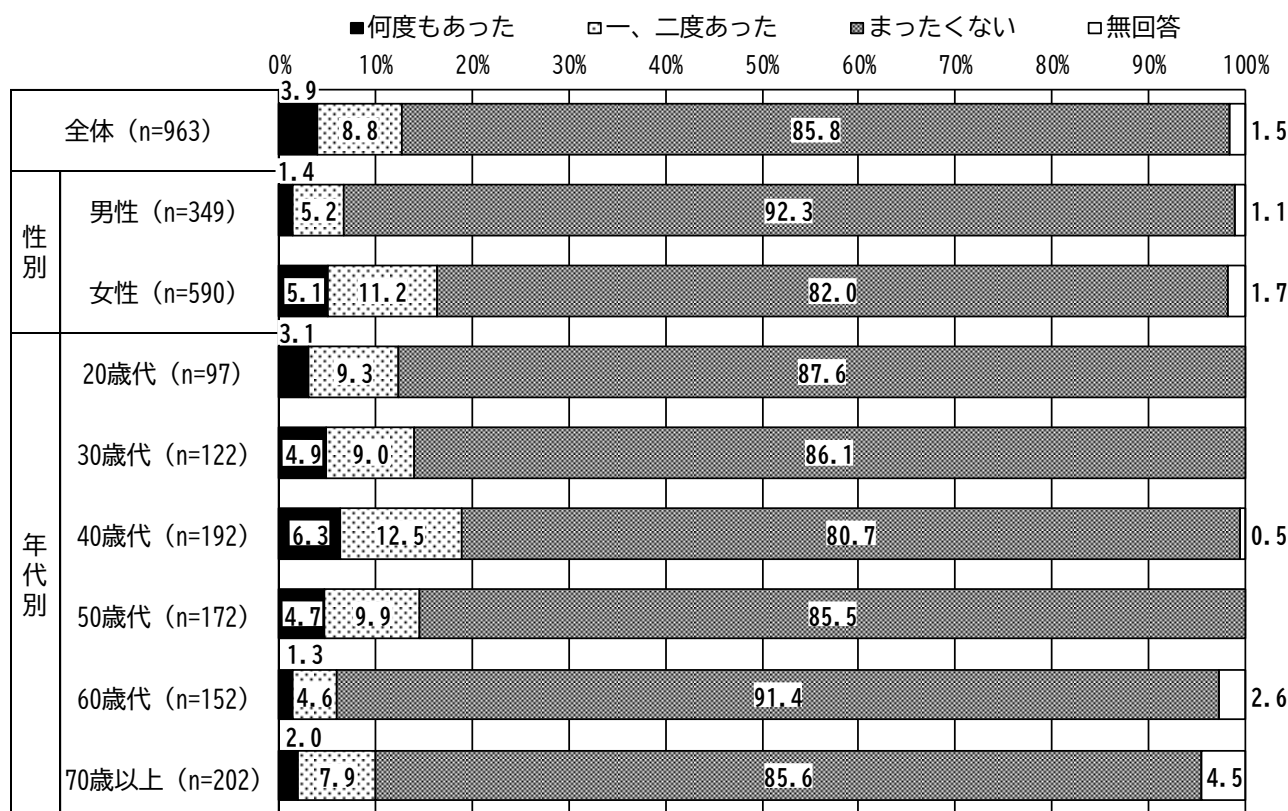
図表 133 「暴力にあたると思わない」の割合（中学生・高校生調査との比較）

	① 平手で 打つ	② 足で ける	③ おど ろす ふり をし て	④ 大 声 で ど な る	⑤ 会 話 を 許 さ な い の	⑥ 細 か く 監 視 す る	⑦ 電 話 ・ メ ー ル な ど を	⑧ 長 時 間 無 視 し 続 け る	⑨ 生 活 費 を 渡 さ な い	⑩ 性 的 な 嫌 が つ て い る の に 、 強 要 す る	⑪ 避 妊 に 協 力 し な い
市民	0.7	0.2	3.5	5.6	17.7	10.4	7.3	5.0	0.9	2.7	
中学生	3.6	3.0	10.1	14.9	28.3	19.1	17.2	7.6	2.3	7.1	
高校生	0.7	0.4	4.7	9.7	18.4	12.9	14.5	5.0	1.4	2.0	

問 20 最近5年間に、あなたは恋人や配偶者から、身体的・精神的・性的・経済的な暴力を受けたことがありますか。(○は1つ)

- 「何度もあった」が3.9%、「一、二度あった」が8.8%、「まったくない」が85.8%となっています。
- 性別では、女性で“暴力を受けたことがある※”が16.3%と、男性より9.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、“暴力を受けたことがある”が1割以上となっており、なかでも40歳代で18.8%と、最も高くなっています。
- 配偶者の有無別では、「離別」で“暴力を受けたことがある”が28.3%となっています。

図表 134 DV被害の経験(性別・年代別)



※「何度もあった」+「一、二度あった」

図表 135 DV被害の経験(配偶者の有無別)

	件数(件)	が受暴あけたこと	あ何つ度たも	あ一、つた二度	なまいったく	無回答
配偶者がいる	686	12.8	3.6	9.2	86.6	0.6
配偶者がいない	239	12.1	4.2	7.9	84.1	3.8
未婚	147	8.8	2.0	6.8	88.4	2.7
離別	53	28.3	13.2	15.1	71.7	-
死別	39	2.6	-	2.6	84.6	12.8

過去の調査との比較

- 「一、二度あった」と「まったくない」が過去の調査のなかで最も高くなっています。一方で、「何度もあった」が年々低くなっており、令和2年で3.9%となっています。

図表 136 DV被害の経験（過去の調査との比較）

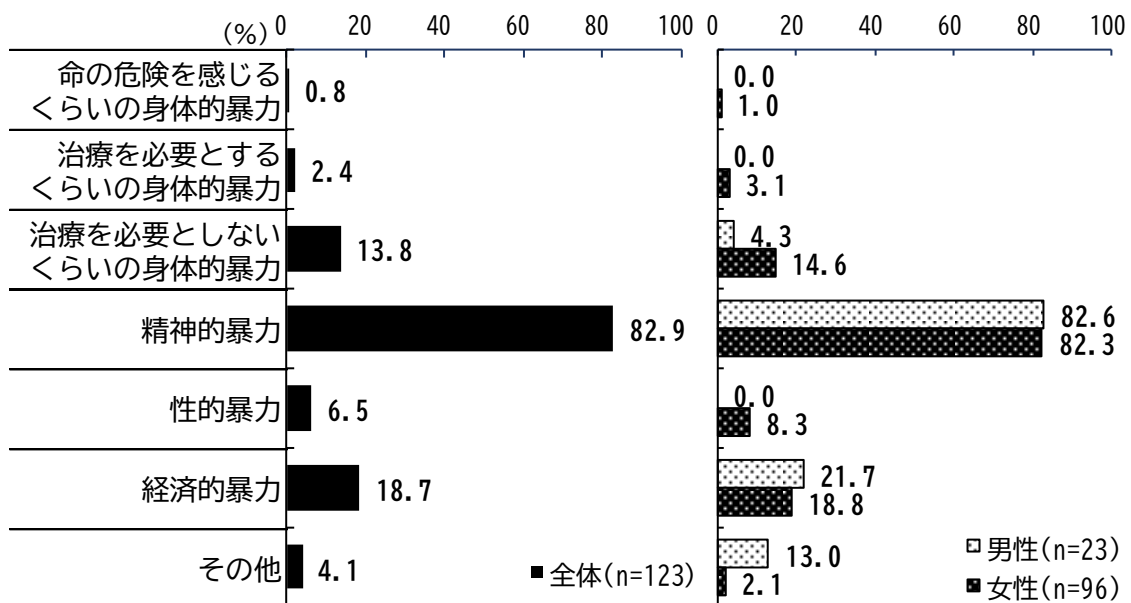
	が受暴 あけ力 るたを こと	あ何 つ度 たも	あ一 つ、 た二 度	なま いつ たく	無 回 答
令和2年	12.7	3.9	8.8	85.8	1.5
平成28年	12.4	4.8	7.6	84.0	-
平成22年	14.6	6.3	8.3	77.3	-
平成18年	16.1	7.4	8.7	78.0	-

※問 20 で「何度もあった」「一、二度あった」と回答した方

問 20-1 それはどのような暴力ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 「精神的暴力」が82.9%と最も高く、次いで「経済的暴力」（18.7%）、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」（13.8%）となっています。
- 性別では、女性で「治療を必要としないくらいの身体的暴力」が10.3ポイント、「性的暴力」が8.3ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 137 暴力の種類（性別）



年代別／配偶者の有無別

- 年代別は、いずれの年代も「精神的暴力」が最も高くなっています。
- 配偶者の有無別では、「配偶者がいる」で「精神的暴力」が12.8ポイント、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」が7.9ポイント、それぞれ「配偶者がいない」より高くなっています。一方で、「配偶者がいない」で「性的暴力」が13.8%と、「配偶者がいる」より9.3ポイント高くなっています。

図表 138 暴力の種類（年代別）

		件数 (件)	身 体 的 暴 力	感 じ る 危 険 を い の	命 の 危 険 を い の	身 体 的 暴 力	す る 暴 力	治 療 を 必 要 と す る の	身 体 的 暴 力	し な い 暴 力	治 療 を 必 要 と す る の	精 神 的 暴 力	性 的 暴 力	経 済 的 暴 力	そ の 他
全 体		123	0.8	2.4	13.8	82.9	6.5	18.7	4.1						
年 代 別	20歳代	12	-	-	16.7	91.7	8.3	8.3	-						
	30歳代	17	-	-	5.9	76.5	17.6	11.8	-						
	40歳代	36	2.8	2.8	16.7	86.1	8.3	22.2	-						
	50歳代	25	-	4.0	12.0	68.0	4.0	20.0	12.0						
	60歳代	9	-	11.1	11.1	100.0	-	33.3	-						
	70歳以上	20	-	-	10.0	85.0	-	20.0	10.0						

図表 139 暴力の種類（配偶者の有無別）

		件数 (件)	身 体 的 暴 力	感 じ る 危 険 を い の	命 の 危 険 を い の	身 体 的 暴 力	す る 暴 力	治 療 を 必 要 と す る の	身 体 的 暴 力	し な い 暴 力	治 療 を 必 要 と す る の	精 神 的 暴 力	性 的 暴 力	経 済 的 暴 力	そ の 他
配偶者がいる		88	-	2.3	14.8	85.2	4.5	20.5	4.5						
配偶者がいない		29	3.4	3.4	6.9	72.4	13.8	17.2	3.4						

過去の調査との比較

- 「精神的暴力」と「経済的暴力」を除いて、過去の調査のなかで令和2年が最も低くなっています。一方で、「精神的暴力」が年々高くなっており、令和2年で82.9%となっています。

図表 140 暴力の種類（過去の調査との比較）

	身 体 的 暴 力	感 じ る 危 険 を い の	命 の 危 険 を い の	身 体 的 暴 力	す る 暴 力	治 療 を 必 要 と す る の	身 体 的 暴 力	し な い 暴 力	治 療 を 必 要 と す る の	精 神 的 暴 力	性 的 暴 力	経 済 的 暴 力	そ の 他
令和2年	0.8	2.4	13.8	82.9	6.5	18.7	4.1						
平成28年	1.6	6.2	19.4	81.4	7.8	28.7	4.7						
平成22年	3.9	9.2	23.0	71.1	14.5	23.7	4.6						
平成18年	5.8	6.8	23.0	59.7	13.6	17.3	-						

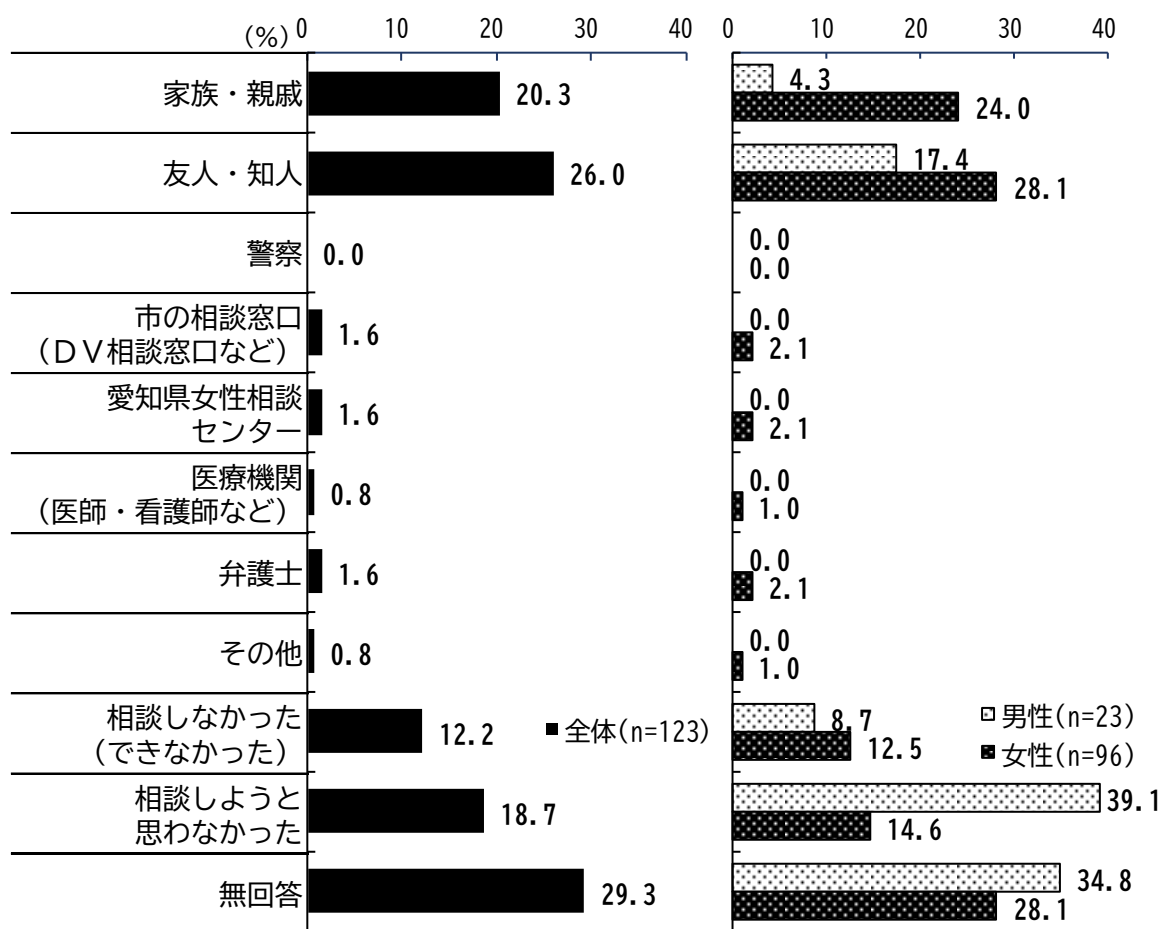
※問 20 で「何度もあった」「一、二度あった」と回答した方

問 20-2 あなたは、暴力を受けたときに、誰（どこ）に相談をしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- 「友人・知人」が26.0%と最も高く、次いで「家族・親戚」(20.3%)、「相談しようと思わなかった」(18.7%)、「相談しなかった(できなかった)」(12.2%)となっています。
- 性別では、男性で「相談しようと思わなかった」が39.1%と、女性より24.5ポイント高くなっています。一方で、女性で「家族・親戚」が19.7ポイント、「友人・知人」が10.7ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 141 相談先（性別）



年代別

- 年代別は、20歳代と30歳代で「友人・知人」が3割以上となっています。

図表 142 相談先（年代別）

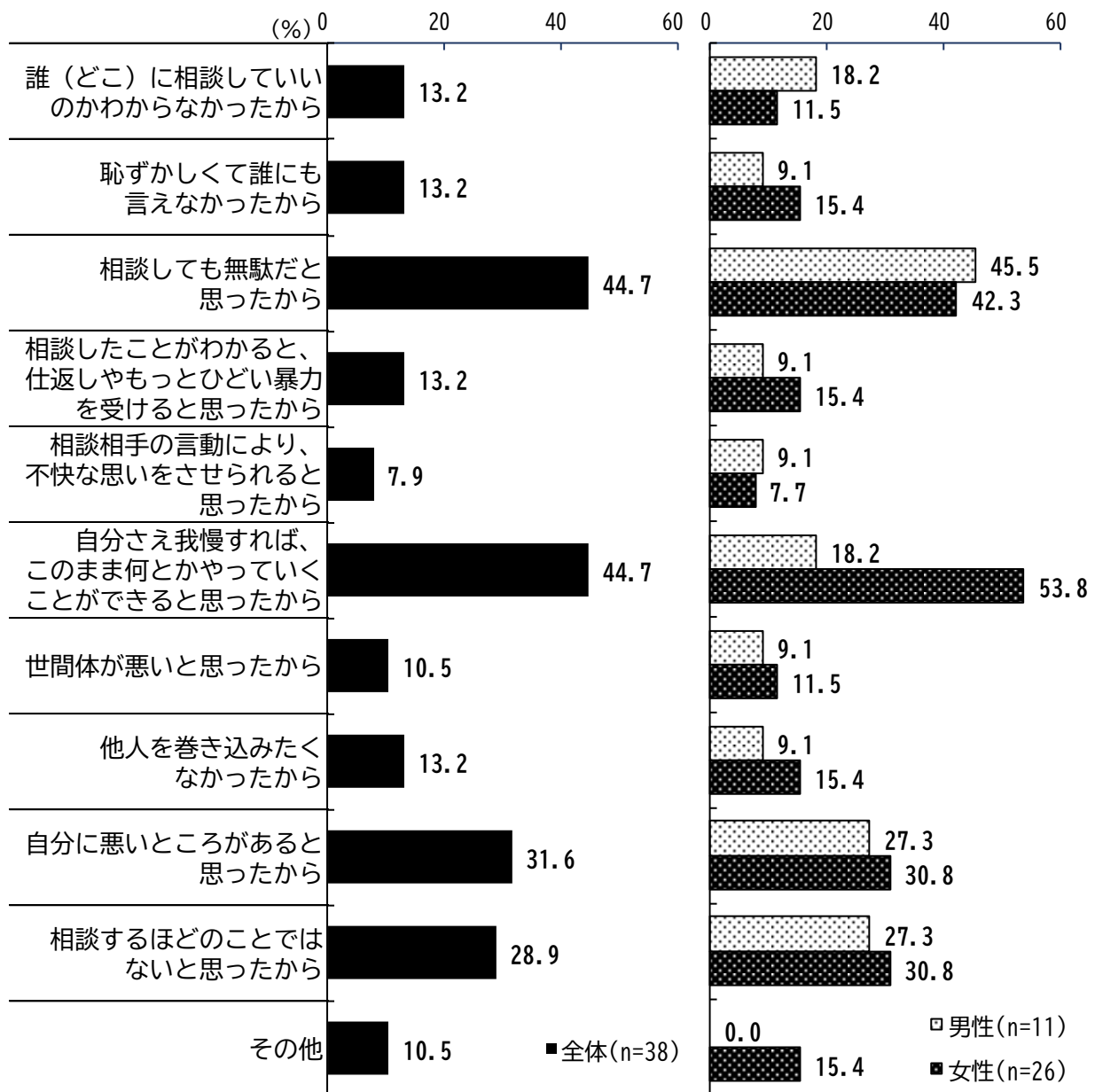
		件数 (件)	家族・ 親戚	友人・ 知人	警察	市 の 相 談 窓 口 (D V 相 談 窓 口 な ど)	愛 知 県 女 性 相 談 セ ン タ ー	(%)
全 体		123	20.3	26.0	-	1.6	1.6	
年 代 別	20歳代	12	8.3	33.3	-	-	-	
	30歳代	17	29.4	35.3	-	-	-	
	40歳代	36	19.4	25.0	-	2.8	2.8	
	50歳代	25	20.0	28.0	-	4.0	4.0	
	60歳代	9	22.2	11.1	-	-	-	
	70歳以上	20	20.0	20.0	-	-	-	
		な ど (医 療 機 関 ・ 医 師 ・ 看 護 師)	弁 護 士	そ の 他	相 談 し な か つ た (で き な か つ た)	思 わ な か つ た と	無 回 答	
全 体		0.8	1.6	0.8	12.2	18.7	29.3	
年 代 別	20歳代	-	-	-	8.3	16.7	33.3	
	30歳代	-	-	-	23.5	5.9	29.4	
	40歳代	2.8	2.8	-	11.1	16.7	33.3	
	50歳代	-	4.0	4.0	12.0	28.0	16.0	
	60歳代	-	-	-	22.2	22.2	22.2	
	70歳以上	-	-	-	-	25.0	40.0	

※問 20-2 で「相談しなかった（できなかった）」「相談しようと思わなかった」と回答した方

問 20-2-1 その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」がともに 44.7%と最も高く、次いで「自分に悪いところがあると思ったから」(31.6%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(28.9%)となっています。
- 性別では、女性で「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が 53.8%と、男性より 35.6 ポイント高くなっています。一方で、男性で「誰（どこ）に相談していいのかわからなかったから」が 18.2%と、女性より 6.7 ポイント高くなっています。

図表 143 相談をしなかった理由（性別）



年代別

■ 年代別は、回答者が少ないため参考程度とします。

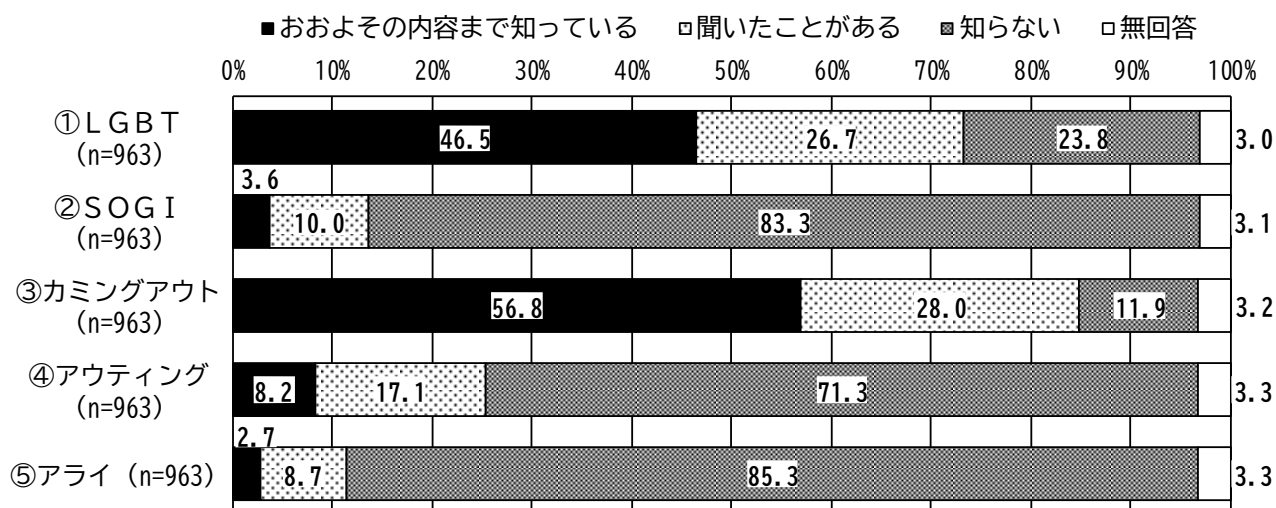
図表 144 相談をしなかった理由（年代別）

		件数 (件)	わし誰 かていど からいこの なにかに かつか相談 たから	言恥 えずな なかつ たて誰 たからにも	思相 つ談 たし たても から無 駄だと	受もわ相 けつか談 るとと 思ひと、 ったい仕 た暴返 た力し からをや	か ら さ せ ら れ る と 思 つ た	よ り 不 快 な 思 動 に を
全	体	38	13.2	13.2	44.7	13.2	7.9	
年 代 別	20歳代	3	-	33.3	66.7	33.3	33.3	
	30歳代	5	20.0	40.0	40.0	-	-	
	40歳代	10	30.0	-	20.0	20.0	10.0	
	50歳代	10	10.0	10.0	70.0	10.0	-	
	60歳代	4	-	25.0	25.0	25.0	25.0	
	70歳以上	5	-	-	40.0	-	-	
		でやば自 きつ、分 るとこの といえ 思くま つこま たど何 か ら	思世 つ間 た体 か が 悪 い と	な他 か人 つを た巻 かき ら込 み た く	あ自 る分 とに 思悪 つ た た か ら ろ が	か ら で は 相 談 す る ほ ど の こ と	そ の 他	
全	体	44.7	10.5	13.2	31.6	28.9	10.5	
年 代 別	20歳代	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	-	
	30歳代	80.0	20.0	20.0	-	20.0	-	
	40歳代	40.0	10.0	10.0	50.0	40.0	-	
	50歳代	20.0	-	10.0	20.0	20.0	20.0	
	60歳代	50.0	25.0	-	-	25.0	25.0	
	70歳以上	40.0	-	-	40.0	40.0	20.0	

問21 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
 (①～⑤についてそれぞれ○を1つ)

- 「おおよその内容まで知っている」をみると、「③カミングアウト」で 56.8%、「①LGBT」で 46.5%と、他の用語と比べて高くなっています。一方で、「知らない」をみると、「⑤アライ」で 85.3%、「②SOGI」で 83.3%、「④アウティング」で 71.3%となっています。

図表 145 関連用語の認知度

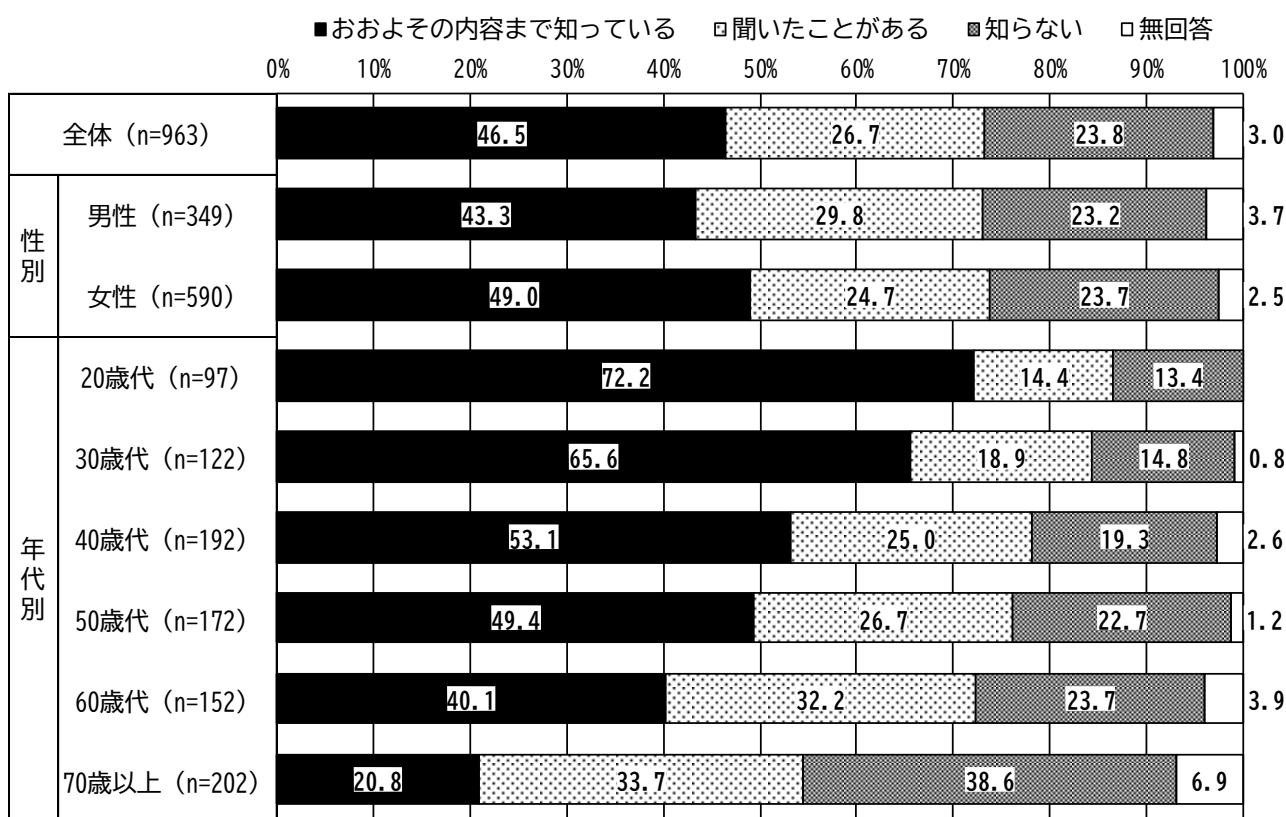


- ※ ①LGBT 性的少数者の総称のひとつ。レズビアン（同性を好きになる女性）、ゲイ（同性を好きになる男性）、バイセクシュアル（両方の性を好きになる人）、トランスジェンダー（身体と心の性が異なる人）の頭文字をとった言葉
- ※ ②SOGI 「性的少数者」という一部の人の話と捉えるのではなく、自分自身の性的指向（Sexual Orientation）や性自認（Gender Identity）とは何かといった、いわば血液型のように誰もが持っているもので、セクシュアリティの違いによる差別をなくするという考え方
- ※ ③カミングアウト 本人が自分の性的志向や性自認を表明すること
- ※ ④アウティング 他者が本人の了承なく、性的指向や性自認を暴露すること
- ※ ⑤アライ 多様な性のあり方を理解し応援する人

① LGBT

- 「おおよその内容まで知っている」が46.5%、「聞いたことがある」が26.7%、「知らない」が23.8%となっています。
- 性別では、女性で「おおよその内容まで知っている」が49.0%と、男性より5.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「聞いたことがある」が29.8%と、女性より5.1ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて、「おおよその内容まで知っている」が高くなっており、20歳代で72.2%となっています。一方で、年代が上がるにつれて、「聞いたことがある」と「知らない」が高くなっており、70歳以上で「聞いたことがある」が33.7%、「知らない」が38.6%となっています。

図表 146 ① LGBT (性別・年代別)



②SOG I

- 「おおよその内容まで知っている」が3.6%、「聞いたことがある」が10.0%、「知らない」が83.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はありません。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、「知らない」が8割以上となっており、なかでも40歳代で90.1%と、最も高くなっています。

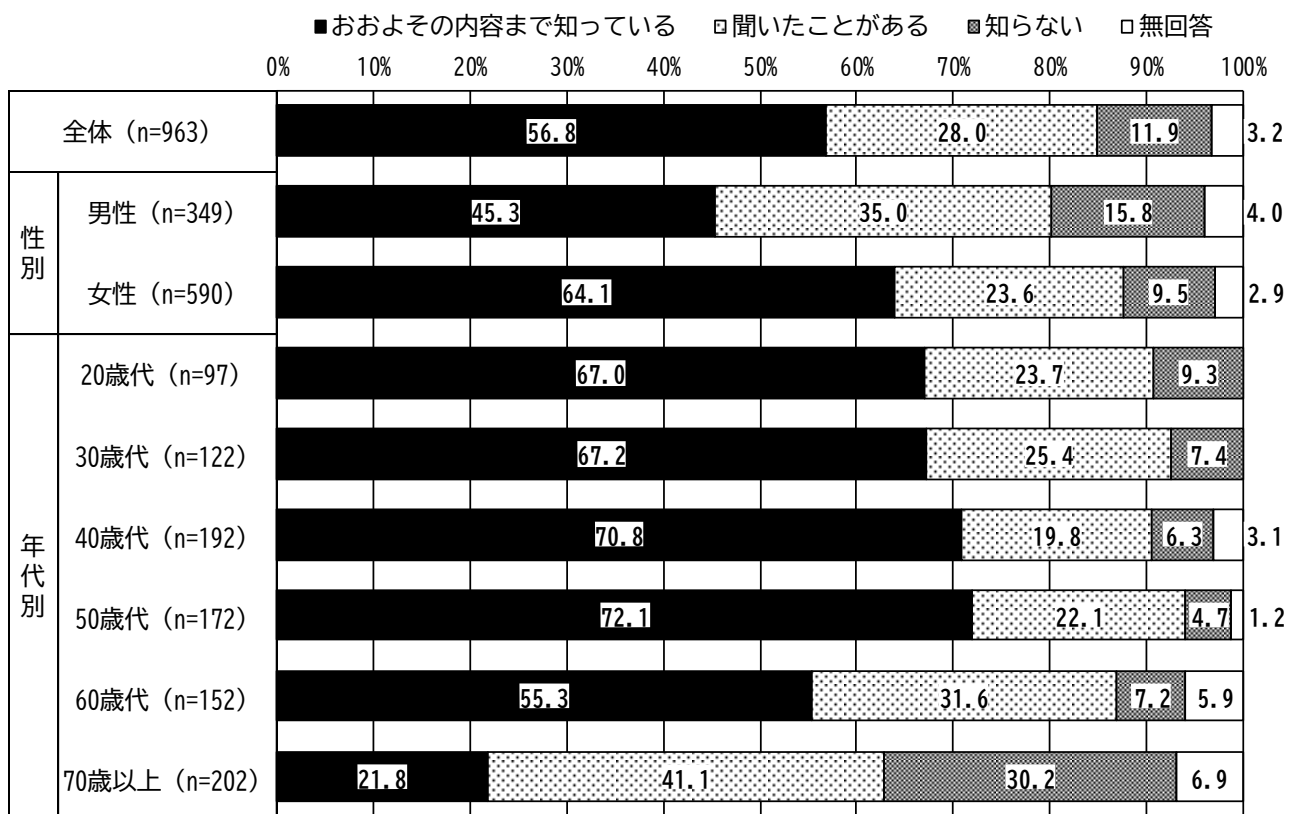
図表 147 ②SOG I (性別・年代別)



③カミングアウト

- 「おおよその内容まで知っている」が56.8%、「聞いたことがある」が28.0%、「知らない」が11.9%となっています。
- 性別では、女性で「おおよその内容まで知っている」が64.1%と、男性より18.8ポイント高くなっています。一方で、男性で「聞いたことがある」が11.4ポイント、「知らない」が6.3ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、20歳代から50歳代にかけて、年代が上がるにつれて「おおよその内容まで知っている」が高くなっており、50歳代で72.1%となっています。一方で、70歳以上で「知らない」が30.2%と、他の年代より高くなっています。

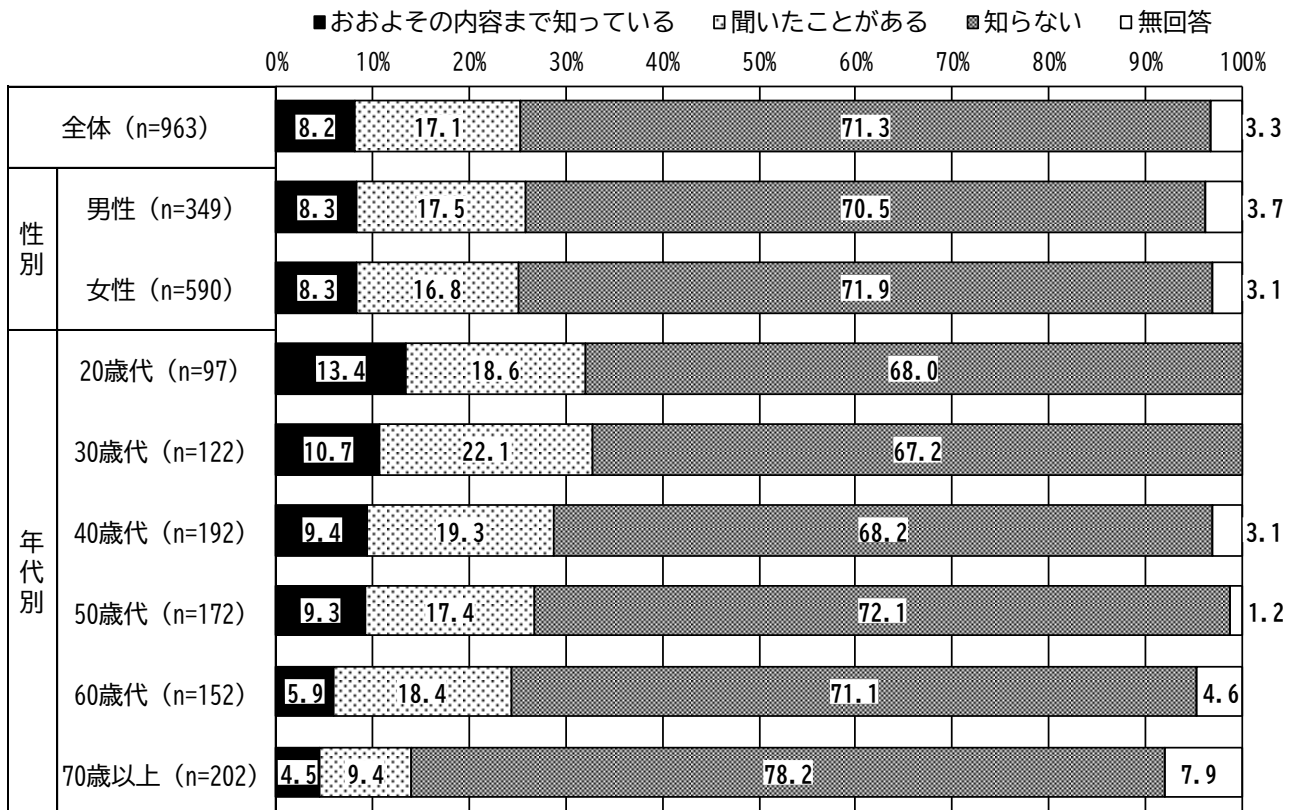
図表 148 ③カミングアウト（性別・年代別）



④アウティング

- 「おおよその内容まで知っている」が8.2%、「聞いたことがある」が17.1%、「知らない」が71.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はありません。
- 年代別では、年代が下がるにつれて、「おおよその内容まで知っている」が高くなっており、20歳代で13.4%となっています。一方で、いずれの年代も「知らない」が6割以上となっており、なかでも70歳以上で78.2%と、最も高くなっています。

図表 149 ④アウティング（性別・年代別）



⑤アライ

- 「おおよその内容まで知っている」が2.7%、「聞いたことがある」が8.7%、「知らない」が85.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「知らない」が8割以上となっており、なかでも30歳代で88.5%となっています。

図表 150 ⑤アライ（性別・年代別）



中学生・高校生調査との比較

- 「おおよその内容まで知っている」の割合は、市民は「③カミングアウト」、中学生と高校生は「①LGBT」が最も高くなっています。
- 中学生の調査と比較すると、「③カミングアウト」が35.6ポイント、「①LGBT」が12.5ポイント、それぞれ中学生より高くなっています。
- 高校生の調査と比較すると、「①LGBT」が46.5%と、高校生より19.9ポイント低くなっています。一方で、「③カミングアウト」が56.8%と、高校生より12.8ポイント高くなっています。

図表 151 「おおよその内容まで知っている」の割合（中学生・高校生調査との比較）

	(%)				
	① L G B T	② S O G I	③ カ ミ ン グ ア ウ ト	④ ア ウ テ ィ ン グ	⑤ ア ラ イ
市民	46.5	3.6	56.8	8.2	2.7
中学生	34.0	5.0	21.2	5.9	3.5
高校生	66.4	4.8	44.0	8.4	5.7

- 「知らない」の割合は、いずれも「②SOGI」「④アウティング」「⑤アライ」が7割以上となっています。
- 中学生の調査と比較すると、「③カミングアウト」が26.6ポイント、「①LGBT」が14.9ポイント、「④アウティング」が5.8ポイント、それぞれ中学生より低くなっています。
- 高校生の調査と比較すると、「①LGBT」が12.0ポイント、「②SOGI」が4.9ポイント、それぞれ高校生より高くなっています。一方で、「④アウティング」が5.1ポイント、「③カミングアウト」が4.6ポイント、それぞれ高校生より低くなっています。

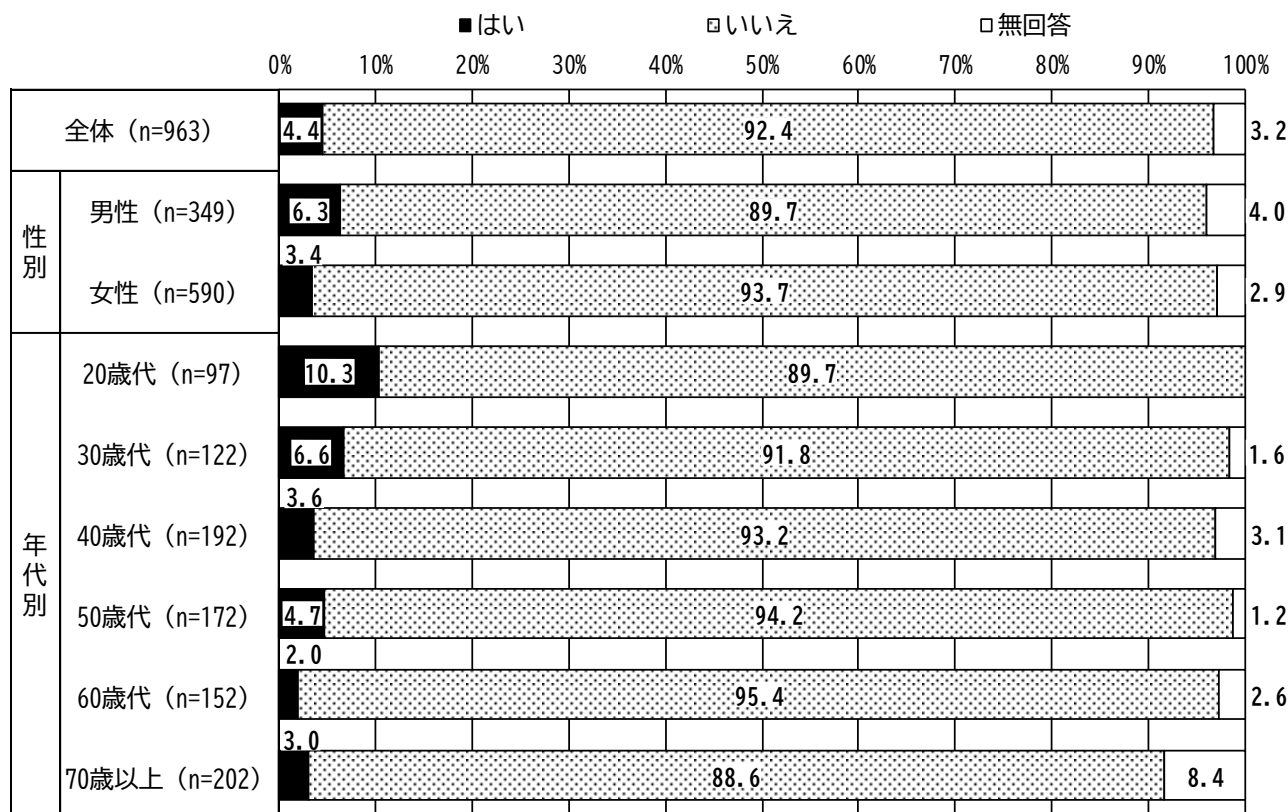
図表 152 「知らない」の割合（中学生・高校生調査との比較）

	(%)				
	① L G B T	② S O G I	③ カ ミ ン グ ア ウ ト	④ ア ウ テ ィ ン グ	⑤ ア ラ イ
市民	23.8	83.3	11.9	71.3	85.3
中学生	38.7	82.8	38.5	77.1	81.1
高校生	11.8	78.4	16.5	76.4	80.5

問22 あなたは今までに性的指向や性自認について悩んだことはありますか。(○は1つ)

- 「はい」が4.4%、「いいえ」が92.4%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20歳代で「はい」が10.3%と、他の年代と比べて高くなっています。

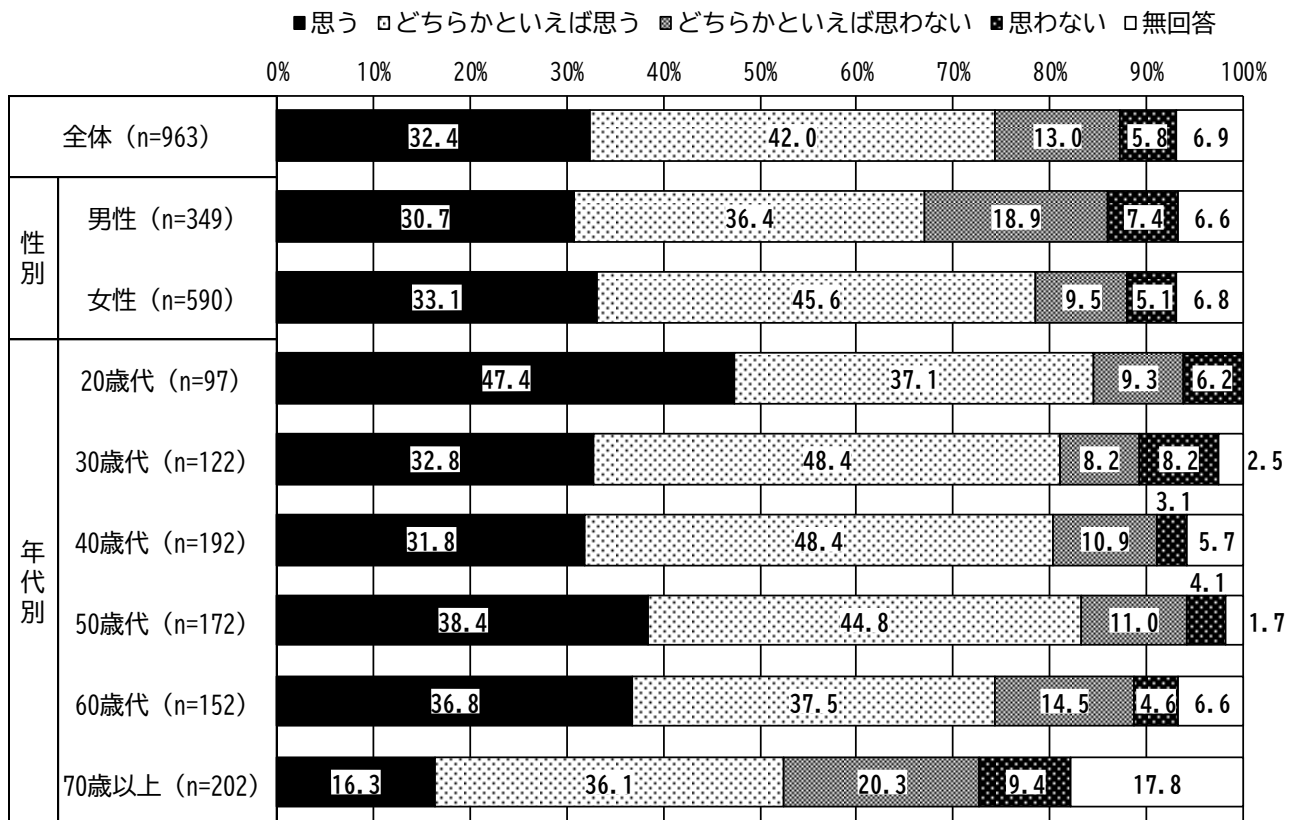
図表 153 性的指向や性自認に悩んだ経験（性別・年代別）



問 23 性的少数者（LGBT等）の方々にとって、現在の社会は偏見や差別などがあり、生活しづらいと思いますか。（○は1つ）

- 「どちらかといえば思う」が42.0%と最も高く、次いで「思う」（32.4%）、「どちらかといえば思わない」（13.0%）となっています。
- 性別では、男性で「どちらかといえば思わない」が18.9%と、女性より9.4ポイント高くなっています。一方で、女性で「どちらかといえば思う」が45.6%と、男性より9.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代で「思う」が47.4%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 154 性的少数者の生活しづらいと思うか（性別・年代別）

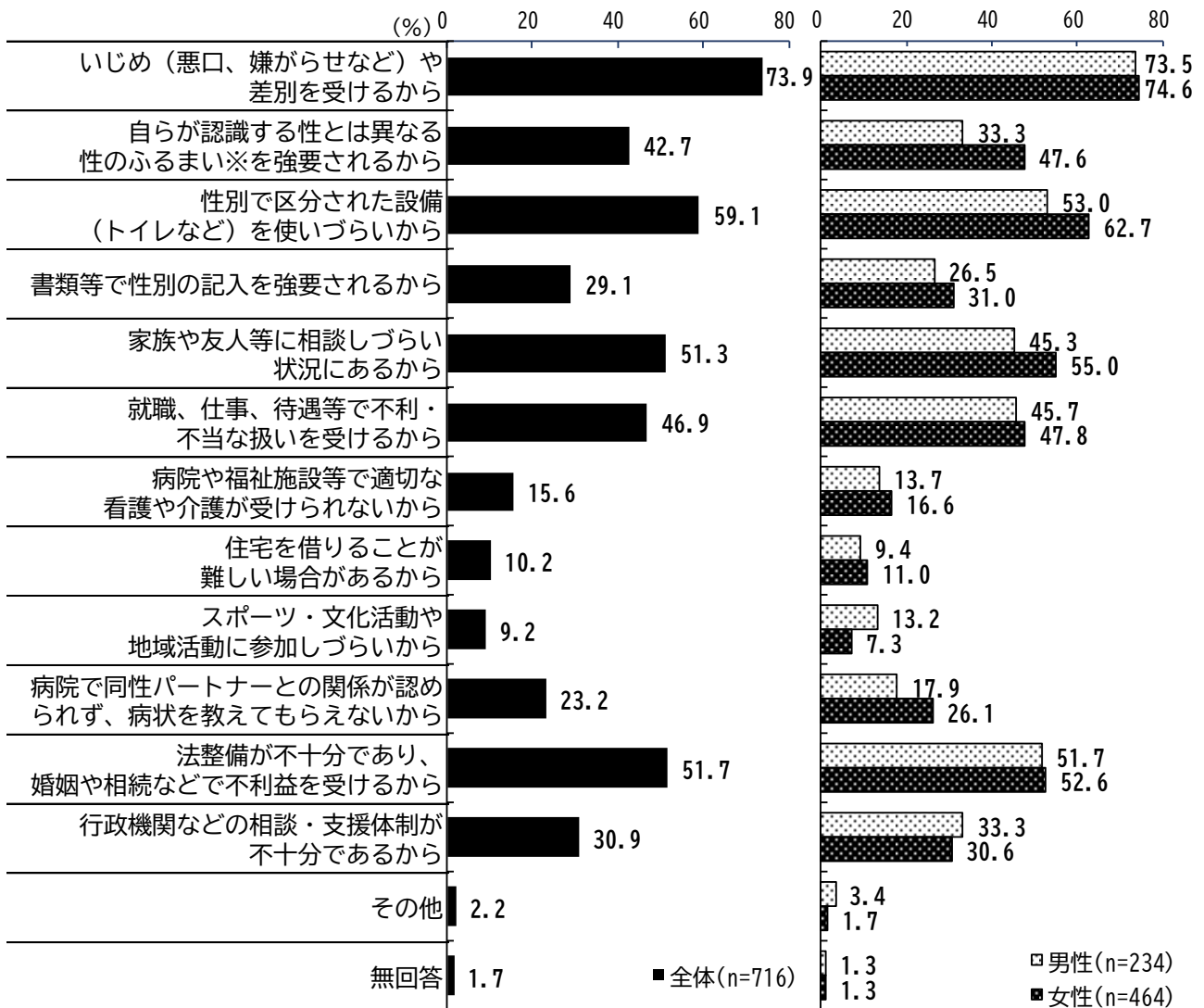


※問 23 で「思う」「どちらかといえば思う」と回答した方

問 23-1 それほどの理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- 「いじめ（悪口、嫌がらせなど）や差別を受けるから」が73.9%と最も高く、次いで「性別で区分された設備（トイレなど）を使いづらいから」（59.1%）、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」（51.7%）、「家族や友人等に相談しづらい状況にあるから」（51.3%）となっています。
- 性別では、女性で「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから」が14.3ポイント、「性別で区分された設備（トイレなど）を使いづらいから」と「家族や友人等に相談しづらい状況にあるから」がともに9.7ポイント、「病院でパートナーとの関係が認められず、病状を教えてもらえないから」が8.2ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「スポーツ・文化活動や地域活動に参加しづらいから」が13.2%と、女性より5.9ポイント高くなっています。

図表 155 性的少数者が生活しづらいと思う理由（性別）



※服装、言葉遣いなど

年代別

- 年代別では、いずれの年代も「いじめ（悪口、嫌がらせなど）や差別を受けるから」が最も高くなっています。また、20歳代で「病院で同性パートナーとの関係が認められず、病状を教えてもらえないから」と「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」が、他の年代と比べて高くなっています。

図表 156 性的少数者が生活しづらいと思う理由（年代別）

		件数（件）	いじめ（悪口、嫌がらせなど）や差別を受けるから	自ら認識する性とは異なる性のまじり（服装、言葉遣いなど）を強要されるから	性別で区分された設備（トイレなど）を共用しているから	書類等で性別の記入を強要されるから	家族や友人等に相談しづらい状況にあるから	就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受けるから	病院や福祉施設等で適切な看護や介護が受けられないから
全体		716	73.9	42.7	59.1	29.1	51.3	46.9	15.6
年代別	20歳代	82	80.5	53.7	63.4	34.1	54.9	42.7	20.7
	30歳代	99	72.7	45.5	56.6	33.3	52.5	36.4	12.1
	40歳代	154	76.6	43.5	55.8	31.2	55.8	44.2	16.2
	50歳代	143	80.4	48.3	64.3	25.2	50.3	53.1	13.3
	60歳代	113	64.6	38.1	55.8	28.3	52.2	59.3	21.2
	70歳以上	106	68.9	28.3	61.3	26.4	44.3	43.4	11.3

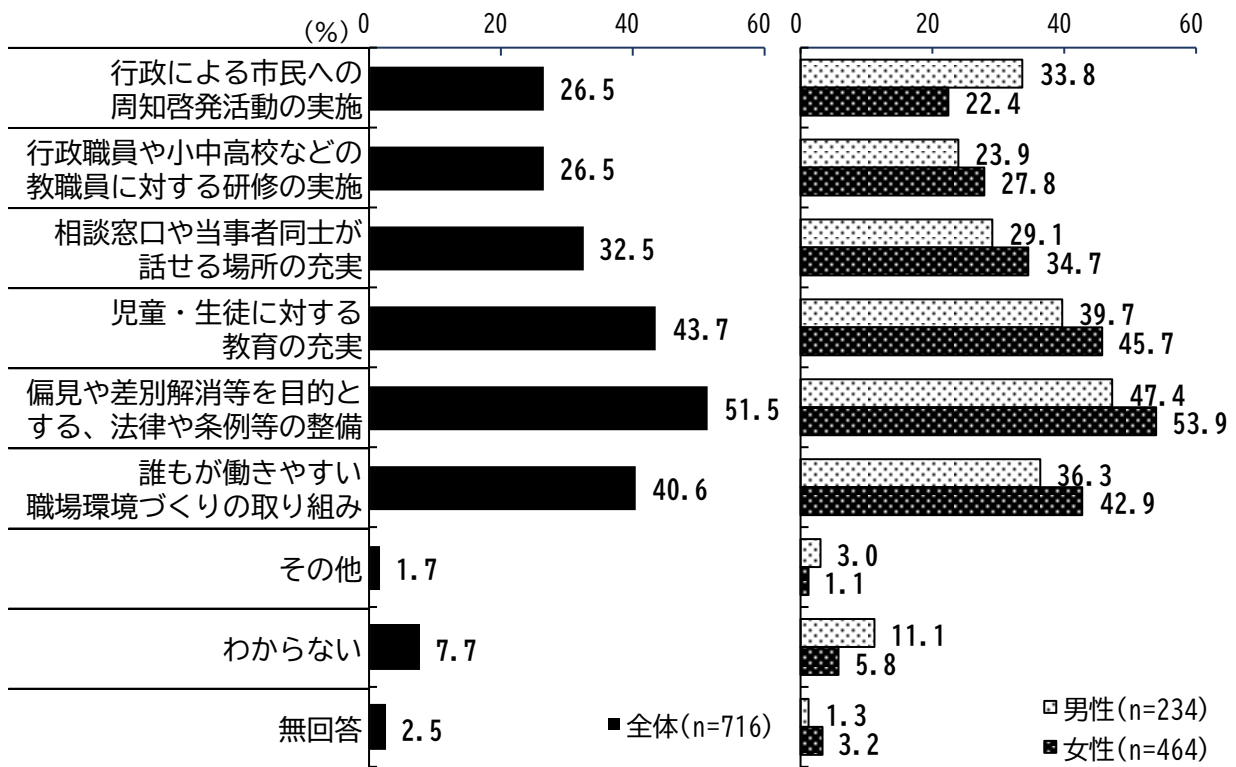
		難しい住宅を借りる場合があるから	スポーツ・文化活動や地域活動に参加しづらいため	病状を認められず、病院で同性パートナーとの関係が認められないから	法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから	行政機関などの相談・支援体制が不十分であるから	その他	無回答
全体		10.2	9.2	23.2	51.7	30.9	2.2	1.7
年代別	20歳代	18.3	11.0	36.6	67.1	32.9	3.7	1.2
	30歳代	6.1	4.0	23.2	59.6	24.2	3.0	-
	40歳代	9.7	11.7	21.4	48.1	30.5	1.9	-
	50歳代	5.6	8.4	25.9	53.8	32.9	2.1	-
	60歳代	17.7	9.7	22.1	48.7	36.3	1.8	0.9
	70歳以上	8.5	10.4	14.2	42.5	32.1	1.9	6.6

※問 23 で「思う」「どちらかといえば思う」と回答した方

問 23-2 性的少数者（LGBT等）の方々にとって、偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するためには、どのような対策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

- 「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」が 51.5%と最も高く、次いで「児童・生徒に対する教育の充実」(43.7%)、「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」(40.6%)となっています。
- 性別では、男性で「行政による市民への周知啓発活動の実施」が 11.4 ポイント、「わからない」が 5.3 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。一方で、女性で「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」が 6.6 ポイント、「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」が 6.5 ポイント、「児童・生徒に対する教育の充実」が 6.0 ポイント、「相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実」が 5.6 ポイントとなっています。

図表 157 性的少数者が生活しやすい社会を実現するために必要な対策（性別）



年代別

- 年代別では、20歳代から40歳代にかけて「児童・生徒に対する教育の充実」、50歳代と60歳代で「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」、70歳以上で「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」と「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」が、それぞれ最も高くなっています。

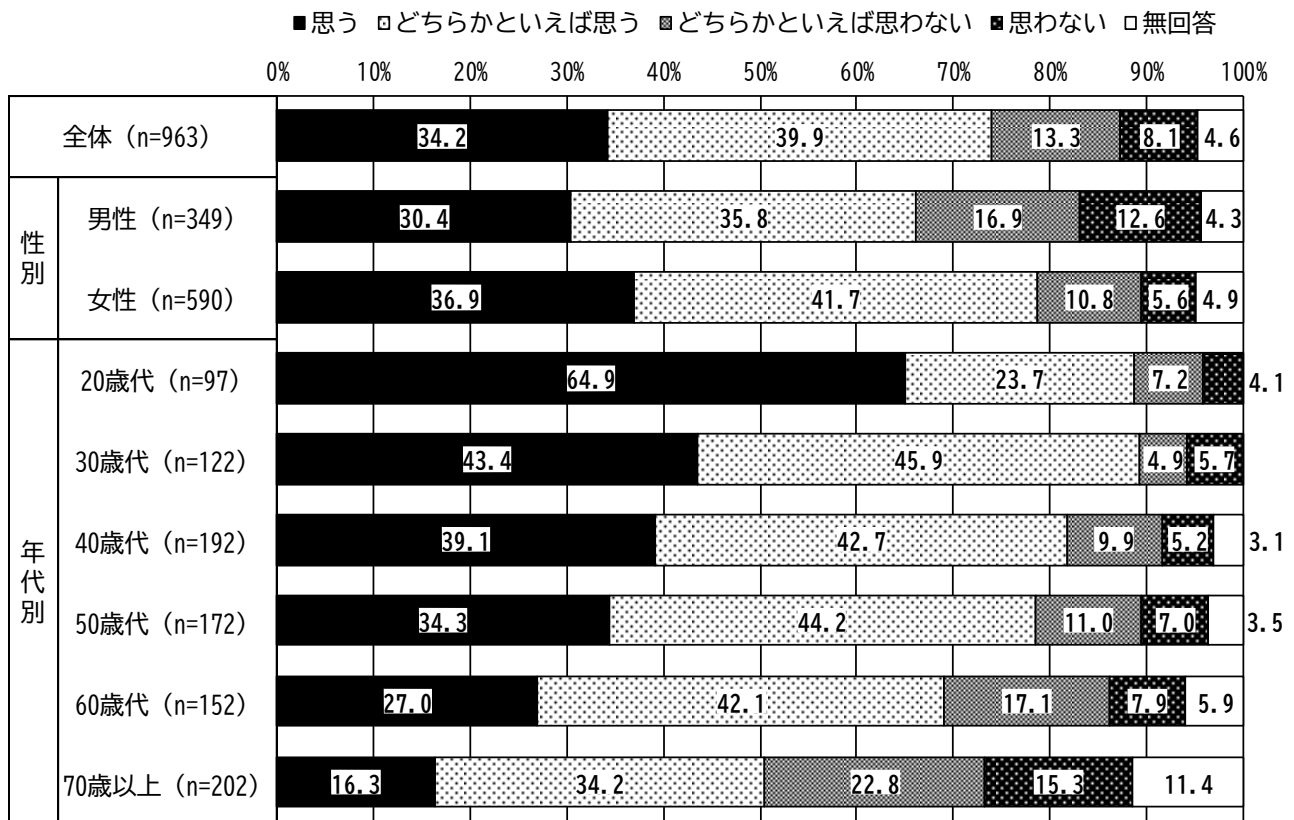
図表 158 性的少数者が生活しやすい社会を実現するために必要な対策（年代別）

		(%)									
		件数 (件)	行政 啓発 活動 による 市民 への 周知	行政 職員 や小 中高 校の 実施 の	相 談 窓 口 や 当 事 者 同 士 が	充 実 児 童 ・ 生 徒 に 対 す る 教 育 の	偏 見 や 差 別 解 消 等 を 目 的 と す る 、 法 律 や 条 例 等 の 整 備	誰 も が 働 き や す い 職 場 環 境 づ く り の 取 り 組 み	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		716	26.5	26.5	32.5	43.7	51.5	40.6	1.7	7.7	2.5
年 代 別	20歳代	82	17.1	26.8	31.7	59.8	56.1	53.7	2.4	4.9	1.2
	30歳代	99	20.2	26.3	34.3	58.6	50.5	35.4	3.0	5.1	1.0
	40歳代	154	29.2	30.5	27.9	50.6	46.8	37.0	1.9	7.1	1.9
	50歳代	143	26.6	25.2	33.6	35.7	59.4	36.4	1.4	7.0	3.5
	60歳代	113	29.2	30.1	32.7	38.1	50.4	39.8	1.8	9.7	1.8
	70歳以上	106	31.1	18.9	37.7	24.5	47.2	47.2	-	11.3	5.7

問 24 現在、「同性パートナーシップ制度」を制定している自治体がありますが、あなたは必要だと思いますか。（〇は1つ）

- 「どちらかといえば思う」が39.9%と最も高く、次いで「思う」（34.2%）、「どちらかといえば思わない」（13.3%）となっています。
- 性別では、男性で“必要だと思わない※1”が29.5%と、女性より13.1ポイント高くなっています。一方で、女性で“必要だと思う※2”が78.6%と、男性より12.4ポイント高くなっています。

図表 159 「同性パートナーシップ制度」の必要性（性別・年代別）



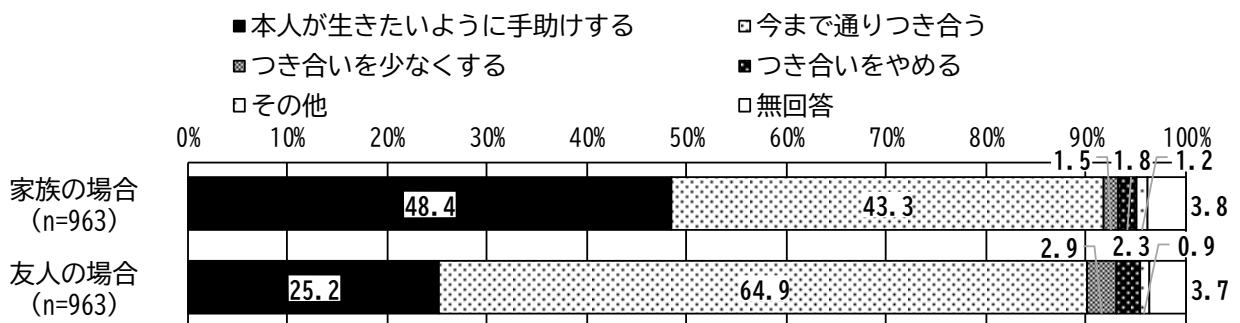
※1 「思わない」 + 「どちらかといえば思わない」

※2 「思う」 + 「どちらかといえば思う」

問 25 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBT）であることを打ち明けられたらどうしますか。（〇は1つ）

- 「家族の場合」は「本人が行きたいように手助けする」が48.4%、「友人の場合」は「今まで通りつき合う」が64.9%と、それぞれ最も高くなっています。

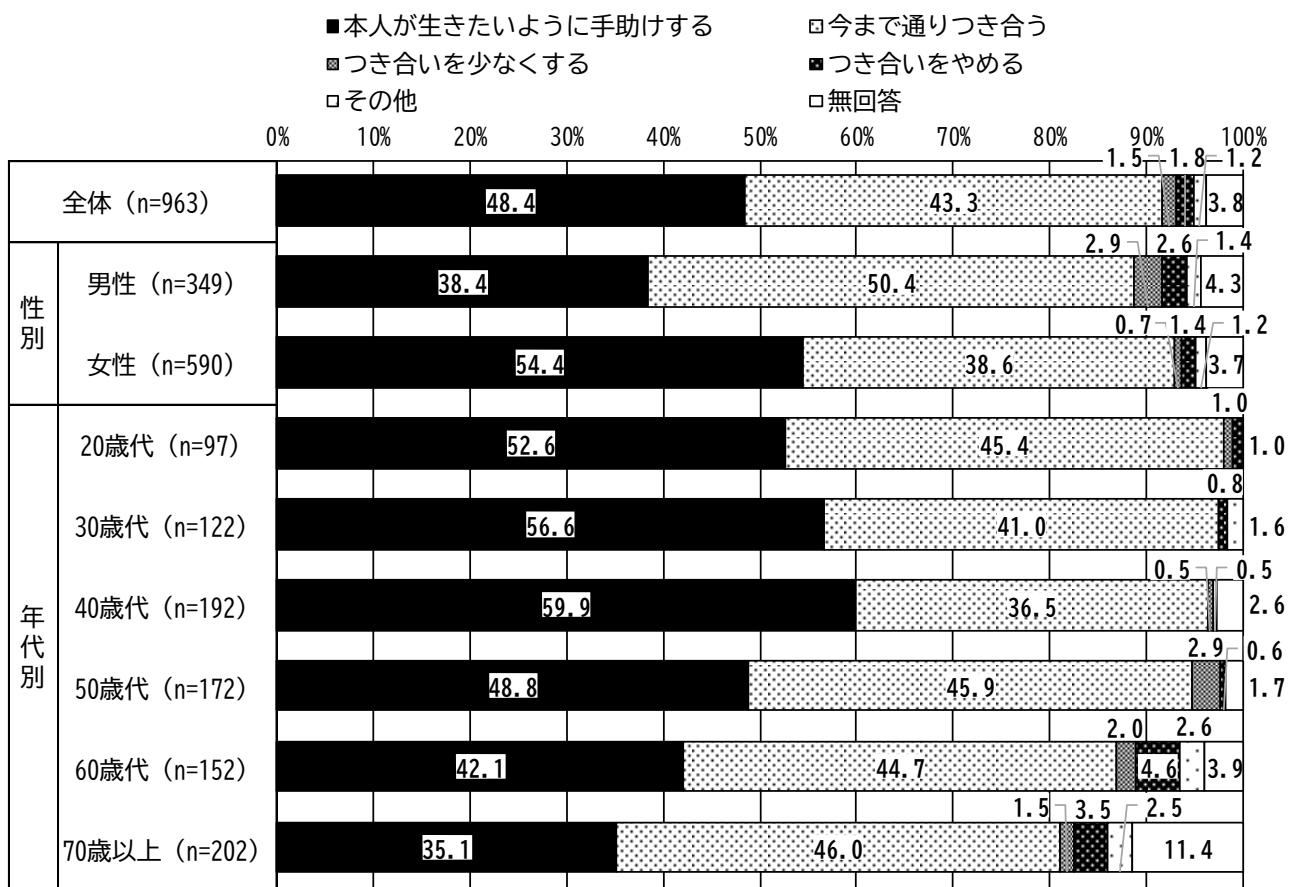
図表 160 身近な人からカミングアウトをされたら



家族の場合

- 家族の場合は、「本人が行きたいように手助けする」が 48.4%、「今まで通りつき合う」が 43.3%となっています。
- 性別では、女性で「本人が行きたいように手助けする」が 54.4%と、男性より 16.0ポイント高くなっています。一方で、男性で「今まで通りつき合う」が 50.4%と、女性より 11.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、20歳代から 40歳代にかけて、「本人が行きたいように手助けする」が 5割以上となっており、なかでも 40歳代で 59.9%と、最も高くなっています。

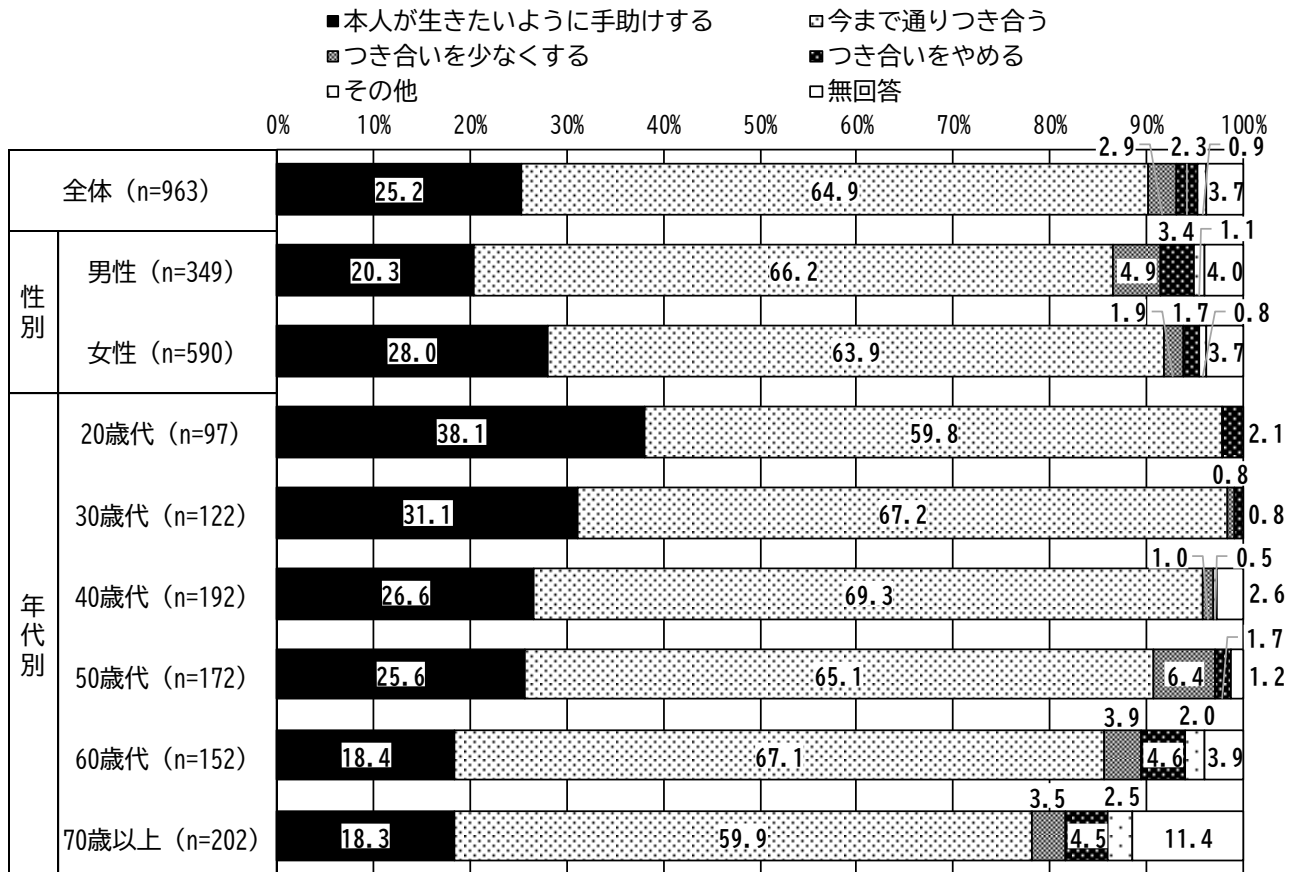
図表 161 家族の場合（性別・年代別）



友人の場合

- 友人の場合は、「今まで通りつき合う」が64.9%と最も高く、次いで「本人が行きたいように手助けする」(25.2%)となっています。
- 性別では、女性で「本人が生きたいように手助けする」が28.0%と、男性より7.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「本人が生きたように手助けする」が高くなっており、20歳代で38.1%となっています。

図表 162 友人の場合（性別・年代別）



中学生・高校生調査との比較

- 中学生・高校生の調査と比較すると、家族の場合は、市民は「本人が生きたいように手助けする」、中学生と高校生は「今まで通りつき合う」が、それぞれ最も高くなっています。
- 「本人が生きたいように手助けする」が、中学生と高校生より 10 ポイント以上高くなっています。
- 中学生・高校生の調査と比較すると、友人の場合は、いずれも「今まで通りつき合う」が、それぞれ最も高くなっています。
- 「今まで通りつき合う」が 64.9%と、中学生より 14.2 ポイント高くなっています。

図表 163 身近な人からカミングアウトをされたら（中学生・高校生調査との比較）

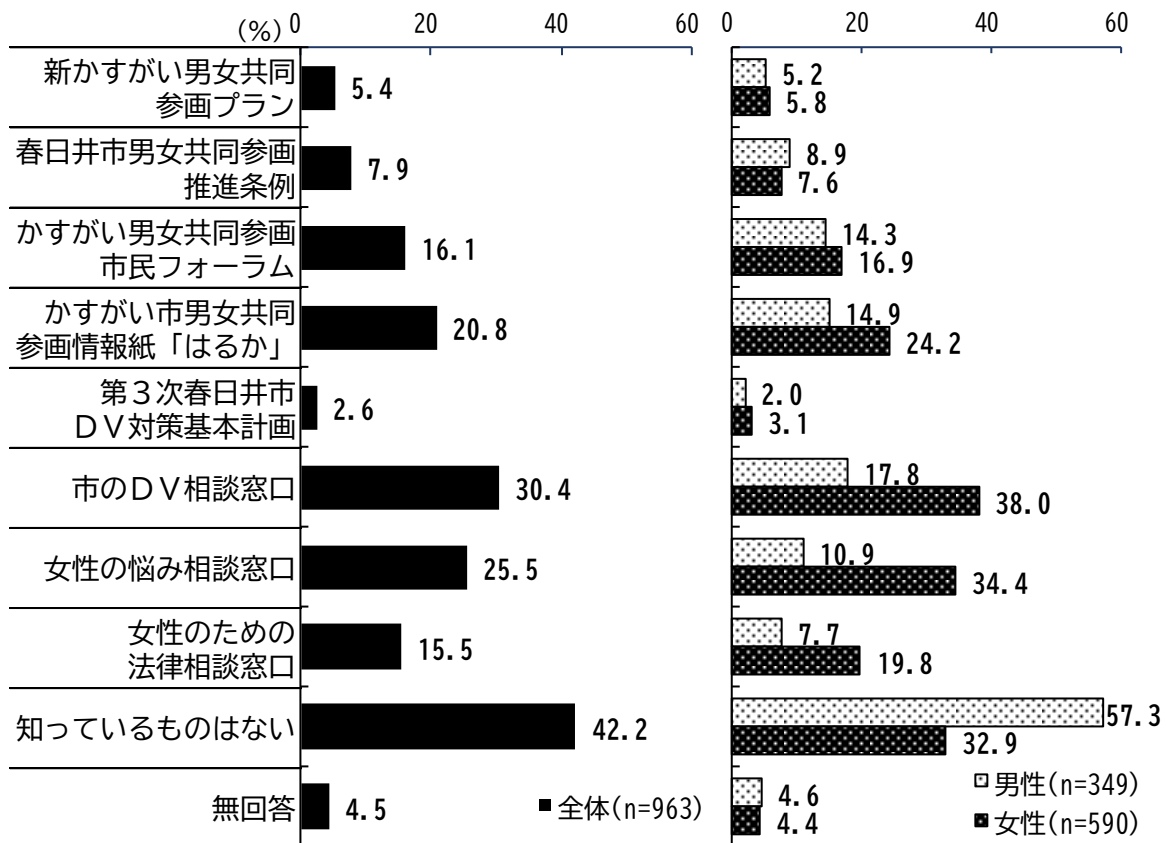
		(%)					
		本人が 生きたい ように 手助け する	今 まで 通 り つ き 合 う	つ き 合 い を 少 な く す る	つ き 合 い を や め る	そ の 他	無 回 答
家 族	市民	48.4	43.3	1.5	1.8	1.2	3.8
	中学生	37.0	54.2	3.1	1.0	1.2	3.5
	高校生	29.5	67.1	1.6	0.4	0.4	1.1
友 人	市民	25.2	64.9	2.9	2.3	0.9	3.7
	中学生	37.0	50.7	6.1	1.6	1.4	3.3
	高校生	27.4	68.0	3.2	0.4	0.4	0.7

(9) 市の男女共同参画の取り組みについて

問 26 春日井市では、男女共同参画社会の実現に向けて、様々な取り組みをしています。あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 「知っているものはない」が42.2%と最も高く、次いで「市のDV相談窓口」(30.4%)、「女性の悩み相談窓口」(25.5%)、「かすがい市男女共同参画情報紙『はるか』」(20.8%)となっています。
- 性別では、男性で「知っているものはない」が57.3%と、女性より24.4ポイント高くなっています。一方で、女性で「女性の悩み相談窓口」が23.5ポイント、「市のDV相談窓口」が20.2ポイント、「女性のための法律相談窓口」が12.1ポイント、「かすがい市男女共同参画情報紙『はるか』」が9.3ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 164 男女共同参画社会実現のための春日井市の取り組み（性別）



年代別

- 年代別では、いずれの年代も「新かすがい男女共同参画プラン」と「第3次春日井市DV対策基本計画」が1割未満となっています。また、20歳代で「知っているものはない」が54.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 165 男女共同参画社会実現のための春日井市の取り組み（年代別）

		件数 (件)	新かすがい 男女共同 参画プラン	春日井市 男女共同 参画推進 条例	かすがい 男女共同 参画	かすがい 男女共同 参画情報 紙『はるか 』	第3次 春日井市 DV対策 基本計画	市の DV相談 窓口	女性の 悩み相 談窓口	女性 のための 法律相 談窓 口	知っ ている もの はな い	無 回 答
全 体		963	5.4	7.9	16.1	20.8	2.6	30.4	25.5	15.5	42.2	4.5
年 代 別	20歳代	97	3.1	9.3	12.4	12.4	1.0	20.6	19.6	8.2	54.6	2.1
	30歳代	122	4.1	9.8	15.6	8.2	3.3	35.2	24.6	17.2	48.4	1.6
	40歳代	192	3.6	6.3	15.1	24.0	1.6	38.5	32.8	12.5	40.6	3.1
	50歳代	172	5.2	8.7	15.1	18.0	4.1	35.5	27.9	19.8	40.1	4.1
	60歳代	152	5.9	11.2	19.1	26.3	0.7	27.6	22.4	14.5	42.1	4.6
	70歳以上	202	8.9	5.0	16.8	27.2	4.5	22.3	22.8	17.3	35.1	8.9

過去の調査との比較

- 「春日井市男女共同参画推進条例」「かすがい市男女共同参画情報紙『はるか』」「市のDV相談窓口」「女性のための法律相談窓口」が、過去の調査のなかで最も高くなっています。

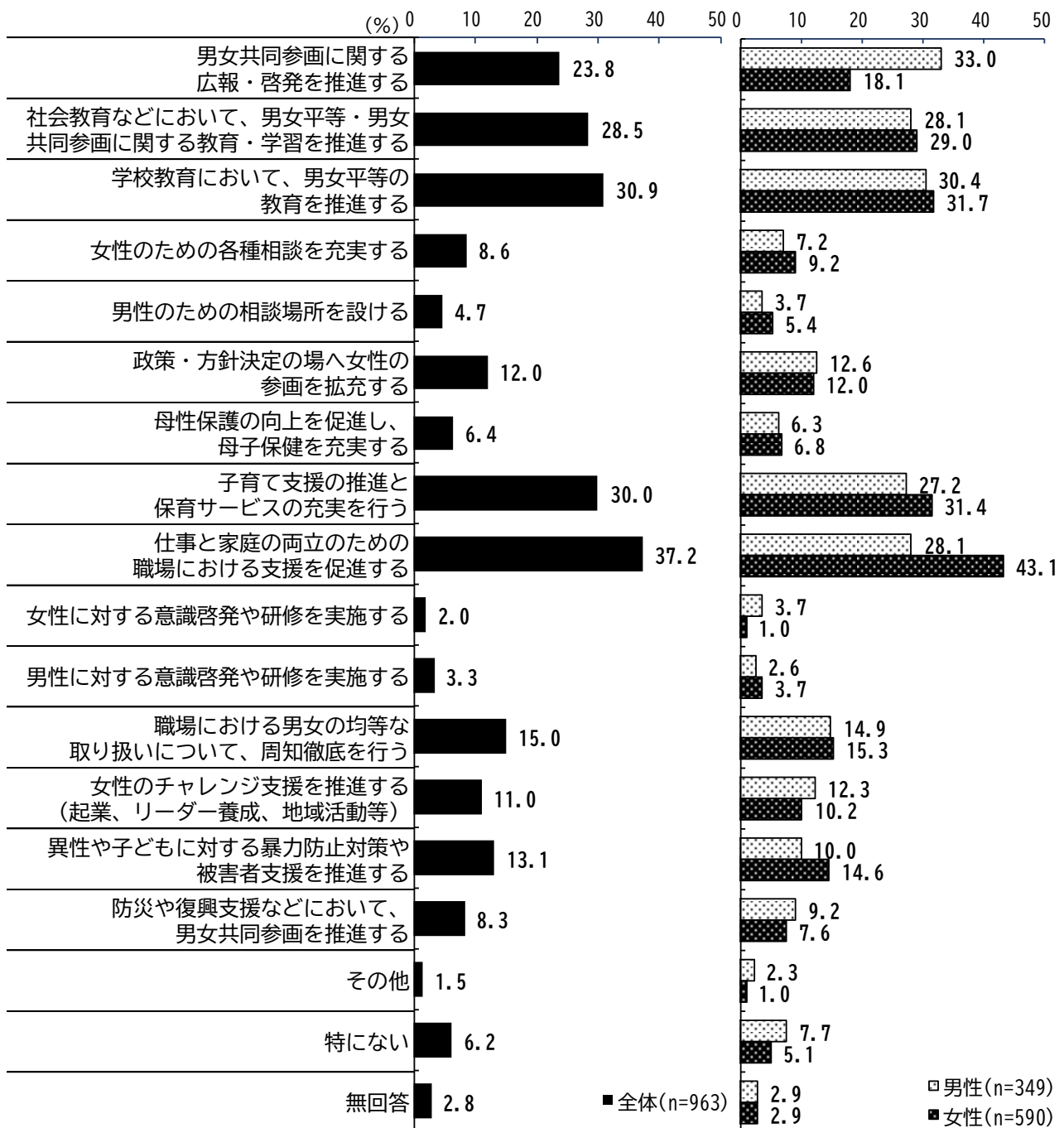
図表 166 男女共同参画社会実現のための春日井市の取り組み（過去の調査との比較）

	新かすがい 男女共同 参画プラン	春日井市 男女共同 参画推進 条例	かすがい 男女共同 参画	かすがい 男女共同 参画情報 紙『はるか 』	第3次 春日井市 DV対策 基本計画	市の DV相談 窓口	女性の 悩み相 談窓口	法 律 相 談 窓 口 の	な い 知 っ て い る も の は	無 回 答
令和2年	5.4	7.9	16.1	20.8	2.6	30.4	25.5	15.5	42.2	4.5
平成28年	6.0	7.4	19.0	19.4	2.0	21.7	23.1	13.6	47.0	-
平成22年	17.2	4.6	18.6	7.6	3.9	25.7	26.6	-	41.8	-

問 27 男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

- 「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が 37.2%と最も高く、次いで「学校教育において、男女平等の教育を推進する」(30.9%)、「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(30.0%)となっています。
- 性別では、女性で「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が 43.1%と、男性より 15.0ポイント高くなっています。一方で、男性で「男女共同参画に関する広報・啓発を推進する」が 33.0%と、女性より 14.9ポイント高くなっています。

図表 167 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと(性別)



年代別

- 年代別でみると、30歳代で「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」、40歳代と70歳以上で「学校教育において、男女平等の教育を推進する」、それ以外の年代で「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が、それぞれ最も高くなっています。

図表 168 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（年代別）

		件数（件）	広男女共同参画に関する啓発を推進する	男女平等教育・男女共同参画に関する教育・学習を推進する	学校教育において、男女平等の教育を推進する	女性のための各種相談を充実する	男性のための相談場を設ける	政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する	母子保護の向上を促進し、母子保健を充実する	子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う	仕事と家庭の両立の支援を促進する
全体		963	23.8	28.5	30.9	8.6	4.7	12.0	6.4	30.0	37.2
年代別	20歳代	97	16.5	26.8	26.8	8.2	10.3	17.5	12.4	41.2	48.5
	30歳代	122	19.7	23.0	27.9	9.0	4.1	9.0	11.5	50.8	44.3
	40歳代	192	19.8	27.6	35.4	10.4	8.9	8.9	5.2	27.1	33.3
	50歳代	172	20.9	32.0	27.9	8.7	4.7	13.4	5.8	22.1	36.6
	60歳代	152	32.9	31.6	36.8	6.6	2.0	11.8	4.6	26.3	40.8
	70歳以上	202	28.7	28.2	30.2	7.4	1.0	14.4	4.0	23.8	29.7

		女性に対する意識啓発や研修を実施する	男性に対する意識啓発や研修を実施する	職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底を行う	女性のチャレンジ支援を推進する（起業、リーダー養成、地域活動等）	防止対策や被害者支援を推進する	異性や子どもに対する暴力	防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する	その他	特になし	無回答
全体		2.0	3.3	15.0	11.0	13.1	8.3	1.5	6.2	2.8	
年代別	20歳代	3.1	3.1	19.6	12.4	17.5	4.1	-	2.1	1.0	
	30歳代	-	3.3	11.5	13.9	18.9	7.4	3.3	0.8	1.6	
	40歳代	3.1	8.3	14.6	7.8	12.5	7.8	2.6	6.3	1.0	
	50歳代	1.2	3.5	19.8	12.2	12.2	7.6	1.2	5.8	5.2	
	60歳代	3.3	0.7	13.8	11.8	8.6	8.6	2.0	5.9	0.7	
	70歳以上	1.5	0.5	12.9	9.9	11.4	10.9	-	11.4	5.9	

問28 男女がともに参画できるまちづくりを進めることについて、ご意見・ご提案やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

■ 子育てについて

子育て支援は、両親が揃う家庭、父子家庭、母子家庭などどのような形の家庭にも寄り添える支援を、多種多様に考えていくと住みやすいありがたい街（春日井市）になると思う。

LGBTの人を差別することなく、同性であっても周りに受け入れられ、家庭という形を持つことができるように、制度の支援や、啓蒙をしていくようにしてほしい。子どもを持つことができた同性カップルのドキュメンタリーを見たことがある（テレビで）。そのような状態も普通に受け入れられ、理解され、差別のない社会になるように、報道していくことに政治も協力、推進をしていけると、よい。人の気持ちが他人の立場に立って理解できる優しい社会を作りたい。

人間として、男女は平等であると思いますが、男性と女性とでは役割は違うと思っています。せめて、3歳までは、母親が育てるという支援をしていただきたいと思います。

我々の世代は、孫の子守等を求められているが、小学生に上がると子世代は共働きのため、孫の預かりが現実となり、心身ともに疲れる。女性が働きやすい世の中にするには、正社員、パート問わず、いつでも安心安全に安価で子どもを預けられる仕組み（優秀な保育者の確保！！優秀な保育者の経済的保障。資格保持者は多数いるようです。知恵を出して、確保して、誰でも保育園や学童クラブに小学生全員を預けられるようにしてほしい）をさらに希望する。孫はかわいいが、子守は別です。上記の役割は社会、行政の務めだと思う。近くに祖父母がいるというのは当たり前ではありません。母親は（小さな子どもがいる）は疲れ切っているのが現実。また、このような受け皿が整っている市町村は転入者が増え、若い世代が活気を導き、春日井市の繁栄に繋がると思います。もっと若い世代が転入してくるような行政・街づくりをして、活気づけてほしい。住みたくなる街づくりを実現してほしい。

難しいことはよくわからないのですが、子どもがいる母親が働きやすい環境になってくれると嬉しいです。今、母親が働こうとすると保育園探し。4月に入れないとなかなか厳しいと聞きます。兄弟で、違う保育園に通っていると聞きます。幼稚園では、兄弟が通っていると優先して入園させてくれます。4月入園する場合だけに限られてもいいので、兄弟優先にしてもらえませんか。父親の育児参加の少なさを考えると、送迎も母親がしている家庭が多いと思います。毎日2つの保育園を歩き来するのは、かなり大変かと思っています。働きだしても、育児の負担が大きいので、時短勤務。子どもの体調で休みも多くなる。なかなか責任のある仕事をもらえない。病児保育をしてくれるところをもっともっと使いやすくなるといいなと思います。ダイバーシティとかいって女性を登用してもなかなか男性からも女性からも受け入れられない現実があると思います。社会全体の考え方が依然と変わっていないのかなと思います。男性社会に女性が入って意見を言うのはまだまだ難しいと感じます。女性の意見が素直に受け入れられる社会になればいいなと思います。対策は思いつきません。

1. 神領駅西側の橋（車道）について。橋の車道が狭いにも関わらず、自転車の通行が多く危険。特にCKD株式会社春日井工場の通勤ラッシュ時には、自転車が多いと幅が足らず、事故になりそうなシーンを見る。要望として、・小・中・高校生の通行は厳禁としてほしい。・橋の車幅を広げるか、歩行者、自転車用の橋を新設してほしい。※子どもの通学の危険を考えてほしい。→神領駅の東側への移動が不安なので、東側への通いごとを制限しています。2. 家内の労働について。現在子どもが5歳と3歳になり、幼稚園に通う予定です（上の子は幼稚園に通っています）。2年後より、上の子だけ幼

幼稚園を卒園し、小学校へ入るため、上の子だけ家で留守番は怖いので、現在の仕事を辞めざるを得ないことが予想されます。また、下の子が小学校に上がったときも、幼稚園のような「預かり保育」のサービスが充実していないと、家内は仕事を辞めざるを得なくなります。こういったシチュエーションの家庭は多いのではないのでしょうか？→学童保育の充実、案内・広報を市民がわかりやすいよい、情報を展開してほしい。

お店や公園等、色々な施設の“お手洗い”について。子ども用が女性側にしかない場合が多いので、男性側にも設置するべき。男性だけで子どもと出かけにくくなる気がする。男女の差別が激しいのはお年寄りの方が多い気がする。上司から「女だからこうだろ！」「男だからこうしろ！」と言われると思う。子どもたちの意識も大切かもしれないが、“昔の考え方”で生きているお年寄りの意識も上手に変えてほしい。いくら制度をよくしたところで、会社を束ねている人がお年寄りだと何もよくなりえない気がしてしまう（現にそのようなところで働いていたから）。頑張ってください。

嘘の母子の家の取り調べをしっかりと無駄をなくさないとお母さんをだめにするだけです。子どもにもよくない。学校のパワハラ、セクハラが本当にこれで日本はいいのか？だんだん日本の子どもが悪くなっている。昔の子どもの方がよかった。この言葉がある日本はどうか？全てこの言葉で終わっている学校。仕事も一緒である。

・金銭面の不安から子育てがしにくい。・特にコロナ禍のなかで収入を安定させて、継続的に仕事と家庭の両立ができるか、先行きが見えない。・共働きをしないと生計が立てられないのでは？と不安を感じる世帯も比較的多いと思う。・特に子育てにおいて、親の支援が受けられないケースは子作りに踏み出せないのではないかと思う。

産前・産後ヘルパー制度を春日井市に入れてほしい。

障がい児を持っているお母さんたちが相談できる場所や、障がい児を受け入れ可能な幼稚園が少なく、とても困っています。もう少し、受け入れができるようにしてほしいです。

私は19歳で子ども3人を年子で出産し、パートナーは朝早く～夜遅くまで仕事で完全ワンオペで身近に頼れる人もいなく、イライラして苦しくて辛いわかりました。そのときにもっと支援の場があれば、もっと違った育児ができたのではと思います。支援の場があっても認知されていなければ無と一緒にです。今2歳の子を育児中ですが、自分で調べてではないと何もありません。せっかく支援の場があるならもっと広めてほしいです。

他市と比べると、まだまだ子どもが育てにくいと感じることがあります。特に金銭面の補助がもっと充実していれば、2人以上子どもがほしいと思う親も増えると思います。また、子どもも親も満足できるような施設が少ないですね。休日は市外へ遊びに連れていくことが多いです。

男女が同じように社会で活躍するようとか、女性も社会で活躍するようなどよく言われますが、家において育児をすることも男女問わず立派な社会での活躍だと思っています。次の時代を担う子どもを責任を持って余裕を持って育てることができ、子どもの成長に合わせてプロの力（保育園、学校どな）を借りながら、父親・母親自身も家庭の外の社会でも満足いく仕事ができる、そんな社会になるといいなと思います。現実には人員不足で、育児休暇が男女とも満足にはとれない状況です。

考えてみましたが市に求めるものは特にありません。広報等に子育てのイベント等わかりやすくたくさん載せていただけたら嬉しいです。最近のパパたちはとても土日も子育てに参加してくれていると思っています。ただ社会全体として働きすぎ、激務すぎであるとは思っています。パパも頑張ってお早朝から夜遅くまで働いてくれている姿を見ているので、平日はどうしても助けを求められる一人で

頑張ってる家事、子育てをやっています。時々本当に疲れて育児から離れたいと思うときもあります。もっと余裕の持てる社会になるといいと切に願っています。一時保育等についても一度も利用したこともなく、使い方もよくわかっていないので、もう少しわかりやすく使いやすくしていただくと嬉しいです。

子どもが幼稚園とか休みの日に公園とかに行くのですが、知的障がいがあるため、騒いだりすると他の人にうるさいみたいなことを言われたりするので、障がい者の子でも安心して遊べるところがあると嬉しいです。働きたいけど子どもが障がいがあって、療育とかいろいろ送り迎えなどをしているだけ、なかなか働ける場所がない。

女性が安心して働き、子育てできるような保育の充実。定額で何かあったとき（病院に行きたいときなど）に子どもを預けられる場所があるととても嬉しい（保育園等に通っていない子がいる場合）。

子育てのしやすい市づくりをしてほしい。

・3歳未満に2人目を出産すると、保育園を追い出される。それによって鬱になる母親が多くいる。鬱になり自殺しようと薬を飲み、手首を切った知り合いもいる。一命は取り留めたが、保育園を追い出さないでほしい。保育園を追い出されないために、2人目を3歳になってから出産したため、歳を取ってしまった。3人目は無理かもしれない。・夫は夜遅く（22～0時）に仕事から帰ってくるため、ワンオペ育児である。もっと働きたいが難しくなっているため、パートになるか考え中だが、不満がある。夫のワークライフバランスはどうなっているのか。そんな家庭は多いと思う。・家事はすべて私が行っているが、子どもがいないときに私の方が収入が多かったが、夫は家事に協力してくれず、不満があった。今は時短で収入が夫の方がいるので家事をするのは仕方ないと思ってやっている。なぜ女が家事をする世の中なのか。・働いた後食事を作るのが苦痛。親子食堂とか作ってほしい。そこに毎日食べに行くと、夫の方はタッパーに詰めて持って帰りたい。・子どもが熱を出したときに仕事を休むのは私。・仕事が休みの日に私が家事をしていないと怒るが、私が仕事で夫が休みの日は家事をしていない。結局仕事から帰ってきて私が夕食を作っているが、作りたくない。・育休を少し取ってくれたが、そもそも家事のスキルがないので、私が満足するケアをしてくれなかった。家事にイライラしてもモラハラを受け、産後鬱になりかけた。育休を取る夫のための家事のノウハウ、妻へのケアの方法を誰か教えてあげてほしい。産後はえらいし、ホルモンバランスも崩れる。・女性の政治家が増えて、女性がもっと活躍できる世の中になってほしい。・職場で、時短の人が多からと、時短ではなくフルで働けと言われてる。時短が無理ならパートになれと。時短の意味がないと思う。そういう職場は多いと思う。・フルで働いていると子どもを習い事に通わせられないのが子育ての悩み。・パパと子どものためのイベントを増やしてほしい。私の1人の時間がほしい。・家事をしても誰も評価してくれない。家事は苦痛でしかない。・仕事をしているとイライラして子どもに当たってしまう。このまま仕事をしていてもいいのか迷う。子どもにもよくない。・時短で給料が少なすぎて、扶養内のパートで働いた方がいいんじゃないかと思えてくる。仕事のモチベーションが下がる。・職場に保育園があるように、老人のための介護園をつくってほしい。親が介護で仕事を辞めた。デイ9:30にお迎え16時に帰宅で、仕事ができない。職場に介護園があれば、仕事ができるかもしれない。・子どもの保育園の送り迎えもなぜ私がやらないといけないのか不満がある。・3人目がほしいと思うが、お金の面が心配。ワンオペ育児のため、私も産後鬱になるかもしれないと考えると怖い。妹が産後鬱で6年薬を飲んでいたので。

■ 就労について

男女平等は必要であるが、一方で性差は必ずあり、向き不向きというものもあると思う。何でもかんでも平等にして女性にも仕事を押し付けるのではなく、仕事をしたい人が仕事をし続けられる権利として、また、子育てを中心にしたい人がそうあるように、兼業主婦、専業主婦両方に配慮した政策を実施していただきたい。

コロナの影響でテイクアウトの機会が増えたとのことなので、春日井市内でのみ使えるテイクアウト商品券でも配布してみたらどうか。子育て中のママ友グループでもなかなか外では会いづらく、そういった支援があれば喜んで利用したいと思う。

私は週に2日程度、労働時間は午前中の3時間程度、平日のみ働きたいと思い、ハローワークやネット検索で探していますが、その条件に合う仕事はほとんどありません。私は40代後半、子どもは小学生、両親は他界、主人は単身赴任のために、この条件で探しています。なので、ママのハローワークがあるのは知っていますが、このような短時間でもOKな情報があれば、より女性が働けると思います。会社が理解してくれて、そのような条件の窓口を開けてくれるととてもいいと思います。

男性も育児休業を積極的に取れるようにすることで女性の子育て負担が減少できると思う。【男性は外へ出て仕事をする。女性は家庭を守る（家事・育児全般）】→この考え方をなくしていきたい。女性の社会進出が活発になってきているが、育児休業に入るも職場復帰せざるを得ないことが多くなり、十分に子どもと関わるのが難しいこともある。また、育児休業中の経済面に不安を感じ、復帰せざるを得なかったり、子どもを授かることを避けてしまったりすることもあるのではないかと思うので、出産に関わる手当金を豊かにしてほしい。

LGBTの言葉をメディアで目にするが増えたが、社会ではまだまだ生きづらい思いをしている人もいないかと思う。アンケートの性別記入欄をなくしたり、色分けをなくしたり、トイレは“みんなのトイレ”を増やしたり性別の差を感じにくくすることも増やしてほしい。

女性全員が社会に出たいと思っているという風潮がとても私（女性）にとって生きにくい。男女など性に限らず、やりたい人がやりたいことに取り組める社会にしてほしい。

女性、男性ともに産休・育休を取ってもいいと言われたとしても、家計のこともあるし、実際には難しい…という人は周りにも多いです。託児もある職場を増やす。お休みの日も預かってもらえる環境であったり、残された方の負担が増えないような工夫。また、取る方も当たり前ではない。仕事の時間も減っているのに昇進を希望する…とかではなく。本当に必要な方に対応・手助けがいいタイミングで届く必要があると思います。そのためにも、現状把握であったり、現場の声が必要で、想像だけでは具体案は無意味なので、それぞれ現場に合った対応を変えていく必要があります…と思います。コロナで今は難しいのですが、食事処、市役所…など、キッズコーナーは必要だと思います。子どもを大切と言う割には、子連れはなかなか肩身が狭いことが多いです。特に障がい児、兄弟が多い…など。家の外に出づらいです。

私は出産を機に会社を退職しました。まだ仕事を続けたかったのですが、ちょうど、上司から昇格の話をしていただいていたのですが、毎日残業して、家事・育児をこなせるか自信がなかったからです。保育園の預かり時間が短いことを知り、仕事を続けることを諦めました。義両親や親戚などは少し離れていて、手伝ってもらうことはできないと一人で頑張って育児・家事をこなしてきましたが、主人の給料は少なく、とてもではないけど経済的にひっ迫していました。仕方なくハローワークへ通い、次の仕事を探しましたが、子どもがいるというだけで断られました。保育園を探してからまた探してと言われましたが、保育園は仕事をしていないとだめだと断られました。今は子どもは大きくなり、留守番できるようになったので、働けるようになりましたが、私のように困っている人はたくさんいると思います。待機児童は減っていると報道されていますが、そんなことはないと思います。妊娠を機に、育児手帳をもらいに来ている方に一人ずつ、今後のことについて相談できる場所を設け、出産後に働くのか、保育園は必要かなどの相談をもとに待機児童になるか、ならないかも決めることは大事だと思います。男の人は生まれてからしか子育てが始まらないですが、女性は妊娠中から子育てが始まっています。男の人にも妊娠中の辛さ、今後の不安を一緒に考えてもらいたいと思います。育児手帳を取りに来る人に夫婦ともに来ることで親になる自覚を持ってもらえるようにしてほしいです。出生届も土日に提出できるようにしてほしいです。産後1週間で赤子を連れていくのはすごく大変でした。男の人が休めないからと理由をつけて女性に任せっぱなしにするのは問題だと思います。

私自身がバリバリ働きたい！とは思わないので、“女性のリーダーを増やすべき！”という方針は賛成しない。男女の差別はよくないが、性差は生物上仕方がないことだと思う。やりたいと思うことが性別という自分の力ではどうしてもできないことで実現しないことはよくないので、改善すべきだと思う。数値目標などを掲げてそのためだけに無理に男女平等を進めるようなことはしてほしくないです（女性管理職登用、男性の育休取得は周りが勧めるのではなく、本人の希望があることが第一だと思うので）。平等は絶対に必要なものではないと思うので「差別」と「区別」は違うこと、バランスよく子どもたちには教育してほしいです。多様性を自然と受け入れられる人間に育ててほしいと思っています。

職場では圧倒的に男性リーダーが多いです。女性の声は「私には無理」です。男でも同意見ですが、誰かがやらなくてはいけないので、若い男性が管理職にならざるを得ません。男女参画、女性活躍はその通りですが、リーダーを望む女性はどれくらいいるのでしょうか。その裏でリーダーを望んでいないのにならざるを得ない男性はどれだけいるのでしょうか。せめて、管理職の数が女性男性同数に、というより、希望者または打診を断らない人が同じくらいになってから男女参画、女性活躍の道に進んでほしいと思います。

「男女共同参画」とは男性女性問わず個人がそれぞれの望むキャリアを積み、歩いていくことができるということだと考えています。女性のキャリア構築などの支援はもちろん、父子関係の支援など、男女両面からの支援充実を望みます。

私が中学時代男子は「技術科」、女子は「家庭科」と義務教育で男女差別がありました。おそらく現在40歳代以上の方が該当するでしょうか。このような教育を受けた年代は現在仕事でリーダーになる世代で、若い世代の家庭内での役割を理解することは現実的に難しいです。私の孫が病気の時、入院のときに娘婿が女性の部署長に「休みたい」と申し出ると、「それはお母さんが看病すればいいでしょ」と言われたようです。確かに日常的な世話は母親が担う役割かもしれませんが、少なくとも男性にとっても自分の子どもです。同様の理由で女性は休みが取れて、男性が取れないのはおかしくないですか？男性も育休が取得できる法律が出来ましたが、実際のところたまにある子どもの病気やけがで休暇が取得できない世の中では利用できないでしょう。これは育児だけでなく介護休暇も同様で、このようなものは女性が担う風潮がありますね。育休や介護休暇を男性が取得するにあたり、形式的にPRするのではなく、やはり中年以上の男女に現代の世の中を正しく理解する機会を作るべきだと思います。なんとなく女性は男性同様に働ける環境に変化しつつありますが、男性が女性同様に育児、介護、家庭内の仕事をする環境に変化していません（協力しているのは男性が仕事の休日のみです）。春日井市で働く公務員のどのくらいが男性の育休、介護休暇を取得しているのかわかりませんが、その値が少ないでしょう。女性が活躍できる街とは、男性の協力があってこそです。男性が家庭内のことを行うことにより、妻の時間的・精神的な余裕ができ、妻は笑顔が増えて子育てにいい環境になりますよ。子どもは母親の笑顔が大好きです。父親も家庭や町内会など仕事以外の役割を子どもと行う（子どもに家で働く姿を見せる）ことに意義があると思います。春日井市では現在どのような取り組みを行っているのか、具体的にわかりませんが、少しずつよい方向に向かうといいですね。

アルバイトやパートでも生活できるような収入にすれば、生活不安もなくなり、活性化すると思う。働いた分だけ収入もUPすることが分かれば社会の経済格差がなくなればいいと思う。

私は現在育児休業をしています。「女性が当たり前前に育休をとる」、男性は「仕事を休んで遊んでいるのだろ」と思われているように思えてなりません。毎日子どもと向き合える環境にあるということはとてもありがたいことです。しかし、家庭によっては女性だけが仕事を休むということで、キャリアに支障をきたし、悲しい思いをしている人もいます。働きたいけれど働けない女性がいるということをもっと周知してほしいです。育休は暇をして遊んでいるのではありません。働きたい気持ちを抑えながらも、毎日悩んでいる人もいます。もっと、子どもに優しい街になりますように。よろしく願いします。

女性が社会に出て働くことで、少なからずの偏見や給与、昇級などで、限界を感じ、働きづらいつと感じることがあります。でも、私は働くことで自分が自分らしくいられると思っているので、もし結婚することがあっても、仕事を続けたいです。男女の格差をなくすには、社会全体の仕組みが変わる必要があるのは大前提ですが、まず男女ともに、女性が働き続けることの理解や意識を変えていくことが第一ではないかなと思います。春日井市で男女共同参加の取り組みを行っていることを今回初めて知ったので、是非とも実現に向けて応援、協力していきたいです。

息子のところへ届いたアンケートでしたが、母が回答しました。息子は連日残業続きで回答する時間が取れない生活です。健康に生活できる社会を希望します。ワークバランスの研修を受けるために日曜出勤になったりすることもあり、本末転倒と感ずることもあります。息子は結婚したら「絶対共働き」と言っていて、平等に仕事をしてほしいそうです。「子育ては、大変なのよ」と言っている母です。50歳代と20歳代では、意見はかなり違いただろうと思いつつ回答しました。

男性社会から男女平等と言われるようになり、女性の社会進出、働く女性が増えてきたと思いますが、まだ会社の中では男性有利ではないかと思います。なかなか男女平等にはならないかもしれませんが、少しでも女性が社会、会社の中で活躍できる社会になればいいなあと期待します。また、女性が働きやすい職場、まちづくりをお願いします。

私の現状は、サービス業で時短正社員で働いています。現在は9:30~17:00(土のみ16:00)勤務です。4歳には時短が終わり、会社を辞めるか、アルバイトに変わるかの選択肢となります。フルタイムで働く場合は10:00~19:00となりますが、市内の保育園では対応できず、悩んでいます。もともとは管理職でしたが、今後ステップアップする道も見えず、転職を考えなければならないので、心苦しいです。こういったときに相談できる窓口を設けていただけるとすごく助かります(EX.再就職支援、セミナーを行っているのであれば子育て世代へのチラシの配布 etc.)子育てしながらもキャリアアップを目指せる自治体になっていけばより住みやすくなるのかなと思いました。ただ、育休中に痛感したのは、施設も充実していて、本当に楽しく過ごせました。関係ないことではありますが、ありがとうございます。

■ 教育について

お疲れさまです。人種差別、宗教差別、男女差別。色々な偏見は長い歴史ですね。これらを変えるには教育しかありませんが、教育が間違えると逆に差別を助長する原因にもなりますね。私も勉強中です。

性別というよりも最終学歴でその後の人生が大体決まってしまうように思う。恵まれない家庭の子どもも、平等に進学ができる社会になるといいと思う。

男女ともに参画できるまちとは、性別に限らず、弱者・マイノリティも暮らしやすいまちだと思う。それには多様性を認める心が必要だと思うが、小学校中学校など学生生活はいわゆる普通の子が中心であり、普通・均一であることを求められる生活だと思います(今はわかりませんが、私の学生時はそんな雰囲気でした)。10代にそういった意識を植え付けられて、大学や社会人になってから個性や多様性を認めると言われても到底無理なわけで、小学・中学からの意識づけが大事だと思います。

個々の意識改革を促すためにはどうするか考えるべきです。すでにやっていると思うけど。①子どもに対して→小学校入学から年齢に合わせた性教育を行う。②大人に対して→日程を決めて、企業から男女1名ずつ出席させ、当事者意識を持たせる。【内容】①男女の身体的、精神的教育を外部講師を招いて定期的に行う。性教育は、別に女の子の生理、SEXの話等だけでないと思う。男女の筋肉量が違うから、女性は重いものを運ぶことが苦手だとか、そういう簡単な話も含めて行う。もちろん高学年になったら性的な話も重要。男子も出席させてナプキンのこと、生理中の女子の体調の変化等。恥ずかしいことではなく、とても大切なこととして教育すべき。外部の専門家を呼んで、学んで話し合う場をもっと作る。男女が一緒に働くとはどういうことか学ぶ。②女性が活躍できればよい社会なのではなく、優秀な人材がたまたま女性で活躍しているという社会にすべき。ただキャリアを積んできたのに、育休明けは全く違うポジションに就いたとか、育休明けは子どもが保育園に慣れるまで多く休んだからプロジェクトから外されたとか、ほんと意味不明。また、父親だってもっと育児に参加したいかもしれないけど、許されない会社の雰囲気だから早く帰れない等、周囲で働く人たちの気持ちをどう受け止めて割り振っていくか、役職者は学ぶべき。同僚や後輩は寄り添うべき。経営者は管理職ばっかりに丸投げしないで真剣に考えるべき。女性の活躍する社会の“女性”とはどこに分類す

<p>る人？独身？既婚者？子持ち？介護者？行政がどんなにサービスを整えてくれても、個々の意識が変わらない。とりあえず、育児に非協力的な男性社員がいたら突っ込んだ瞬間から父親に覚悟を持ってと言ってやりたいです。セクハラか…。と言うわけで、やっぱり①子どもの頃からの健全な性教育は重要と思います。自然に学んでいけば大人になったとき、お互い自然に振る舞えるはず…。</p>
<p>高校生までの学生のうちに職業選択の幅を広げるために、色々な職を見学できる環境と、学年に合った職務内容の説明をしてあげてほしい。職に対してのイメージ、差別も改善できるといいです。私は過去に建築業界は女に向いていないと高校見学に行った際に言われたことがあるので（10年ほど前）今ももし、そのようなことがあるなら改善していただきたいです）いい面ばかりでなく、悪い面もあると、どの職もメリットデメリットを教えてもらえれば、心構えも変わってくるのかなとも思います。また、高校生ではバイトが禁止されているところが多く、勉学に励む、が現実だと思います。1週間ほどでいいので高校生のうちに自分で働いてお金を得て、大人であれば税金としていくら市に納めるなど、社会人になったときに納めなければいけない税も一緒に学べたらいいかと思います。自立心にも繋がればいいのですが。今は大学まで子どもという考えになってしまっていますが、高校を卒業したら大人、という子どもたちの考え方も改め、大学生生活も意味のあるものにしてほしいです。</p>
<p>LGBTなどの問題は、性の授業のとき、道徳や保健の授業などのときに織り込んでいただきたい。話は少し逸れるが、発達障がい（他にもパーソナリティ障がい、解離障がいなどあります。性の問題は、脳の病気と密接に関わっているからです）なども併存して障がいになっていることがあるので、性の問題と精神疾患の問題を合わせて授業や教科書に織り込んでほしい。「LGBTQ」も足して考えてください。LGBT-Q (Question) …LでもGでもBでもTでもどれかどちらかわからない人。どちらでもある人。①性別について。「3.不明」(を追加)。「LGBT-Q」というのもあるんですよ。勉強が足りない。</p>
<p>教育で男女ともに参画することや性的少数者に関することを教えることが必要と感じるが、受け入れる職場や社会がまだ受け入れ体制が整っていないので、せっかく教育を受けた人が社会に出てギャップを感じるようになると思う。ことらさに性の不平等を叫んでいるが、どちらの性にも向き・不向きがある。いい面を伸ばしていける社会にならないものか？ヒステリックに叫ぶ政治家（女性の）には幻滅する。かといって男性の政治家（欲に塗れた）にもうんざりする。いっそ AI で政治を決めてほしい。</p>
<p>今回のようなアンケートがない限り、考えることがなかったと気づいたことが多く、このような件は一部の人がよくわかり大部分の人が知らないか、考えたことがないのではないかと思います。ニュースなどでちらっと話題になっても一時的であり、長い時間かけて継続していく教育なのでは…と思います。</p>
<p>長い目で見て、これからの時代を担う子どもたちの教育に力を入れていくことがいいのではと思います。</p>
<p>両性があるから成り立っている。お互いを思いやる気持ちを素直にできるように、国・地方・市町村・各家庭で育てていく。</p>
<p>慣例的に男性女性が同等でなかったのが、あえて男女ともと言う必要があるのが実情。①行政による啓発、そして子ども（学校）、社会人（教育の場）で意識を変える（持つ）ための対策。②個々の場合の課題を解決する動き。①②の繰り返しが必要。</p>

私は大学で民主的シティズンシップ教育の重要性について学んでいます。民主的シティズンシップとは「社会や当事者が属するコミュニティにおいて、相互の違いに寛容になり自由と人権と正義を尊重し、社会に参画しながら共に生きていく」市民性のことを言います。最も重要なのは「共に生きる」ということです。グローバル化や技術革新が加速する現在、私たちはより多様な生き方、多様な人々と共に生きることが当たり前になっています。だからこそ、私たちは民主的で主体的で社会や世界に向かっていく、他者と共に共生しようとする人々や市民の育成が必要だと考えます。私はこれらのことを学ぶ以前は、自分がよければ、不自由がなければいいと考える人間でした。きっとこういったアンケートを手にする機会があっても、真面目に向き合わなかったかもしれません。ですが、自分を取り巻く社会の問題や、世界規模で起きている問題や課題に目を向け、意識や視野を広くしたとき、それではいけないと反省しました。私は自分中心な考え方から、社会や世界に対しても当事者意識を持つようになったこと、それを実現してくれた教育に感謝しています。地域や社会や国や世界で起こる問題や課題を解決するための第一歩は「教育」だと思います。そして、教育を誰もが平等に受けられる制度や支援が必要です。教育を通して、主体性や民主性を養い、男女平等や社会参画の重要性を伝えていくべきです。そしてそれは、子どもに限ったことではなく、全年齢に当てはまります。人は生涯学び続け、社会に参画することができるからです。私たちの大切な人々が住む春日井市や愛知県、そして日本がもっと民主的で社会や世界に向かっていける市民、国民で溢れることを願って。

キリスト教的な精神基盤が薄い日本人には最も苦手な分野かもしれません。1. 学校教育の中で広く取り組むこと。2. こういう分野で実際に活躍している方々はたくさんいます。男女共同参画が目指す方向で活躍、成功している方々にスポットを当てて、様々な広報活動を通じて、啓発していく。

子どもに影響がある人（親、先生など）が男女がともに協力することを伝える。男＝仕事、女＝育児、家事、男＝トイレ青、ランドセル黒、女＝トイレ赤、ランドセル赤・ピンクなど決めつけない。何色が好きでもいいということを伝える。→保育の現場で男の子がピンクを選んだり、女の子が水色を選んだりすると「え～へんだよ」という子がいたり、先生でも男の子色、女の子色を決めつけている人がいるので、そういうときに「何色を選んでもいいんだよ」と伝えることが必要だと思います。キッチン遊びが女の子、ブロック遊びは男の子と決めつけない。親や教育者、保育者、子どもと携わる大人が柔軟に考え、伝えていくことから始めることが必要だと思います。

・男が女に対してもっと紳士になれるように早くから家庭、学校等で教育をする。・男は女より力があり、体も大きいので、力加減を教えることを早めに。・大きな声は何の解決にならないことを早くに教える。男女とも。・女も男に頼らない知識、教養を持ち、同等に暮らすようにお金を少しでも蓄える。・男も女に負けないようにできるだけ長く働きお金を大事に使うように教育する。・親子でもお金のことはしっかり貸し借りはしないことに注意。・女は自立しなければいけない。お金の面で特に教える。・小さいときから男に負けないように武道を習うこと（空手等）。

■ 行政について

人間だけでなく、動物などなど住みやすい環境にするべきでは。すぐに動物特に野良猫などに殺処分は言葉が悪すぎるのでは？猫も必死に生きているのでは。子どもにあの動物を見たら殺せと言っているようなもの。春日井市はまだいいと思うが、殺処分は言葉が悪すぎでは。少し考えてもらいた

<p>いものです。動物がいてこそいい町、住みやすい町、環境に左右されると思う。人間ばかりでなく、他のことも考えてもらいたい。</p>
<p>男女共同参画についての取り組みは大変いいと思います。</p>
<p>気楽に春日井市役所に行けるような役所にしてください。</p>
<p>公務員も民間一部企業と同様に、実力主義を導入すべき、年功序列の給与体系は廃止すべき。役職に応じた給与体系に。</p>
<p>春日井市だけではないと思いますが、独身者に対する手当や活動は何かないのでしょうか。家族、子どもがいる世帯のみ、手当を出している市町村が多いと思いますが、独身は何もフォローされていないと感じています。税金を減らす、市町村に住んでいる独身者も参加できるイベントがあるといいと思いました。</p>
<p>様々な企画や取り組みを行っても、条例等で規制を行わない限り、周知徹底はいつまでたってもされない。男女ともに参画を求めるならば、高齢者も含め平等な扱いをするべき（高齢だからできない等の理由は聞くべきではない）。逆に若い世代も町内会等に強制加入させて春日井市民としての共同参画等の取り組みを行わなければ市民平等とは言えないのでは???解決策もなく取り組むのであれば無駄だと思います。</p>
<p>結婚をしていない、子どもがいない、そんな環境の人が増えています。家庭がある人ばかりが対象で、そうでない人は対象にもならない。税金は納めています。高齢になったときに助けてもらうことが発生するのかなと思いますが、家庭がない人にも暮らしやすい市になってほしいです。</p>
<p>1.若い働く世代の意見を取り入れる。2.若い働く世代の育児を支援する。3.行政・政治・議会に市民からの意見を取り上げる仕組みを作る。4.介護による離職が増えないように支援策を作る。介護による転職で収入減で困窮しないように助成を充実させる。5.優秀な女性ややる気のある人を登用し、管理職にも採用し、新しい発想で従来のやり方を改革していく。</p>
<p>お疲れさまです。男女共同参画社会の実現、発展を応援しております。このアンケートが少しでもお力添えになれば幸いです。</p>
<p>イベントを増やす。</p>
<p>まず気軽にフォーラムやワークショップなど、一般が触れるものがあるとよい。</p>
<p>ボランティア・地域団体に男女共同参画を推進する企画推進するのではなく、社会生活、職場生活に男女共同・男女雇用機会均等を啓発していかないと、社会が理解していくのに30年40年かかると思います。「はるか」とかをどこの会社にも掲示してもらおうとか、ワークライフバランスのできている企業をカウントして、市が認定するとか。地域が認めてもそれはただのイベント・紙切れでしかないと思います。</p>
<p>広報誌で“男女共同参画社会の実現に向けて”の具体的な取り組み（現状で市が行っていること）をもっと取り上げてくださるといいと思います。また、そのようなシンポジウムが開催される時は、各地域での公民館等を利用して、定期的に行われてはいかがでしょうか?より多くの人に関心を持つためには、きめ細やかな広報活動や取り組みが一層充実されることを切望しております。</p>

<p>①SDGs (持続可能な社会)の未来都市になれるような取り組みをお願いします。②SDGsのジェンダー平等 (目標 5) の実現を期待します。男女平等社会は必須であると思います (当たり前)。③SDGsの住みよいまちづくり (目標 11) として、避難所兼集会所の新規構築もしていただきたいと思います。新避難所の機能として、再生可能エネルギー太陽光発電を利用し、自然災害発生時 (台風、洪水、地震等) に感染症を気にせず避難できるところを整備していただきたく (災害が発生していない普段には研修所、集会所として活用) (高蔵寺ニュータウンの空き家を避難所としてもいいのでは)。④春日井市として SDGs の 17 目標への取り組みを積極的に実施してはいかがでしょうか。市役所内にも SDGs 推進部門を設け、提言者と実現チームで活動し、2030 年までに達成してほしい。2020-9-27 春日井市民より (69 歳) PS. SDGs 未来都市 (29) の中で、愛知県は豊田市のみで寂しいですね。小学校での SDGs 教育カリキュラムによる認識となごや環境大学の取り組みを参考に未来都市に向けて活発な取り組みを期待します。</p>
<p>日本という国が今も男性社会であるため、正直春日井市が市独自で色んな方向から男女共同参画社会の実現に向けて取り組みをしても、すぐには結果が出るとは思いません。ですが、男女共同参画社会の実現を諦めず、気持ちを長く持って色々取り組んでもらいたいです。個人的には PTA の役員、それ以外の委員等、今も女性が就くのが当たり前になっているように感じます。その辺も男性が役員、委員に就くのが普通になるといいと思います。</p>
<p>広報や啓発だけで終わっている感があります。市民の感覚としてよくなったと実感できなければ、意味のない活動。春日井は予算も少なく、ソフト・ハード両面が充実していないと聞きます (小牧の方がいいと聞きます)。市民としてもあまり期待はしていません。行政そのものが変わらないことには無理かもしれません。それは市長を女性にとか、議員の定員に女性を確保するなどという低レベルなものではなく、行政に携わる者全ての意識を変えるべき。</p>
<p>LGBT への理解や子育て世帯への周囲の協力を促すようなイベントを開催する機会を増やしてほしい。参加したらポイントを付与するなどすると積極的な参加が望めるのではないかな。</p>
<p>社会教育などにおいて、男女平等、男女共同参画に関する教育学習に多くの方が参画するように PR 等もっとやるべき。女性のチャレンジ支援を推進する (リーダー養成、起業、地域活動等)。仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する (企業に対して、税金面での何%引きとかできないのか?) 男女共同参画を社会人教育として推進し、考えてほしい時期に来ているのではないのでしょうか。春日井市も 30 万都市になっていますので、全国的に男女共同参画 “都市春日井” として大々的に PR してほしいものです。</p>
<p>こういう調査も大切なことですが、コロナの中で行う調査ですか? 失業した方、休業などで給料が減った方などたくさんいますよね? 春日井市はコロナの中、市民に何をしましたか? 他の市の方が色々していますが…。もっと他にやるべきことがあるんじゃないですか? 自分たちより給料が少なく困っている人たちを助けることをしないのなら市長を辞めるべきです。色々大変なのはわかりますが、市民のために行動をしないのはありえません! よくそんななか、こんな調査ができますね!! 考えられないですし呆れました。</p>
<p>地域がこのようなことを行っても限界があると思う。老害な政治家を追い出して新しいことを若い人たちがいっていかなければ意味がない。何をやるにしろお金が必要であると思う。私みたく、公務員の職に就いていたが生活ができなくなるほどの給料まで下げられるといった部署異動についても意味がわからない。国に頼ることができないのであれば、個人がルールを学び、知って変えていかなければ、老害政治家の人たちの思うつぼだと思います。</p>

子育てや介護などを充実してほしい。春日井市は昼人口の少ない市であるから、福祉施設を増やし、働きやすい環境を整備した方がよいと思う。

・春日井市の男女共同参画社会への取り組みを知らないことが多かったので、テレビやラジオでその取り組みを放送できないだろうか？あと今のご時世だとなかなかみんなが集まって話し合いができないと思うので、SNS やネットを利用してながら春日井市の取り組みを拡散した方がよいと思います。あと、男女共同参画社会という言葉が固いので、なかなか社会に浸透していかないのではないかと思います。

子育てを共に協力していくにあたり、どちらかが子どもを散歩や買い物に連れていくときなど、水路に側溝蓋がなく、車が通るといつか誰かが水路に落ちるか、車にぶつかるか不安になってしまいます。親のどちらかがけがをすれば、片方に負担が重くのしかかります。危険な箇所のないまちづくりもお願いいたします。

相談場所の活用についてですが、何か相談したいと思うようなことがあったとしても、市の相談窓口を活用させていただこうと思う気持ちは現時点では持てずにいます。理由はその相談窓口がどこにあるのかを全く知らないということと、感覚の中に「どうせ市の相談員に相談しても何の解決にもならない」という意識があるからだと思います。今回のアンケートとは違いますが、子の不登校に悩む友人が市の窓口で相談をしたけれど、何の役にも立たなかったと聞いたことがあり、上の考えに繋がっているのかなと思います。相談員の研修などは当然行われていると思いますが、能力のある相談員を配置したり、専門家（能力のある）など、個別の案件に適切に対応できるというのかなと思います。また、市民は私のように知らない人が多いと思うので、啓蒙活動や周知活動をするというと思います。

市がもっと男女共同参画の取り組みを実行していることを市民に PR する。同取り組みをしていることを知らなかった。市民生活部内に同取り組みしている課があることを本アンケートで知った。市民は市役所が何を推進しているのか、知っている住民は何人いるのでしょうか！PR の方法をもう一度検討してください。

この調査をまとめ、市としてどのように活かしていくか、公開願います。

女性が危険な目に遭わないような対策をしていただけると安心して過ごすことができると思います。

春日井市は、近隣をはじめ他府県から移住された方々も多いと思います。土地柄、生活ルール・マナー、ご近所付き合い…。これまでの自治会活動も時代に見合った取り組みが必要となっています。子育て・教育・介護…全てが様変わりしているでしょう。“温故知新”各世代の“思い”を引き出し、ホームページ等に映像で紹介する。現在の人々の未来へ繋げ、遺していくこと。わがまち春日井。転じてわがもの春日井にならぬよう守るべきもの、伝承していくことが大切だと考えます。

このアンケートで知ったことが多く、アンケートがなければ、何も知らないままで過ごしています。もっと全ての人にわかるようにした方がよいと思います。隣近所挨拶もなし、顔も知らないという人たちも多くいると思います。地域で何があるとか、市で何をやっているとか、市の広報を見たとき以外知りません。知らない人が知ることが必要だと思うので、家庭訪問的なことも必要では？参加したくても参加の仕方がわからない人が多いのでは？全く知らない人が半数はいるのでは？私自身全くわかりません。

<p>市の男女共同参画の取り組みについては、発信力が弱いため、市民に十分浸透していないような気がする。アンケートはとかく一方通行になりがちだが、実施するからには、統計を取るだけの自己満足に陥ることなく必ずフィードバックし、市民に確実に浸透するかどうかの結果が最も重要で、今後の取り組みに期待する。</p>
<p>世の中の差別は知性の不足によるものである。春日井市 30 万の市民全てにこれを担保することはすぐには不可能で、行政としてできることは、そのための仕組みづくりである。しかし、仕組みができればこれを活用できる。今後 30 年程度を目標とし、春日井市が世界でも稀な差別のないまちになることを希望する。</p>
<p>今回アンケートをいただき、改めて普段自分が思っていることを見直す機会ができました。このような機会を作っていただいたことに感謝いたします。今の社会では、男女がともに参画できるまちづくり、社会づくりは無理だと思います。女性に参加してほしいければ、もっと強制的に社会に組み込むべきです。女性も社会、国に対して大切な納税者なのですから。</p>
<p>女性はこうあるべきである、男性はこうあるべきであるといった風習を今一度見直し、見直すことができる、発表会や教室や学べる場をたくさん作り、そのような風習を見直す機会を増やしていき全体に広がっていけばよいと思います。</p>
<p>過度なポジティブアクションは逆差別につながると思う。</p>
<p>・みんながわくわくできることを考えてほしいです。・希望が見える楽しいことがいっぱいあると嬉しいです。小さなことをこつこつと頑張っていけるようにしたいです。困っている人がすぐ相談できるシステムを考えてください（色々なジャンル）。</p>
<p>言葉自体の認知が低いように思う。イベント等で知らせていくのもよいかと思う。</p>
<p>何を言っても世の中は変わらない。子どもができたならやることが増えるのは女性だけなので、働いていないから声に出せない母親たちが、父親に意見を言える環境を作ってあげるべき。男女ともに参画できることはパートナーがいる以上、なかなかパートナー意外とは離せない環境が今は強い（束縛や嫉妬などで）。年配者は男尊女卑が強いので、若者たちが主体となった方が街が盛り上がると思う。特に 60 歳の男性は働いてきたから自分はえらいという思考の人が多。その時代に女性が働けない環境を作った張本人たちが街も作れない。特に期待はしませんが、子どもの教育は偏った教育にせずにしてあげてほしいです。あと子どもがいない世帯に負担がかかるのではなく、子どもを好きで産んだんだからお金がかかるのは承知しているので、平等に政策を考えてほしい。</p>
<p>このようなアンケートを作るにあたり、どんなプロセスで作成しているか、どんな方が関わっているか知りたいです。意見があっても言える場所がないです。広く意見を言えるような企画はできないのでしょうか。資料を送り付けて答えてくださるのでは、本来の本当の意見を聞くことはできないのではないのでしょうか。市としての取り組み方を考えていただきたいです。</p>
<p>男女が交流できる行事とかイベントなど楽しめることがあればいいです。コロナウイルスが完全になくなってからで考えてほしいです。</p>
<p>暮らしやすいまちづくりに日々ご尽力いただきありがとうございます。質問に答えながら自分が社会人となった 40 年前と社会は改めて変わったと感じました。子育てをしながらの仕事はとても大変でしたが、親や近所の人に助けられました。親と同居で両親にも所得（収入）があり、子どもの保育料がとても高く、同居で色々助けられますが財布は別で…。手取り 7 万円で保育料が 4 万円～でした。いまでも世帯収入での計算であるならとても残念です。逆に親との同居を支援、助成をしてい</p>

ただきたいです。実家では四世代同居で 88 歳の母がひ孫の幼稚園のお迎えにネームを首からぶら下げて「大変だわ～」と嬉しそうでした。人は老いても必要とされたいのです！！

男女平等や性的少数者の問題は頭ではわかっている、今まで作り上げてきた日本の社会全体で差別意識をなくしていくのは、大切なことですが、難しい課題だと思います。私がまちづくりを進めるべきことは、未来を担っていく子どもたちに、差別意識をなくす取り組みをするべきだと思います。まだ小さなうちから繰り返し教育現場で伝え、理解を高めていくことで、子どもたちの意識を変えていくことが必要だと思います。また情報発信の場である新聞、春日井広報、雑誌、インターネット環境を使い、広く伝えていくことも必要だと思います。また、コロナ禍でも行われるイベント等でも差別意識をなくすための PR イベント的な取り組みも必要だと思います。あと差別意識をなくすためのポスター公募、キャッチフレーズの公募、ロゴデザイン、ゆるキャラなど、賞金付きで公募することで、差別に対する考えをたくさんの人たちが進んで共有できるようになると思います。また公募で選ばれたものを市内のあちこちに貼ったり配ったりすることで、町全体が差別について考えることができるようになると思います。春日井市だけではなく、全国的にも注目されるような思い切った取り組みを期待しております。

■ 地域について

今の若い人たちより 40 代以上の人たちの方が男女平等の意識が低いと思うので、そういった年齢の方たちを対象にした、または参加しやすい活動があればいいなと思います。

町内会においては参加しないことが多い。わずらわしいこと（人間関係など）もあります。まとめる人がいない。

・車がない人には交通乗り物が少ないので参加しにくい。・行事の案内をどこで知ることができるか？

少子高齢化、人口減少時代への地域社会のあり方を考え、互いに支え合う新たな地域づくりが必要かと思っています。新型コロナウイルス感染症が出現したときこそ、地域の状況を踏まえ、住民自らが周囲の問題を「我が事」と捉え、自主的に地域課題の解決に取り組む活力ある地域社会づくりが求められると思います。令和の時代の始まりとともに新しい生活様式に求められる重要課題にあげたいと思います。

春日井市に 8 年住んでいますが、男女共同参画への取り組みについては全く知りませんでした。町内会はおじさん・おじいさんばかり。無理やりさせられる PTA 活動は母親ばかり。身近に男女平等を感じられることは少ないです。「PTA 活動があるから仕事を休みます」男性はできない雰囲気→結局女性が仕事を休まなくてははいけなくなる。

■ 性的少数者について

LGBT に対して「同性パートナーシップ制度」は必要ないと思う。特に同性愛者に対して社会保障は必要ないと思う（税金を使うような社会保障は必要ないが、家族じゃないと面会できないようなことは必要だと思う）。

パートナーシップ制度を作っていたきたい。

男女平等と言いながらなかなか進まない世の中です。本当の平等とは何なのでしょう。できない人にまで平等だからと押し付けるのでしょうか。もっと助けあいやそれぞれの人間ができることをする、助け合う世の中になってほしいです。私はLGBTQのなかでもQにあたりますが、どちらの性別にも属せない人間として、とても生きにくさを感じています。何においても男、女と分けられ、一個人として扱ってもらえない。仕事においても男は黒い制服、女は赤い制服等、分けることに何の意味があるのでしょうか。仕事内容も同じ、給料も同じ。なら何も変わらないですよね。身体的特徴として致し方ないこと（スイミングスクール等）は致し方ないにしても、もっと無意識の区別差別等をなくす社会を作っていただきたいし、私も積極的に参加していきたいと思っています。ただ、普通に生活しているとそういった場に出会えることがないので、もっと目に付くようになればと思います。こいったアンケートとして、自分の意見を伝える場をいただけて嬉しく思います。最後の性別について、どちらでもないという選択肢が増えると嬉しいです。

「男と女」という2つの性だけに縛られるのではなく、LGBTのような人たちにとっても生きやすいまちになればいいなと思います。

■ アンケートについて

このアンケートの集計は知らせてもらえるのか疑問である。こういったアンケートの前に、もう少し春日井市民の意見を聞いてほしい。特に教育関係で。教育関係のアンケートを取った方がいいのではないだろうか。

アンケート、年齢的に難しいところがありました。

※70歳以上で無職ですので、職場関係のことは現在でなく働いていた時のことを思い出して書いたもので、アンケートとしてよかったのでしょうか？※結果はいつ、どこで、どういうふうに発表されるのでしょうか？書いてほしかったですね。

このアンケートを三等分に折るのは大変です。

それからこういった紙・郵送でのアンケートはコストパフォーマンスが悪いと思う。Webで行うべきと考える。

男女共同参画には関係なくて申し訳ありませんが、この調査票が封筒に比べて大きすぎて入れるのに苦労します。次回はもっと大きい封筒にさせていただくか、インターネット回答OKにさせていただけるとありがたいです。いつも私たち市民のために働いてくださっていることに感謝しております。ありがとうございます。

男女平等(差別と区別は混同しないでほしいですが)が進んでいないというのは、グローバルスタンダードに対して遅れていることを示していると思います。その点からすると、この調査が手書きの選択肢しかないというのはとても残念です。手書きの調査の場合、職員の方々(または外部委託業者)の手間がありますが、その手間を少しでも減らすことも意識できていない行政が、グローバルスタンダードに対する遅れである男女平等問題に本当の意味できちんと取り組むことは難しいと感じています。国勢調査はインターネットによる回答も可能です。見習っていただきたいです。

・男女共同参画についてのアンケートにLGBT等についての質問があるのはなぜかわからないし、なくした方がいいと思う。
・問3については、賛成と反対しかないのはおかしいと思う。

問21のLGBTとかSOGIなど、専門家の学問的な言い方が、自分事から遠ざけてしまっているように感じます。人を変えることは難しいので、まずは自分が変わることでないでしょうか。

○×だけでは非常に答えづらい（ものもある）。

■ その他

男女ともに、自立することができるような社会でないと平等というのは、難しい気がする。まずは、家庭の中での平等から進められると、それが第一歩になると思うが、今の年齢の人たちは、少し難しいような気がします。

“男女共同参画”とはずれるかもしれませんが…。・ちょうどこのアンケートの記入中に、タイのBLドラマがテレビ番組で紹介されていました。こういう番組は日本ではなかなか受け入れられないのでは…。テレビ業界からも発信できるといいのかな。男性のメイク、スカート、ひげ、茶髪、服装など、女性はOKで男性はNGなことも多い。レディースデーとか。・幼い頃はある程度の自分の性の意識は大切です。「男の子は青」「女の子はピンク」を経て、きちんとそこを経験して、自らの好みが確立していきます。男性の方が筋肉量が多いもの。女性より男性が進んで重いものを持つ、は大切。それに加えて男女に限らず、困っている人を助けられるようになるといい。・今どきはあまり見ないが表札のトップは男性。・今どきはあまり見ないが自宅での葬式では女性は白いエプロンをつけて働き、男性は座ってビール。・あまり「平等！」と言いすぎて窮屈になるより「差別」が少なくなるといいな。・結婚すると名字を変えるのは女性が当たり前。こういう風潮をかえていけるといいな。

私は子どもが幼稚園に通っているときも、小学生になってからも、PTA活動をしました。すでに男性の役員がいらして協力していると感じています。子どもも、男だからとか女だからではなく、その子のやりたいことを尊重して育てています。ただ、やはり子育て中だと、自分の趣味より子ども優先になり、諦めていることもたくさんあります。今後は介護も必要になってくると思うので、どんな制度があるのか調べなくては…と考えています。

「真の平等」とは何なのか考えてしまう。何もかも「同じ」は必ずしも平等ではないと思うし、不平等があるからこそその平等もあると思う。平等の不平等の平等というか…。すべてが同じでは、特質や頑張ったものが報われない。色々考えていると考えがまとまらないが…。例えば男女の差。それぞれの特質を生かしたうでの助け合い、補い合いの中から「平等」が生まれてくるのではなからうか。主張するばかりでは「平等」は生まれてこないように思う。支離滅裂ですみません！

男女平等はとても大事なことです。一口に平等と言っても体力的、身体的に差があるため、仕事などで役割分担が必要になることもあるでしょう。仕事内容によっても、作業する人の差によっても「男」「女」だけで判断することはできません（男でも体力がない、女でも細かい作業は苦手等）。結局のところ、職場においても教育現場においても家庭においても、見るべきは性差ではなく「個人」なのです。その人に適性な仕事であれば、旦那が仕事ばかりで女性が育児・家事ばかりでも問題ありません。逆に仕事ばかりしたいが家事が苦手な女性なら、同じような人をパートナーに選ぶべきではない。体力仕事ばかり求めるなら女性を雇用しない。受付で笑顔で応対することを求められる見た目のいい女性は、その見た目が価値だということを理解したうえで、その後年を取ったらその経験に合う仕事を斡旋していく…。相手のことを思いやり、その立場に立って考える。自分の価値観を押し付けない。新しい考え、やり方を批判、否定せず、どうしてそのやり方がいいのか、どうやったらできるのか耳を傾ける…。男と女、老人と若者、先輩と後輩、上司と部下…。皆立場が違えば、自分が正義です。まずは身近な人に思いやりを持って接していく。それを日々続けていければ、老若男女が参画できるまちづくりを進めていけるのではないのでしょうか。ただの理想論です。すみません。

歴史的に男性が優位である社会の中で、男女平等で女性進出を図る活動が多い一方で、男性の相談窓口や活動支援も“男女共同参画”とするのであれば不可欠だと思います。個人的には、“婦人科”は女性医師に多く活躍していただきたいと思います。実際に女性医師の予約はいつもいっぱい。男性医師の方も立派ですが、不安や性的な話は我慢してしまいます。恥ずかしいし、わかっていただきにくい（月経前の体調の変化など、真顔で男性が聞いている空間に疲れます）。

このようなことを、ことさら行うのではなく、男女を意識すべきときは互いに考え、必要ないときは無意識に暮らしていけたらいいなと思う。

春日井市に他の地域から引っ越してきた者にとっては、なかなか意見を言いづらく、地元の方に従うのは仕方ないのかなと思いました。古い意見も大切ですが、時代に合った、新しい意見もどんどん取り入れて行ってほしいと思います。春日井市は以前いた地域よりも住みやすい地域だと思っています。もっといい市になるように期待しています。

男女には身体的生理的精神的特徴があります。まず、そのことを十分に踏まえての参画を計画せねばなりません。都合のよいときだけお互いの性別を持ち出すことはやめるべきです。しかし現実としてそれは必要であるので、わがままがお互いに出ます。さすれば当初よりその特徴を生かした仕事、役割を考えるべきで、全て平等に参画することは不満を生じ、ことが運びません。一部の人々に性別を超えた能力の持ち主が現れると、さも全体がそのように扱われることにも問題です。100%の内何人か、50%もいれば考える必要はあると思いますが、役割はその人にとって性別を超えて何の不備もない状態で行わなければならぬもので、不備があるのならばそれは身体的に生理的に無理な役割だと思います。それで失敗した例はいくつもあります。時代は変われども、男には子どもを産むことはできません。それを女性がだめだと言われれば、男はどうしようもありません。それを権利と主張するのもあります。が、将来の自分自身の老後のことを考えると、役割は人類全体が考えるべきです。社会がそれをしたいと人によってできないのであれば、当然直すべきです。男は仕事をしっかりとして、女性は家庭を守るという考えが古いとおっしゃるので世の中が狂ってくると思うのです。自然の摂理を変えてみても、それを当たり前としてきた人が今の日本を作り、そこに満足して現在を生活している人にとって今後は自分が次世代のためにと言う気持ちがあまりになさすぎると思う。男はもっと働き、女はしっかり支えるという基本が崩れている今、情けないと思う。

まず、まちづくりを進めること以前に、自治会への入り方を市から紹介するシステムを作ってほしい。自分たちで自治会長を探して挨拶に行くのか、不明。引っ越してきて、近所付き合いが不安である。もしそのようなシステムが既にあったら申し訳ありません…。

共同でやらなければならない空気を感じますが、それは正しいのでしょうか。危険であったり汚かったり、力が必要だったりする仕事は男がやればいいのか、それは差別とは違います。一方保健の先生だったり、女性だといいなという仕事もあるでしょう。避難場所については男と女の視点の違いが大きそうで、男女バランスよく仕事をするのがよさそうです。男は子どもを産めないですし、おっぱいも出ませんから、出産後半年は女性が育児をするメリットはあると思います。お母さんだけではとても大変なので、お父さんもたくさん協力すべきです。LGBTについては種類が多くて全てに対応するのは大変。トイレだったりお風呂だったり種類別に作らねばならないのでしょうか？そうまでする余裕のある社会ではないように感じます。男は子どもを産めないので仕事くらいは頑張ってください。でもそれは差別じゃない。やれることを頑張ればそれでいいんじゃないですか。市に何かしてもらおうのではなく、市民がそう思うようになるといいなと思います。

結婚した後、どちらか片方の収入だけで十分な生活ができるのなら無理して働こうと思う人は少ないはず。現状では2人で働かなければ生活が苦しいし、無理な場合もある。無駄な税金が多すぎる。20年ほど前と比べて年収はあまり変わらないのに手取りは減っているし、通信費など社会で生活し、働いていくうえで現状必須となっているものの支出が大幅に増えている。経済成長がない状況を造り出し、国民の生活を苦しめているのは無能な政治家たちであり、無能な市区町村の長である。男女がともに同条件で意見や待遇を求めるならば、同条件での労働、それによる同じような結果が必要である。男女が同じように働いても、同じような効率で働くことは難しい。女性には女性だからの休暇はあるが、男性には男性だからの休暇はない。その辺りを理解して社会全体を変えていかないと変わらないし、不平等のまま歪な形のままである。義務を果たさず権利を主張する奴らが多すぎる。生活保護は現物支給で、年金より多い生活保護費ってなんなの？普通に働いたら普通に暮らせるような世の中にしてください。今の日本は貧困国だよ。こんなのに無駄な税金遣うなよ。

日本は現在、近未来も人口が急速に減ってきています。人口比率では高齢者が高く、また女性の比率が高いです。そうすると今までのように男性重視で教育・研修・昇進による社会的能力を磨く機会が女性には少ない、女性を研修し育て、例えばアメリカ大統領が男性でも、副大統領は女性というような、女性が社会を担える存在にしておいてほしいです。サステナビリティを目指すには、今のように気象環境 etc. 急速に変革するときには、いくらAIが優れていても、それを用いる人間が端的に理解するのでなく、男性ともう一つ女性の力を利用し、複眼的観点から解決していくときがくると思います。AIは優れているけれど、将棋の藤井聡太くんのように女子力を伸ばし、問題に対処していただきたいと思います。

2 中学生・高校生調査

(1) 回答者のことについて

問1 あなたの性別は？（自分がそうだと思う性でお答えください）

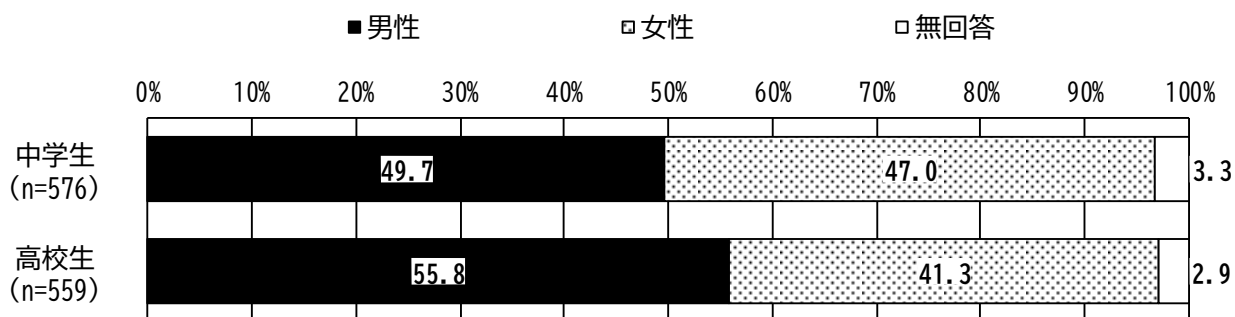
中学生

■ 男性が49.7%、女性が47.0%となっています。

高校生

■ 男性が55.8%、女性が41.3%となっています。

図表 169 自認している性



(2) 男女平等について

問2 あなたは、現在、生活の中で男女は平等になっていると思いますか。

(①～③についてそれぞれ〇を1つ)

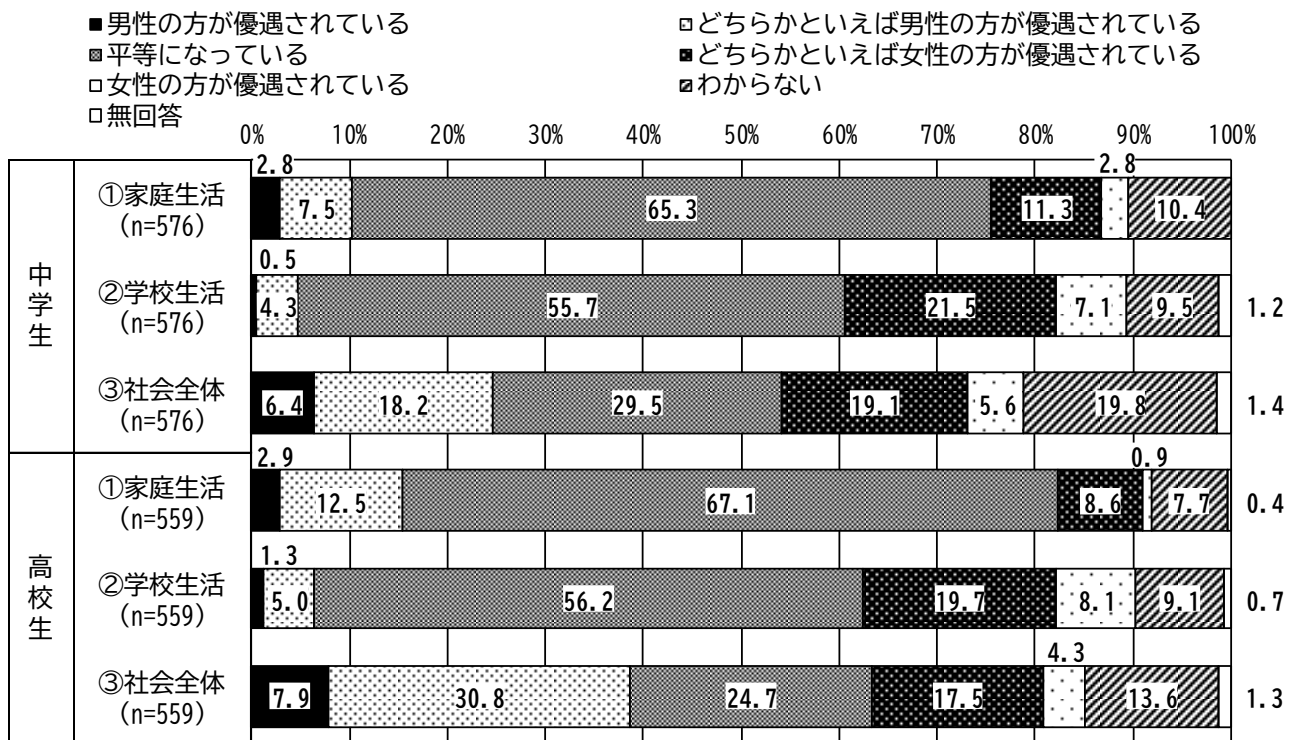
中学生

- いずれも「平等になっている」が最も高く、なかでも「①家庭生活」で65.3%となっています。また、「②学校生活」で“男性優遇^{※1}”が4.8%、“女性優遇^{※2}”が28.6%と、差が大きくなっています。

高校生

- 「①家庭生活」と「②学校生活」で「平等になっている」、「③社会全体」で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、それぞれ最も高くなっています。また、「②学校生活」で“男性優遇”が6.3%、“女性優遇”が27.8%、「③社会全体」で“男性優遇”が38.7%、“女性優遇”が21.8%と、それぞれ差が大きくなっています。

図表 170 分野別の男女の地位



※1 「男性の方が優遇されている」 + 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」

※2 「女性の方が優遇されている」 + 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

①家庭生活

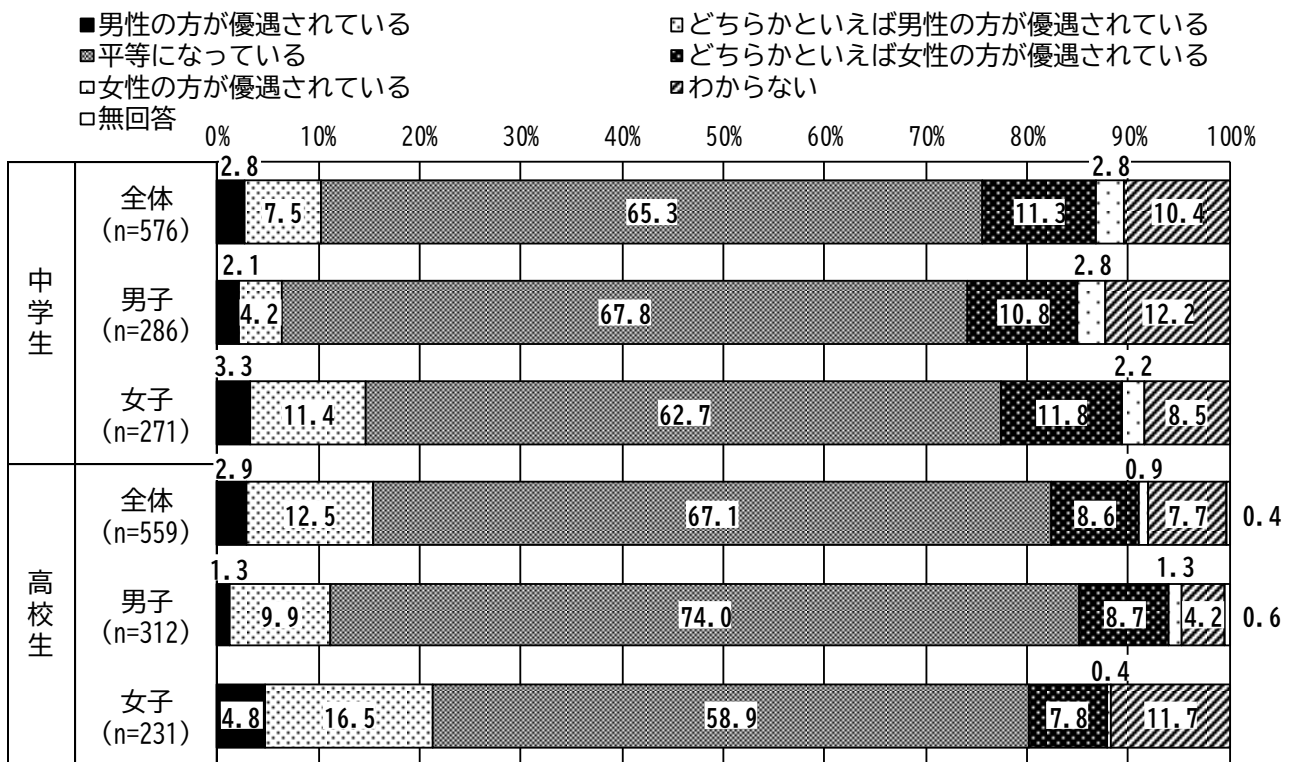
中学生

- 「平等になっている」が 65.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(11.3%)、「わからない」(10.4%)となっています。
- 性別では、女子で“男性優遇”が 14.7%と、男子より 8.4 ポイント高くなっています。一方で、男子で「平等になっている」が 67.8%と、女子より 5.1 ポイント高くなっています。

高校生

- 「平等になっている」が 67.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(12.5%)となっています。
- 性別では、男子で「平等になっている」が 74.0%と、女子より 15.1 ポイント高くなっています。一方で、女子で“男性優遇”が 21.3%と、男子より 10.1 ポイント高くなっています。

図表 171 ①家庭生活（性別）



②学校生活

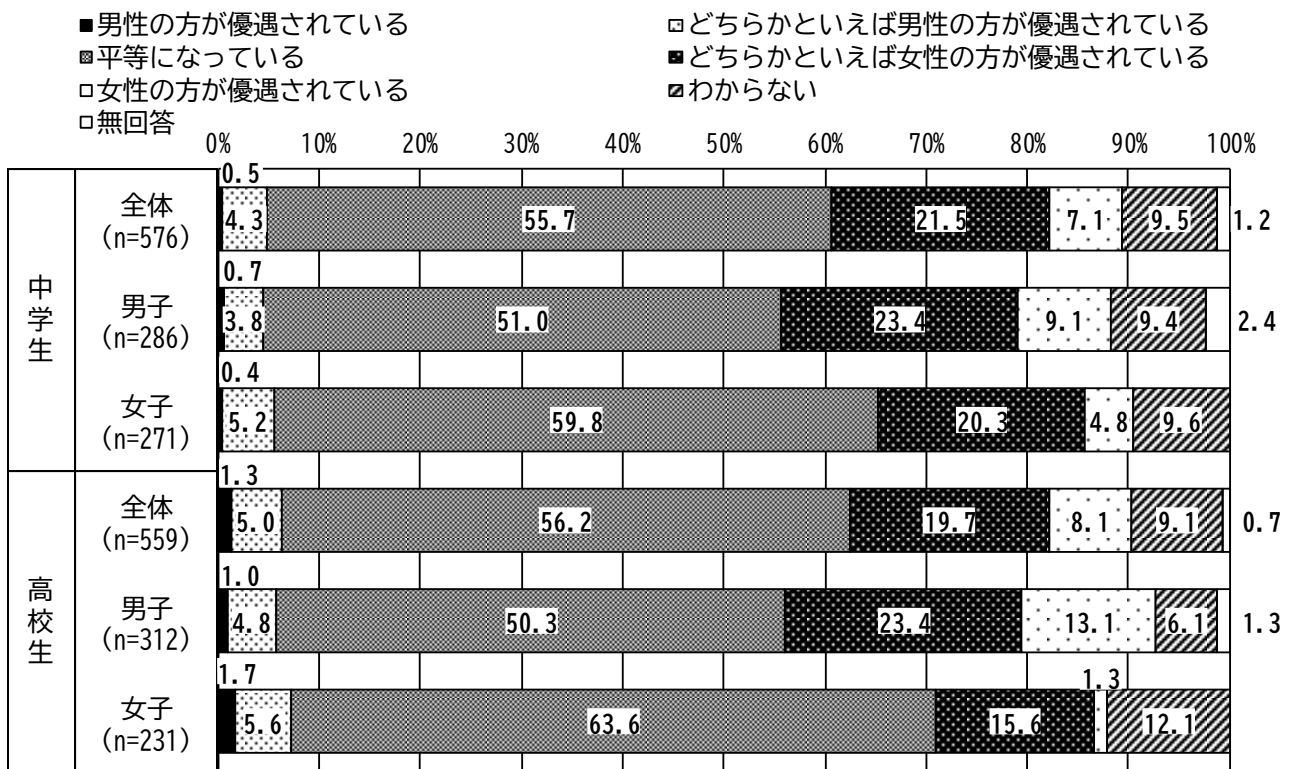
中学生

- 「平等になっている」が 55.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(21.5%)となっています。
- 性別では、女子で「平等になっている」が 59.8%と、男子より 8.8 ポイント高くなっています。一方で、男子で“女性優遇”が 32.5%と、女子より 7.4 ポイント高くなっています。

高校生

- 「平等になっている」が 56.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(19.7%)となっています。
- 性別では、男子で“女性優遇”が 36.5%と、女子より 19.6 ポイント高くなっています。一方で、女子で「平等になっている」が 63.6%と、男子より 13.3 ポイント高くなっています。

図表 172 ②学校生活 (性別)



③社会全体

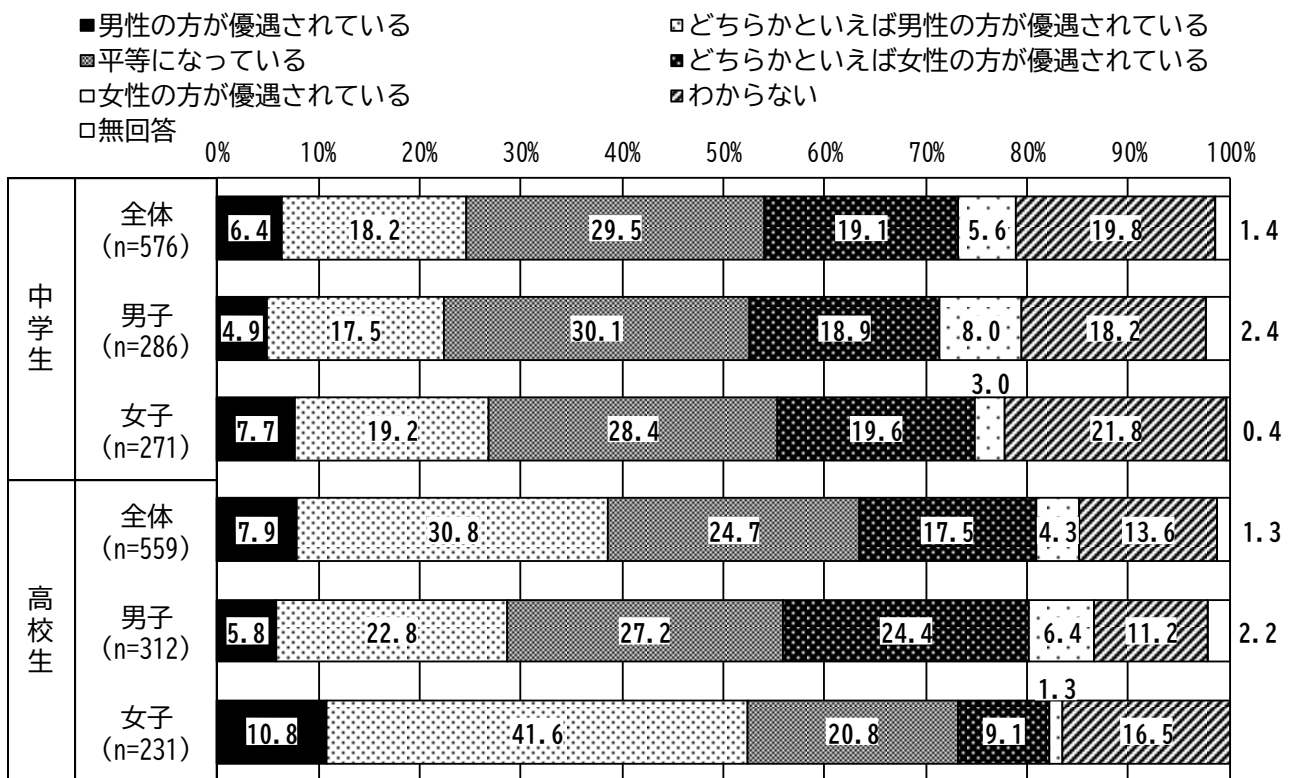
中学生

- 「平等になっている」が29.5%と最も高く、次いで「わからない」(19.8%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(19.1%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(18.2%)となっています。
- 性別では、男子で「女性の方が優遇されている」が8.0%と、女子より5.0ポイント高くなっています。一方で、女子で“男性優遇”が26.9%と、男子より4.5ポイント高くなっています。

高校生

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.8%と最も高く、次いで「平等になっている」(24.7%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(17.5%)、「わからない」(13.6%)となっています。
- 性別では、女子で“男性優遇”が52.4%と、男子より23.8ポイント高くなっています。一方で、男子で“女性優遇”が20.4ポイント、「平等になっている」が6.4ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

図表 173 ③社会全体（性別）



(3) 日常生活について

問3 あなたは今までに、「女らしくしなさい」「男らしくしなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

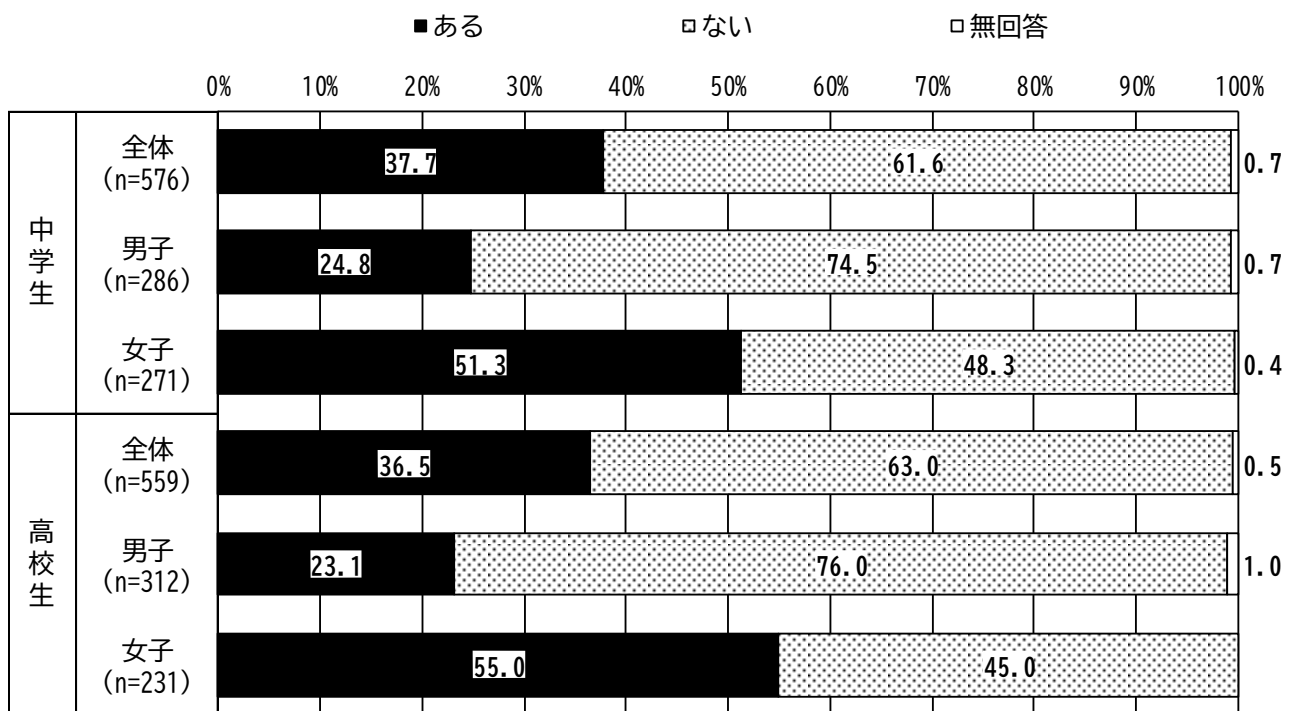
中学生

- 「ある」が37.7%、「ない」が61.6%となっています。
- 性別では、女子で「ある」が51.3%と、男子より26.5ポイント高くなっています。

高校生

- 「ある」が36.5%、「ない」が63.0%となっています。
- 性別では、女子で「ある」が55.0%と、男子より31.9ポイント高くなっています。

図表 174 「女らしく／男らしくしなさい」と言われた経験（性別）



※問3で「ある」と回答した方

問3-1 それは誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

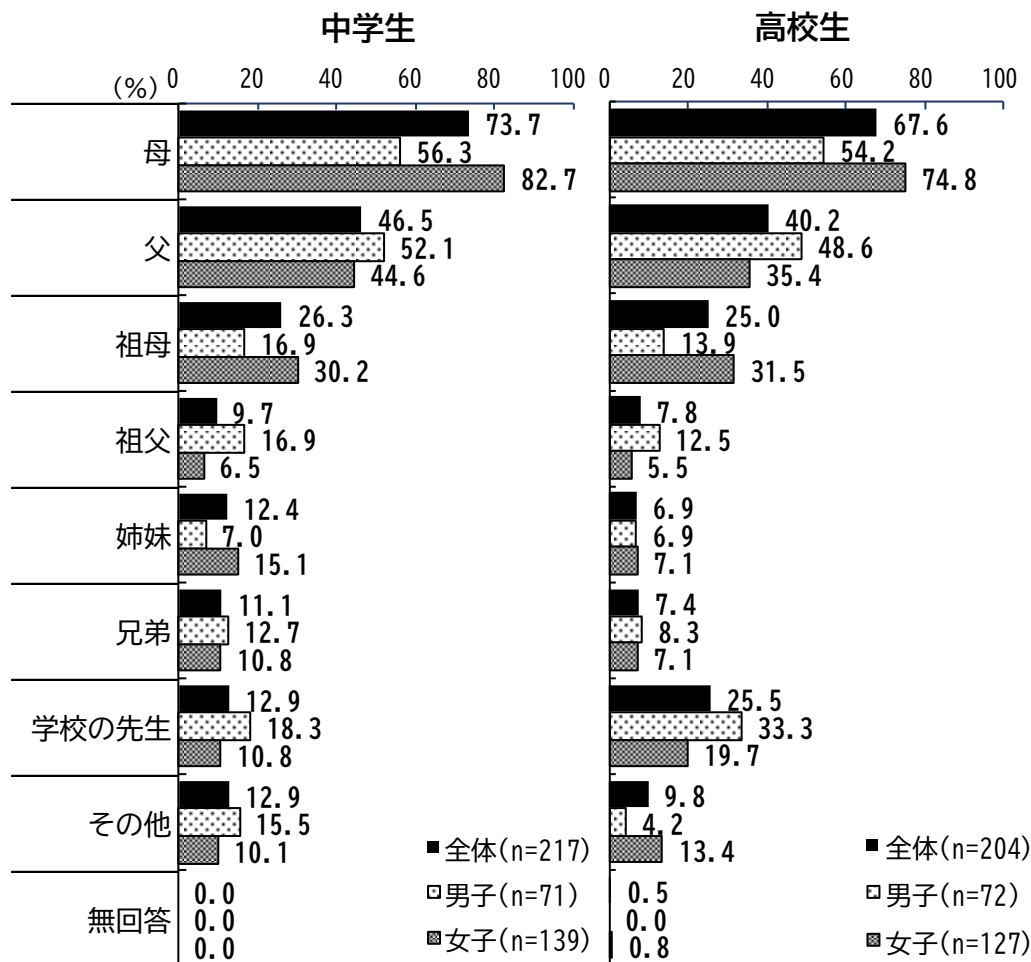
中学生

- 「母」が73.7%と最も高く、次いで「父」(46.5%)、「祖母」(26.3%)となっています。
- 性別では、女子で「母」が26.4ポイント、「祖母」が13.3ポイント、「姉妹」が8.1ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「祖父」が10.4ポイント、「父」と「学校の先生」がともに7.5ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

高校生

- 「母」が67.6%と最も高く、次いで「父」(40.2%)、「学校の先生」(25.5%)、「祖母」(25.0%)となっています。
- 性別では、女子で「母」が20.6ポイント、「祖母」が17.6ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「学校の先生」が13.6ポイント、「父」が13.2ポイント、「祖父」が7.0ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

図表 175 「女らしく／男らしくなさい」と言った人(性別)



問4 あなたは、次のようなお手伝いをしていますか。

(①～⑤についてそれぞれ〇を1つ)

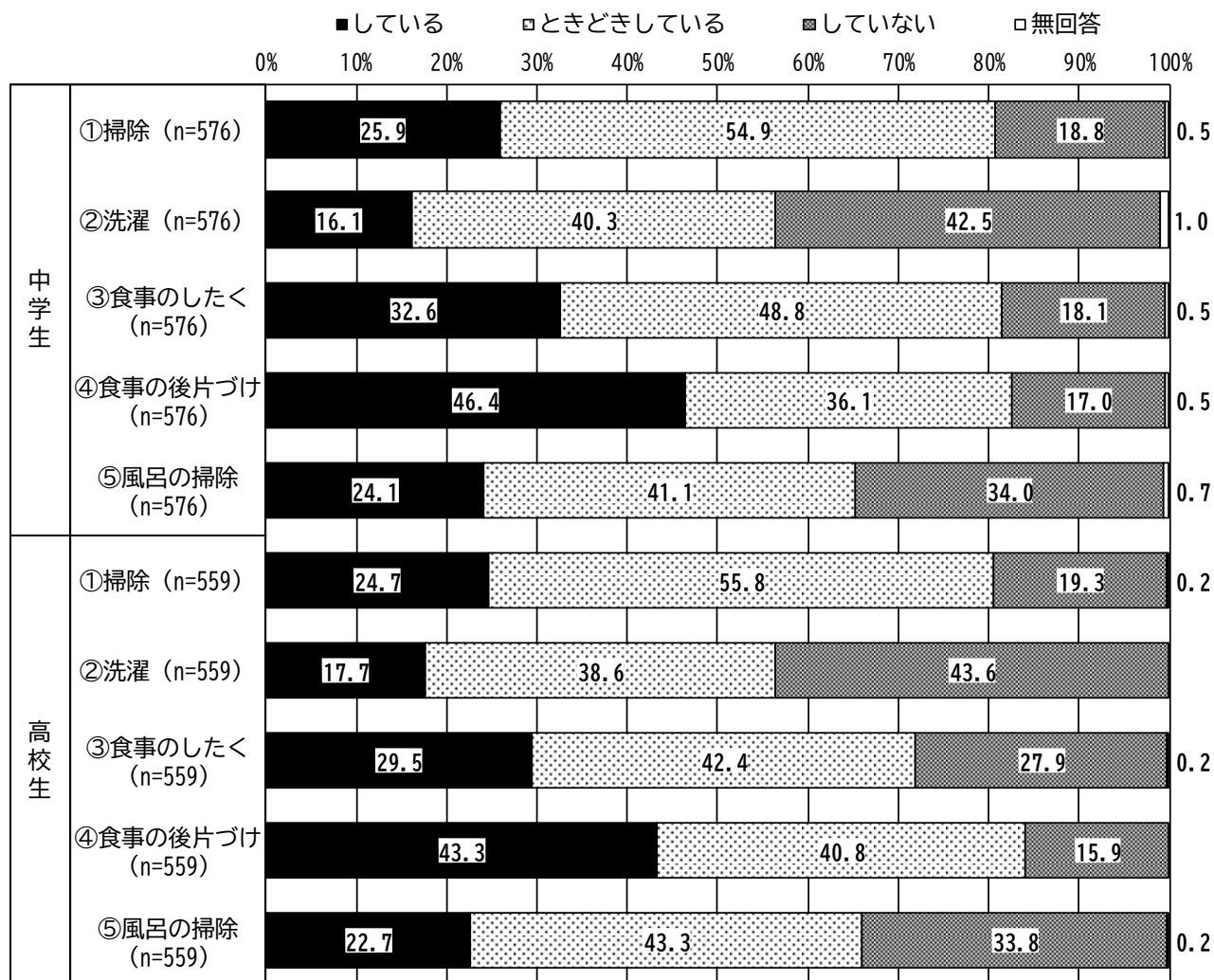
中学生

- 「②洗濯」と「⑤風呂の掃除」を除いて、“お手伝いしている※”が8割以上となっています。

高校生

- 「①掃除」と「④食事の後片づけ」で、“お手伝いしている”が8割以上となっています。

図表 176 家のお手伝いの状況



※「している」+「ときどきしている」

①掃除

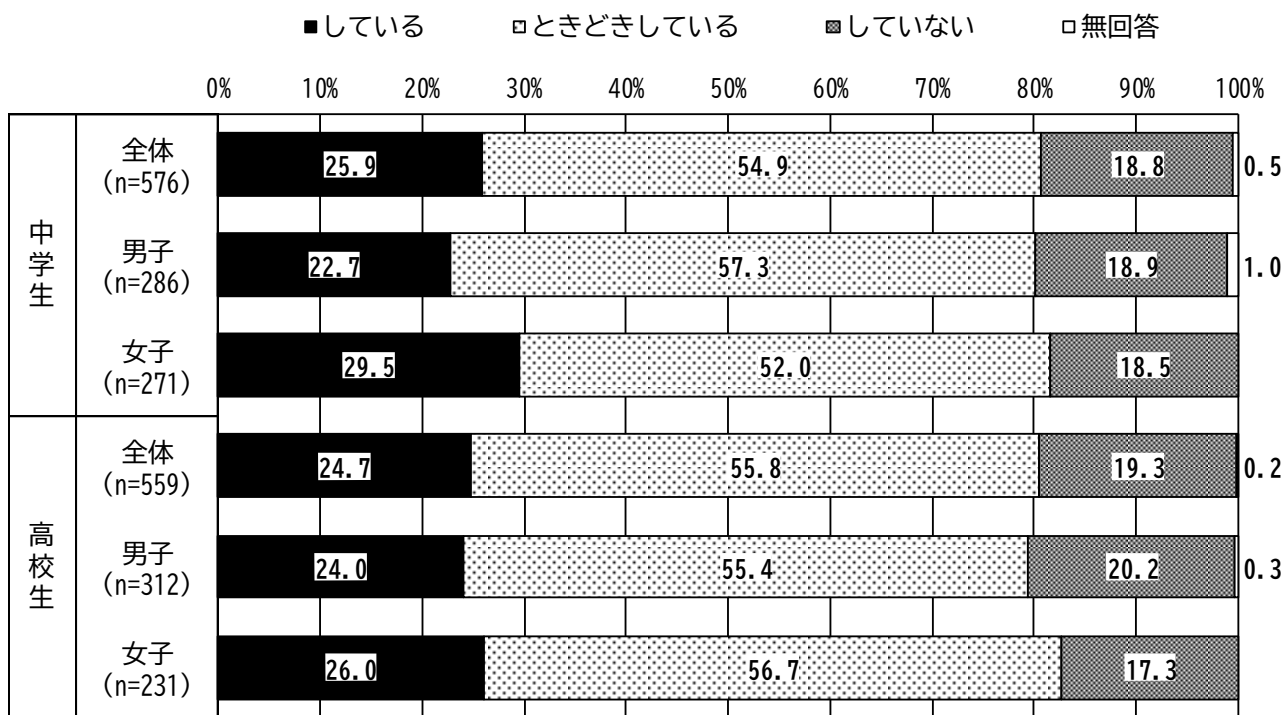
中学生

- 「している」が25.9%、「ときどきしている」が54.9%、「していない」が18.8%となっています。
- 性別では、女子で「している」が29.5%と、男子より6.8ポイント高くなっています。一方で、男子で「ときどきしている」が57.3%と、女子より5.3ポイント高くなっています。

高校生

- 「している」が24.7%、「ときどきしている」が55.8%、「していない」が19.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 177 ①掃除（性別）



②洗濯

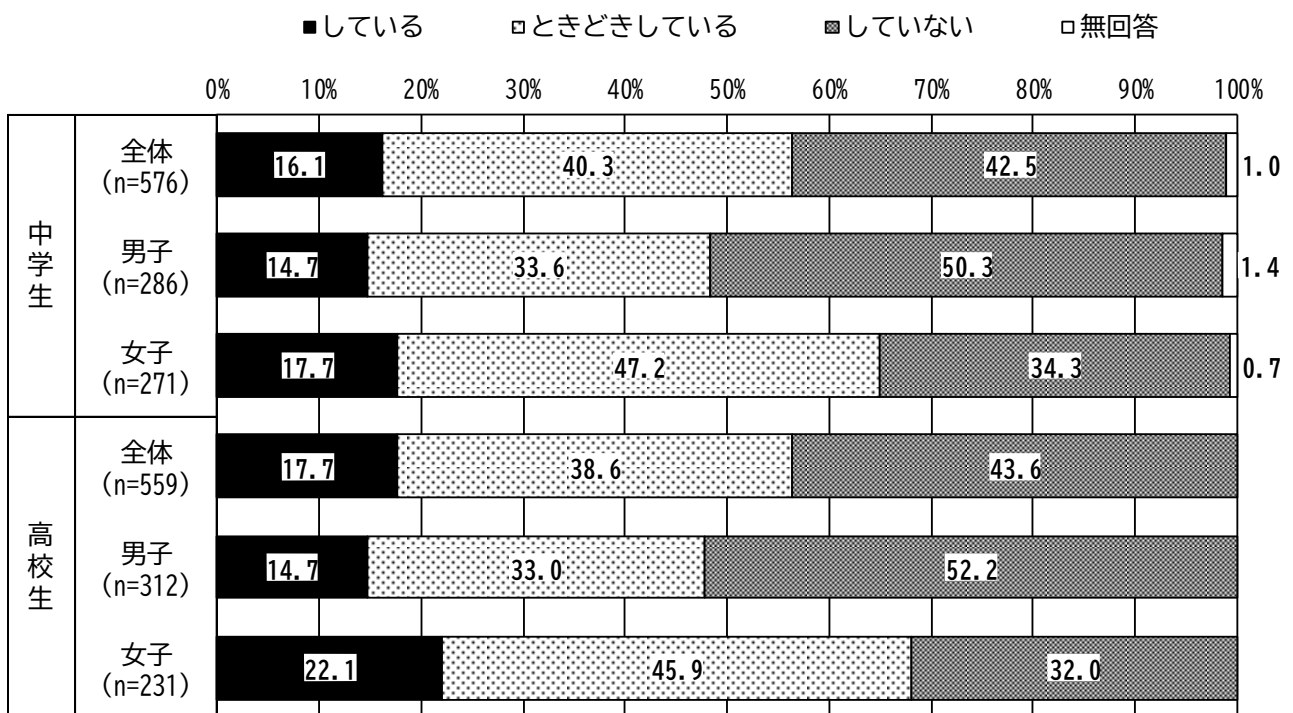
中学生

- 「している」が16.1%、「ときどきしている」が40.3%、「していない」が42.5%となっています。
- 性別では、男子で「していない」が50.3%と、女子より16.0ポイント高くなっています。一方で、女子で「ときどきしている」が47.2%と、男子より13.6ポイント高くなっています。

高校生

- 「している」が17.7%、「ときどきしている」が38.6%、「していない」が43.6%となっています。
- 性別では、女子で“お手伝いをしている”が68.0%と、男子より20.3ポイント高くなっています。一方で、男子で「していない」が52.2%と、女子より20.2ポイント高くなっています。

図表 178 ②洗濯（性別）



③食事のしたく

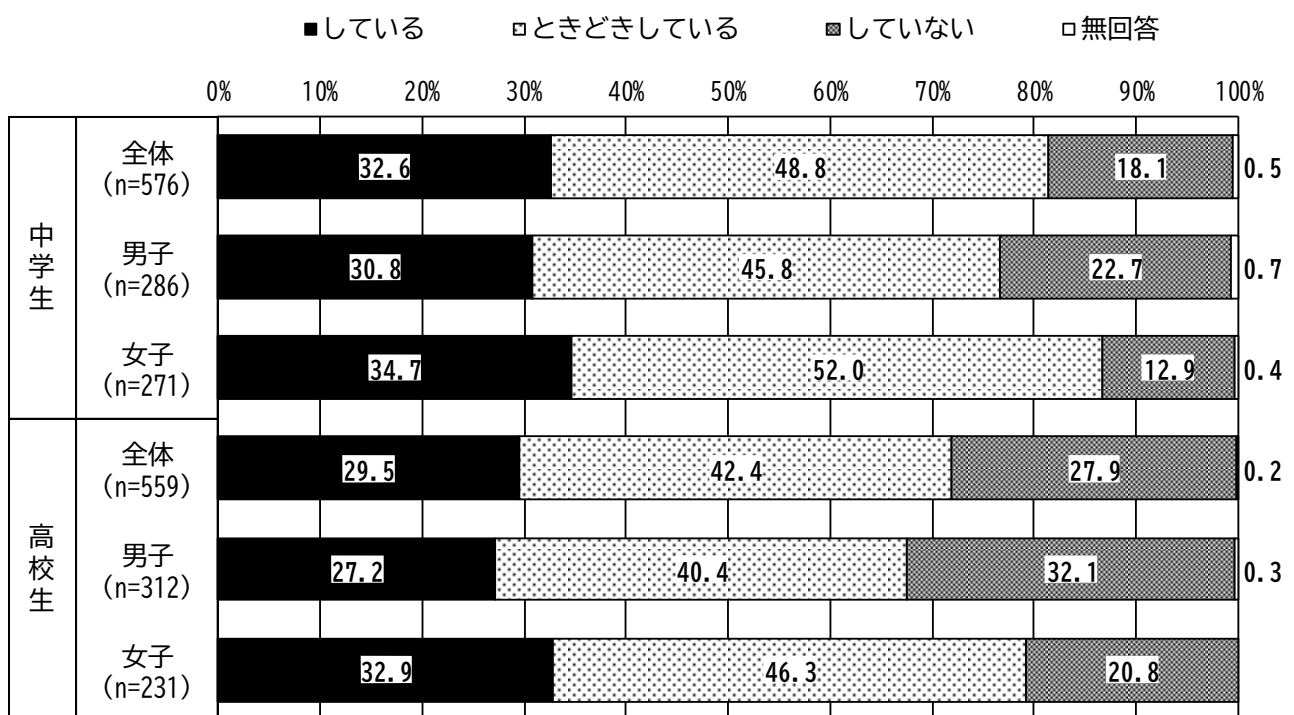
中学生

- 「している」が32.6%、「ときどきしている」が48.8%、「していない」が18.1%となっています。
- 性別では、男子で「していない」が22.7%と、女子より9.8ポイント高くなっています。一方で、女子で「ときどきしている」が52.0%と、男子より6.2ポイント高くなっています。

高校生

- 「している」が29.5%、「ときどきしている」が42.4%、「していない」が27.9%となっています。
- 性別では、女子で“お手伝いをしている”が79.2%と、男子より11.6ポイントとなっています。一方で、男子で「していない」が32.1%と、女子より11.3ポイント高くなっています。

図表 179 ③食事のしたく（性別）



④食事の後片づけ

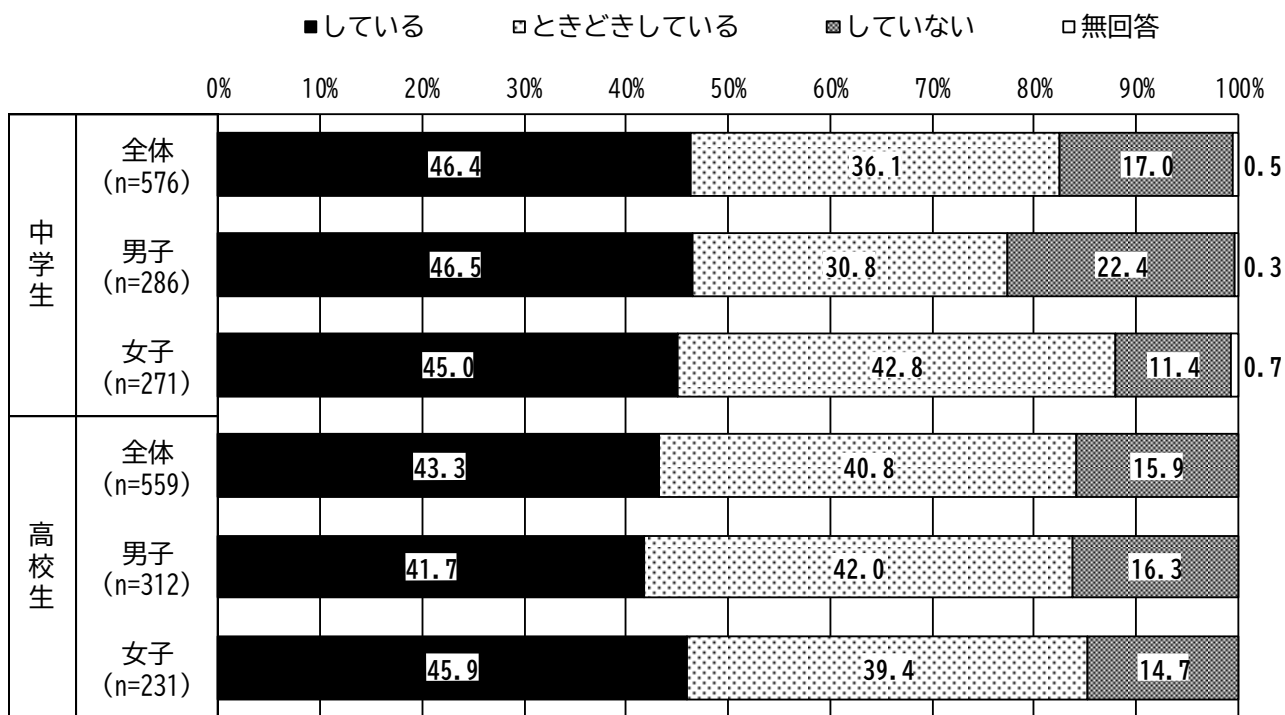
中学生

- 「している」が46.4%、「ときどきしている」が36.1%、「していない」が17.0%となっています。
- 性別では、女子で「ときどきしている」が42.8%と、男子より12.0ポイント高くなっています。一方で、男子で「していない」が22.4%と、女子より11.0ポイント高くなっています。

高校生

- 「している」が43.3%、「ときどきしている」が40.8%、「していない」が15.9%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 180 ④食事の後片づけ（性別）



⑤風呂の掃除

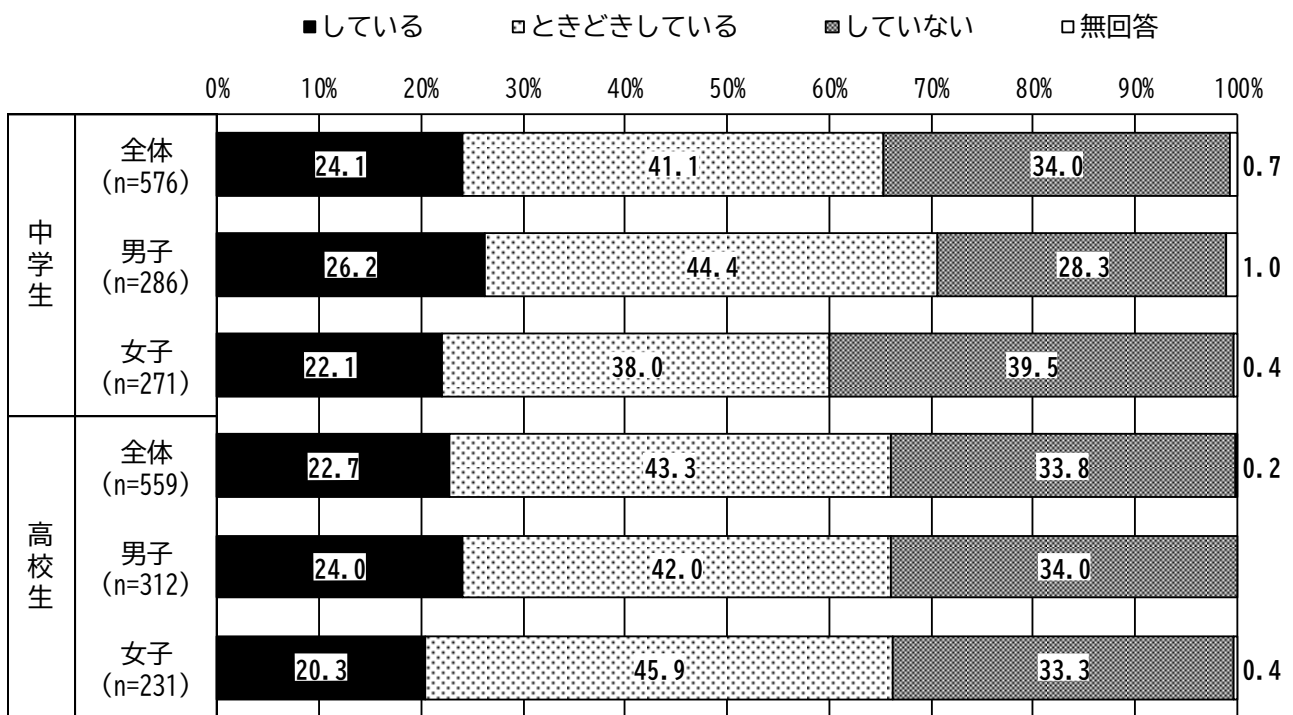
中学生

- 「している」が24.1%、「ときどきしている」が41.1%、「していない」が34.0%となっています。
- 性別では、女子で「していない」が39.5%と、男子より11.2ポイント高くなっています。一方で、男子で「ときどきしている」が44.4%と、女子より6.4ポイント高くなっています。

高校生

- 「している」が22.7%、「ときどきしている」が43.3%、「していない」が33.8%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 181 ⑤風呂の掃除（性別）



問5 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。

(①～④についてそれぞれ〇を1つ)

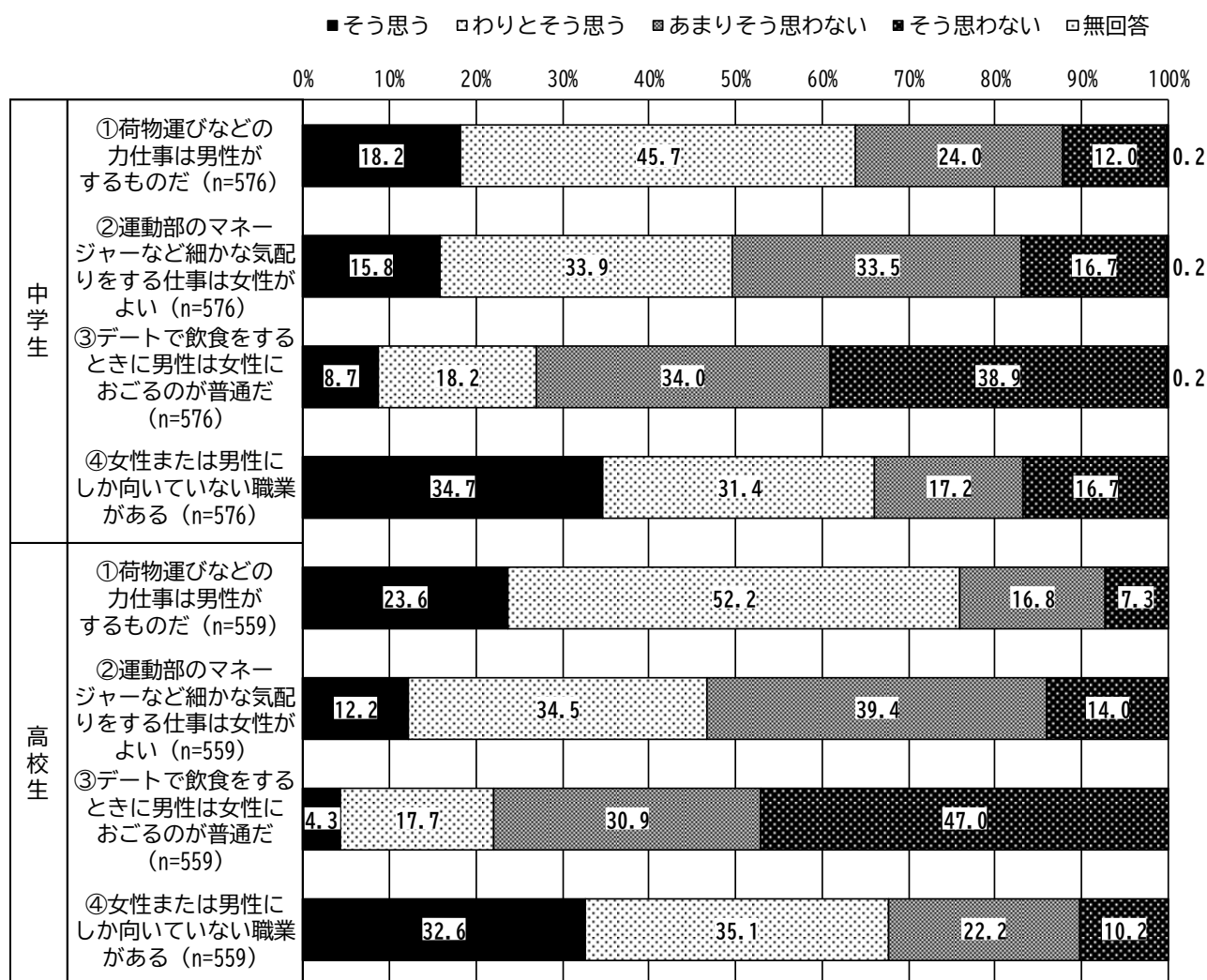
中学生

- 「③デートで飲食をするときに男性は女性におごるのが普通だ」で“概ねそう思わない※1”が72.9%と、他の項目と比べて高くなっています。一方で、「①荷物運びなどの力仕事は男性がするものだ」と「④女性または男性にしか向いていない職業がある」で“概ねそう思う※2”が6割以上となっています。

高校生

- 「①荷物運びなどの力仕事は男性がするものだ」で“概ねそう思う”、「③デートで飲食をするときに男性は女性におごるのが普通だ」で“概ねそう思わない”が、それぞれ7割以上となっています。

図表 182 考え方について



※1 「そう思わない」 + 「あまりそう思わない」

※2 「そう思う」 + 「わりとそう思う」

①荷物運びなどの力仕事は男性がするものだ

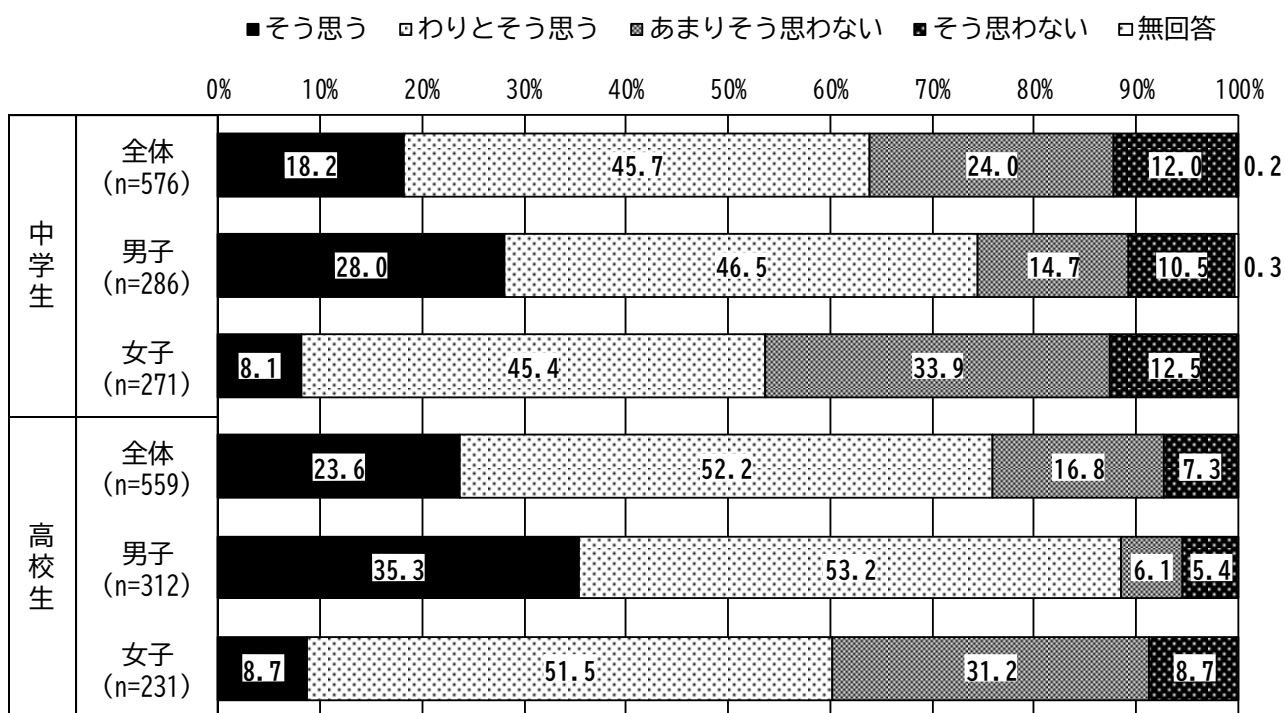
中学生

- 「わりとそう思う」が45.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(24.0%)となっています。また、「概ねそう思う」が63.9%、「概ねそう思わない」が36.0%となっています。
- 性別では、男子で「そう思う」が28.0%と、女子より19.9ポイント高くなっています。一方で、女子で「あまりそう思わない」が33.9%と、男子より19.2ポイント高くなっています。

高校生

- 「わりとそう思う」が52.2%と最も高く、次いで「そう思う」(23.6%)となっています。また、「概ねそう思う」が75.8%、「概ねそう思わない」が24.1%となっています。
- 性別では、男子で「そう思う」が35.3%と、女子より26.6ポイント高くなっています。一方で、女子で「あまりそう思わない」が31.2%と、男子より25.1ポイント高くなっています。

図表 183 ①荷物運びなどの力仕事は男性がするものだ（性別）



②運動部のマネージャーなど細かな気配りをする仕事は女性がよい

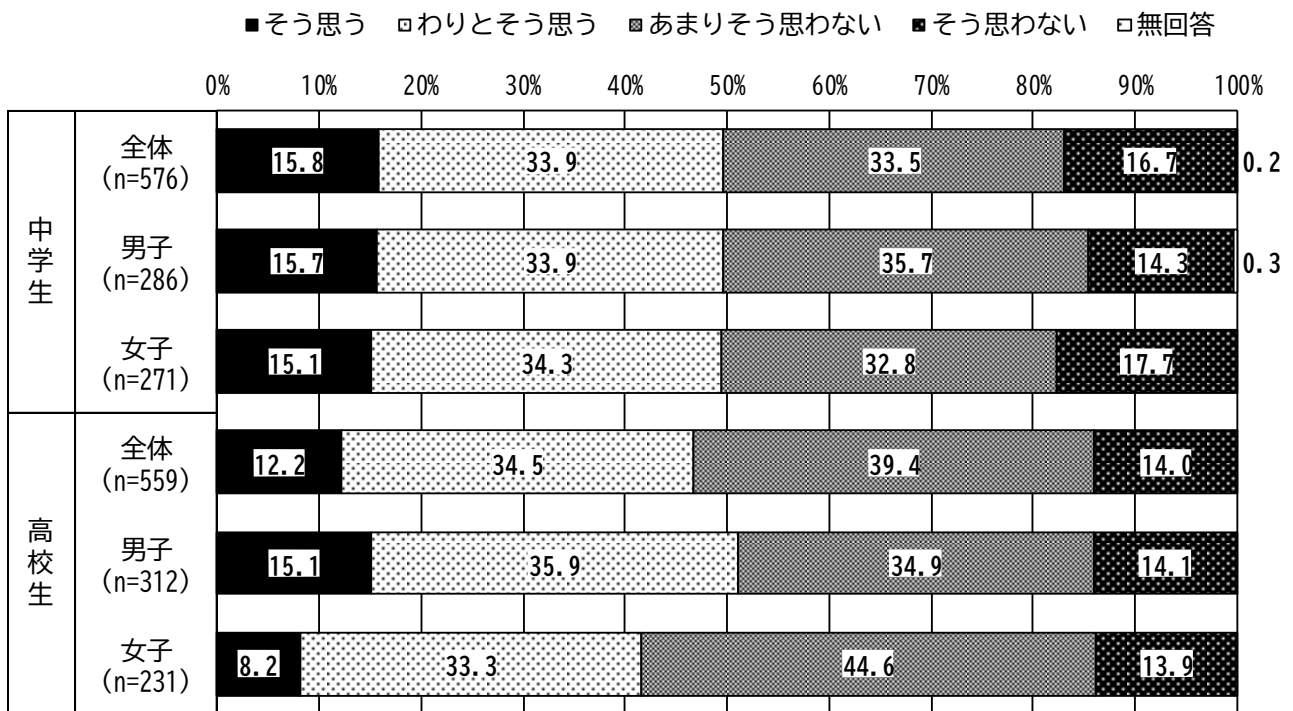
中学生

- 「わりとそう思う」が 33.9%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(33.5%)となっています。また、“概ねそう思う”が49.7%、“概ねそう思わない”が50.2%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「あまりそう思わない」が 39.4%と最も高く、次いで「わりとそう思う」(34.5%)となっています。また、“概ねそう思う”が46.7%、“概ねそう思わない”が53.4%となっています。
- 性別では、女子で「あまりそう思わない」が44.6%と、男子より9.7ポイント高くなっています。一方で、男子で「そう思う」が15.1%と、女子より6.9ポイント高くなっています。

図表 184 ②運動部のマネージャーなど細かな気配りをする仕事は女性がよい（性別）



③デートで飲食をするときに男性は女性におごるのが普通だ

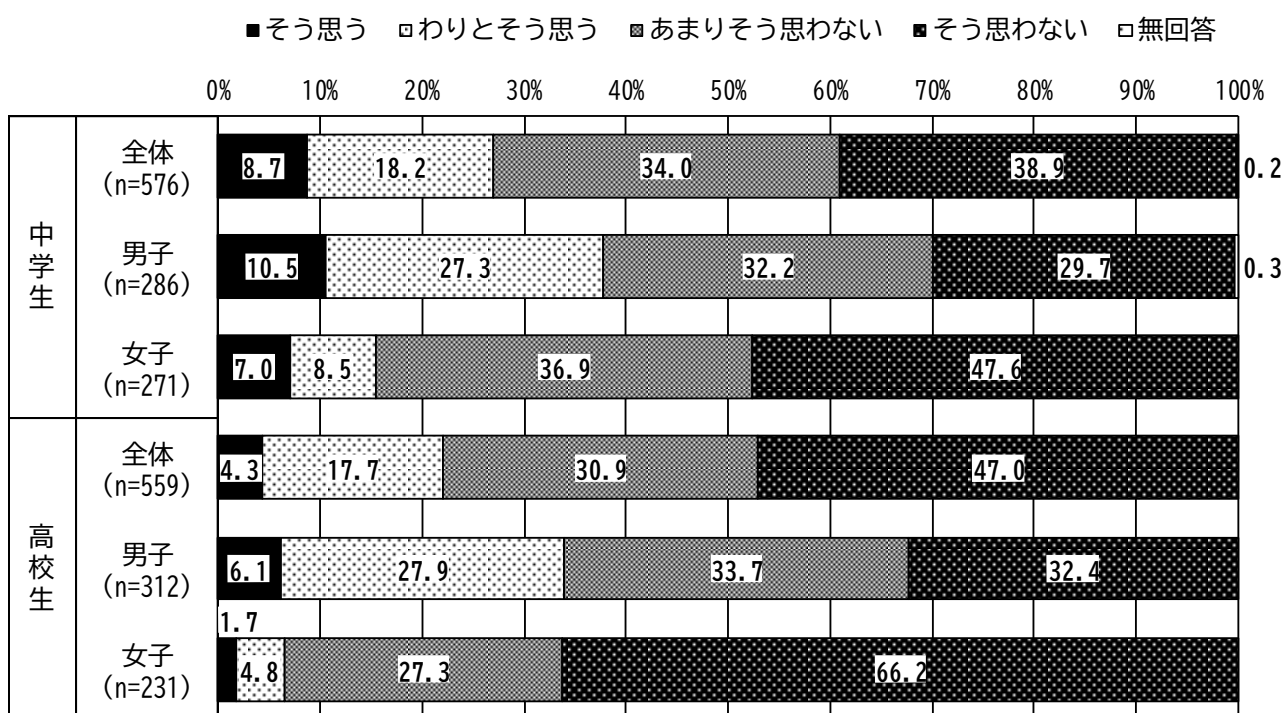
中学生

- 「そう思わない」が38.9%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(34.0%)となっています。また、「概ねそう思う」が26.9%、「概ねそう思わない」が72.9%となっています。
- 性別では、男子で「わりとそう思う」が27.3%と、女子より18.8ポイント高くなっています。一方で、女子で「そう思わない」が47.6%と、男子より17.9ポイント高くなっています。

高校生

- 「そう思わない」が47.0%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(30.9%)となっています。また、「概ねそう思う」が22.0%、「概ねそう思わない」が77.9%となっています。
- 性別では、女子で「そう思わない」が66.2%と、男子より33.8ポイント高くなっています。一方で、男子で「わりとそう思う」が27.9%と、女子より23.1ポイント高くなっています。

図表 185 ③デートで飲食をするときに男性は女性におごるのが普通だ（性別）



④女性または男性にしか向いていない職業がある

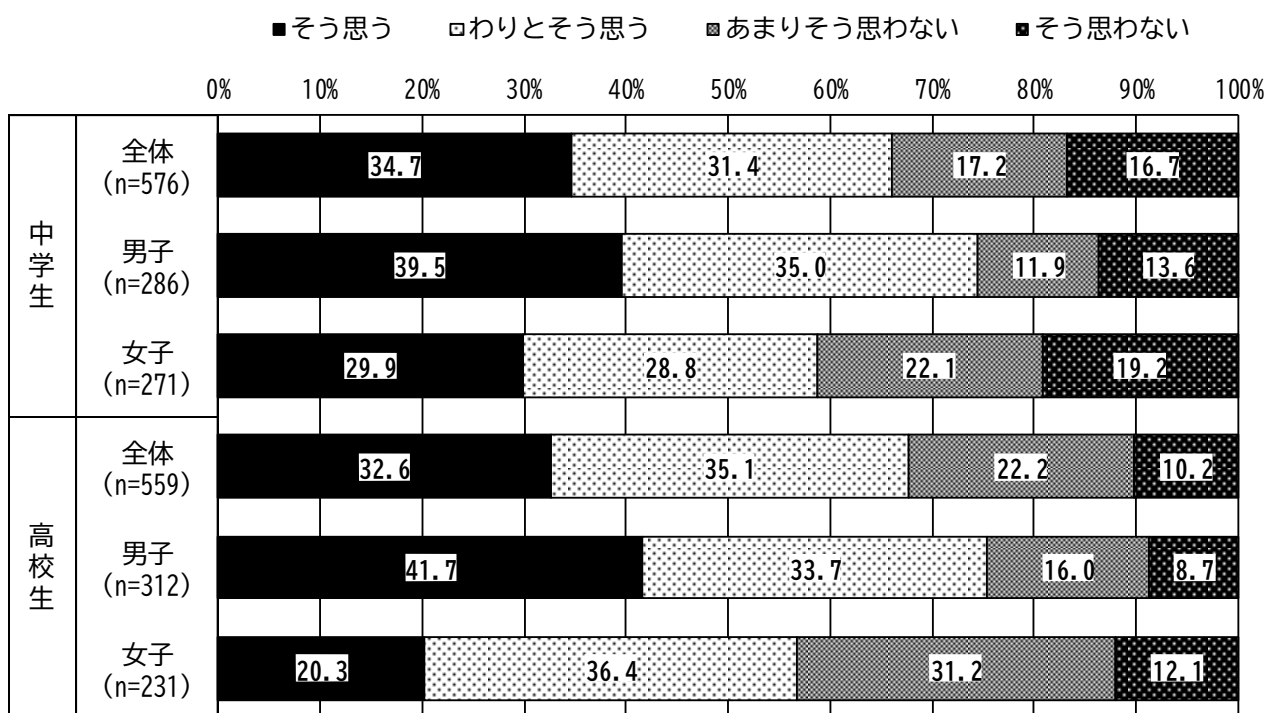
中学生

- 「そう思う」が34.7%と最も高く、次いで「わりとそう思う」(31.4%)となっています。また、“概ねそう思う”が66.1%、“概ねそう思わない”が33.9%となっています。
- 性別では、女子で「あまりそう思わない」が10.2ポイント、「そう思わない」が5.6ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「そう思う」が9.6ポイント、「わりとそう思う」が6.2ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

高校生

- 「わりとそう思う」が35.1%と最も高く、次いで「そう思う」(32.6%)となっています。また、“概ねそう思う”が67.7%、“概ねそう思わない”が32.4%となっています。
- 性別では、男性で「そう思う」が41.7%と、女子より21.4ポイント高くなっています。一方で、女子で「あまりそう思わない」が31.2%と、男子より15.2ポイント高くなっています。

図表 186 ④女性または男性にしか向いていない職業がある（性別）



(4) 教育について

問6 あなたは、どこまで進学したいですか。(〇は1つ)

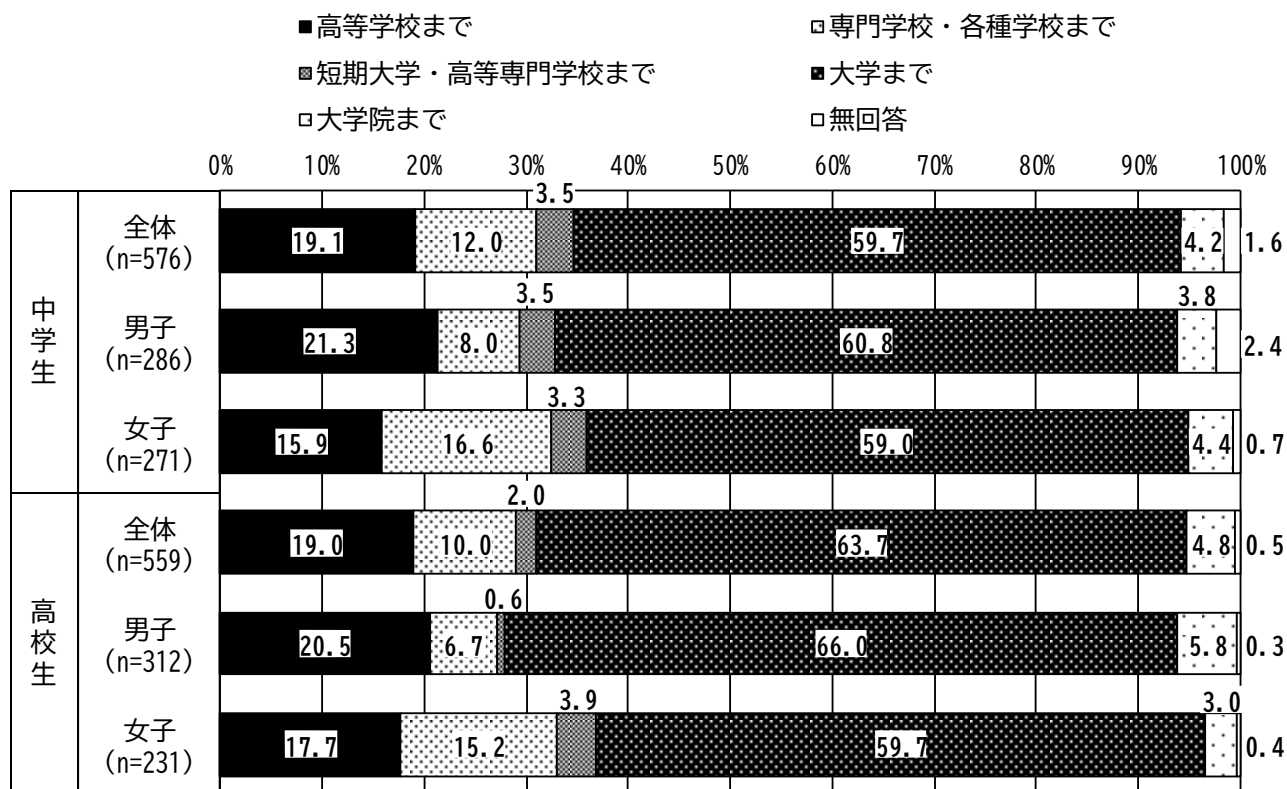
中学生

- 「大学まで」が59.7%と最も高く、次いで「高等学校まで」(19.1%)、「専門学校・各種学校まで」(12.0%)となっています。
- 性別では、女子で「専門学校・各種学校まで」が16.6%と、男子より8.6ポイント高くなっています。一方で、男子で「高等学校まで」が21.3%と、女子より5.4ポイント高くなっています。

高校生

- 「大学まで」が63.7%と最も高く、次いで「高等学校まで」(19.0%)、「専門学校・各種学校まで」(10.0%)となっています。
- 性別では、女子で「専門学校・各種学校まで」が15.2%と、男子より8.5ポイント高くなっています。一方で、男子で「大学まで」が66.0%と、女子より6.3ポイント高くなっています。

図表 187 希望する進路 (性別)



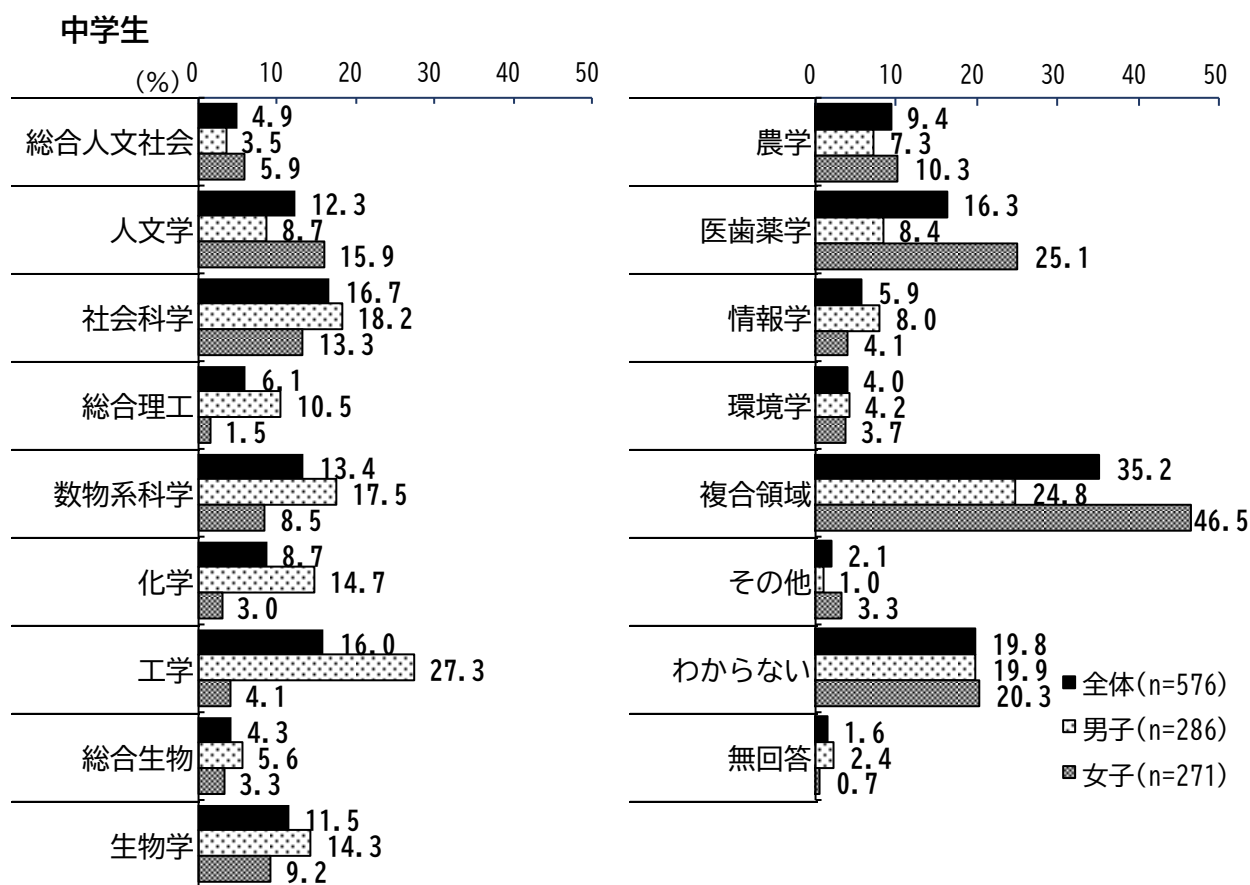
問7 あなたは、大学に進学する場合、どのような分野を学びたいですか。

(〇は3つまで)

中学生

- 「複合領域」が35.2%と最も高く、次いで「わからない」(19.8%)、「社会科学」(16.7%)
「医歯薬学」(16.3%)、「工学」(16.0%)となっています。
- 性別では、男子で「工学」が23.2ポイント、「化学」が11.7ポイント、それぞれ女子より10ポイント以上高くなっています。一方で、女子で「複合領域」が21.7ポイント、「医歯薬学」が16.7ポイント、それぞれ男子より10ポイント以上高くなっています。

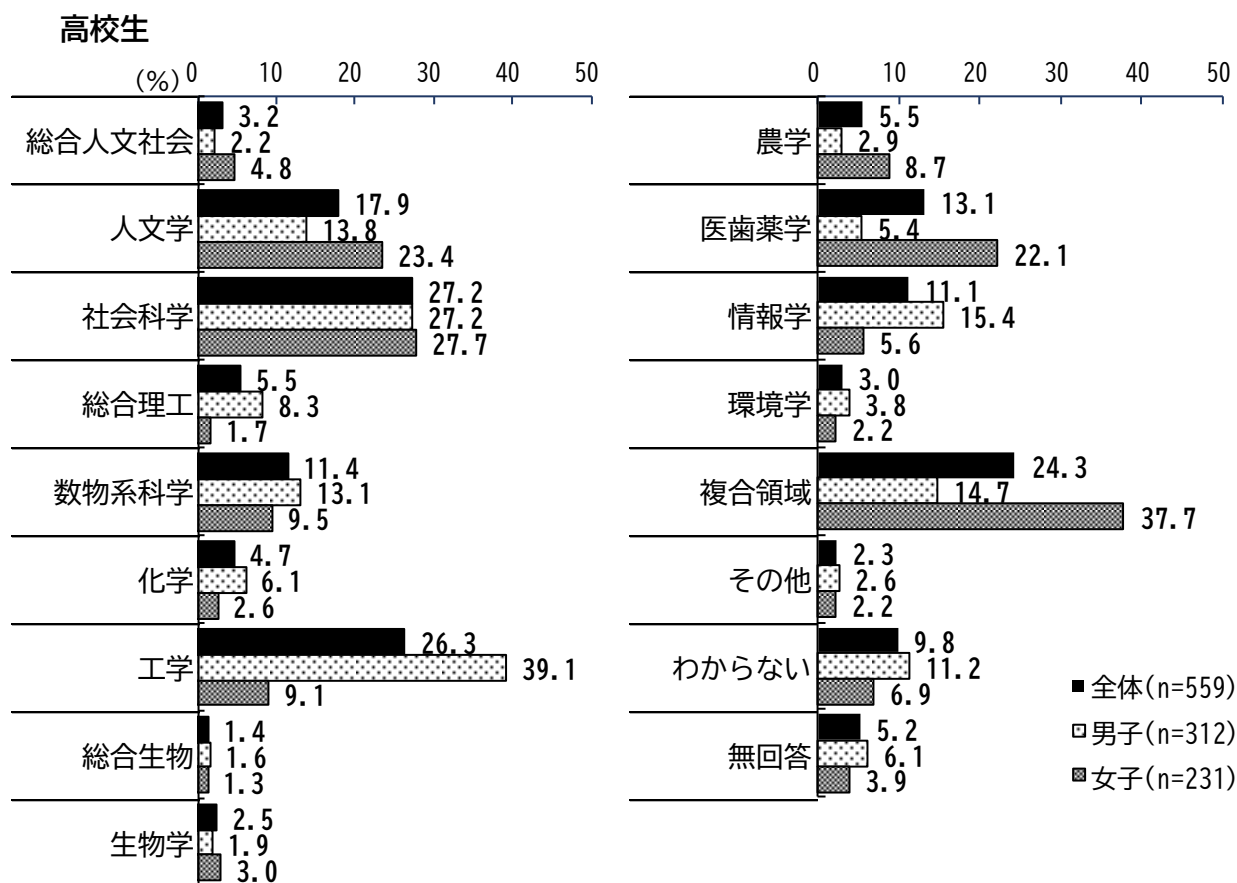
図表 188 大学で学びたい分野（中学生）（性別）



高校生

- 「社会科学」が27.2%と最も高く、次いで「工学」(26.3%)、「複合領域」(24.3%)、「人文学」(17.9%)となっています。
- 性別では、男子で「工学」が39.1%と、女子より30.0ポイント高くなっています。一方で、女子で「複合領域」が23.0ポイント、「医歯薬学」が16.7ポイント、それぞれ男子より10ポイント以上高くなっています。

図表 189 大学で学びたい分野（高校生）（性別）



- ※総合人文社会（地域研究、ジェンダー、観光学等）
- ※人文学（哲学、芸術学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学等）
- ※社会科学（法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学等）
- ※総合理工（ナノ・マイクロ科学、応用物理学、量子ビーム科学、計算科学等）
- ※数物系科学（数学、天文学、物理学、地球惑星科学、プラズマ科学等）
- ※化学（基礎化学、複合化学、材料化学等）
- ※工学（機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、材料工学、プロセス工学・化学工学、総合工学等）
- ※総合生物（神経科学、実験動物学、腫瘍学、ゲノム科学、生物資源保全学等）
- ※生物学（生物科学、基礎生物学、人類学等）
- ※農学（生産環境農学、農芸化学、森林園科学、水圏応用科学、社会経済農学、農業工学、動物生命科学、境界農学等）
- ※医歯薬学（薬学、基礎医学、境界医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、歯学、看護学等）
- ※情報学（情報学基礎、計算基盤、人間情報学、情報学フロンティア等）
- ※環境学（環境解析学、環境保全学、環境創成学等）
- ※複合領域（デザイン学、生活科学、科学教育・教育工学、科学社会学・科学技術史、文化財科学・博物館学、地理学、社会・安全システム科学、人間医工学、健康・スポーツ科学、子ども学、生体分子科学、脳科学等）

(5) 将来の生活について

問8 将来結婚した場合、あなたの理想の生活は次のどれですか。(〇は1つ)

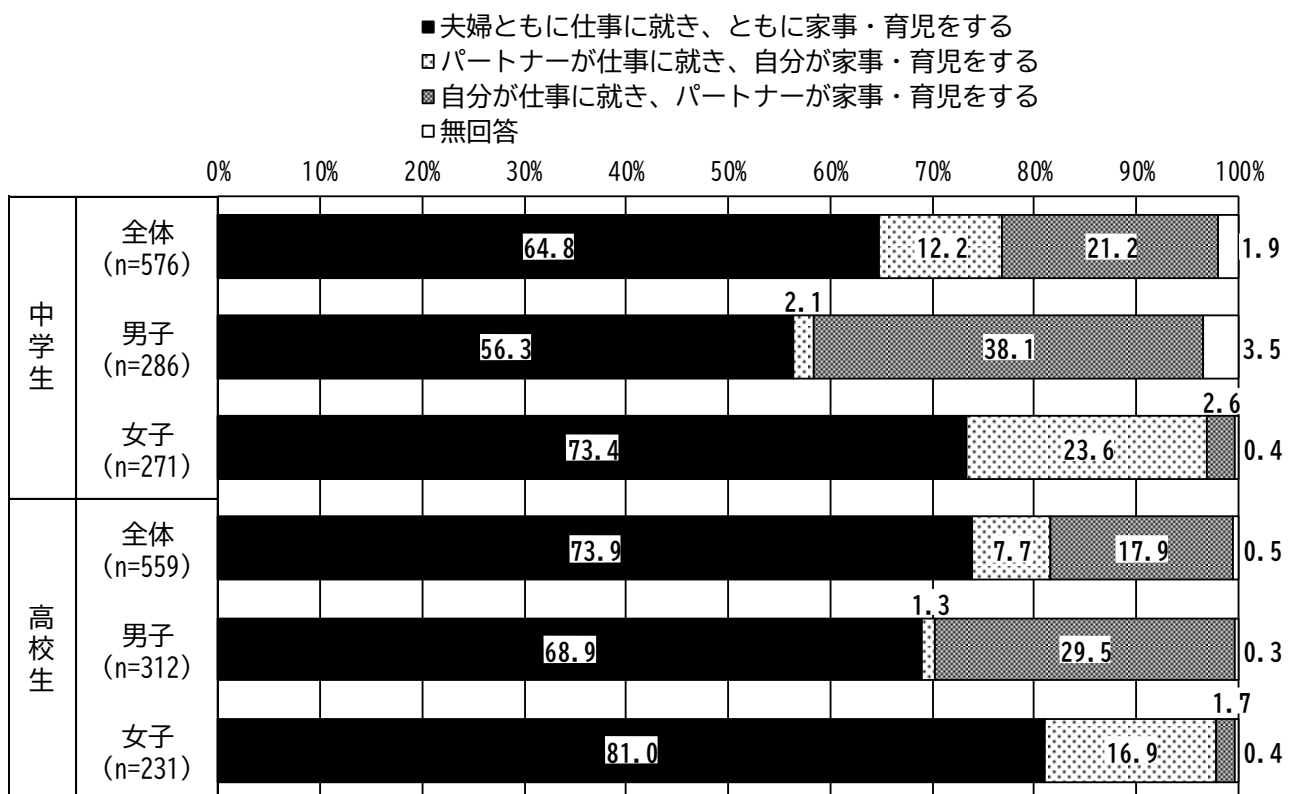
中学生

- 「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が64.8%、「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」が12.2%、「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」が21.2%となっています。
- 性別では、男子で「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」が38.1%と、女子より35.5ポイント高くなっています。一方で、女子で「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」が21.5ポイント、「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が17.1ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

高校生

- 「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が73.9%、「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」が7.7%、「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」が17.9%となっています。
- 性別では、男子で「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」が29.5%と、女子より27.8ポイント高くなっています。一方で、女子で「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」が15.6ポイント、「夫婦ともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が12.1ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 190 理想の結婚生活（性別）



問9 あなたは、将来の暮らしの中での「仕事」、「家庭」、「地域・個人（付き合い、学習・趣味など）」の生活で何を優先したいですか。（○は1つ）

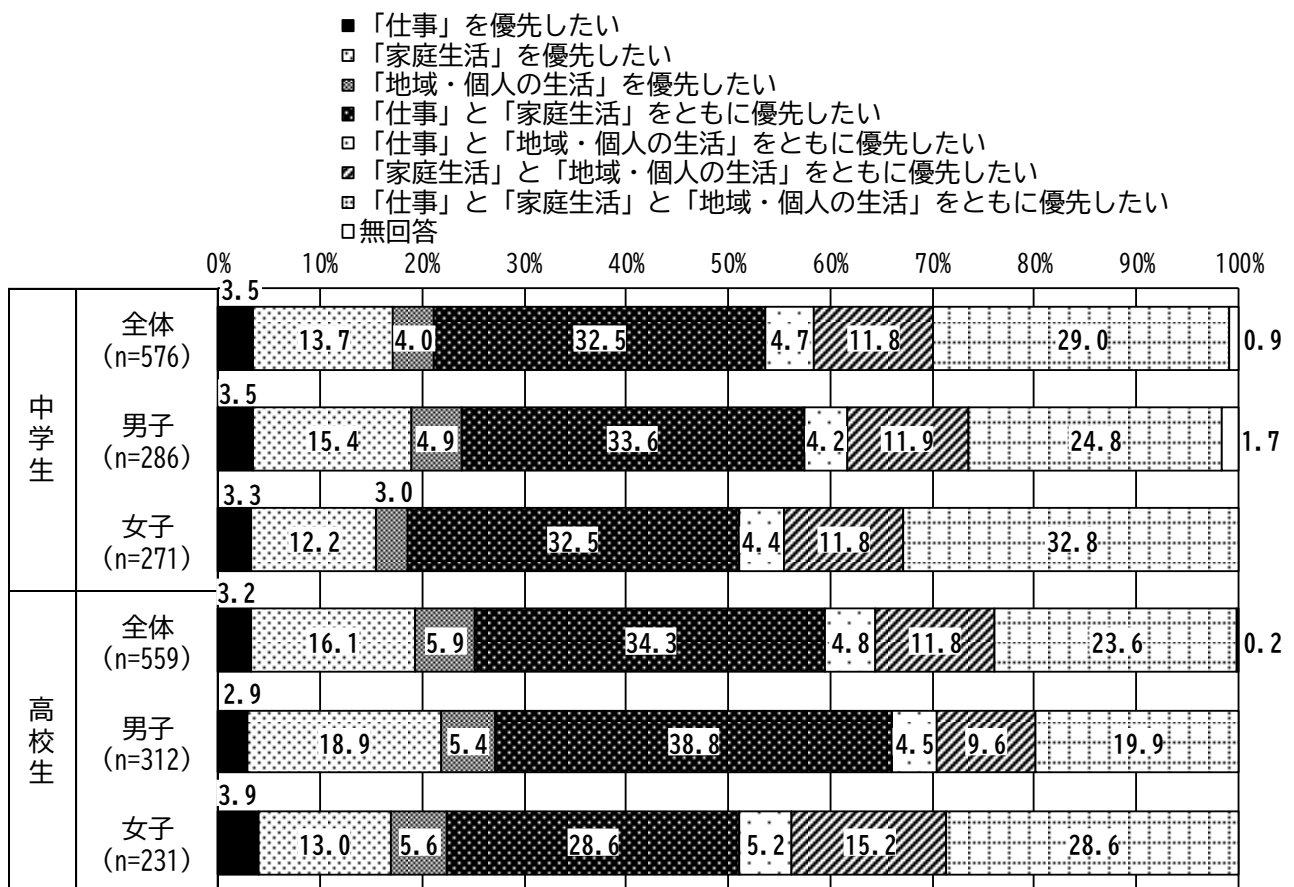
中学生

- 「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が32.5%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」（29.0%）となっています。
- 性別では、女子で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が32.8%と、男子より8.0ポイント高くなっています。

高校生

- 「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が34.3%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」（23.6%）となっています。
- 性別では、男子で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が10.2ポイント、「『家庭生活』を優先したい」が5.9ポイント、それぞれ女子より高くなっています。一方で、女子で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が8.7ポイント、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が5.6ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 191 ワーク・ライフ・バランスの希望（性別）



問 10 あなたは、将来、仕事においてリーダーや管理職（部長・課長など）になりたいと思いますか。（〇は1つ）

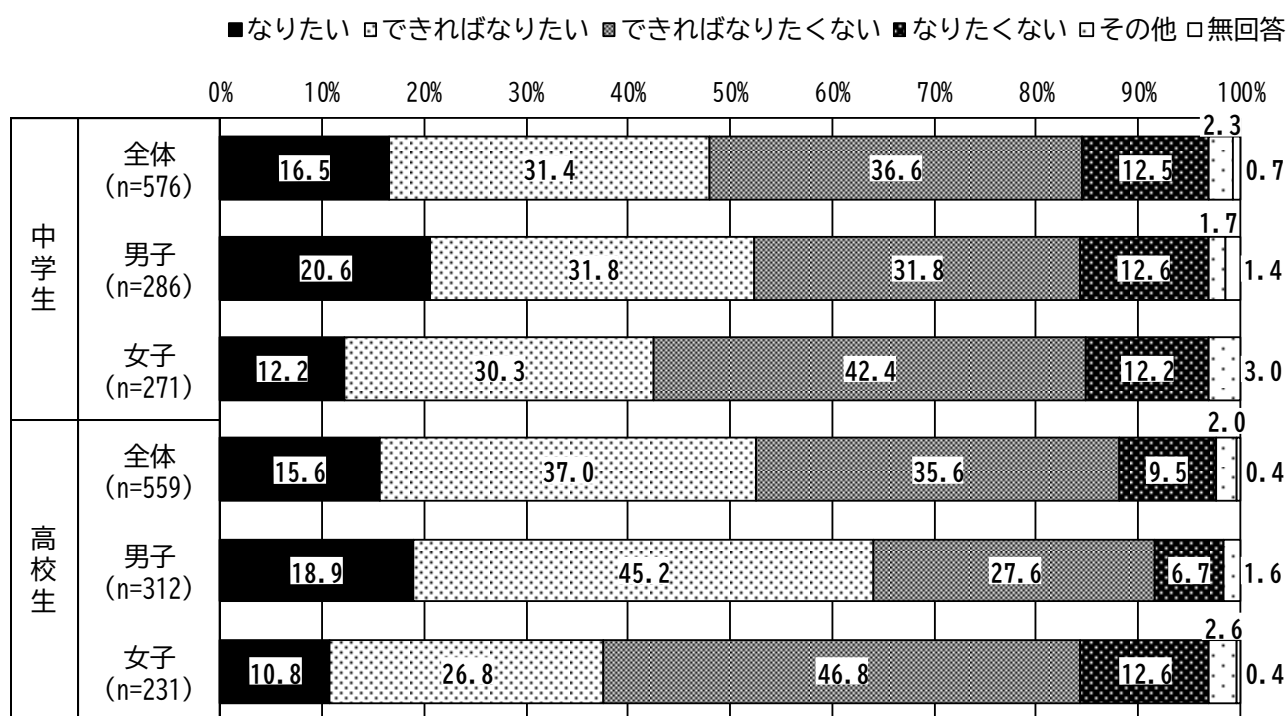
中学生

- 「できればなりたくない」が36.6%と最も高く、次いで「できればなりたい」(31.4%)となっています。また、「概ねなりたい※1」が47.9%、「概ねなりたくない※2」が49.1%となっています。
- 性別では、女子で「できればなりたくない」が42.4%と、男子より10.6ポイント高くなっています。一方で、男子で「なりたい」が20.6%と、女子より8.4ポイント高くなっています。

高校生

- 「できればなりたい」が37.0%と最も高く、次いで「できればなりたくない」(35.6%)となっています。また、「概ねなりたい」が52.6%、「概ねなりたくない」が45.1%となっています。
- 性別では、女子で「できればなりたくない」が19.2ポイント、「なりたくない」が5.9ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「できればなりたい」が18.4ポイント、「なりたい」が8.1ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

図表 192 リーダーや管理職になること（性別）



※1 「なりたい」 + 「できればなりたい」

※2 「なりたくない」 + 「できればなりたくない」

※問 10 で「なりたい」「できればなりたい」と回答した方

問 10-1 リーダーや管理職になりたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

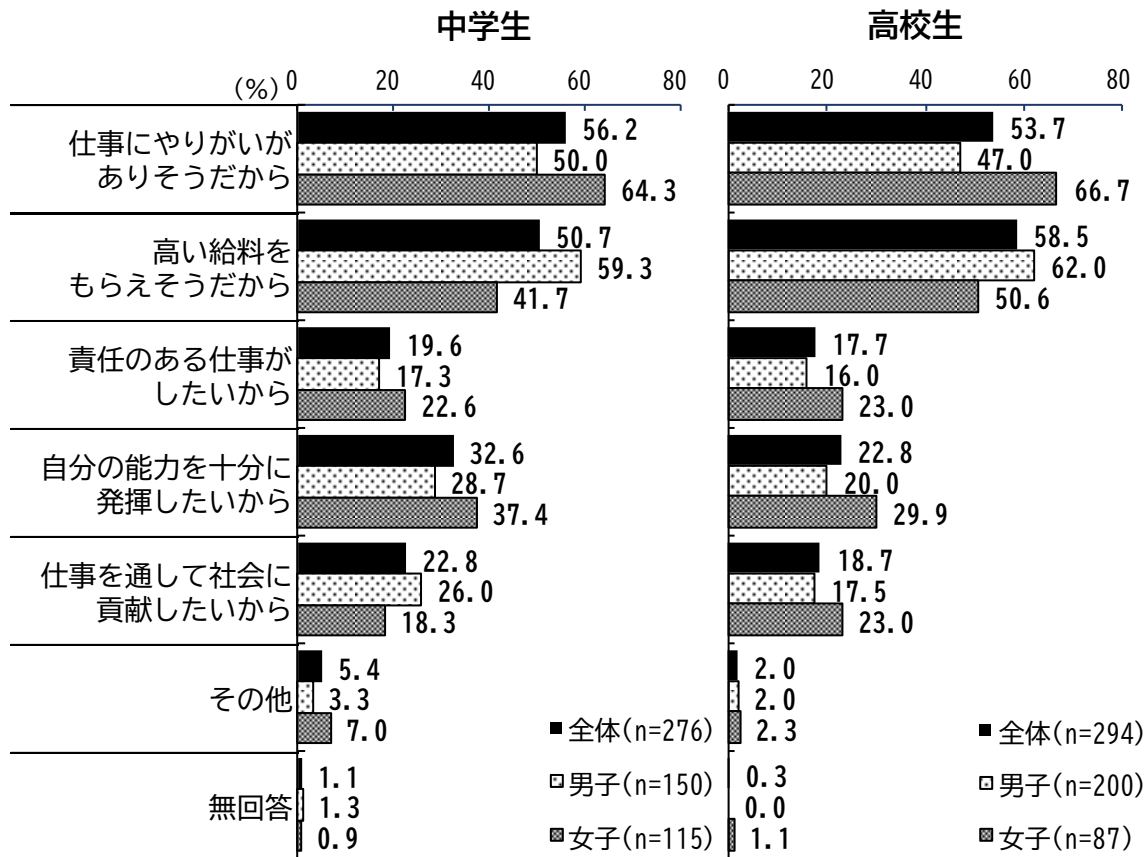
中学生

- 「仕事にやりがいがありそうだから」が 56.2%と最も高く、次いで「高い給料をもらえそうだから」(50.7%)、「自分の能力を十分に発揮したいから」(32.6%)となっています。
- 性別では、男子で「高い給料をもらえそうだから」が 59.3%と、女子より 17.6 ポイント高くなっています。一方で、女子で「仕事にやりがいがありそうだから」が 64.3%と、男子より 14.3 ポイント高くなっています。

高校生

- 「高い給料をもらえそうだから」が 58.5%と最も高く、次いで「仕事にやりがいがありそうだから」(53.7%)、「自分の能力を十分に発揮したいから」(22.8%)となっています。
- 性別では、女子で「仕事にやりがいがありそうだから」が 66.7%と、男子より 19.7 ポイント高くなっています。一方で、男子で「高い給料をもらえそうだから」が 62.0%と、女子より 11.4 ポイント高くなっています。

図表 193 リーダーや管理職になりたい理由(性別)



※問 10 で「できればなりたくない」「なりたくない」と回答した方

問 10-2 リーダーや管理職になりたくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

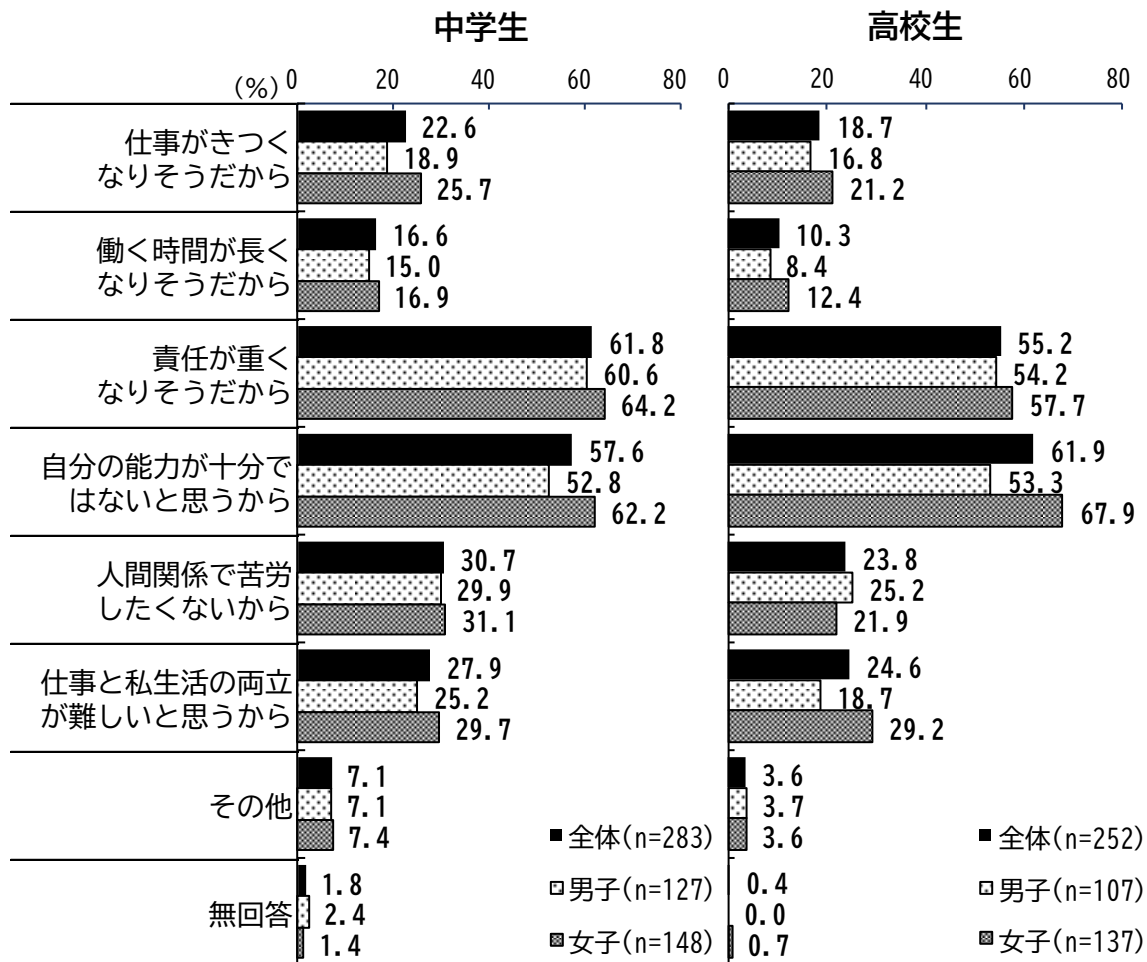
中学生

- 「責任が重くなりそうだから」が 61.8%と最も高く、次いで「自分の能力が十分ではないと思うから」(57.6%)、「人間関係で苦勞したくないから」(30.7%)となっています。
- 性別では、女子で「自分の能力が十分ではないと思うから」が 9.4 ポイント、「仕事がかつくなりそうだから」が 6.8 ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

高校生

- 「自分の能力が十分ではないと思うから」が 61.9%と最も高く、次いで「責任が重くなりそうだから」(55.2%)となっています。
- 性別では、女子で「自分の能力が十分ではないと思うから」が 14.6 ポイント、「仕事と私生活の両立が難しいと思うから」が 10.5 ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 194 リーダーや管理職になりたくない理由 (性別)



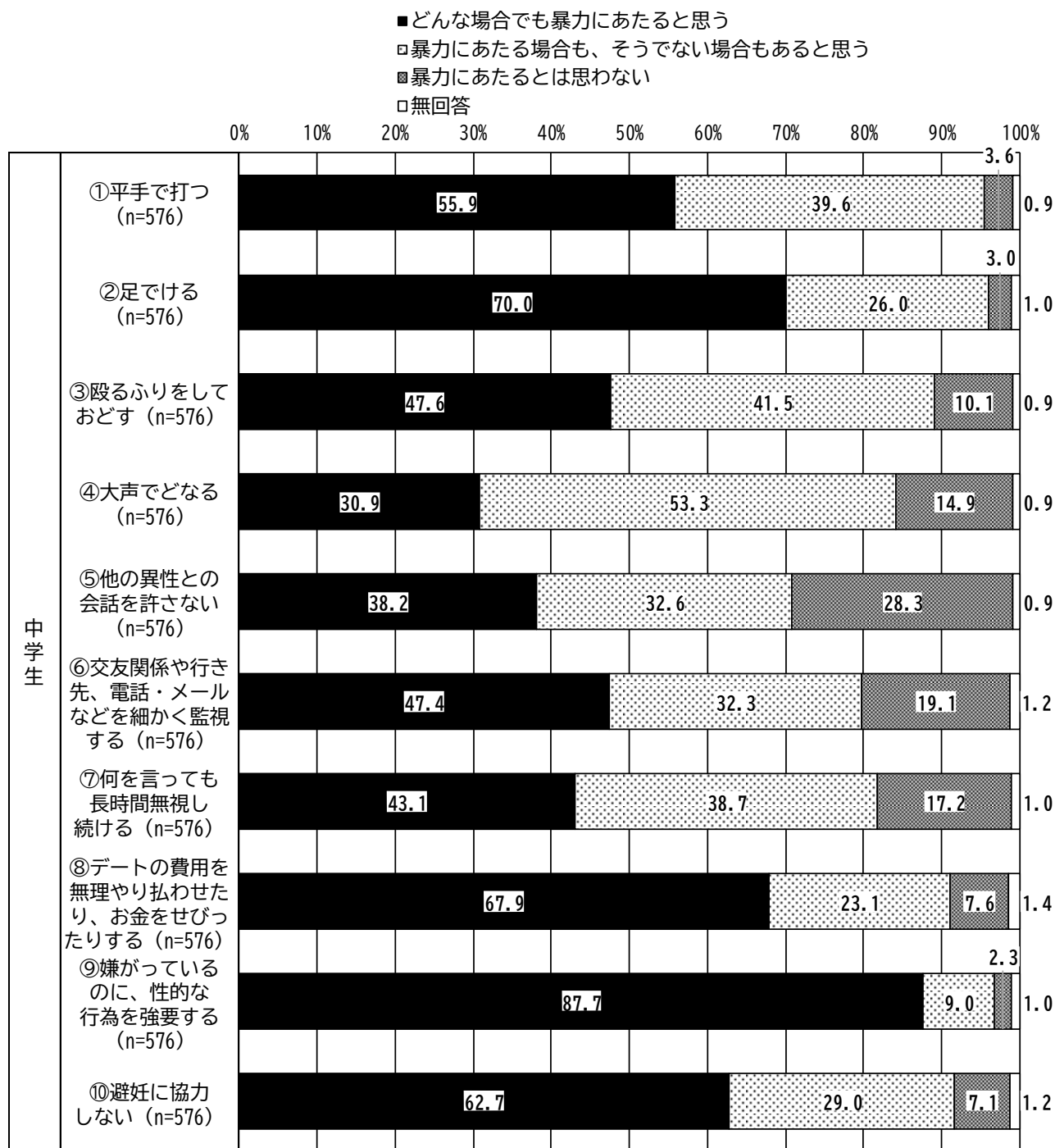
(6) 男女の人権について

問 11 あなたは、交際相手との間で、次のような行為があったとき、それを暴力だと思いますか。(①～⑩についてそれぞれ○を1つ)

中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する」が87.7%と最も高く、次いで「②足でける」(70.0%)となっています。一方で、「暴力にあたるとは思わない」をみると、「⑤他の異性との会話を許さない」が28.3%と、最も高くなっています。

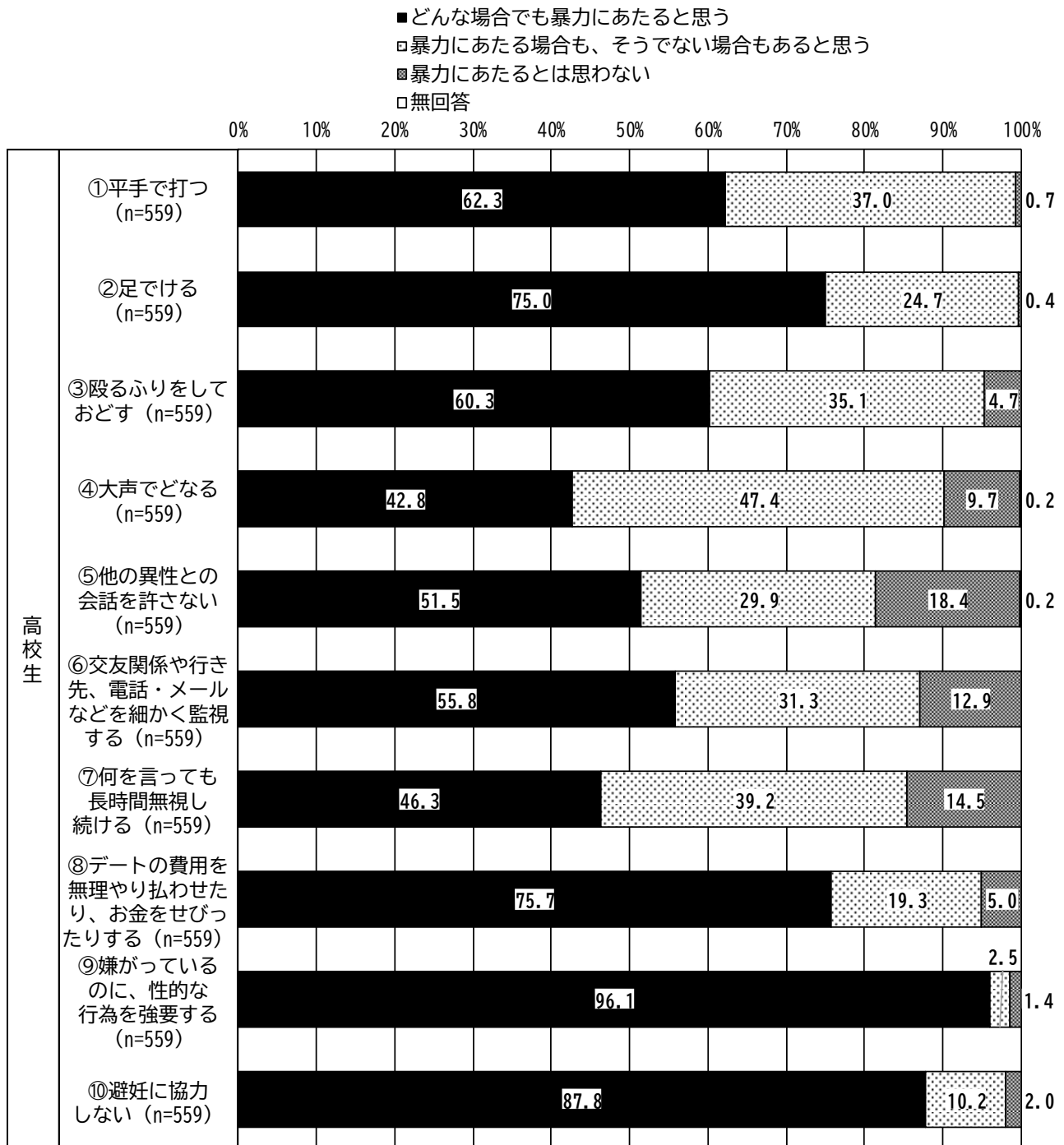
図表 195 暴力の認識 (中学生)



高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する」が96.1%と最も高く、次いで「⑩避妊に協力しない」(87.8%)となっています。一方で、「暴力にあたると思わない」をみると、「⑤他の異性との会話を許さない」が18.4%と、最も高くなっています。

図表 196 暴力の認識 (高校生)



①平手で打つ

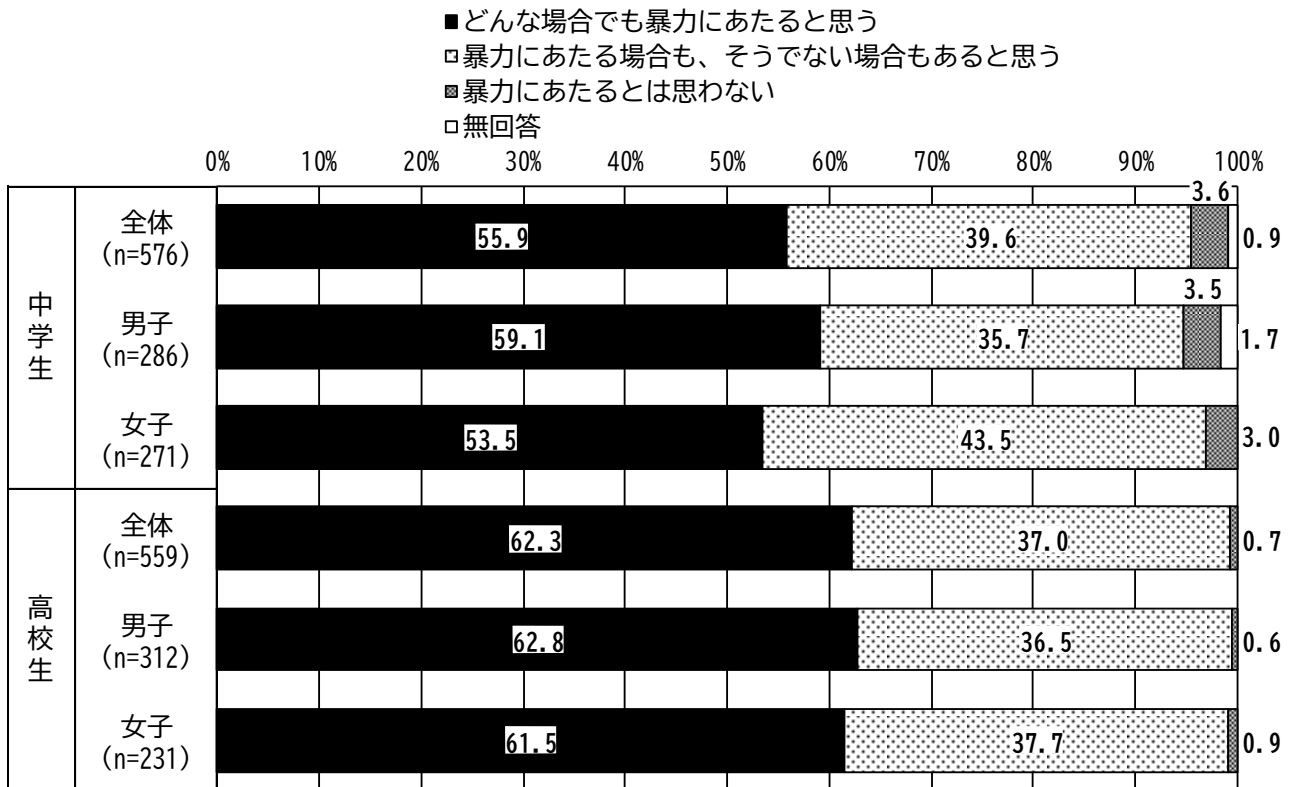
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が55.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が39.6%、「暴力にあたると思わない」が3.6%となっています。
- 性別では、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が43.5%と、男子より7.8ポイント高くなっています。一方で、男子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が59.1%と、女子より5.6ポイント高くなっています。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が62.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が37.0%、「暴力にあたると思わない」が0.7%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 197 ①平手で打つ (性別)



②足でける

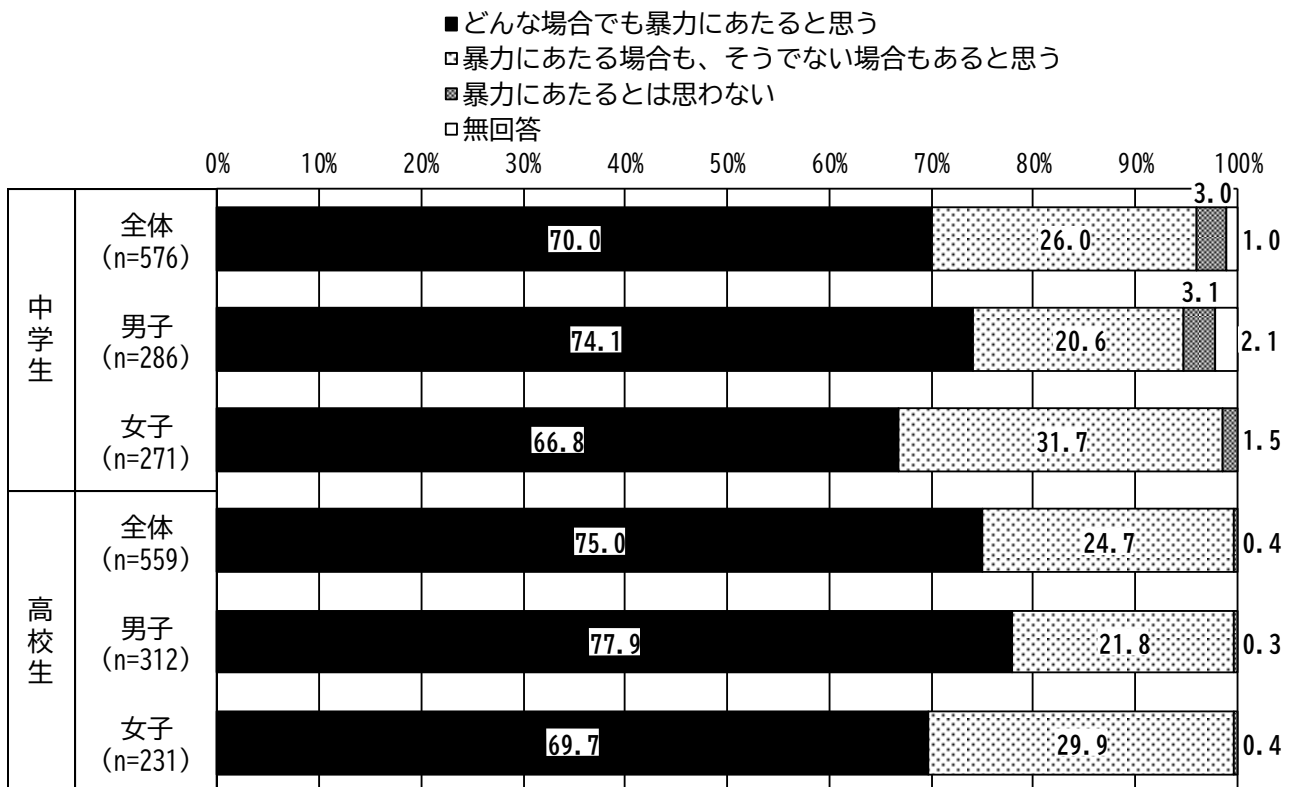
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が70.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が26.0%、「暴力にあたると思わない」が3.0%となっています。
- 性別では、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が31.7%と、男子より11.1ポイント高くなっています。一方で、男子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が74.1%と、女子より7.3ポイント高くなっています。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が75.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が24.7%、「暴力にあたると思わない」が0.4%となっています。
- 性別では、男子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が77.9%と、女子より8.2ポイント高くなっています。一方で、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が29.9%と、男子より8.1ポイント高くなっています。

図表 198 ②足でける（性別）



③殴るふりをしておどす

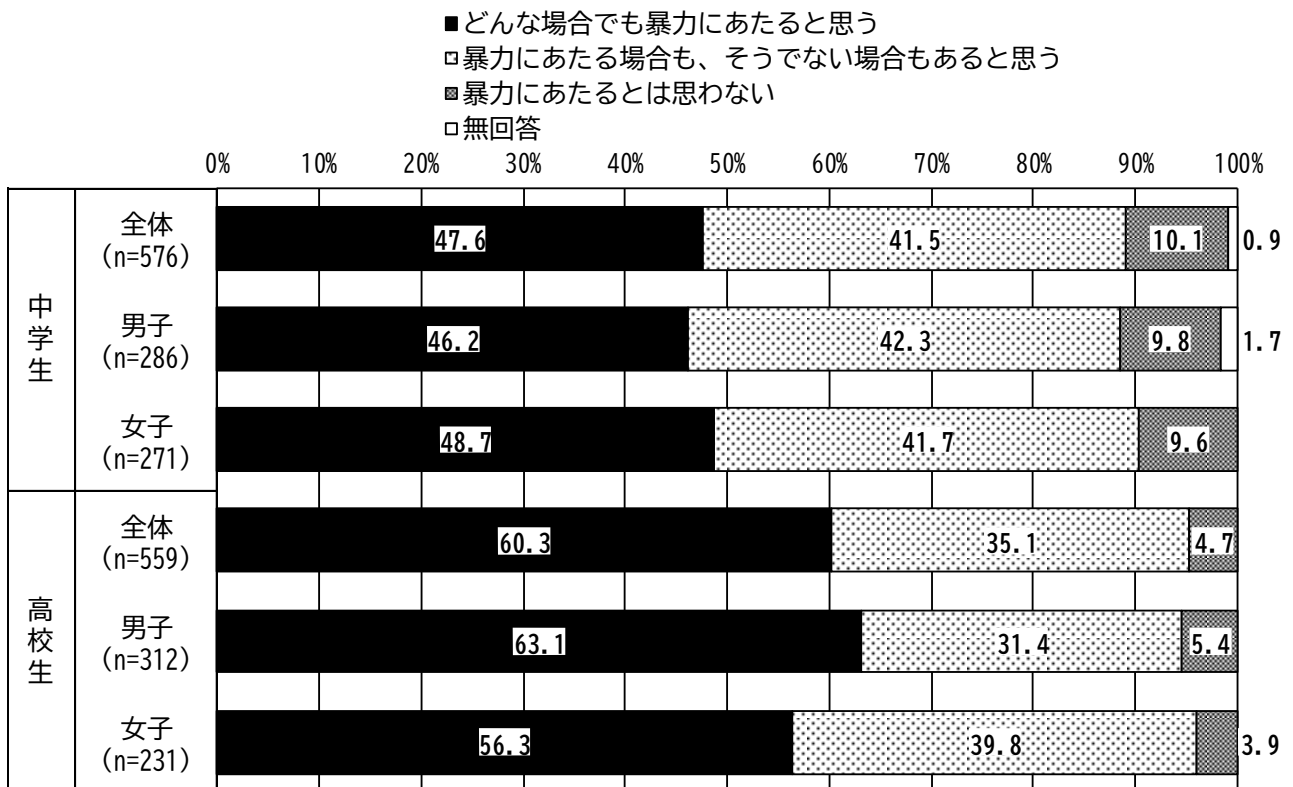
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が47.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が41.5%、「暴力にあたると思わない」が10.1%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が60.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が35.1%、「暴力にあたると思わない」が4.7%となっています。
- 性別では、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が39.8%と、男子より8.4ポイント高くなっています。一方で、男子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が63.1%と、女子より6.8ポイント高くなっています。

図表 199 ③殴るふりをしておどす（性別）



④大声でどなる

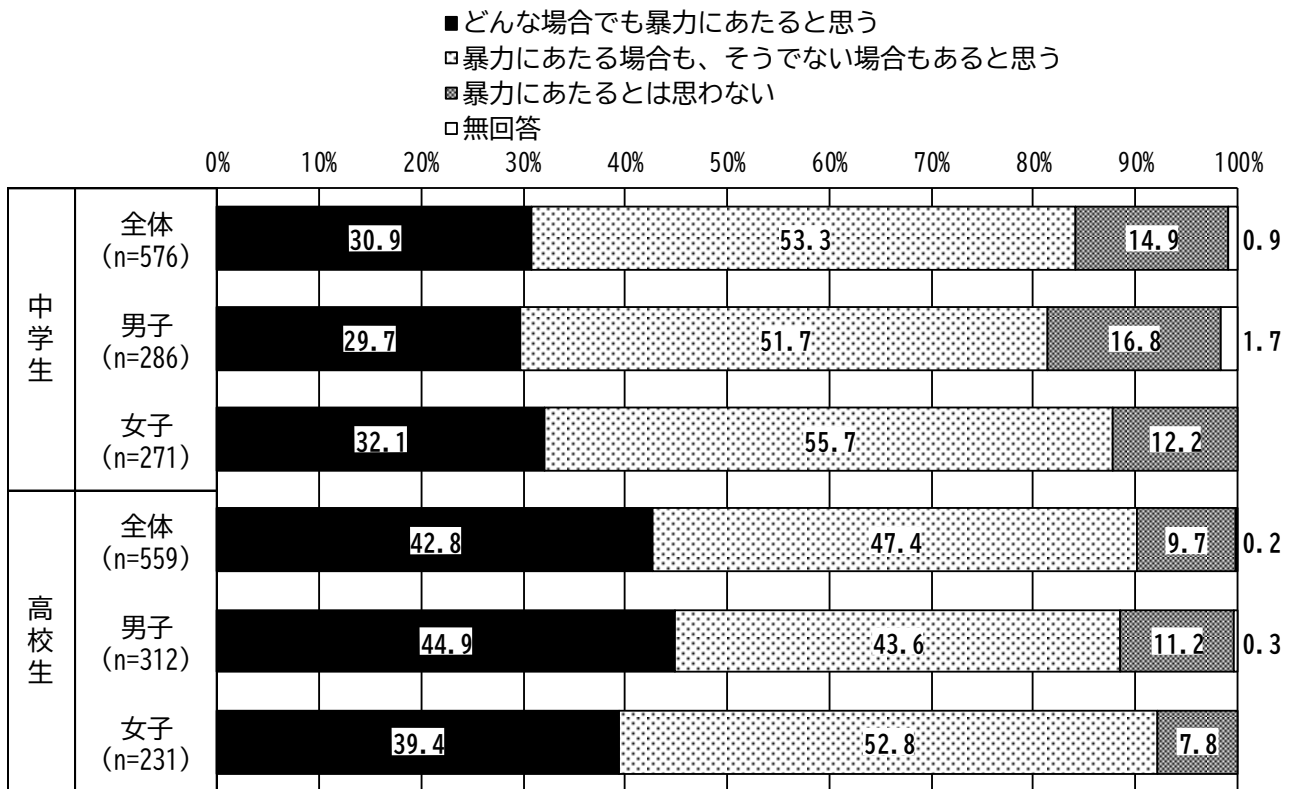
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が30.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が53.3%、「暴力にあたると思わない」が14.9%となっています。
- 性別では、男子で「暴力にあたると思わない」が16.8%と、女子より4.6ポイント高くなっています。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が42.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が47.4%、「暴力にあたると思わない」が9.7%となっています。
- 性別では、女性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が52.8%と、男子より9.2ポイント高くなっています。一方で、男子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が44.9%と、女子より5.5ポイント高くなっています。

図表 200 ④大声でどなる（性別）



⑤他の異性との会話を許さない

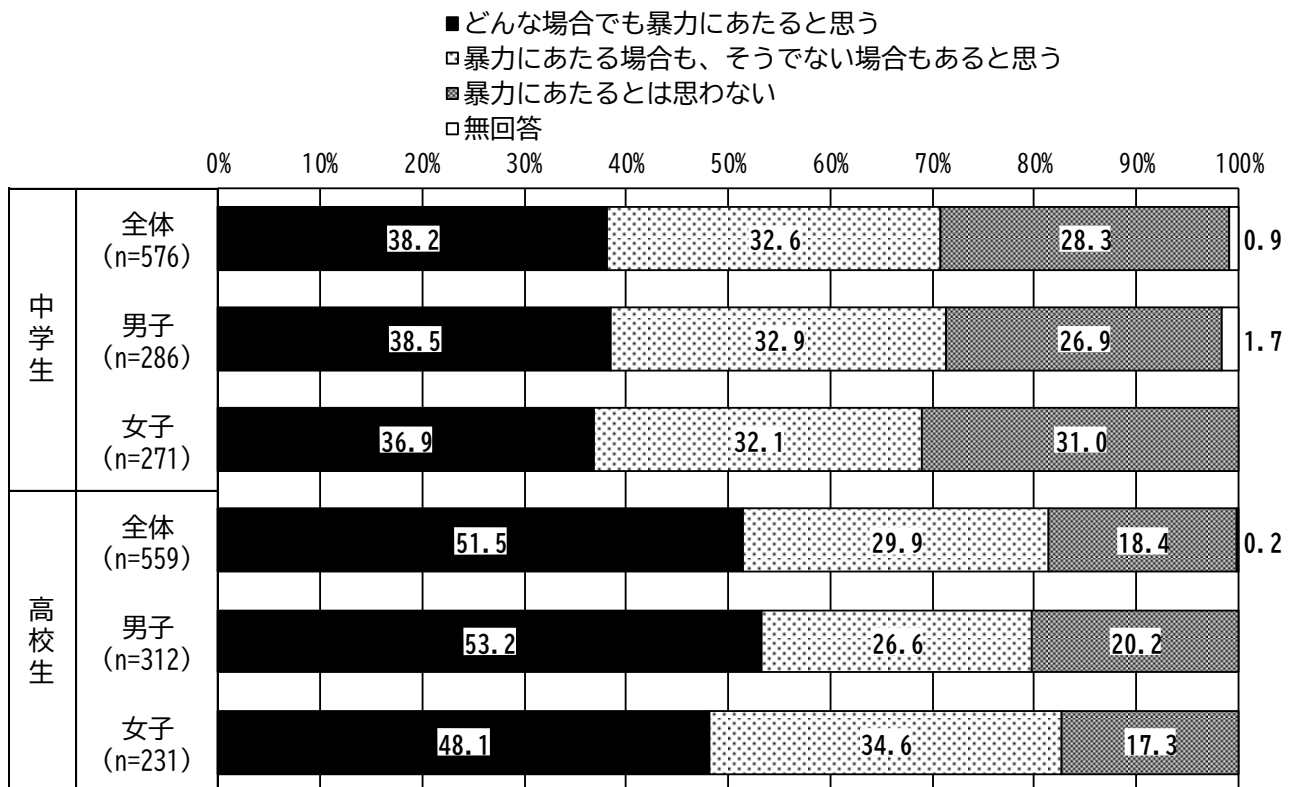
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が38.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が32.6%、「暴力にあたると思わない」が28.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が51.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が29.9%、「暴力にあたると思わない」が18.4%となっています。
- 性別では、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が34.6%と、男子より8.0ポイント高くなっています。一方で、男子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が53.2%と、女子より5.1ポイント高くなっています。

図表 201 ⑤他の異性との会話を許さない（性別）



⑥交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する

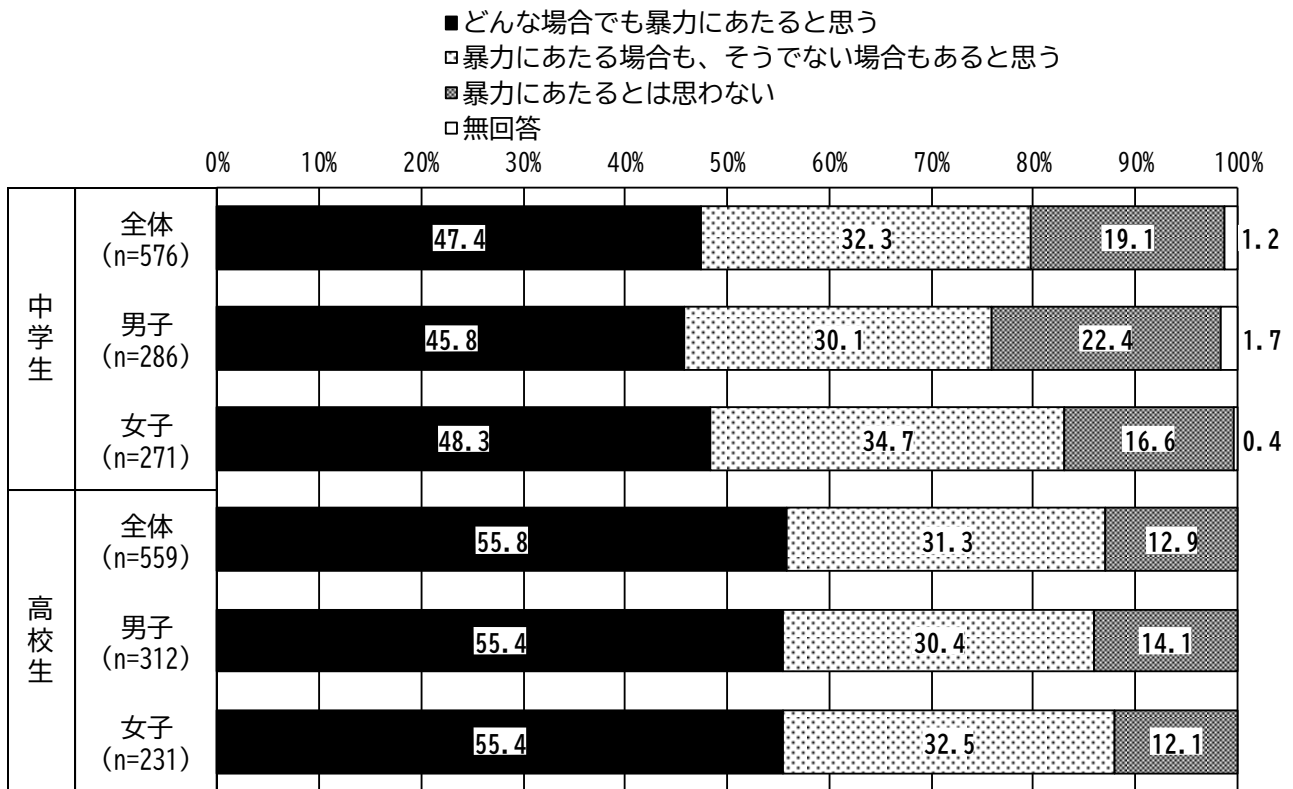
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が47.4%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が32.3%、「暴力にあたると思わない」が19.1%となっています。
- 性別は、男子で「暴力にあたると思わない」が22.4%と、女子より5.8ポイント高くなっています。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が55.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が31.3%、「暴力にあたると思わない」が12.9%となっています。
- 性別は、特に大きな差はみられません。

図表 202 ⑥交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する（性別）



⑦何を言っても長時間無視し続ける

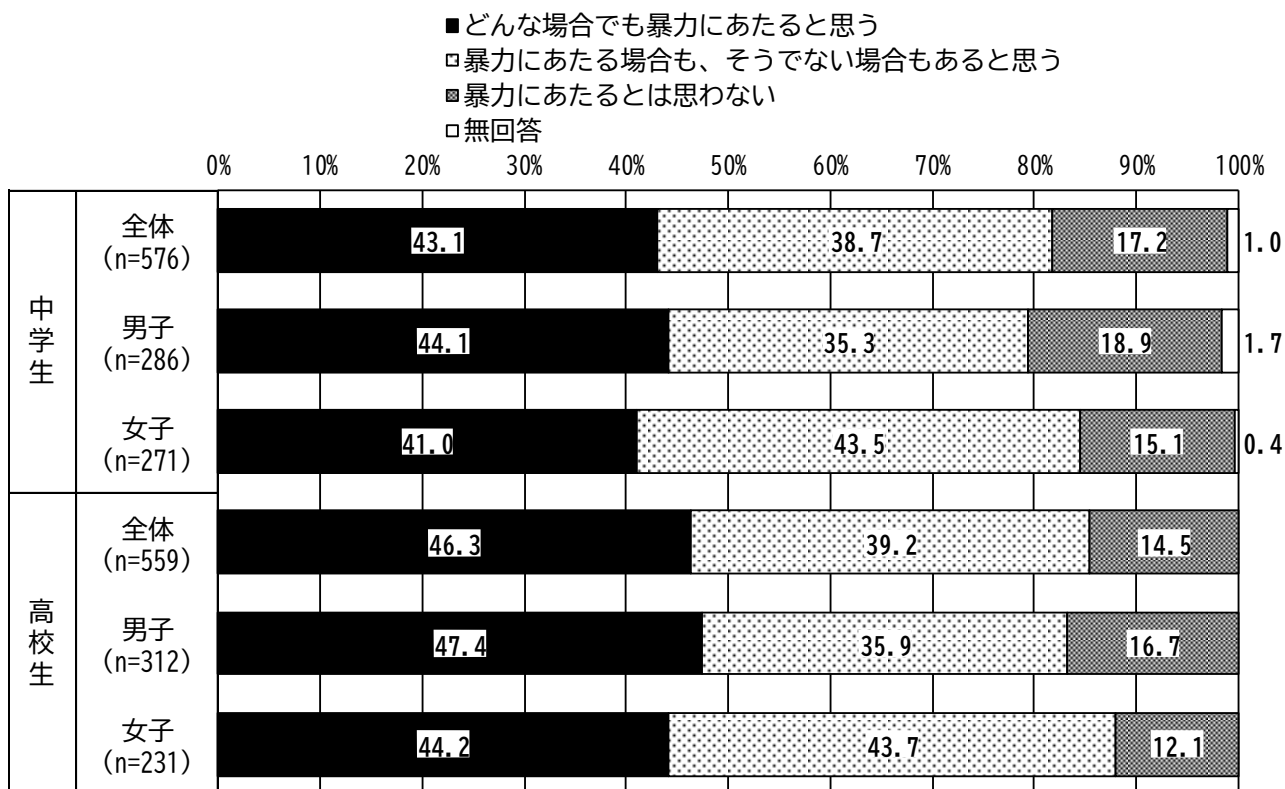
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が43.1%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が38.7%、「暴力にあたると思わない」が17.2%となっています。
- 性別は、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が43.5%と、男子より8.2ポイント高くなっています。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が46.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が39.2%、「暴力にあたると思わない」が14.5%となっています。
- 性別では、女子で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が43.7%と、男子より7.8ポイント高くなっています。

図表 203 ⑦何を言っても長時間無視し続ける（性別）



⑧デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびったりする

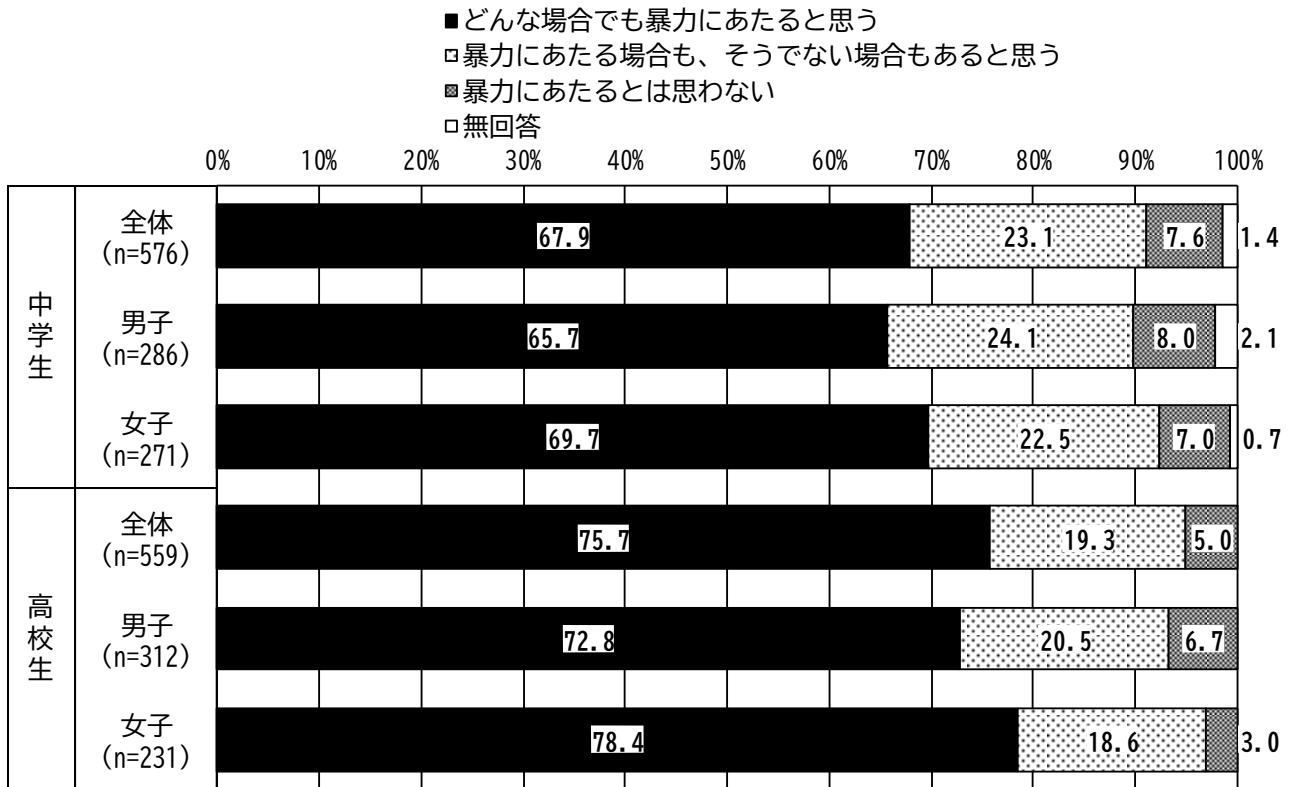
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が67.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が23.1%、「暴力にあたると思わない」が7.6%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が75.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が19.3%、「暴力にあたると思わない」が5.0%となっています。
- 性別では、女子で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が78.4%と、男子より5.6ポイント高くなっています。

図表 204 ⑧デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびったりする（性別）



⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する

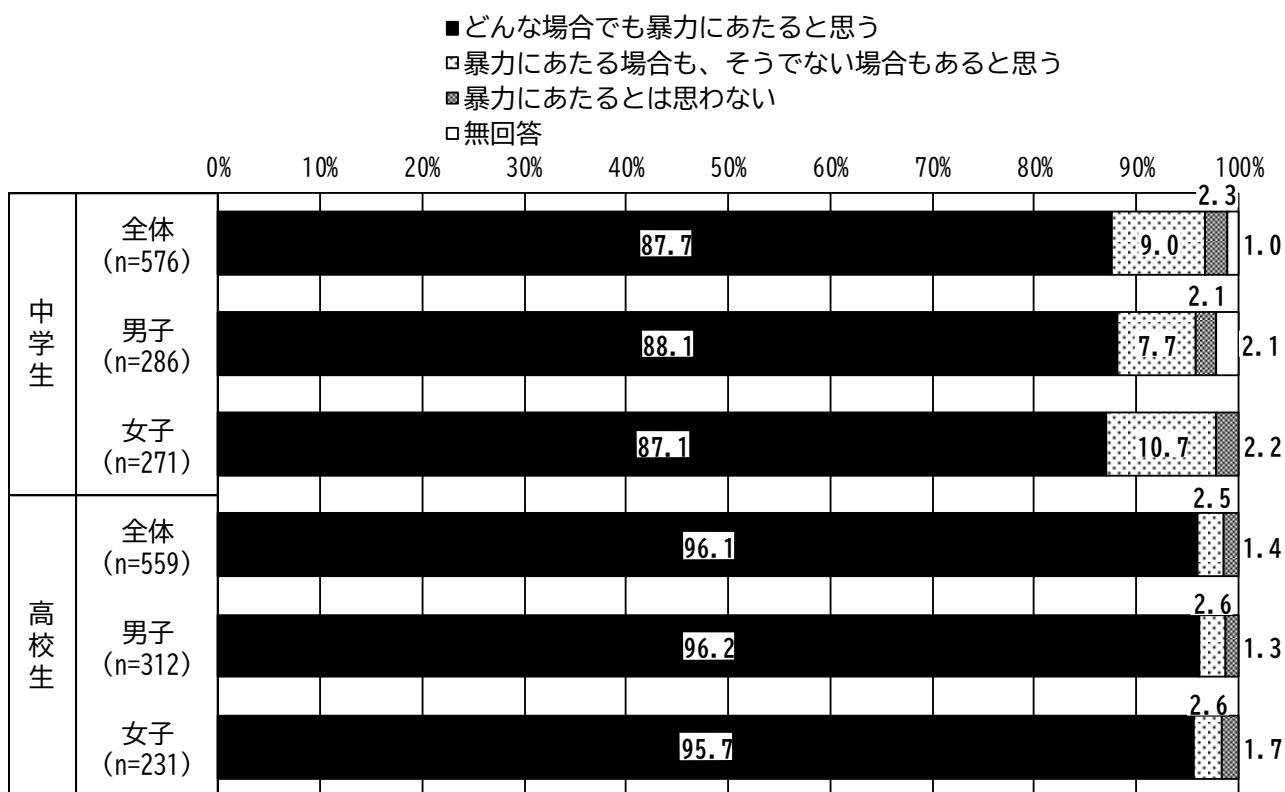
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が87.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が9.0%、「暴力にあたると思わない」が2.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が96.1%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が2.5%、「暴力にあたると思わない」が1.4%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 205 ⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する（性別）



⑩避妊に協力しない

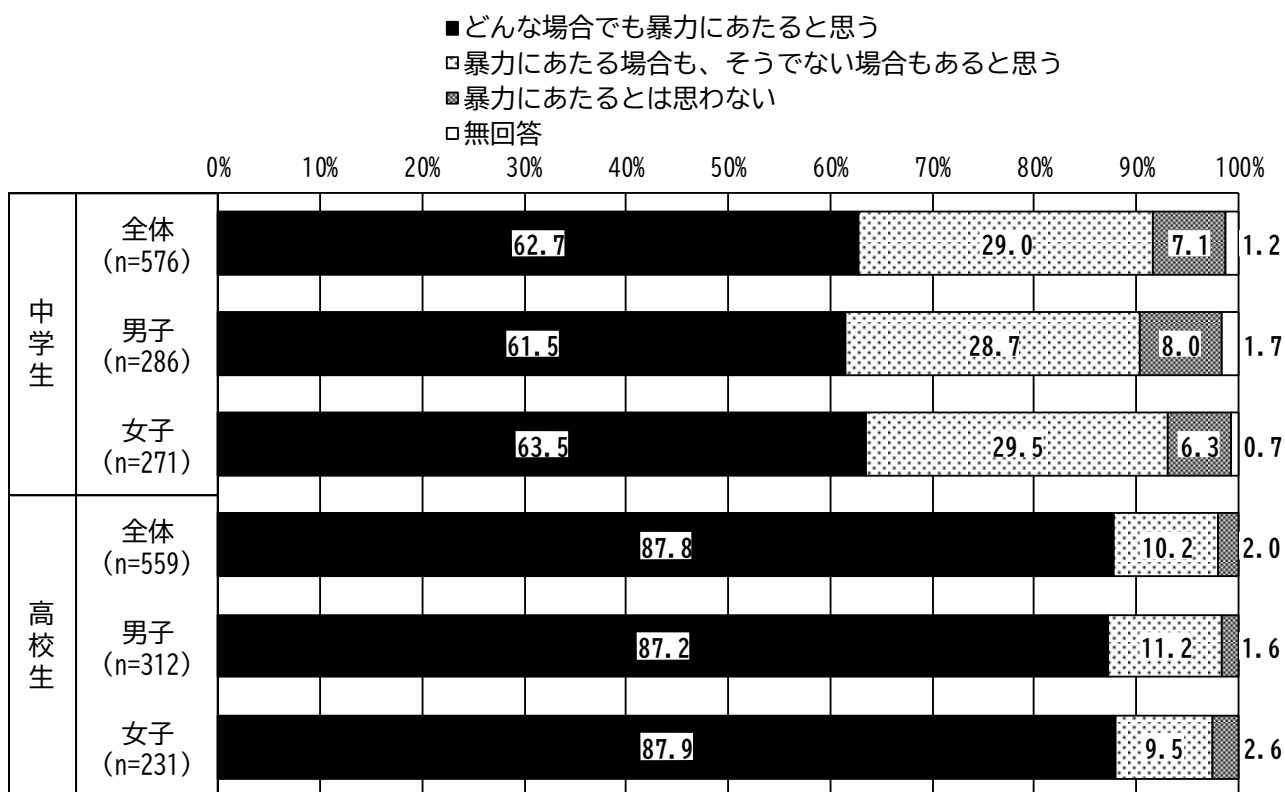
中学生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が62.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が29.0%、「暴力にあたると思わない」が7.1%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が87.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が10.2%、「暴力にあたると思わない」が2.0%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 206 ⑩避妊に協力しない（性別）



問12 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
 (①～⑤についてそれぞれ〇を1つ)

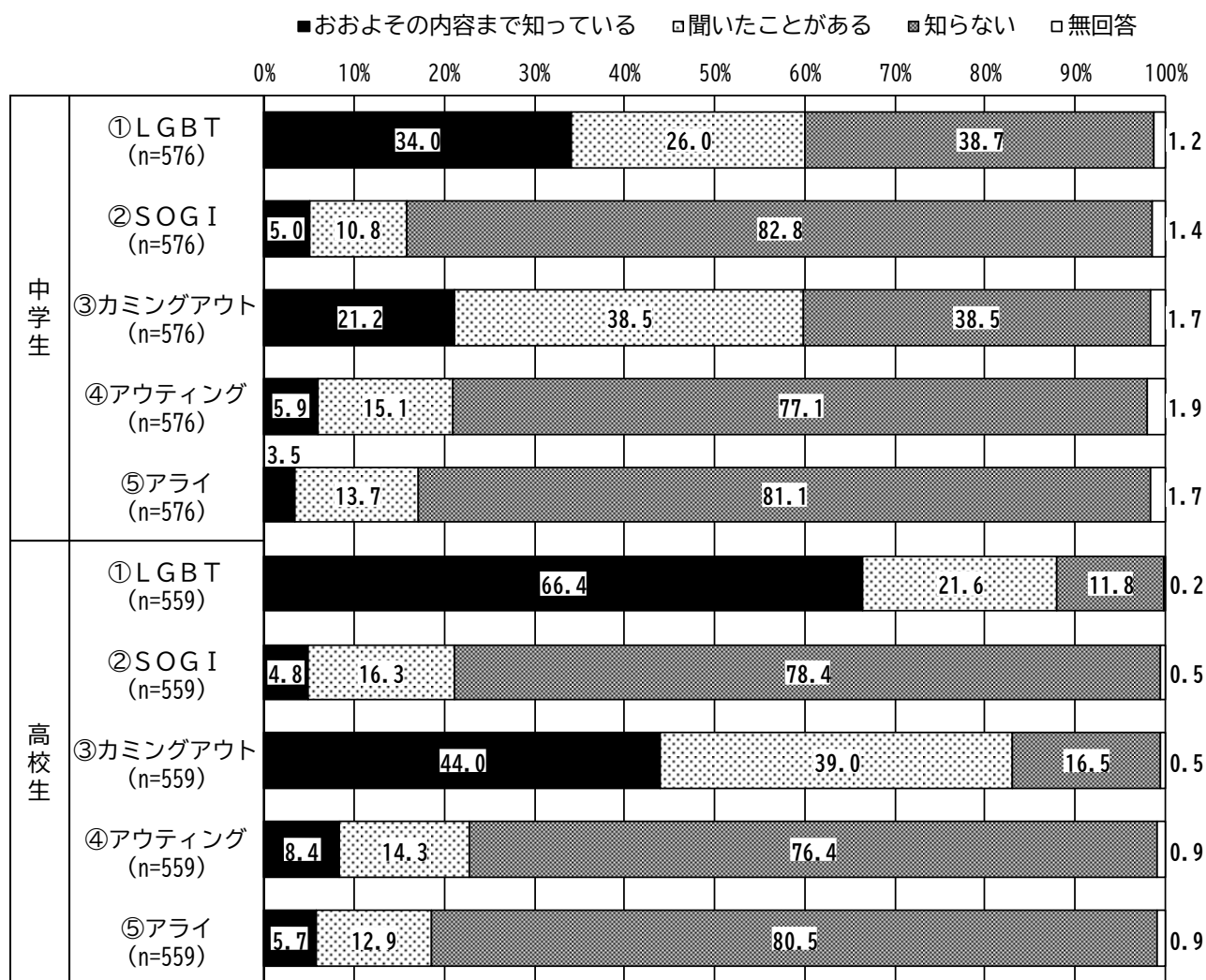
中学生

- 「おおよその内容まで知っている」をみると、「①LGBT」が34.0%と最も高く、次いで「③カミングアウト」(21.2%)となっています。一方で、「知らない」をみると、「②SOGI」と「⑤アライ」で8割以上、「④アウティング」で7割以上となっています。

高校生

- 「おおよその内容まで知っている」をみると、「①LGBT」が66.4%と最も高く、次いで「③カミングアウト」(44.0%)となっています。一方で、「知らない」をみると、「⑤アライ」が約8割、「②SOGI」と「④アウティング」が7割以上となっています。

図表 207 性的少数者に関する用語の認知度



※ ①LGBT 性的少数者の総称のひとつ。レズビアン（同性を好きになる女性）、ゲイ（同性を好きになる男性）、バイセクシュアル（両方の性を好きになる人）、トランスジェンダー（身体と心の性が異なる人）の頭文字をとった言葉

- ※ ②SOGI「性的少数者」という一部の人の話と捉えるのではなく、自分自身の性的指向（Sexual Orientation）や性自認（Gender Identity）とは何かといった、いわば血液型のように誰もが持っているもので、セクシュアリティの違いによる差別をなくそうという考え方
- ※ ③カミングアウト 本人が自分の性的指向や性自認を表明すること
- ※ ④アウティング 他者が本人の了承なく、性的指向や性自認を暴露すること
- ※ ⑤アライ 多様な性のあり方を理解し応援する人①LGBT

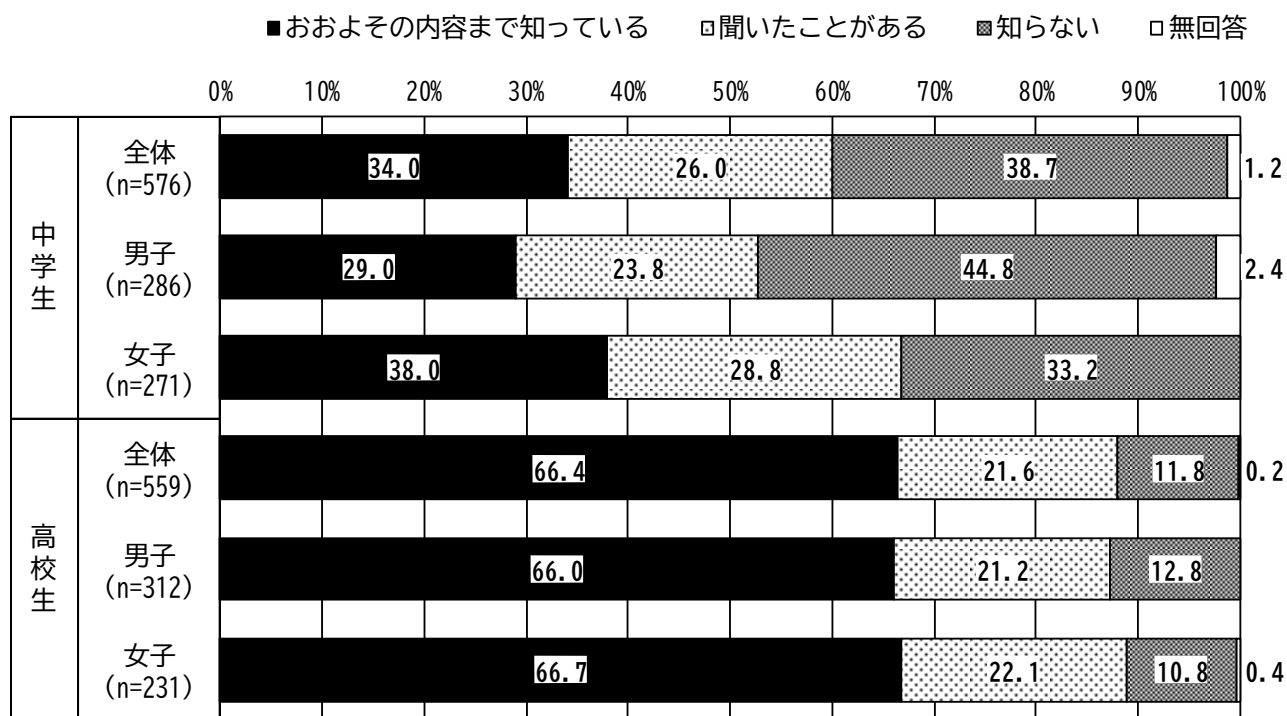
中学生

- 「おおよその内容まで知っている」が34.0%、「聞いたことがある」が26.0%、「知らない」が38.7%となっています。
- 性別では、男子で「知らない」が44.8%と、女子より11.6ポイント高くなっています。一方で、女子で「おおよその内容まで知っている」が9.0ポイント、「聞いたことがある」が5.0ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

高校生

- 「おおよその内容まで知っている」が66.4%、「聞いたことがある」が21.6%、「知らない」が11.8%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 208 ①LGBT（性別）



②SOG I

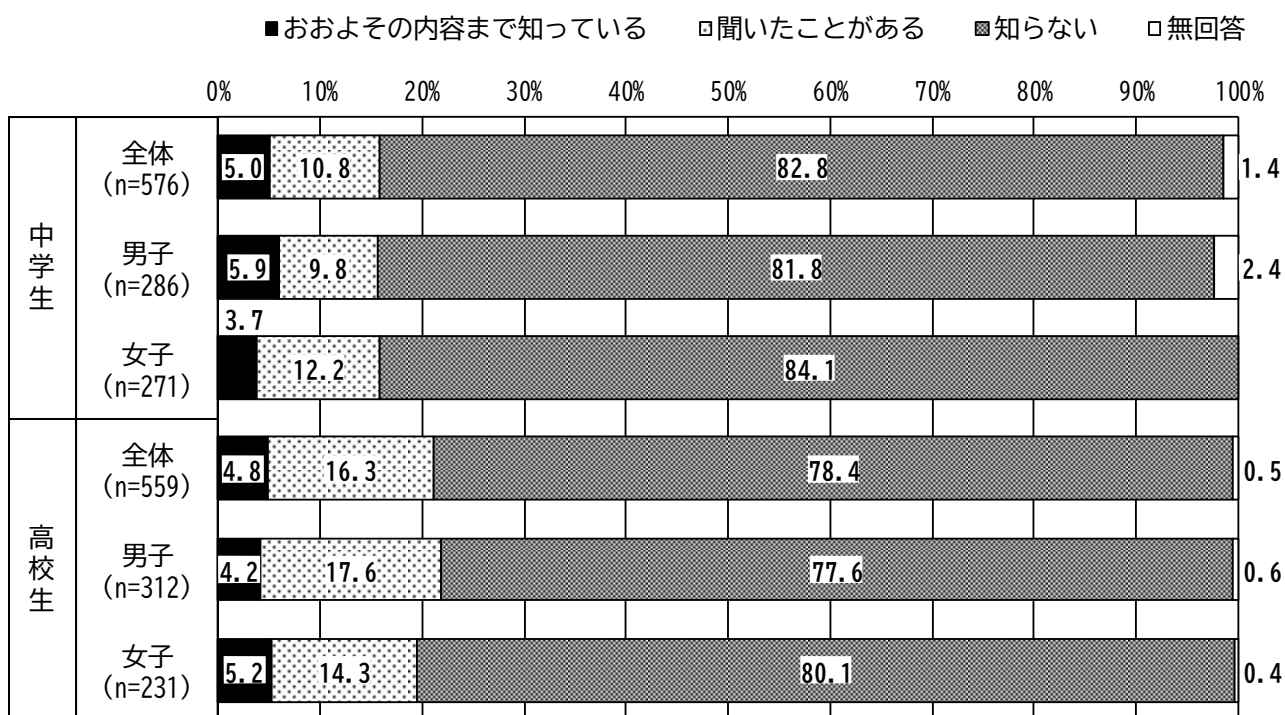
中学生

- 「おおよその内容まで知っている」が5.0%、「聞いたことがある」が10.8%、「知らない」が82.8%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「おおよその内容まで知っている」が4.8%、「聞いたことがある」が16.3%、「知らない」が78.4%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 209 ②SOG I (性別)



③カミングアウト

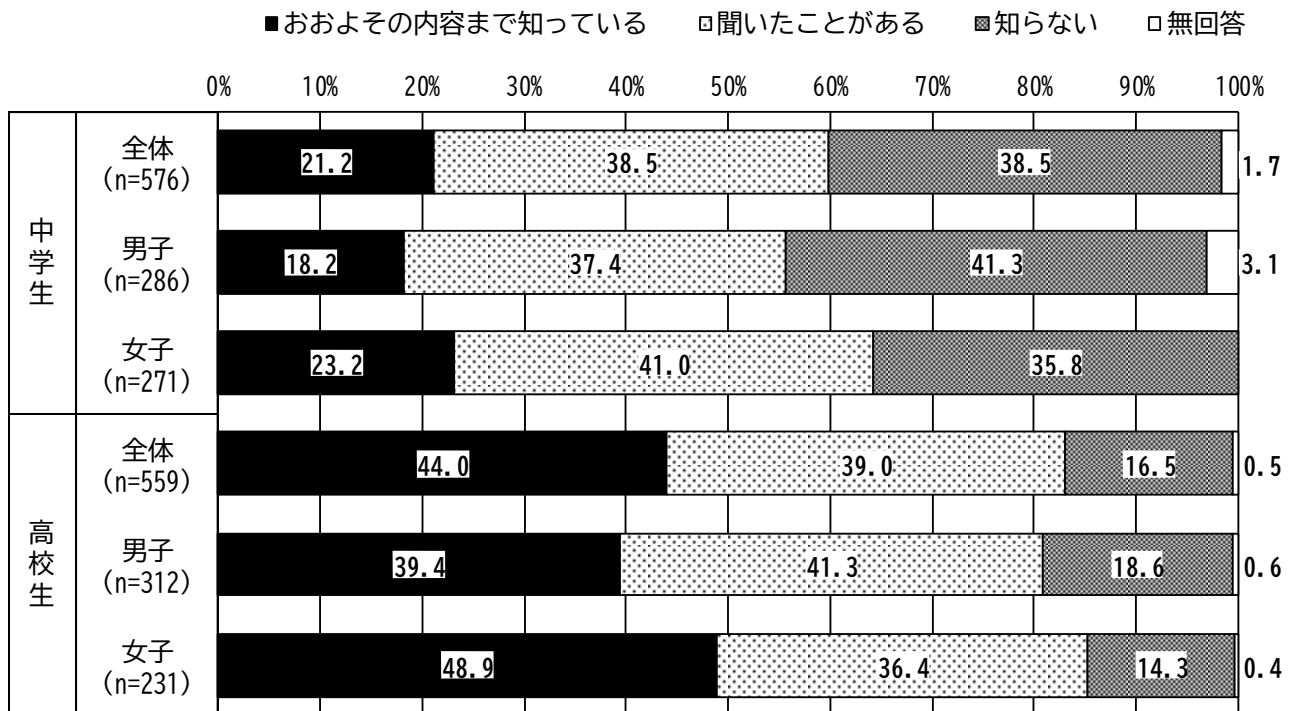
中学生

- 「おおよその内容まで知っている」が21.2%、「聞いたことがある」が38.5%、「知らない」が38.5%となっています。
- 性別では、男子で「知らない」が41.3%と、女子より5.5ポイント高くなっています。一方で、女子で「おおよその内容まで知っている」が23.2%と、男子より5.0ポイント高くなっています。

高校生

- 「おおよその内容まで知っている」が44.0%、「聞いたことがある」が39.0%、「知らない」が16.5%となっています。
- 性別では、女子で「おおよその内容まで知っている」が48.9%と、男子より9.5ポイント高くなっています。

図表 210 ③カミングアウト（性別）



④アウティング

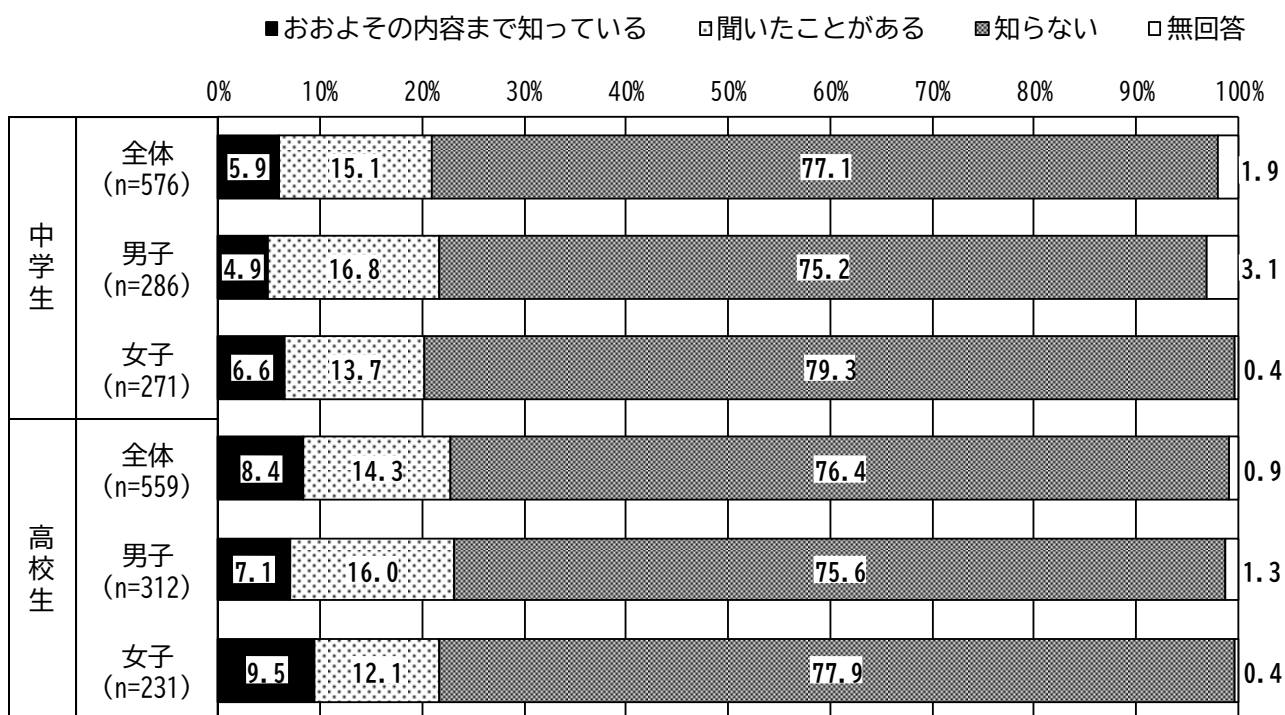
中学生

- 「おおよその内容まで知っている」が5.9%、「聞いたことがある」が15.1%、「知らない」が77.1%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「おおよその内容まで知っている」が8.4%、「聞いたことがある」が14.3%、「知らない」が76.4%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 211 ④アウティング（性別）



⑤アライ

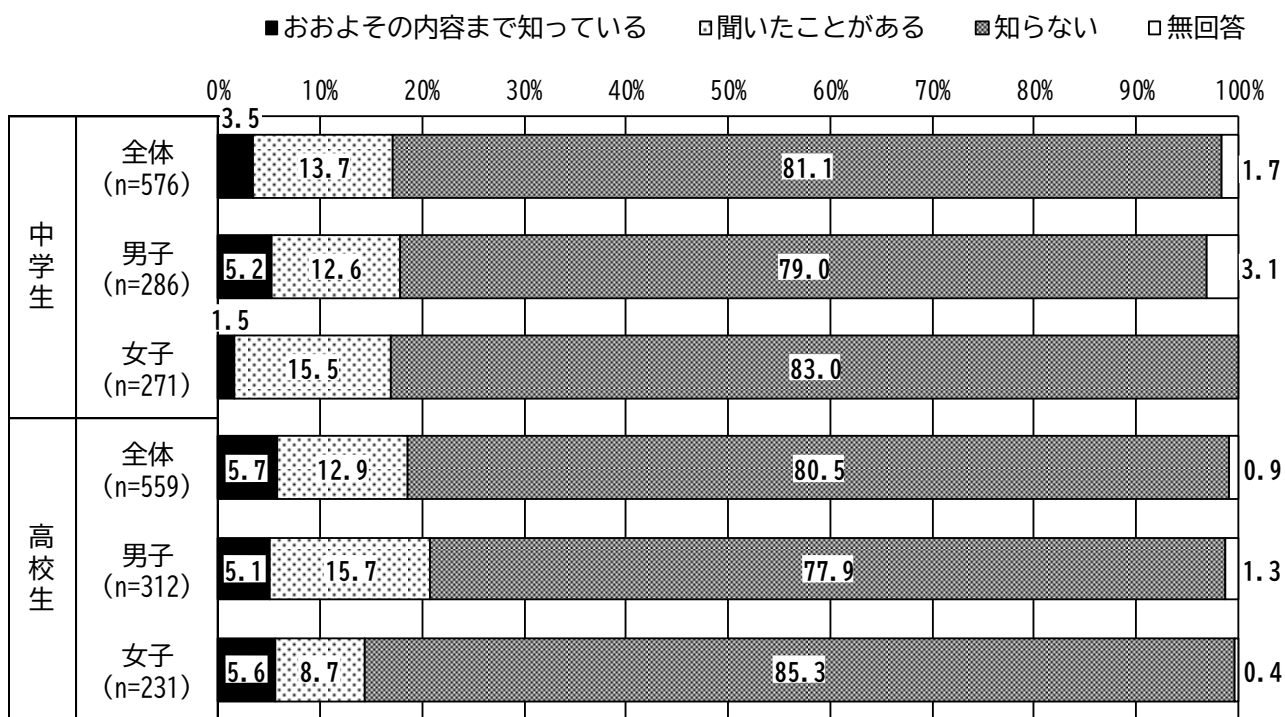
中学生

- 「おおよその内容まで知っている」が3.5%、「聞いたことがある」が13.7%、「知らない」が81.1%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生

- 「おおよその内容まで知っている」が5.7%、「聞いたことがある」が12.9%、「知らない」が80.5%となっています。
- 性別では、女子で「知らない」が85.3%と、男子より7.4ポイント高くなっています。一方で、男子で「聞いたことがある」が15.7%と、女子より7.0ポイント高くなっています。

図表 212 ⑤アライ（性別）



問 13 あなたが最近、性的少数者(LGBT)に関して情報を見聞きしたのはどこですか。
(あてはまるものすべてに○)

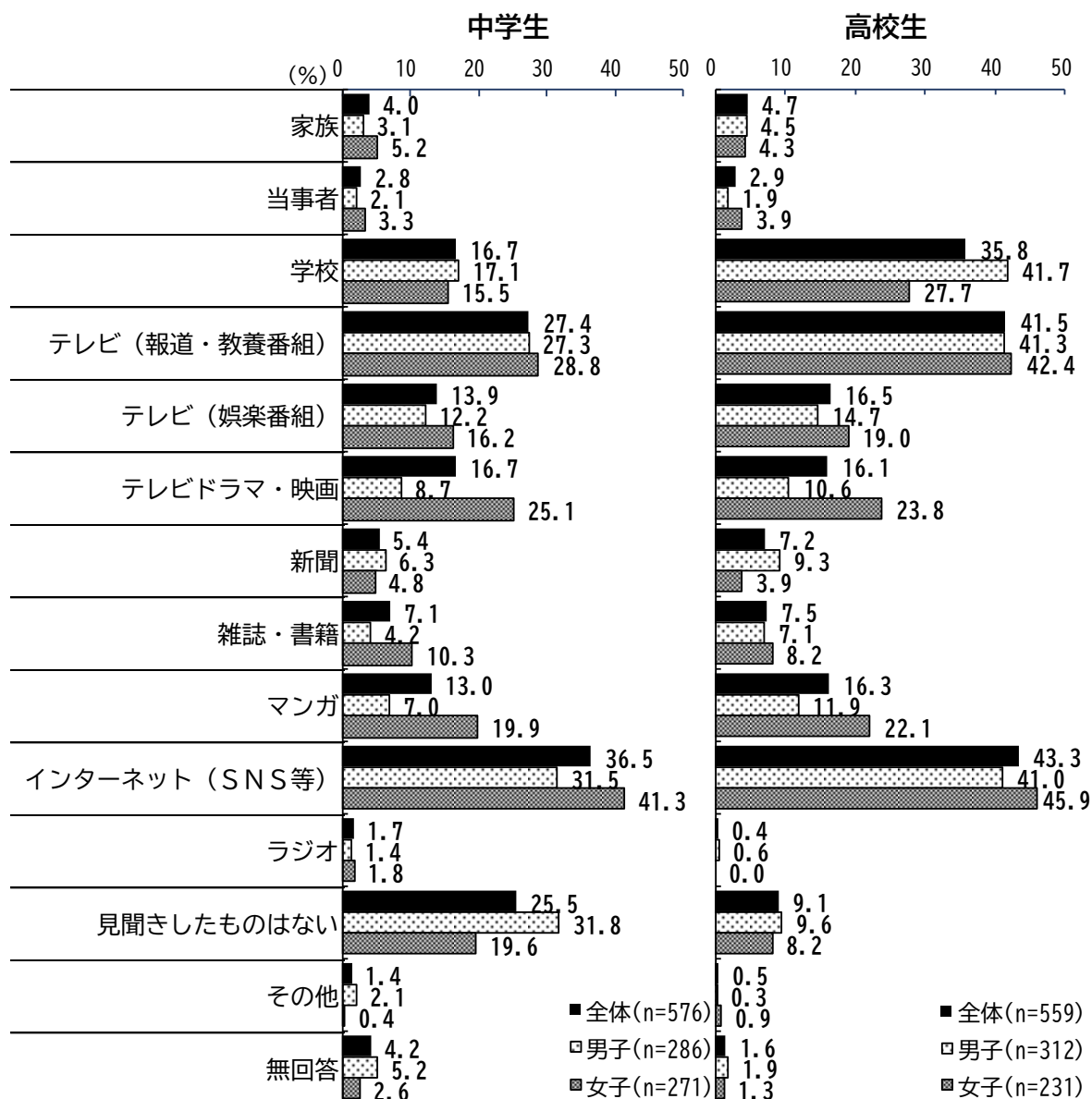
中学生

- 「インターネット (SNS等)」が36.5%と最も高く、次いで「テレビ (報道・教養番組)」(27.4%)、「見聞きしたものはなし」(25.5%)となっています。
- 性別では、女子で「テレビドラマ・映画」が16.4ポイント、「マンガ」が12.9ポイント、「インターネット (SNS等)」が9.8ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「見聞きしたものはなし」が31.8%と、女子より12.2ポイント高くなっています。

高校生

- 「インターネット (SNS等)」が43.3%と最も高く、次いで「テレビ (報道・教養番組)」(41.5%)、「学校」(35.8%)となっています。
- 性別では、男子で「学校」が41.7%と、女子より14.0ポイント高くなっています。一方で、女子で「テレビドラマ・映画」が13.2ポイント、「マンガ」が10.2ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 213 性的少数者に関する情報を見聞きした場 (性別)



問 14 あなたは、身近な人（家族、友人等）から性的少数者（LGBT）であることを打ち明けられたらどうしますか。（○は1つ）

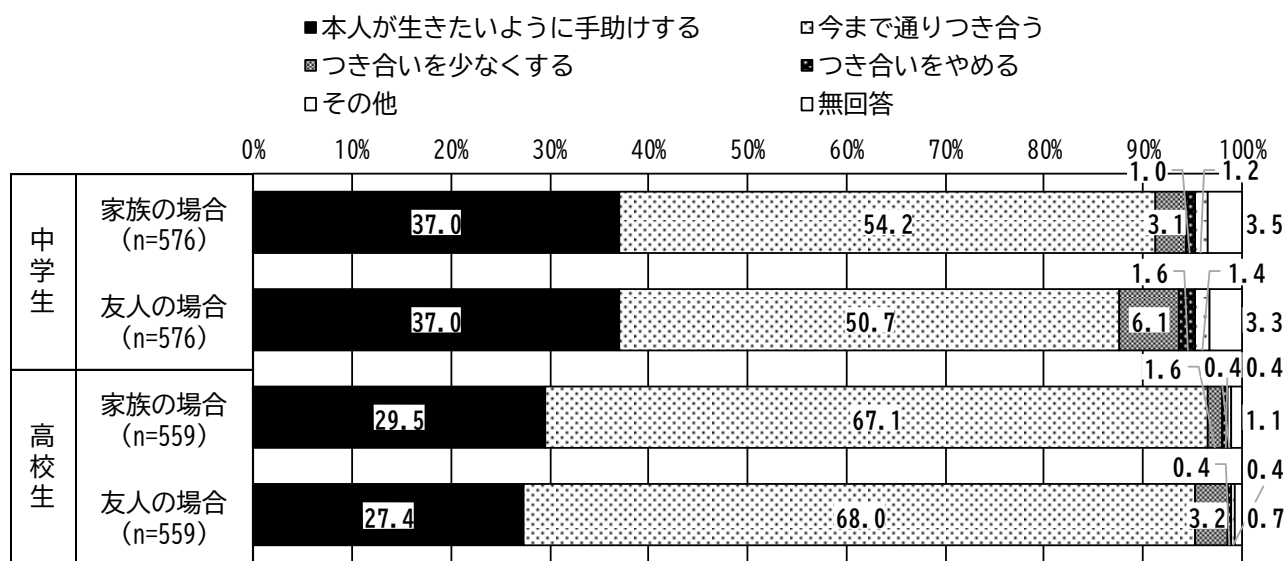
中学生

- 「家族の場合」「友人の場合」ともに、「今まで通りつき合う」が5割以上と最も高く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が3割以上となっています。

高校生

- 「家族の場合」「友人の場合」ともに、「今まで通りつき合う」が6割以上と最も高く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が2割以上となっています。

図表 214 身近な人からカミングアウトされた際の対応



家族の場合

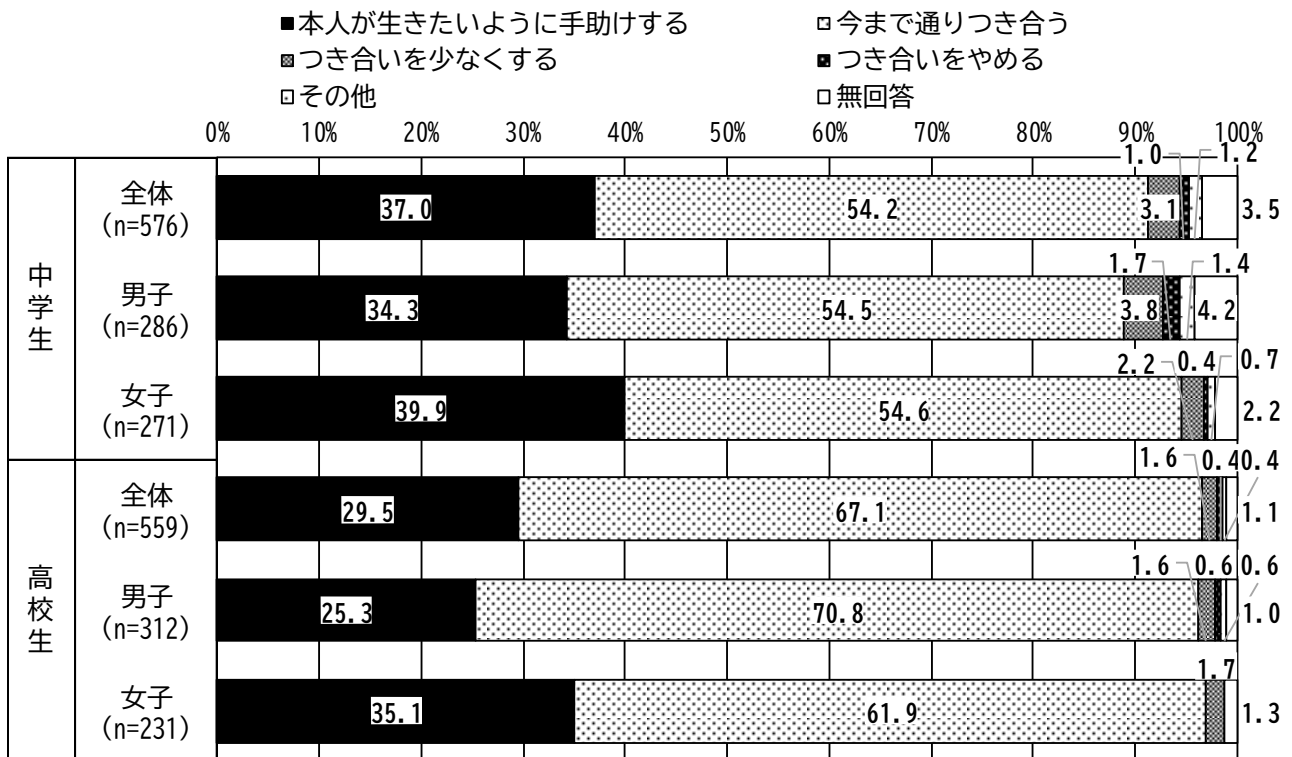
中学生

- 「今まで通りつき合う」が 54.2%と最も高く、次いで「本人が生きたいように手助けする」(37.0%)となっています。
- 性別では、女子で「本人が生きたいように手助けする」が 39.9%と、男子より 5.6 ポイント高くなっています。

高校生

- 「今まで通りつき合う」が 67.1%と最も高く、次いで「本人が行きたいように手助けする」(29.5%)となっています。
- 性別では、女子で「本人が生きたいように手助けする」が 35.1%と、男子より 9.8 ポイント高くなっています。一方で、男子で「今まで通りつき合う」が 70.8%と、女子より 8.9 ポイント高くなっています。

図表 215 家族の場合 (性別)



友人の場合

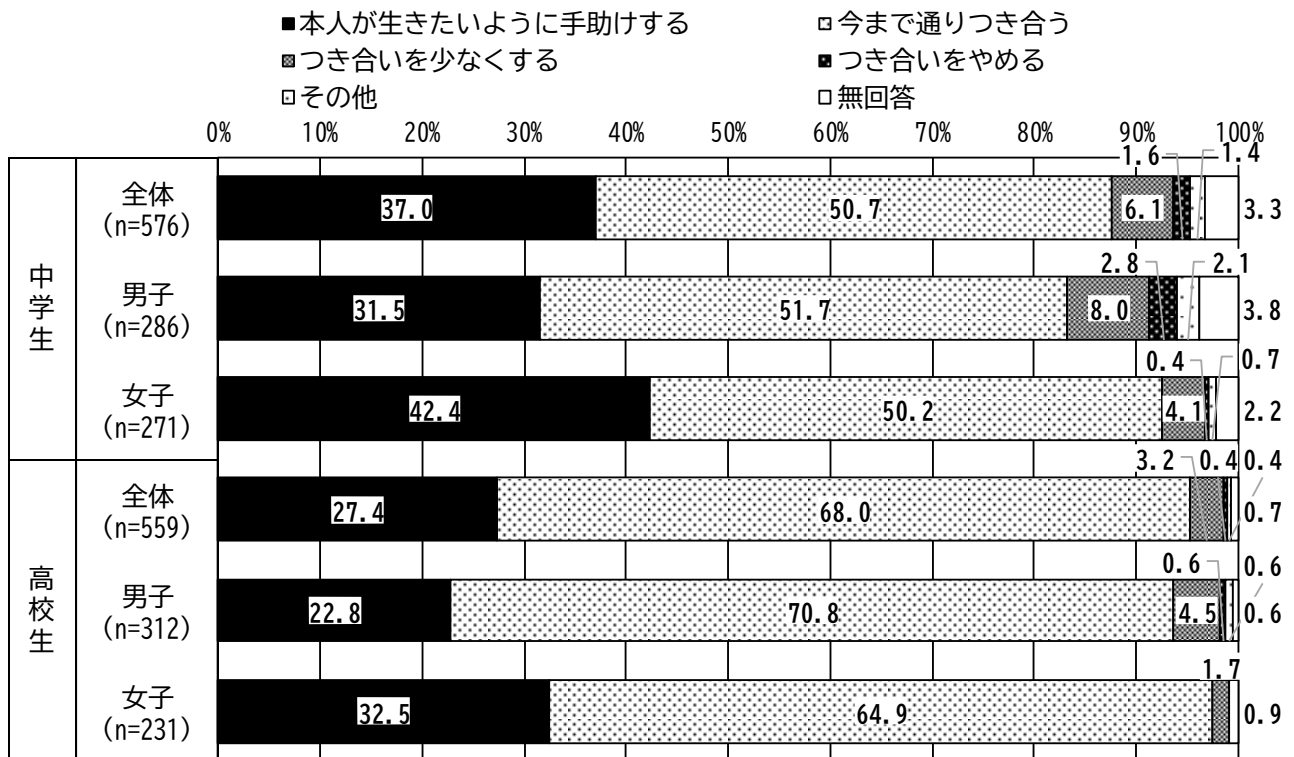
中学生

- 「今まで通りつき合う」が 50.7%と最も高く、次いで「本人が生きたいように手助けする」(37.0%)となっています。
- 性別では、女子で「本人が生きたいように手助けする」が42.4%と、男子より10.9ポイント高くなっています。

高校生

- 「今まで通りつき合う」が 68.0%と最も高く、次いで「本人が生きたいように手助けする」(27.4%)となっています。
- 性別では、女子で「本人が行きたいように手助けする」が32.5%と、男子より9.7ポイント高くなっています。一方で、男子で「今まで通りつき合う」が70.8%と、女子より5.9ポイント高くなっています。

図表 216 友人の場合（性別）



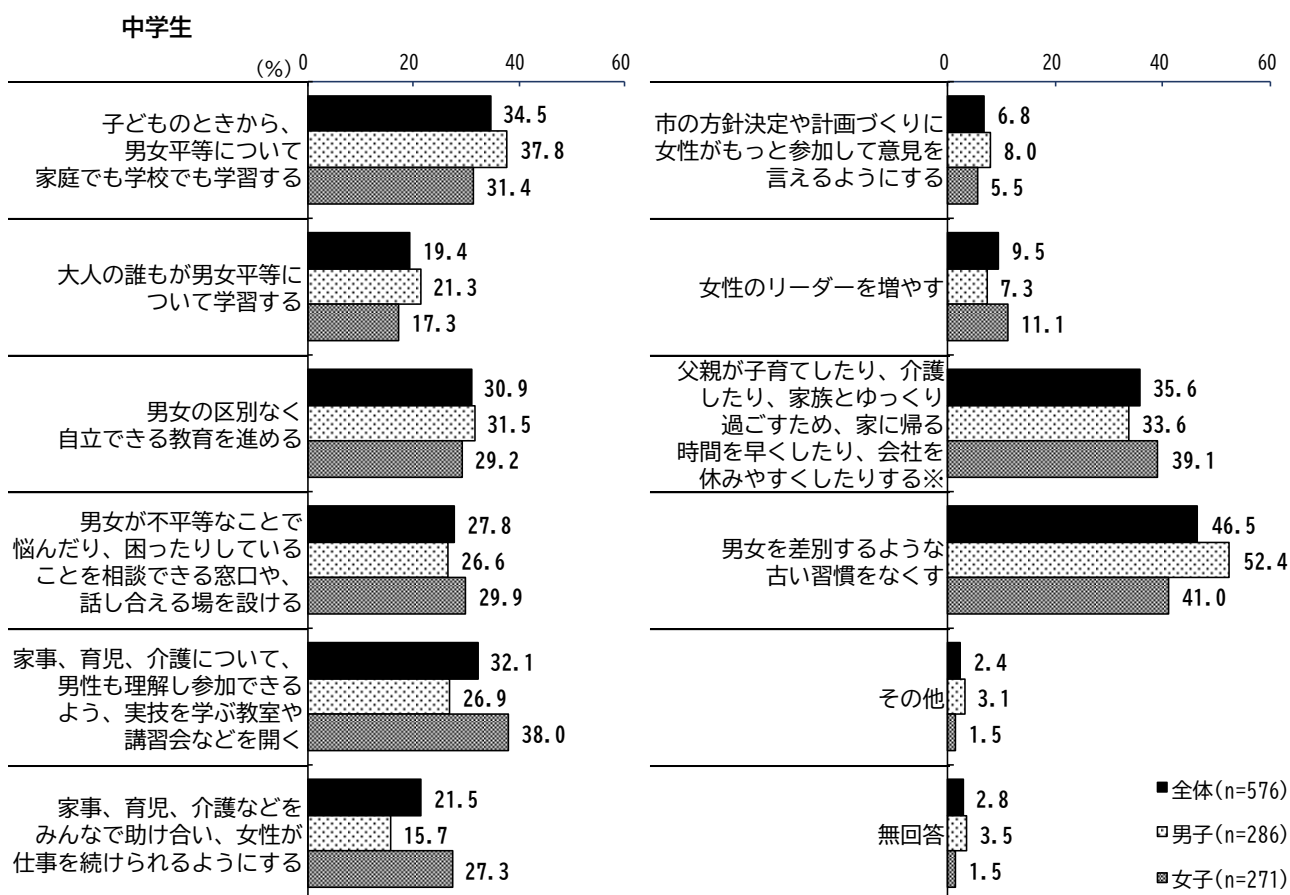
(7) 春日井市の男女共同参画の取り組みについて

問 15 男女共同参画社会を形成していくため、これから、春日井市はどのようなことに力を入れて取り組むといいと思いますか。（〇は3つまで）

中学生

- 「男女を差別するような古い習慣をなくす」が46.5%と最も高く、次いで「父親が子育てしたり、介護したり、家族とゆっくり過ごすため、家に帰る時間を早くしたり、会社を休みやすくしたりする」(35.6%)、「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」(34.5%)となっています。
- 性別では、女子で「家事、育児、介護などをみんなで助け合い、女性が仕事を続けられるようにする」が11.6ポイント、「家事、育児、介護について、男性も理解し参加できるように、実技を学ぶ教室や講習会などを開く」が11.1ポイント、それぞれ男子より10ポイント以上高くなっています。一方で、男子で「男女を差別するような古い習慣をなくす」が52.4%と、女子より11.4ポイント高くなっています。

図表 217 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（中学生）（性別）

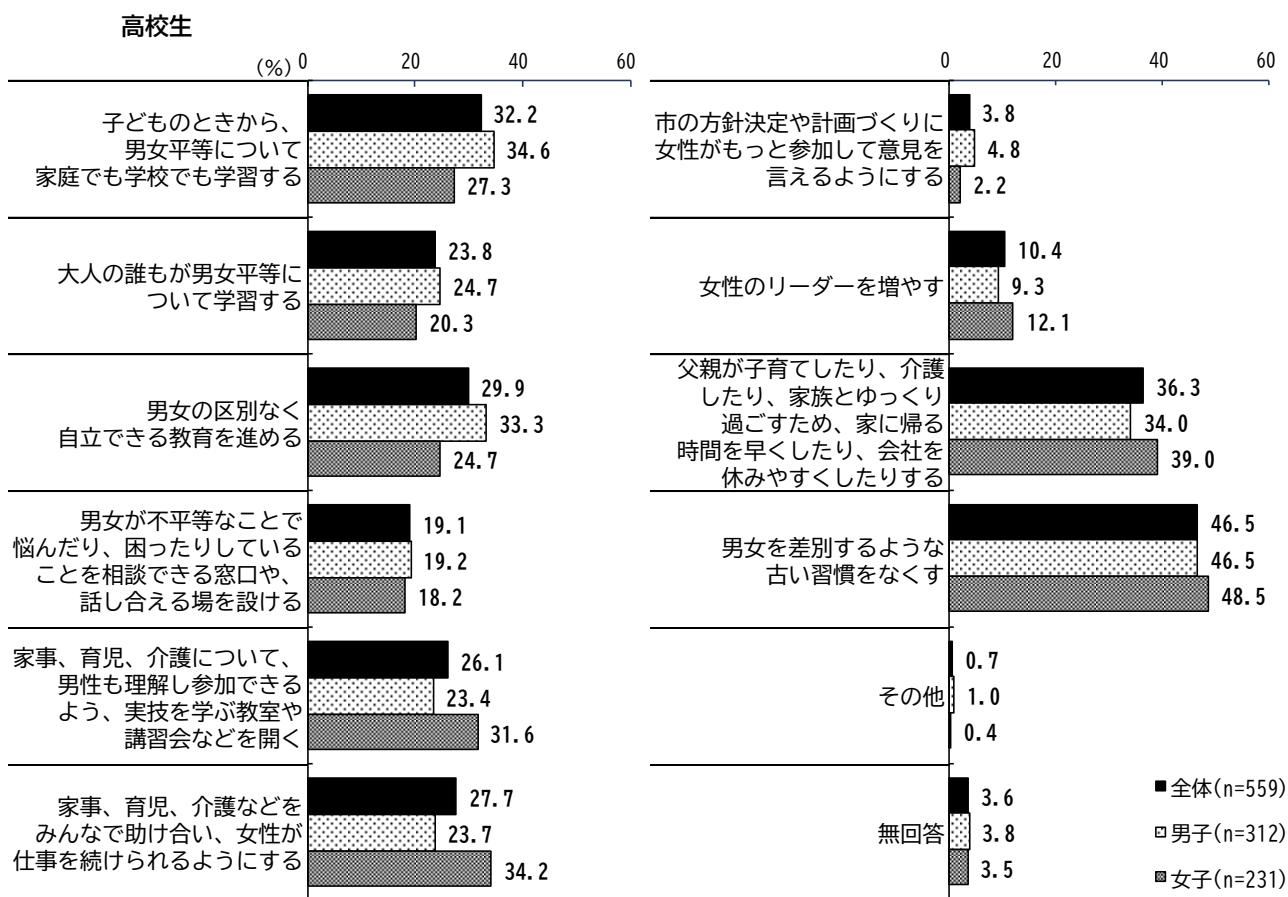


※「企業が男女共同参画のことを理解し、父親が子育てしたり、介護したり、家族とゆっくり過ごすため、家に帰る時間を早くしたり、会社を休みやすくしたりする」

高校生

- 「男女を差別するような古い習慣をなくす」が46.5%と最も高く、次いで「父親が子育てしたり、介護したり、家族とゆっくり過ごすため、家に帰る時間を早くしたり、会社を休みやすくしたりする」(36.3%)、「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」(32.2%)となっています。
- 性別では、女子で「家事、育児、介護などをみんなで助け合い、女性が仕事を続けられるようにする」が10.5ポイント、「家事、育児、介護について、男性も理解し参加できるように、実技を学ぶ教室や講習会などを開く」が8.2ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「男女の区別なく自立できる教育を進める」が8.6ポイント、「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」が7.3ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

図表 218 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（高校生）（性別）



問 16 男女共同参画に関連して、あなたの身近なこと、将来のことなど自由に書いてください。

高校生

■ 意識・心がけについて

男女の差別がなくなることはないと思うけど、自分にできることはしていきたいです。
自分は仕事だけをするのではなく、しっかりと家事を手伝い、相手の負担を少しでも減らしていけるようにする。
将来結婚し家庭を持つことになったら、自分でできる家事や育児には積極的に行い、パートナーを少しでも手助けできるようになりたいから、ためになりそうなイベントや講習会は積極的に参加する。
どこからが差別でどこまでが区別なのかは女性になってみないと男性の私にはわからないけど細心の注意は払おうと思う。
男女が暮らしやすいように差別などなくしていければいいと思います。
今の世の中は男性が優位であると思える風習があるのでなくしていきたい。
男女についての古い習慣をなくすことは大変だけど、なくそうと思う人が少しずつでも増えていけば、次の世代へとその意識が受け継がれていくと思う。
まだ日本の社会は男女差別が多いと考えています。しかも今の 40 代以上の人たちの考え方は根付いているから変えづらいと思います。しかし若い人たち、特に僕たちの年代は、昔のような固い考え方ではなく、新しい考え方で、世の中の考え方を変えていけるのではと考えています。今の高校、大学生が将来大人になって、新しい考え方の社会を作っていけば、今のような差別は多少なくせるのではと考えています。見るべきなのは今ではなく未来だと考えました。
男女を完全に平等に扱うのは、不可能だと自分は思う。どちらかが過保護になり、そうなれば反対側が差別だと言い出し、結局何も変わらないと思う。性別が違うというだけでも、考え方も価値観も違うのだし、無理に手を取り合えと言っても逆効果だと思う。気の合わない相手と無理につき合う必要はなく、お互いの違いを認め合い、尊重し、適切な距離をとればいいと自分は思う。
社会が変わらなくても自分だけは平等である意識を持って生活していくことが大切だと思いました。今後生活していくうえで「これだから男性は…」などというどっちかを下げてどっちかを持ち上げるような言い方をしないようにしようと思いました。
私はあまり男女差別について今まで感じたことがありませんでした。でも今現在、国や世界でよくない方向にいつているなら、それはよくないと強く思います。それは誰かが少しでも嫌な思いをするからです。そのような思いをするのは女性だけ、と思う人もいるかもしれませんが。でも私はそうは思いません。男女差別で嫌な思いをしているのは女性だけではないと思います。そのような考え方ですら、差別なのではないでしょうか。私はこの問題に対して学校で考える時間があり、深く考えてみたことがあります。今後よくなっていくのかはわかりません。ですが、一人でも多くの人に考えてもらい、一人でも多く行動に移してくれる人がいたらいいなと思います。私もその一人になれるよう深く考えて知っていきたいです。
男女じゃなくて、個人単位で人間を見るべき。
「男性だから、女性だから」といって、これをやらせるのではなく、「これをするから、これをやって」というふうになっていくといいと思います。

男女平等を達成するのはそう簡単なことではないから、自分たちの普段の生活から意識して行動するのが大切だと思った。
男女不平等な生活が当たり前になるといいなと思う。男性の方も女性の方にも偏らない平等さを目指すべきだと思う。難しいことなので、頑張っただけ今からでも改善出来たらいいなと思いました。
平等は大事。
男女平等にする。
男女両方等も相手がどれだけ大変かを理解するべき。
男女共同参画で女性が優先されすぎているところがあるので、共同とは何かをしっかりと考えなければいけないと感じる。
がんばる。
男性女性を差別することはなくした方がいいと思います。
男女は平等。
男女差別をなくすことが大切だと思う。
男女間で公平性がないものがあるのは社会の風潮が原因だと思うので、まずは国民の意識を変えるべき。
男女平等（男は仕事・女は家事育児などの考えのない世界）な生活（家庭）づくりを心掛けたい。

■ 希望について

色々な立場にいる人の意見、話を聞きたい。
男女差別なく平等に暮らしたい。
全て男女平等にするのは難しいと思うが、別になくてもいいような男女を差別する習慣をなくすべきだと思った。
男女差別をできるだけなくし、平等に生きていけるようになってほしいです。
将来、男女差別の社会がよい。
最近は何かと女性が優遇される社会になりつつあるが、なら同じように男性も優遇するのではなく、互いに平等な社会になってほしい。
男女の脳の構造や体力の違いにより職業の向き不向きはあるが、それにより差別をするのではなく、お互いの苦手な部分をカバーしてよりよい社会を作っていきたい。
差別をなくしたい。
もっと男女平等に向かっていくといいと思います。
将来、今よりもっと女性が社会的に活躍できるような社会になってほしいです。
男女の差がほぼなくなる未来が来たらいいなと思います。
私は習い事で名古屋市営地下鉄を利用しますが、平日のみにある「女性専用車両」というものが東山線と名城・名港線にあります。それについて、安全面的には女性は嬉しいと思いますし、周りも気にせず乗車できますが、一方男性の方からみたらどうでしょうか。なかには「女性ばかり優遇して」と思う方もいると思います。そういうところから男女の壁というものがあるのではないのでしょうか。私たちの明るい未来には男女が手を取り支え合える社会になることを望んでいます。

この世の中が男女平等になったらどんな世の中になるんだろうと思うと私は今までよりもみなが平等に暮らしていけるのかなと思います。それと、若い人たちと高齢者の生きやすい日本を作ってほしい。高齢者が若い人たちに対して今の日本は悪いイメージになっているけど、実際悪い人ばかりじゃないし、悪くない人を怒鳴ったりする高齢者を見かけたことがあります。人のことを考えないで言うのは違うと思いました。そして少子高齢化は高齢者の人たちや大人の人たちの責任でもあると思いました。
男女の差は昔よりないと思いますが、より差をなくして男女ともども助け合える社会を築いた方がいいと思った。
将来は、昔の人が見たら驚くような男女平等におしる女性が引っ張っていくような社会になってほしいです。
男女差別は100%なくなるわけではないと思います。今でも法律を破ってしまう人がいるので、いくら法律で縛っても意見がないかもしれないです。ですが、今、この現場を少しでもよくするために、90%になるぐらいまでやれるといいと思います。
あまり男女差別について悩んだことはないけれど、実際に差別はあると思うし、それで悩んでいる子もきっとたくさんいると思うので、男女だけでなく、“差別”がこの世界から消えてほしいなと思います。
男女差別を知らない間に行っている人とかが身近にいるのでなくなればいいなと思います。
完全な平等とまではいかなくていいかなと思う。
自分はいきなり男女平等を完璧にしようとするとう無理があると思うので、徐々に社会が男女が平等に向かっているのが理想だと思う。
男女平等が実現するといいと思います。
将来は好きなことをしながら仕事をしたい。趣味が同じ人と付き合いたい。
不平等をなくしてほしい。
女性がもっと活躍できるようにしてほしい。
生きてると男性優遇が多いような気がします。もう少し女性を気遣い、男女互いに生活していけるといいと思います。
男女差別がなくなるといい。
異性・同性に対する性的犯罪の罪を現在よりも、もっと罪を重くした方がいいと思います。
全部男女平等にするというより、不平等で不自由なことを平等にしてほしいです。個人差はあると思うけど、誰もが思うこととか不満が多いことを。
結婚や交際などに関して女性が不利な立場になることが多くあることがとても不安に思います。多くの人が男女差別という考えをなくしてほしい。
将来男性も女性も平等になっていたらいいなと思う。

■ 就労について

よくテレビなどで、会社の中では女性の差別が多いというのをよく耳にするので、なくなってほしいと思う。
仕事ができ、続けていきたい人が、仕事をできなくなるのはとてももったいないことだと思った。

<p>看護師や保育士で働いている人は女性が多く、その病院や保育園に通っている人の家族などが、男性にはそこで働いてほしくないと言っている意見を聞いたことがあるが、そういう差別をなくしていくことが大切であると思います。</p>
<p>職場などで男性が責任を持つ仕事を任されるイメージが強いが、実際はどうかと思った。</p>
<p>男性が育児休業を取るのが当たり前になるといいと思う。男女二人で子どもを育てることができたらいい家庭が築けると思う。</p>
<p>男性が一人で働いて、女性一人と子ども何人かを養え、大学まで行かせられるくらいの給料さえもらえば、男女共同参画なんて必要ない。男女参画社会を形成させる前に、男性一人が働けば、ある程度家族が養える社会にしてほしい。男女が中途半端に働きながら子育てなんてしていたら仕事の効率も下がるし、結局女性は休み、男性は働く時間が短くなるので、しっかりと役割は分担した方がいいと思う。</p>
<p>男女の差別がなく、平等に生きられるように会社が協力すべき。給料なども平等でないと差別になり、高齢化も進むと思う。</p>
<p>育児などで仕事を辞めなくてもいいようにしてほしい。差別はなくした方がいいと思う。</p>
<p>男性と女性の給料の差がなくなってほしい。</p>
<p>女性はたぶん男性より必要なものを買うことが多いと思うので、給料が同じじゃないのはよくないと思う。同じくらいの仕事量をしているのなら同じにするべきだと思います。</p>
<p>今まで女性がやってきた看護は今では男性も普通にやっている仕事で、そういう男女どちらも就ける仕事が増えていけばいいと思います。</p>
<p>自分は男だけど、それでも女性と給料差があるのはおかしいと思う。女性で同じこと、同じ時間働いていることに変わりはないから、そこに差が生まれるのはおかしい。</p>
<p>女性が育児などで楽に休みをとれるようになってほしい。男性と女性の賃金を大体同じくらいにしてほしい。</p>
<p>最近進路の授業をしたときに、男の人の方が女の人に比べて給料など低い（高い？）と知って、今は独身の人とかも多くなっていると思うし、女の人でもたくさん働いているから、私自身もその話を聞いたときはショックでした。将来自分がちゃんと職について安定した暮らしができるような分の給料をもらっているかはまだわかりませんが、自分は好きなことを学んで仕事にしたいので、頑張ろうと思います。</p>
<p>給料の差は仕方がないのかもしれないけれど、少しでも縮まればいいなと思います。</p>
<p>男女の差別なく平等に扱ってくれさえすれば、私はどの職業に就いてもいいと思う。</p>
<p>将来、世界全体が男女差別なく、いろんな人が自由に生きられる社会になってほしいと思います。男女を差別するような古い習慣をなくしていけたらなと思いました。でも男の方が給料が高いのがすごく嫌なので、女の給料とかもっと上げてほしいと思いました。</p>
<p>男女差別をなくして給料も男性と女性で同じにし、女性が妊娠して会社を長期的に休むことになったら、周りの人はあたたかい目で見えてあげてほしい。長い休みを終えたときも普通に関わってあげてほしい。</p>
<p>僕の将来的な目標として、消防士になりたいというのがある。そのなかで女性が消防士になるということ考えたときに、体力的な面では男性と比べ、見劣りするのではないかと思う。</p>
<p>起業をしたいと思っているので、男女が平等に働ける社会を作りたい。</p>

<p>パートナーが互いに家庭的な時間を大事にできるように残業することに社会が嫌悪感を抱いている状況に将来なっていればよいと思う。</p>
<p>育休を取れるのがどちらか片方だから女性が取ることがおおくなるが、どちらとも育休を取れるようにすれば、女性は育休を取るし、雇いたくないという発想もなくなるし、2人いることで虐待など防ぐことができ社会全体にとってもいいと思う。</p>
<p>男女差別のない楽しく、やりがいのある職場で働きたい。</p>
<p>男性の方が女性より賃金が高いことに納得ができません。</p>
<p>男性の方が女性よりも賃金が高い。</p>
<p>将来、自分が社会に出たときに、働きやすい環境のある仕事に就きたいので、男女差別するような古い習慣はなくなってほしいと思いました。</p>
<p>政治的な面で見ると女性のリーダーが圧倒的に少ない。教員などでも主任や校長など管理職の女性の少なさが非常に目立っている。女性にしかできないことや男性にしかできないことはあるので、男女で協力し合うということが非常に大切であると思う。</p>
<p>男性でも女性でもともに助け合いながら付き合っていけば差別はなくなると思うし、男の仕事みたいなものはあるけど、それも女性ができることじゃなければ差別ではないと僕は思う。</p>
<p>将来、男女関係なく仕事に就けるといいと思う。</p>

■ 固定観念について

<p>私の周りでは、仕事家庭などでの役割において具体的に「不平等だ」とおもうことはありませんが、「女の子らしくしなさい」「男なんだから」という会話を日常生活のなかで耳にすることがあるので、考え方としては、まだ男女が平等にすごせるような社会にしていこうとする考えのある人は少ないのではないかと思います。私は男女共同参画だけでなく、もっと一人一人が自分らしく生きていける社会づくりが必要であると思います。LGBTに当てはまる知人がいますが、悩みや不安を抱えていなくても、社会の現状に対して不便さを感じているようです。そういった人の考えや意見を聞いて、仕事や家庭だけでなく、婚姻のことなどの条例についても、もっと行政が柔軟に対応して、よりより地域社会をつくっていくことが大切だと、私は思います。</p>
<p>男はこう、女はこう、みたいな概念をなくした方がいいと思った。</p>
<p>私は将来もし結婚しても仕事は続けたいと思うから、そういうことを理解してくれる男性が増えてほしいと思います。「女性は家のことだけしてればいい」みたいな古い習慣は好きじゃないです。</p>
<p>最近は割と男女平等とまではいかないけれど、「女だから、男だから」と言われることは減ったと思います。ただ、男女を平等にするといってもふとしたところで男尊女卑や女尊男卑といった意識は出てしまうし、それはもう仕方のないのかも思います。私は「仕事は男、家事は女」という考えがなくなればそれだけで生きやすい人生になると思います。私の家では父も母も家事と仕事を両立させているので、そのような家庭が増えてほしいです。</p>
<p>将来は男女差別が少しでもないようになってほしいです。そのためには、今から少しずつ男女共同参画を進めていくことが大切だと思います。女の方は家事をして当たり前、男の方は力仕事をして当たり前。そういう考えも変わっていったらとてもいいと思うし、嬉しいです。</p>
<p>男女を差別するような古い習慣がある人が多い。そういうところをなくしていけたらいいと思う。</p>

<p>赤やピンクのような色は女性、青や水色のような色は男性、といったイメージは誰しもが持っていると思います。また、それはいい意味でも悪い意味でも作用しています。悪い意味は「差別」となってしまふ点。いい意味は、例えばトイレは男女それぞれのマークと入り口付近の壁などが赤と青に分けられているものや、制服が男女で色を別にしている学校もあります。そうすることですぐに判断がしやすいというメリットがあると思います。そのため、100%男女平等となるのは不可能だと考えました。</p>
<p>よくドラマで「女には無理だ」とか「女のくせに」というセリフを聞くことがある。現実には本当にあるかないかはわからないけど、もしあるとしたらなくなってほしいと思う。別に女だからやっちゃいけないことがあるわけでもないから、男だとしても女だとしても取り組んでいいと思う。</p>
<p>男女共同参画について、やっぱり男女の差別の場面もちょくちょく見るので、もう少し男女で差別なく平等にしてほしいと思います。例えば、仕事の面で「仕事は男がするもの」とか「育児は女性がするもの」という言葉を何度か聞いたことがあるので、男女平等に仕事とか育児もできたらいいと思います。また、職業についても「男性しか働けない」「女性しか働けない」という職業もよく聞くので、そういう職業はなくして、男性でも女性でも就くことができる職業とかをもう少し増やしてほしいと思います。</p>
<p>男女共同参画に大事なことは「女性は～するべきだ」などの昔の当たり前をなくすことが大事だと思います。確かに昔の「男は働き、女は子を育てる」という社会は役割分担が自然にできていて、効率的な社会だと思います。しかしそれでは社会の可能性を半分狭めていると感じます。女性が社会進出していくことで新たな視野、発想が生まれ、新しい経済がアクティブになっていく。経済的な意味でも女性の社会進出は重要なものに思えます。</p>
<p>女性は育児や家のことをして、男性はお金を稼ぐなど、昔から決められているようなことをなくしたい。男性は女性がする育児の大変さを知った方がいい。</p>
<p>自分としては男女としての“区別”はあって当然だと思います。男女それぞれに長所があり、短所が存在するからです。力仕事というものはやはり男性が向いていますし、細かい作業等は女性に向いています。多少の区別は存在するのは仕方ない。それぞれの長所を生かせるような市になってほしいです。</p>
<p>女性だから、男性だから、がない社会になっているといいです。</p>
<p>男尊女卑という古い考えを少しでもなくしたい。</p>
<p>将来結婚したときに家事・育児に女性、仕事に男性という区別をつけたくない。</p>
<p>市がこのようなアンケートをとってくれるだけでとても嬉しかった。この間家庭科で男らしさ、女らしさとは何かを問われ、そんなのどうでもいいのになと思いました。</p>
<p>男だけとか女だけとか断定するようなことはなくした方がいい。</p>
<p>この前お店でお前女なのになや男なのになと言っていたりしていたので、そこを直してほしいです。</p>
<p>僕の身の周りではざっと考えてみても男女による差別は行われていないのだが、一つひとつをじっくりと考えるとそれにあたるものがいくつか考えられる。核家族である僕は祖父母に会うには祖父母に行けに行かなければならないのだが、そこに行ったときに机を並べるなどの力仕事は男、料理などの手伝いは女がやるといった空気がある。僕は幼いときに「一番上の男」であるからという理由で机を並べるなどの力仕事をさせられた。さらに上に従姉がいるのにだ。いつかの葬式でも受け付けは男がやるものだという理由でその従姉は受付の仕事はさせられなかった。別にこのことに不満も不平</p>

も感じていないのだが、こういった昔からの習慣がいずれ根深い差別につながるのではないだろうか。

男性の育児休暇をもっと取りやすい環境になればいいなと思います。出産、育児は女性の仕事という考え方がまだ多いと感じます。女性が活躍しだしているこの時代なので、制度もそれに合わせてよりよいものにしていけるといいなと思います。育児は女性の仕事ではなく、家族でやるものだと思います。

■ 学校について

先生（男教師、女教師問わず）女子にえこひいきするのをやめてほしい。

学校の出席番号を混合にする。

中学高校の制服が男女で違うのが差別だと先生が言っていたので、私服でいいと思う。

私の学校は女子が少ないからなのか、男子が優先されていると思うことが少しあります。そもそも、なぜ男子が優先されているのでしょうか？古代からそのような考えがあるのでしょうか？そのあたりも学校で教えてもらいたかったです。小学校ではそのあたりを教わった覚えがありません。まだ性意識があまりなかったからなのかかもしれませんが、幼い頃からの教育があれば、男女平等も受け入れられやすかったと思います。

男女で学校の校則の内容が違うのでおかしいと思う。

校則で男の子のくつ下は自由だけど女の子は黒/紺/白のワンポイントのみというのがある。その内容は別にいいのですが、なぜ男の子は自由なのか、そもそもくつ下に校則は必要なのか。派手だったら支障が出るのか不思議に思う。

制服について、女子はスカート、男子はズボンと指定するのはあまりよくないと思う。女性専用車両はあるのに男性専用車両はないのが不思議。

学校では女性の優遇が多い。

学校に男子用の更衣室がない。

男女差別のようなことが中学の頃ありました。力仕事はすべて男子でした。

学校の校則を多少は男女の差を減らしてもいいと思う。

合理性のある校則を決めてほしい。

学校とかで、男子は重いものを運ぶというのは先生たちが言わない。「男だから」「女だから」とかを先生たちが言わないのと、自分たちも言わない。男は「〇〇くん」、女は「〇〇さん」と区別せずに、男女とも「〇〇さん」と呼ぶようにする。もし「くん」呼びされるのが嫌な人もいるかもしれないから。

今高校では、頭髪検査で女性はとても頭髪検査には甘いのに、男性にはとても厳しい。なので頭髪検査をなくしてほしいです。高校生の髪形を自由にしてほしい。 #校則改革

男女ともに制服を選択できるようにしてほしい。

■ 性的少数者について

LGBTの人に会ったことがないのでわからない。

男女などの性別に縛られず、人として周りと変わらない生活を誰もが送れるといいなと思います。男女のチェックを書く欄に真ん中を付け足してほしいです。

<p>恋愛も「男と女が普通」という考え方が定着していて男同士、女同士がおかしいみたいな世間の目はあまりよくないと思う。誰とでも恋愛ができるような世の中に変わって行ってほしいと思う。</p>
<p>男女差別や性別が理由で本人が傷ついたり職につけなかったり、周りに非難されるのは本当になくなってほしいと思いました。私はよく動画でLGBTさんたちの動画を見ますが、性別がどうであれ関係なと思うので、これから私も身近にそういう方がいたら全部理解してあげたいし、将来みんなが理解できるようになれたらいいなと思いました。</p>
<p>男女共同参画についてあまり調べたことはないですが、このアンケートを機に男女差別をなくしていきたいと思いました。この世の中には自分の性別がわからなくて苦しんでいる人がたくさんいます。男性が女性になりたい人もいるし、女性が男性になりたい人もなかにはいます。それを受け止めて手助けをしていくことが大切だと思います。逆に「きもい」「無理」など悪口を言う人たちはもっと男女共同参画について学ぶべきだと思います。なので男女平等な世の中になっていけたらいいと考えました。</p>
<p>男性が女性の大変さを理解できていないというような話をよく聞くので、互いに理解し合えるようになってほしい。性別とか関係なく結婚とかできるようになって、周囲もそれを受け入れてくれるような未来になってほしい。</p>
<p>私は前述しましたが、男性よりも女性の方が現状好きです。ですが、父親など、古い人は、いまいち理解してもらえず、少し苦しいです。どうすればよいかわかりません。私は市民ではありませんが、春日井市の今後に期待しています。頑張ってください。応援しています。</p>
<p>男女というか、色んなセクシュアリティを持った様々な人たちが法的に結婚出来たり、できていけばいいなと思う。</p>
<p>個人的に意見としては、今の社会はまだ古い思想が残っていると思う。なぜなら市や県、国などのトップはほとんどが高齢者であり、男女間の価値観を考慮していないと思うからだ。例えば「LGBT」の問題で耳にしたのが、まだ風評被害が多くあり、その主な加害者の多くが60歳以上だという。こういう思想が世間に出回っているからこそ、下の代も続いていく。なので、そういう風潮をなくすために、上が動く必要があると考えられる。みんなが平等に生活するために、何とかこの社会を変えてほしい。</p>
<p>もしこれからLGBTの人に会うことがあっても、協力できるような人間でいようと思います。</p>

■ 家庭について

<p>ニュースやSNSで家庭内で、家事や育児を女性に全て押し付ける、最近は逆に男性に押し付け、ストレスになっていって最悪な事態になるというのをよく見るので、どちらも平等に楽しく生活できる世の中になればいいなと思います。</p>
<p>男性も家事育児に取り組みやすくした方がよい。</p>
<p>母が洗濯物を干していたのでお礼を言ったら「これは私の仕事なんだからお礼なんていいよ」と疲れ切った顔で言われた。父も母と同じぐらい家事をやってくれているから、私の家は家事等に関してはかなり平等だけど、それでも家事は相当負担が大きいし、大変なことなので、共働きで、家事が女性だけの負担になっているような家庭はよくないと思う。だから、私は将来結婚したら家庭の中などで何かの仕事がどちらかだけの負担になることのないように、上手に分担して、お互い楽しく過ごせるようにしたい。</p>
<p>自分が将来家庭を持ったら、積極的に家事などの家庭のことについて取り組みたい。</p>

女性が仕事をしたいと思った場合は家事や育児を男性も協力すべきだと思うが、そうでない場合は子どもを守ったり教育をするという意味で女性が家事・育児をするべきだと思う。

■ 教育について

私は男女共同参画に関して、男女平等について子どものときから教えていたら男女が不平等な扱いをされなくなったりするからいいなと感じました。

男女の差をなくそうという考え方は広まっても、もともと差があって当たり前という考え方をしてきた人たちは、その考え方を変えるのは難しい。だから、小さい頃から差がなくて当たり前と思えるようにしていくことが必要なのではと思った。

性に関する教育が少ないと思います。初めて「LGBT」という言葉を知ったのも「テレビ」でした。小学校から性のことは保険の授業で学んではいますが、ジェンダーギャップや性的な差別までは詳しく知りません。なので、学校で特に性的差別について学べるような機会を設けるべきだと思います。知っているようで知らないことがまだまだたくさんあります…。

・男女共同なので、男性が請け負っていた役割や仕事を女性に移すだけでは根本的解決には至らないと思います。・今は個人個人が社会のコマとして生きているため、男だから女だからと決めてしまうのはよくありません。そんな固定概念を浸透させないために、定期的に大人向け講演会を開くべきだと思います。

共働きだとお互いがお互いの仕事の大変さや家に帰ってきたときの疲労が一緒だと思うから、家事や育児を協力し合えると思う。私は男性が家事もまったくやらない＆できないは許せないなので、小中で学ぶ機会を作ってほしい。

男女共同参画に関しては、小中高の教育の場で取り組むことをすることが大事だと思います。また、教育の場でのディスカッションの機会を増やすべきです。僕は学校とは将来を担う若い人たちを育成する場であると思います。しかし学校では意見を共有する授業があまりにも少ないです。意見の共有・主張をしなかった大人が今の20・30代の人たちではないでしょうか。これは本題のことだけではありません。個人の意見ですが、漢文、古典の2つの強化に関してグローバル化の進む世界に必要なものなのか、古い習慣すら捨てることのできない今の日本人が新たに出てくる問題を解決することはできるのか。ただ知識、考え方を受ける教育に何の意味があるのでしょうか。

■ 行政について

男女平等について学習をするのはもちろんのこと、男女の差別をなくすにはどうしたらよいかなど考えて、政策していくことが大事だと思います。

春日井市は育児に関する経済政策が甘いので、安心して育児ができるよう、経済体制を整えた方がいいと思います。

男女共同参画社会を目指して前から言ってるけど、大して進んでないよね。

女性の方が問題に直面したときの行動力問題の内容を理解し、解決に導く力があると自分は思うので、女性も市政に参加した方がいいと思います。

■ その他

男女平等にするのは大切だが、逆に女性ばかりを使ってしまうと偏りができてしまうので、バランスをとることが大切だと思う。

<p>現在は、男女平等である。と言い切ることは難しいかもしれませんが、自分たちの権利をよく理解せず、自分の考えだけで、権利主張しているものが多すぎるからです。インターネットやSNSで、言いたい放題言っている方々は、本気でそんなことを考えているのかはわかりませんが、例えるなら、女性専用車両とかでしょうか。女性があるなら男性もあってほしいという意見もあります。しかし、一部それを否定する女性がいるため、不思議で仕方ありません。男女平等とはどういうことなのか、今一度考えてみてほしいです。ちなみに僕はあってもいいと思います。</p>
<p>男女はだんだん平等になってきているが、昔は女の人が不遇の扱いを受けてきたが、今は少しずつ改善されてきているので、今度は男の人の扱い方も見直してほしいと思います。</p>
<p>男女共同参画によって、男女平等が進んでいくと平等だからといって無理にさせようとする人たちが出てきそうなので、女性には権利があるだけであって、男性がやるから女性もという考えではないことを理解することが大事だと思います。</p>
<p>最近男女差別がなくなっていると思いました。</p>
<p>「差別」という言葉は普段の学校生活ではあまり聞かないので、もう少しテレビなどで知りたいと思います。</p>
<p>男女共同参画とは言うものの、多少の男女差は日常生活で生じると思う。今では何でもパワハラ、セクハラと訴えることができるうえ、女性がセクハラだと言えばほとんどが女性を鼻屑すると思う。そこをどうするかだと思う。</p>
<p>男女共同参画は身近では達成されていると思う。</p>
<p>差別があるのは女性ばかりだけでなく男性もだと思う。</p>
<p>“男女共同”というワードを使っている時点で男女に差があると思う。</p>
<p>正直、最近だとそんなに男尊女卑のイメージがないです。</p>
<p>男女の本質の違いをしっかりと考えたうえで両性が平等だと感じられるといいと思いました。</p>
<p>テレビ等のメディアをはじめ、あらゆる形で男女平等を訴えています。完璧な平等社会の実現は不可能だと思います。人間も他の動物も、性別という区別のある生物らは男女に決定的な身体的構造の違いがあります。男は女のように子を産めず、また女も男のように成人した後も体力で男に勝つことは難しいからです。よって完全な男女は不可能だと思います。ただ、できるだけ平等であろうという考えは理解できますし、大きな差のない程度に平等な社会は実現可能だと思いますので、積極的に反対する気はありません。</p>
<p>春日井に住む予定はない。</p>
<p>もっと成績上げたい。順位を上げてほしいです。</p>
<p>女性のリーダーを増やすべきだとよく聞きますが、無理に増やすのではなく能力に応じて決めるべきだと思う。</p>
<p>男女平等についてを“学習”するのではなく、“常識”として広めることが大切なのではないでしょうか。“学習”であると周りからの差別があるかもしれません。</p>
<p>全てを男女平等にする必要はないと思い、人の性別にも適地適作のようなものがあると思うので、必要以上に男女平等にすることはないと思います。</p>

中学生

■ 意識・心がけについて

私は実は男がそんな好きではないので、将来のことがわかりません。正直、男と女は差別してはいけないと思うからです。
電車などでの女性専用車両について、人によっては（特に男性）それを差別と考える人がいるけれど、そういう考えも改めるべき。
よくわからないけど、男女を差別する古き悪しき習慣をなくした方がいいと思う。
これから大人になったときや今でも、男女の差別のようなものがないように、なくなるように、男女関係なく、生活ができるようになるといいと思う。そうしていきたいと思う。
男女仲良くやればいい。
差別があるとみんなが文句を言うのでなくした方がいい。
男女平等にしたとしても、誰か一人は心の中で差別をしてしまうと思うから、一人一人が心から平等にしようと思わなければだめだと思います。
男女どちらも平等に過ごすことは大切だと思うので、男女共同参画はいいなと思いました。
全員が同じ立場になれるようにしたい。
誰でも、同じように区別することなく生きていきたい。
大人になる頃には、男女の差別を完全になくしたいと思った。
みんな仲良しが一番だと思った。
男女平等で、みんなで助け合えるように。
男だから女だからって同じ人間だから差別する意味がわかりませんでした。その習慣は古いと思うし、昔と時代は違ってどんどん変わっていくと思うので、早く変えた方がいいと思います。
将来女性が生活しやすい環境や職場を作っていきたい。
僕は学校で生活していて、今は8年間学校に通い続けているけど、男女の差別はまあまああるなあと思っていました。僕も、差別的なことをしていたこともありましたが、そういうことは絶対よくないなあと思い始めたので、誰にでも優しく、笑顔で接してあげるように意識して、学校生活を送っています。将来、僕は結婚したいと思っているので、そのためには家でお手伝いを毎日、掃除洗濯食器洗いなどをしたりしています。将来の夢は、サッカー選手なので、それに向けて少しずつだけですが、僕は努力をしています。
協力できるようにしたい。
男性も女性も家事や育児をして男女平等な社会を築いていくことが大事だと思う。
男女平等になんでもできる。
私はまだ、男女平等についてのことはよくわかりませんが、古くからある男女の差別をなくし、将来は男女ともに平等に暮らせるように、全員が頑張ればいいと思います。
男女の差別があって言いにくいこともあるから、言いやすい世の中にしたいです。
男女平等に暮らし社会を作っていくことが大切だと思います。
男女差別については、なくなってほしいし、そういうことをやっているのはだめだけど、だからといって機会を与えるのはOKやけど、必ず増やさないとイケないとは、あまり、思えず（思います？）平等に与えることが大切だと思います。

男女差別は、やられた人が嫌なので、しないようにしたいです。そういう差別がなくなっていくといいなあとと思います。
このアンケートをしてみて、春日井市のために自分も色々なことをしてみたり、協力してみようと思いました。もし、将来自分が春日井市に関係する仕事に就いたら、もっと春日井市を住みやすく明るい場所にしたいと思いました。そして春日井市に関係しない仕事に就いたとしても、春日井市のために協力して、春日井市を好きでいたいです。
昔よりも年々子どもが早くから亡くなってしまうことがあります。その理由はいじめ、虐待だと思います。カウンセリングを来年からもっと増やし、少子高齢化をなくして、いい国を作っていきたいです。LGBTの差別の名前をもっと知らせていくようにしていきたいです。
男女平等の世界を作っていきたいなと思いました。
男や女と言うのは、たまたま生まれただけで人間であることに変わりはないし、それ以下でもそれ以上でもないと思います。だから男女平等な社会にするためには、「女性は、男性はそう思っている」というのではなく、「その人はそう思っている」というふうに少しずつみんなが意見を改められたらいいなと思います。
差別などをなくしていきたいと思う。
男女共同は難しいと思いました。
身近で男女差別をしているのはあんまり見たことないけど、もし差別しているところを見たら止めようと思った。
男女などの差別はよくないので、もしそういうことが起こったらやめていきたいなと思いました。
自分は男女関係なく自分のやりたいことをやりたいと思った。
誰にでも平等に接していきたいと思う。
男だから、女だからと分けなくて、同じ環境で同じように生活する。
男女ともに、できることやできないことがあるといった差別はやめて、みんな平等に生きていく、そんな世界をみんなで作れたらいいなと思っている。
男女平等が実現するといいと思った。
誰かが踏み出さないと人は歩き出せない。決めつけをなくす。
女性は立場が低いという認識がなくなったら、男性が女性を召使のように扱うこともなくなるのかな、と思うと、少しでも早く差別がなくなるように協力したいと思います。
女性には優しくするなど、心理的なものは難しいので、簡単なものから取り組む。
男女の差別はいけないと思います。
誰かが何かをしなければならぬと決めつけず、みんなで助け合う。
差別をなくすことがいいと思っています。
まず男女と分けるのが違うと思う。人類みんな平等。区別すべきところは男女じゃなくて、出身地や文化などの部分。
男だろうが女だろうが関係なく自由に生きていけばいいと思う。
男女ともに助け合って素直な気持ちで話し合った方がいいと思います。差別せずに一緒にやればいいですね。
男女共同が問題なくできるような社会にしたい。

男女平等を完全にさせるのはとても難しいと思ったが、色々な考え方をを持った人がいるので、それぞれの意見を踏まえ、様々なことに取り組んでいくことが大切だと思った。
「女子は男子に手を出せるけど、逆は許されない」みたいな風潮はやめてほしい。お互いに手を出さないようにしたい。
豊かに生きていければなと思います。
男女がともに春日井市でもそうだし他の市でも差別なく暮らしていけるような社会を築いていく。
将来は大人も小人も差別のないようにまず大人から差別をなくすようにしから小人もするようにしたい。
男女で差別するのは絶対ではないけど、いけないなと思った。どうふうくんかわいいですね。でも私的にどうふうくんよりかえるさんの方が好きです。

■ 希望について

男、女は人のどんな能力を持っているか、であるため、別にその人がどう考えようが関係ないと思います。なのでこの取り組みは全国、世界中に広げるべきことだと思います。
性別や年齢に関係なく、自分がやりたい仕事、自分のよさを一番発揮することを第一に考えられる世の中。
全員が平等で、安心して暮らせる社会（仕事や家庭）。偏見をなくす。
男女関係なく色々なスポーツができるようにしてほしい。
今は、男女の差別が激しい気がする。将来差別のない平等な暮らしがしたい。
女性専用車両を作るなら男性専用車両もほしい。
大人も子どもも平等にすること。事故、事件がない町。春日井に大きなショッピングモール（→mozo・アウトレット）や遊園地（ディズニー・USJ）を作る。
問15の1のように、古い習慣をなくすというよりも、新しい習慣を作ってください。
将来男女共同参画が実現したらいいと思う。例えば、政治では男性が多いが、女性が増えれば違う視点からの意見が増えると思う。
将来春日井に住んでいるかわからないけど、いずれまた春日井にいい市になり男女差別などないところにしてほしいです。
世界中、男女差別なくできればいいと思います。男子グループ、女子グループで分かれているところとか多いと思うから。そこらへんをどうにかしたらいいと思います。
よくお店では女の人優先、レディーファーストや女性の人割引などがよくあるが、男性優先や男性専用車両がないです。国や県など（市でも）男女平等というならば男性専用車両も作るべきだと思います。女性だけ割引の日など女性だけが得する日を作るなら男性だけ割引の日を作るべきだと思っています。そうやって春日井市が男女平等になるととても嬉しいです。
人を性別でみるのではなく、その人々個人として見られる世の中になっているといいと思う。
自分は女子と遊ぶのも男子と遊ぶのも大好きなので、差別はあまり好きではありません。でも差別をしている人に対して、強制的になくすということもだめだと思うので、ゆっくりでいいから住むだけで楽しい春日井市になると、とても嬉しいです。
春日井が男女差別が一番少ない市になればいいなと思っている。
将来こうなっていたらいいなと思った。

男性、女性関係なく、平等に過ごしたいです。
性別にとらわれず、好きなことをして生活していけるようになってほしい。
将来、誰でも同じことができるようになってほしい。
今は男女の区別があるので、これから男性も女性も仕事をしたり、育児をしたりする社会になっていく必要があると思う。男性と女性が助け合って暮らせるようになってほしい。男女平等に意見を言えるような社会になっていく必要がある。
将来、大人になったときには男女共同参画社会が形成されているといいなと思った。
将来もっと、男女差別の少ない社会になるのはいいけど、明らかに男性しかできないことを女性にやらせたり、そういうことはない方がいいなと思いました。
男の人と女の人での差別はよくないと思うし、男の人同士も女の人同士の差別もよくないと思うから、男であっても女であっても、誰であろうと差別はよくないから、差別がなくなってみんな平等であってほしいなと思いました。
よくわからないけど、とりあえずみんな仲良く平等にしてほしいなと思う。
将来、男女ともに過ごしやすくできるように平等・公平を大切にしていってほしいです。
誰もが生きやすい世の中になればいいなと思います。
僕の身近では女性が男性に暴力を振るうという場面を多々見えています。そういうことがなくなってほしいなと思いました。
女の子とたくさん話し合ったりする。男女平等な世界になってほしいと思いました。
海のように広い心を持ち、毎日を笑顔で迎えられるような将来がいい。
性について変な意識を持つ人がいなくなればいいですね。
最近は男性ばかりではなく、女性も忘れるなど主張していることはいいと思います。ただその一方で、女性を強調するあまり、女性が男性よりも一歩出ているところもあると思います。そのために、平等ということを強調した方がいいと思います。
将来春日井市は男女差別のない市になってほしい。
他の国の言語を学ぶ場所がほしい。
将来は男女差別がない社会になるといいと思います。
私は将来何かに就こうとは思っていないけど、介護の人は高齢者の世話をする（持ち上げたりとか）と疲れると思うから、ロボットを入れてもいいんじゃないかと思った（食事とか遊ぶときは人が世話をする）。
女尊男卑にならないようにしてください。女性サポートほどほどに。
まだDVなど色々あるから、暴力はだめだということを改めて学んでそういうことのない社会にしてほしいと思いました。
将来に女性がリーダーになってほしい。リーダーになるためにも立候補しやすい環境を作るべき。
男がすべていいっていうのを、もう少しなくしていったらいいと思う。

■ 就労について

将来仕事のときに男女関係なく色々な仕事をできるようにしてほしい。
将来、女性でも自分のしたいことを自由にできる仕事が増えてほしい。
仕事の場ではあまり上下関係に厳しくない。

将来働くときに差別があったらトラブルになったりするから男女差別をなしにした方がいい。
男性しかできない仕事、女性しかできない仕事をなくしてほしい。
みんなが過ごしやすい社会。みんなが協力していける社会。休まなくてはいけないときに休むことを許してくれる。定時で帰れる。
男女の差別なく、やりがいのある仕事を作るとよい（力仕事ではない仕事など）。女だからだめ、男だからだめなどの差別もなくせるとよい。社会的に男性の方が優遇されていると思うから、女性が仕切ったり、リーダーをしてもいいと思う。将来、男女が共同してよりよくやりがいのある仕事、生活がある世界になってほしい。
男性の介護士や看護師を増やしてもいいと思います。
女性のリーダーが少ないと思った（生徒会長とか）。あと、女性が仕事を辞めても再就職しやすい方がいいと思う。女子と男子では能力に違いがあるのは当たり前などで、女子が多い仕事、男子が多い仕事は出ると思うけど、だからといって、違う性の人がある仕事ができないかと言われたら違うと思う。
仕事での男女差別をなくす。
例えば、男は気に入った女がいると弱る、なんてことは全国でも未だにあるわけです。社会に出ても、課長などが気に入った人間や気分などで給料、仕事の数を減らしたりと理不尽なことばかり現実起こっている。そういうのを地方から変えていかないといけないんです。こういうことで引きこもり今で言うニートが生まれるわけです。このままだと全国ニートで埋め尽くされ、まず生きていけなくなります。大人でも例えば教師でもそういったところが見られるので、どうか理解をお願いします。
仕事などで男女差別があるのはよくないと思う。その仕事をしたかったり、実力もあるのに差別されてできないのはよくないと思うし、実力がある人がその仕事をしなかったらその職業の効率も下がると思う。
子どもを連れて来れる会社を聞いたことがあります。女性の育児に向いていることを知って、とてもいいなと思いました。保育園が少ない今は、そんな会社を増やせばいいと思います。親が医療関係で、毎日大変そうです。そんな人でも安心して育児ができればいいと思います。
男女平等に自分のしたい仕事ができる。あまり具体的にはわかりません。
もし仕事先で男女で差別するようなことがあったりしたら嫌だ。男の人より体がもろい女の人ばかり頼ってはだめ。
社会に出て、会社で「女だから～」とか言われて傷つく人もいるだろうから、男女平等な世の中にしてほしい。
人で差別するのではなく、誰もが、どの職に就いてもいいように、どこで何をしてもいいようになったらいいと思う。
もし、自分が将来働くことになったときに、自分とは違う性別の人を優遇、または仕事を押し付けるなどの光景を見たとすると、どれだけ好きな仕事だとしても、働いていられなくなると思う。だからこそ、平等な市であってほしいと願います。
働いている人の割合が圧倒的に男性の方が高いのがいけないと思います。女性も働きやすい環境にしてほしいです。
春日井市自体ではなく、日本全体での男女ともに共同して仕事などをすればいいと思いました。
男女で細かく仕事が分けられるのが不安。
将来、自分が働く場所やみんなが働く場所で、女性と男性の差別がなくなるといいなと思います。

<p>男女の仲をよくし、男女平等に仕事や仕事の時間などを同じにすること。例えばA, B, Cのチームがあったら、A, Bの仕事が少なく早く終わってしまっ先に帰ることをなくしたいです。特にA, B, Cのチームが分けられていても、同じ会社のチームなので、なるべく連帯責任の方がいいと思うので、もし私がリーダーシップをとることになったらこのような会社にしたいです。</p>
<p>男女差別なく自由に仕事ができる職に就きたいです。</p>
<p>自分自身が就職したときに、サービス残業やブラック企業という言葉がなくなればいいと思う。</p>
<p>男女差別はよくないが、それぞれに合った職業などがあることも理解すべきだと思います。</p>
<p>仕事をやっていくなかで生活をするために仕事をするぐらいの仕事の量がいい。仕事をするために生活をする人生はいやだ！！</p>
<p>・自分は将来子どもが生まれても仕事を続けたり、自分の趣味もできるようにしたいと思うから、育児や家事は男女半分半分の割合でしっかり行えるようになってほしい。・自分の家では父が帰ってくるのが家を7時に出て23時くらいに帰ってくるので家事をあまりできていないので、もう少し企業からも働き方を考え、誰でも過ごしやすい未来にしてほしいと思った。</p>
<p>将来女性も働きたい人が多いと思いますが、家庭を持ったりして子どもができるとずっと働けず、産休・育休をとらなければいけなくなると思います。女性の産休・育休については理解も広まっていると思いますが、それと同時に男性の育休・産休についてももっと休みを取りやすく、女性も男性も仕事に復帰しやすくなるようになってほしいと思います。まだ社会で働いていないので詳しくはあまりわかりませんが、男性にだって育児の手伝いをしてもらいたい人は多くいると思います。</p>
<p>今まで男性しかできなかつた仕事、女性しかできなかつた仕事が男女ともにできるようになってほしい。</p>
<p>「男だから力仕事は差別」ではなく、その仕事に適した能力を持っているのなら積極的にやるべきだと思う。セクハラ等の基準も男性が女性と同じ立場になってほしい。</p>

■ 固定観念について

<p>男子は力仕事とか、女は家事とか言ってるやついるけど、別に女でも力仕事する人はするし、男でも家事ができる人なんてたくさんいるから、早く差別がなくなればいいと思います。</p>
<p>今は結婚とかしたくないと思っているけど、パートナーがいると共有し合えるからいいと思った（男女両方とも、昔のような差別はなくすべき。そもそも今現在と昔は違うんだから、いつまでとらわれてんだって思う（差別している人について））。←思ったこと。</p>
<p>自分が働くときには、男女が同等である社会であってほしい。「男子だからやってよ」や「女子だからできるでしょ」という会話がたまにある。</p>
<p>男性と女性の偏見をなくしてほしい。</p>
<p>今でも男女差別は少ないと思うけれど、当たり前のように女だから男だからというようなことは少しはあると思うから、それが将来はなくなっているといいと思う。</p>
<p>男性も女性も理解し合える社会であってほしい。男性だからこれやらないとだめみたいなのがなくなるといい。</p>
<p>普段の生活や学校生活、仕事場などで、「女性だから」とか「男性だから」などの性別によって作業や教育を分けたりするのがなくなるといい。</p>
<p>男女で使う色の差別をなくす。</p>

正直今のところ学校や家で男子だから、女子だからなどの言葉は耳にしないから、そこまで今は気にしなくても僕はいいと思いました。
自分は男になりたかったから、字も汚いし、箸も上手く持てなくてそれで「女の子なんだから」という言葉をよく言われていましたけど、それがすごく嫌で、その「女の子なんだから」なんていう人がいなくなればいいのになと思います。
将来結婚する気がないので、勝手に結婚する前提は嫌だと思いました。
男だから～とか、女だから～という考えをなくしていってくれるならば、それ以上にほしいことはない。
男性＝力仕事というものは、女の私からみてもかわいそうだなって思う。将来はいい肩書を持っていたら嬉しいな。
「男だから～だ」「女だから～」というような決めつけはない方がみんなが過ごしやすくなると思うから、何十年かかるかわからないが、世界中で男女平等の考えが広まってほしいと思った。僕が将来就きたいスポーツ系の仕事も男女平等が広まったらよりよいものになるかなと思った。
女性の政治家が増えてほしい。・「女性は育児・家事をして、男性は仕事をするのが普通」という文化をなくしてほしい。
男女差別がない方がいいとわかっているけど、この社会の常識的なものとして、男女それぞれの役割が何となくあるため、その何となくをなくす必要があると思う。
男性は働いているから女性は家事をこなす（すべた任せるとかはおかしいなと思うし、当たり前のように女性がやるというふうに思う人を減らしていきたいです。介護などはこれからとても役立ち、重要度も上がり、家族もとても助かります。なので、とても重労働だから給料をもう少し上げて人員を増やす取り組みをするべきだと思っています。
今の家庭では女性が料理をしています。昔なら男性が働き、女性は家庭のことをしているのが当たり前、となっていました。今では女性も働いているので、男性も料理をする世の中になってほしい。
男女共同参画社会において、まず実現すべきことは家庭での男女差別をなくすことだと思います。家事は女性が、仕事は男性がということなくし、男女関係なく協力し合い生活していけば、結果的に子どもたちも男女差別ではなく、男女関係なく協力し合う社会に向けていい影響を受けると思います。そこで、家事の実技を学ぶ教室を春日井市として実施してほしいと思います。これが非常に重要です。
男なんだから〇〇、女なんだから〇〇というのはなくなってほしい。
男女の差別する古い習慣をなくしてほしい。
男女差別がなくなってほしい。「男だから～」「女だから～」っていう勝手な決めつけがなくなってほしい。
「男だから～」とか「女だから～」とか性別を言い訳にさせないようにする。
男女の仕事の違いなど今までの概念をなくすことが大切だと思いました。
力仕事は男子、細かいことは女子、と男女で差別せずにできることをできる人がやればいいと思う。
昔の人の考えで女という体で生まれたのなら女らしく、男の体で生まれたのなら男らしくという考えの人が未だにたくさんいるから生きづらいと感じる人が多くいると思うから、そのような考えは変えた方がいいと思うし、自分もたくさん理解していこうと思った。興味のある仕事にどんどんチャレンジできるようになったらいいなと思った。

<p>将来、市役所などで働くことを視野に入れていますが、やはり女だと表立ったことや中心となることは難しいかと考えたりもします。そんなことはないかもしれませんが、職場に男女の偏りがあつたりと“イメージ”がついてしまっているのも大きな課題の一つだと思います。平等な“イメージ”や“意識”をもっと広く知らしめていって住みやすい社会づくりを続けていってほしいです。</p>
<p>「男子だから」「女子だから」と言う人が多いと感じる。男子には怒るのに同じことをしている女子に怒らないのはおかしいと思う。女性が家事をするのは当たり前というのはおかしい。</p>
<p>男女を差別する人はおかしいと思う。同じ人間なのに“女だからこの仕事だめ”とかそういう考えをなくしてほしい。</p>
<p>女の子なんだから…。男の子なんだから…。という言葉がなくしたい。女らしくとか男らしくに捕らわれたくない。性別とかいらぬそんなの息苦しいだけ。女だからなに？男だからなに？どうでもよくね？</p>
<p>男性は“女性は家の家事、子どもの世話などをすることが仕事だ”、女性は“男性は家に金を入れ、女性に金を管理されるのが普通だ”と思っている人がまだ少なからずいるから、男性も女性もお互いのことを理解し合える世の中になればいいなと思う。</p>
<p>女の人が家庭のこと（育児など）、男の人が外に働きに行くというのが当たり前というのをなくして、男の人が家事をする社会、女の人が働くという社会など、誰もが自由に生活できる社会を作る。</p>

■ 学校について

<p>制服を変える。理由、女子だからスカート、男子だからズボンではなくて、男子も女子も同じデザインの制服にする。でも制服は作るべき。</p>
<p>昔は男性が優先されていたらしいけど、今はそれが逆転して女性がすごく優先されているように感じる。男の先生が女子をひいきしていると思う。</p>
<p>・先生による男女の差別をなくしてほしいです。先生によるお気に入りの差別もやめてほしいです。・先生が怒っているときに生徒にあたってくるなどの行為をなくしてほしいです。・先生たちの教育の仕方を見直してほしいです。</p>
<p>学校でも「女子はスカート、男子はズボン」と強要するのではなくて、制服を着なければいけないのであれば、選択できるように是非してほしいと思います。</p>
<p>学校生活などを送っているときは何回も男子が女子には優しいみたいなことを言っているのはよく耳にする。</p>
<p>給食で、女子がおかわりしづらい感じに自然的になってしまっています。私は全然おかわりできるタイプですが、少し引っ込み思案な子などは、おかわりしにくいそうです。何かいいアイディアはないかと考えているのですが、思いつきません。毎日ちょっと悲しくなります。</p>
<p>小学校でも男女差別があつて、なんとかしてなくしてほしい。</p>
<p>ひいきなどをして成績をつけたりするのは進路にも響いてしまうので、よくないと思う。</p>
<p>女子だから怒ってはいけないということがありました。女子だから怒らないというのは違うと思います！更衣室も女子だけではなくて、男子も設ければいいと思います。</p>
<p>先生が男女で差別することが多い。</p>
<p>・学校の先生が男女差別をするのでなくしてほしい。・自分の子どもたちが学校に入るときには差別がないようにしたい。</p>

学校での立場でも女子が優遇されていることがあるので、男子が優遇されてもいいと思います。
医者になるための試験で、女の人が受かっているのに点数を減らされてたくさん落とされ、男の人は受かっていないのに点数を増やされたみたいなのがないようにしてほしい。
姉が受けた大学が過去に、医者になりたい女性たちを故意に落とさせたというニュースがありました。今後もそのようなことが起こらないようになってほしいです。
教師が男女や人を好き嫌いしたりするのは今すぐやめていただきたい。
体育を男女一緒にする。男子だから見たいなのをなくす。
体育のテストの差をなくしてほしい。
大学入試でちゃんと男女平等に受かるように採点者などを決めてほしい。
小中高を義務教育にするべき！
男はこうしろ、女はあれしろなどの女子と男子で命令を変えるのではなく、自分ができることを自分からやらせるようにするべき。また授業などで、女子を褒めて男子をけなす、その逆のことなどをすると男女に差が生まれてしまうから、褒めるにしても特定の人物などではなく全体を褒めるべき。

■ 将来の夢について

私は今のところ男女差別はないと思う。でもまだあるかもしれないことを知ることができたのでよかった。将来は美容師になって、みんなを笑顔にするような美容師になりたいです！！将来過ごしやすい社会になっていることを願っています。
まだ具体的にわかりません。
大工
野球のスポーツ店でグローブの手入れを学んだり、バッドの商品についてを学んで、職業に就けるようにしたいです。
将来は自分の好きなスポーツでお金を稼ぐ(プロ野球)。
僕の将来は消防士です。なぜ消防士になりたいかという僕のおじいちゃんが元消防士だったからです。だから僕は受け継ぎたいと思ったからです。
将来は、まだ決まっていないので好きなことを見つけたいです。
将来は専門学校で動物のことを勉強してドッグトレーナーになろうと思っています。
ユニセフに入ってアフリカなどの世界の貧乏な人たちの体を安いお金で診て救ってあげたい。
将来はまだわからないし、よく考えたこともあまりないけど、もし結婚して、子どもが生まれたら、自分とパートナーの人と助け合って育てたりして、2人とも苦じゃない生活ができたらいいと思いました。
自分が将来なりたいたいのものがあったら、男女性別や年だとかそういうのは関係なく、したいことをするのならばともに助け合って進んでいくという思いで頑張っ生きてみたいと思った。
警察官になりたい。
将来のことはまだ決めていない。
夢への努力も頑張っのんびり暮らしたい。
高校のことについてはあまり細かくは決まっていないです。これから決めるつもりです。

■ 性的少数者について

<p>自分は男でも女でも、差別のないような社会を目指したい。LGBTでも、どんな人で差別のないように、差別のないように、就職でも男女だからの差別、LGBTだからの差別をなくすことが一番だと思う。自分はLGBTではないが、同性婚をしてもいいという法律を作るべきだと思う。結構というのはパートナーを決めるもののため、パートナーが同性でも認めてあげるべきだと思う。</p>
<p>男性が女性のようにふるまっていたり、女性が男性のようにふるまっていたりすることを悪く言う人や、避けようとする人を減らして、理解し合えるを増やしたい。</p>
<p>LGBTの人に会ったり、友達や家族などでしたら、普通の人と比べたり偏見で差別するのがなくなっほしい。</p>
<p>LGBTの人がいても支えられる人、話を聞いてあげられる人、頼れる人になりたい。</p>
<p>自分が女だから男子と遊んだり「ハイタッチ」をするだけで「女なのに男子に触っている」とか言ってくる人がいて辛いです。あと自分の性別がわかりません。そういうのを相談するところがほしい。誰に相談すればいいかわかりません。制服を女だからスカート、男だからズボンっていうのをやめてほしい。スカート履くの辛い。それも男女差別だと思う。</p>
<p>LGBTも受け入れていけるといいと思う。</p>
<p>LGBTである人などでもそれが当たり前であるという考え方が大切なのか、本人の意見を尊重しながら接していくのか、周りの人の行動の仕方を考えていくのが大切だと思う。まだ人によってどう接してほしいのかは違うと思うので、一人一人の意見を聞くのは大変だけど、重要なことであると思った。</p>
<p>このアンケートのときにLGBTなどの単語で笑っている人がいた。誰にも言えず、悩んでいる人もいなかで、まだ笑ったりばかにしたりしているような人がいた。性別なんて自由だから、もっとそのようなことが言いやすく、引かれなくなったらいいなと思った。</p>
<p>自分は生きたいように生きれば良いと思う。差別されても気にしなければなんともないし、自分のことをわかってくれる人だけと一緒にいればいいと思う。LGBTって性同一障がいのことですよね？百合とかホモのことではないですよね？</p>
<p>多種多様な社会、家族のありかを認めていけるようにしたい。男の友達が男を好きになる人なのはかなりきついかも。</p>
<p>LGBTなどに対するの偏見を持つ人は一定数はずっといると思う。生産性がないとか言っている人もいたけど、科学が発展すれば人の肉体なんてなくてもいい社会になるかもしれない。バイセクシュアルは夢も広がる。女性も男性も愛せたら可能性は2倍！！普通という認識。</p>
<p>性的少数者に対する差別や偏見などがなくなっほしい。</p>
<p>また、男 or 女という性別だけではなく、もっと多様な性別を選択できるようにしてもいいと思います（「その他」をつくるなど）。</p>
<p>LGBTはドラマで一応観たことがあって、私はあまり気になりませんでした。</p>
<p>LGBTの理解をもっと深めるべきだと思う。</p>
<p>男性と女性で違うところもあるから、それに合わせて生活していけるといいと思った。LGBTの人たちが打ち明けやすいように、LGBTについてもっとみんなが理解していった差別をしないでそれがその人の個性と捉えることが必要。</p>

<p>学校のクラスでも「お前ホモじゃん！Ww」みたいな、おふぎけの聲がたまにある。本当にそういう人が聞いたら嫌な気持ちになる人もいると思った。私は男女平等も子どものときから学習するということにして、LGBTについても学習するべきだと思う。</p>
<p>私の友達にLGBTの方がいて、今色々悩んでいるので、市民の方や国民の人にも理解していただいて、友達があまり悩まずに気楽に生きていけるような社会がいつかできるといいなと思います。</p>
<p>将来、LGBTの人に会ったら差別するのではなく、みんなが受け入れることができるようにしたい。</p>
<p>こういう活動が性に悩んでいる人にとっていいことは確かですが、この人たちだけを優遇していたら、他で悩んでいる人はどうになってしまうか、それこそまた、差別や差があると言われかねません。その特定の人だけ、明らかになっているものだけを助けるのではなく、一人一人に向き合った方がいいと思います。</p>
<p>そもそも「男女」とついている時点でおかしい。「全人類」などに変えるべき。「男女」と書いてあるのを見てXジェンダーやクエスチョニングの人たちは複雑な思いになるから。あと思考停止している人たちの脳みそを動かすべき。日本の悪い習慣で、「周りに合わせろ」「上司の言葉は絶対」などがあるから、意味がないと思う。なぜなら全て「自分の脳みそで」考えることを抑制しているから。「自分の脳みそ」で様々な問題を考えないと意味がない。例えば自分は性的少数者への差別をなくすべく日々考えていますが、政府はどうでしょう？クレイゴトを並び立てた言葉しか言わない、自分が不利になる問題はすべてそう。そんな政府も問題で、それに無関心な多くの国民も問題。日本の教育では、もっと「自分の脳みそ」で考える時間がほしい。議論の時間を増やすなどするだけでも違うはず。</p>
<p>私の友達にも女子だけど心が男子っていう子がいるんですよ。最初聞いたとき、とても驚いたけど、今はそれに慣れていつも通りしゃべっています。とても楽しいです。男女の差別をなくすのは当たり前。春日井市の人はいくらもやっているようだけど、当たり前なこととしています。みんな心が穏やかならそんな差別ないんだから、心が穏やかになる社会を形成してみた方がいいかもしれませんね。</p>
<p>私自身がLGBTQなわけではないけれど、そういう人たちもいていいと思う。異性と付き合うのが当たり前というのをなくせたらいいと思う。それを差別する人が今は多いから、そんな差別のない国にしてほしい。同性の人を好きになっても、それもひとつの愛だから、差別するのはよくないと思う。子どもも大人も、もっとLGBTQのことについて知って理解した方がいいと思う。その人たちがLGBTQに悩まず、幸せに暮らせる国になってほしい。あと、LGBTだけではなく、Qのことについても知ってほしい。</p>
<p>自分の周りにLGBTの人がいないと思っていても、心のどこかでそうかもしれないと思っている人もいるかもしれないので、認め合う環境を作っていくことが大切だなと思いました。</p>

■ 家庭について

<p>女性だけが家事育児をやるのではなく、男性も家事育児をやる。</p>
<p>男性も育児、家事を積極的になれるようにしたらいいと思います。</p>
<p>男女関係なく育児や家事をやっていけるといい。</p>
<p>家事は一人で行うのはすごく大変だし、育児や介護もしなきゃいけないから、男性も理解して協力できるようにしてほしい。実技を学ぶ教室や講習会などを開いても、家事をしない人は行かないと思う。</p>
<p>どうしても母が家事をすることが多くなっているから、男女平等に家事とかも分け合ってほしいなと思います。</p>

男女平等に家事が分け合えること。
男性でありながらも子どもと触れ合う時間はとても大切と思うので、男性でも女性でも、家族と十分な時間があるようにする。
今はまだわからないけど、社会に出たときには男女平等になっていた方が嬉しい。家事、育児は夫婦だから一緒になってやれば良いと思う。自分がまだ小学生だったときは、女性の方がえらいと思っていた。今回がよいことになると思っているので、ぜひ頑張ってもらいたい。
これからは男女平等でいっていかねばいけないと思います。女性が育児・家事をして、男性が仕事をして時々育児や家事を手伝ったりした方がよいと思います。
将来、家庭の仕事を男性でも積極的に手伝えるようになってほしい。
将来はみんな家事ができて分担できるようになったらいいと思う。
将来自分は会社などに勤めていると思うけど、料理などの家事をしないとイケない。
家事・育児を全て女の人に任せない。

■ 行政について

男性も女性も参加できるようなイベント？（育児や家事については男性）（力仕事などのものは男性） みたいなイベントがあるとそれぞれの大変さがわかると思う。子どもではなかなか相談できない人もいると思う（窓口に電話かけるのが恥ずかしいとか）。もう少し身近に安心して相談できる人がほしい。先生や家族に言いづらいことを安心して言える人がよい。男女の不平等には、お互いの誤解などがなくせるように学校でも話があるといいと思う。誤解がいじめなどにつながると思うから。そして、春日井はいいものも多いから、それもアピールしてほしい！！助け合いがもっと増えてほしい。どんな方でも楽しく思える春日井をみんなで作りたい！！
みんなが平等になっていけばいいなと思う。相談するところが身近にあり、悩んでいることがあれば気安く相談できる場所があればいいと思う。これは男がやるべきや、これは女がやるべきなどのそのことに対する「男（女）が～するべき」というのをなくせるようにできればいいと思う。
女性専用車？（電車のやつ）あれ作ってる時点でこんなアンケートとるよりそっちの電車のアンケートいるでしょ。しかも問 15 の中に女性のリーダーを増やすってあるけど、リーダー決めるときは平等だし、子どもたちの方が理解できてる。学級委員決めるときもしゃべるときも基本的に理解できてる。それに比べて大人はどうですか？うちの学校にもいますよ。男女だけじゃなく個人で優遇する大人。このご時世なんだからリモートでもなんでも先に大人に理解させろ。
悩みを相談する窓口があっても意味がないと思う。
差別のない政策をしていけばいいと思いました。
年代が上がるにつれて、男女差別の考え方を未だに持っている人も少なからずいる。そういった高めの年代層にも男女差別をしなくなるような、心に響く取り組みを私は望んでいる。少子高齢化により高い層の考え方が日本の政治に反映されており、若い人々の声は反映されていないように感じる。また選挙に参加しない人も増えており、未来が少し不安である。素晴らしい市はすべての年代層が不満なく生活できているときに形成されると私は確信している。

■ その他

男が重いものなどを持つ。
子どものうちに家事を学んで男女それぞれ自立できるようになるといい。女性を優遇してしまうと平等ではなくなってしまうと思う。
男女共同参画、平和になっていけばいいと思う。それでもしだめだったらやめといた方がいいと思う。
私は女子というより男子という方が性格が合って楽しく感じられる。
特にない。野外学習あってほしい←春日井だけですか？
男女共同参画だけでなく市内小中学校の規定統一や部活統一が必要だと思います。僕は剣道をやっていますが、唯一市内中学校で剣道部がないです。人数もいるのに、春日井市のホットラインにも書きました。やはり中学校で仮部としては作ってくれました、毎日練習できる中学校とは差ができると思います。仮部で春日井市ベスト6の記録も出したので、部がほしいです。相談する課が違うと思いますが、一度だけでも春日井議会などに話を出していただけたら幸いです。よろしくお願いします。剣道の町という点でもお願いします。
私はニュースなどをみて男性ばかり女性に暴力しているのをよくみています。どうして男性ばかりえらいと思うのでしょうか？あと家事などなぜ女性の仕事になっているのでしょうか。別に男性がやってもいいと思うのにと私は思います。女性がよく自殺するのをニュースで見ますが、女性は結構我慢しがちだから自殺してしまうのかなと思います。これ以上はわかりません。
男女平等にしなければいけないが、古くから続く祭りなどは、昔のしきたりを守らなければならないと思う。
もっと公共のものをきれいにしてほしい。
男女共同参画ってなんですか？
芸能人を見たい（BTS、新田真剣佑、千葉雄大とかいっぱい）。イケメン見たいです！
⑤問8 私はバイトなどで一生やっていくつもりなので、結婚したら育児してたい。⑥問11 たまたまだったら暴力ではない。④問7 人間心理だけが学びたい。③問5 力があればどっちもやればいい。③問5 頭のいい人がやればいい。
男女共同参画をまず色んな人に教える。そうしなければ差別がなくなることはない。
男女平等はいいことだと思うけれど、単に女性のリーダーを増やすのはあまりいいことではないと思いました。
差別はなくなっていると思う。

春日井市男女共同参画についての市民意識調査
【結果報告書】

発行：春日井市 市民生活部 男女共同参画課
住所：〒486-0844
愛知県春日井市烏居松町2丁目247番地
TEL：0568-85-4401
FAX：0568-85-7890
E-mail：danjo@city.kasugai.lg.jp
発行年月：令和3年●月
